

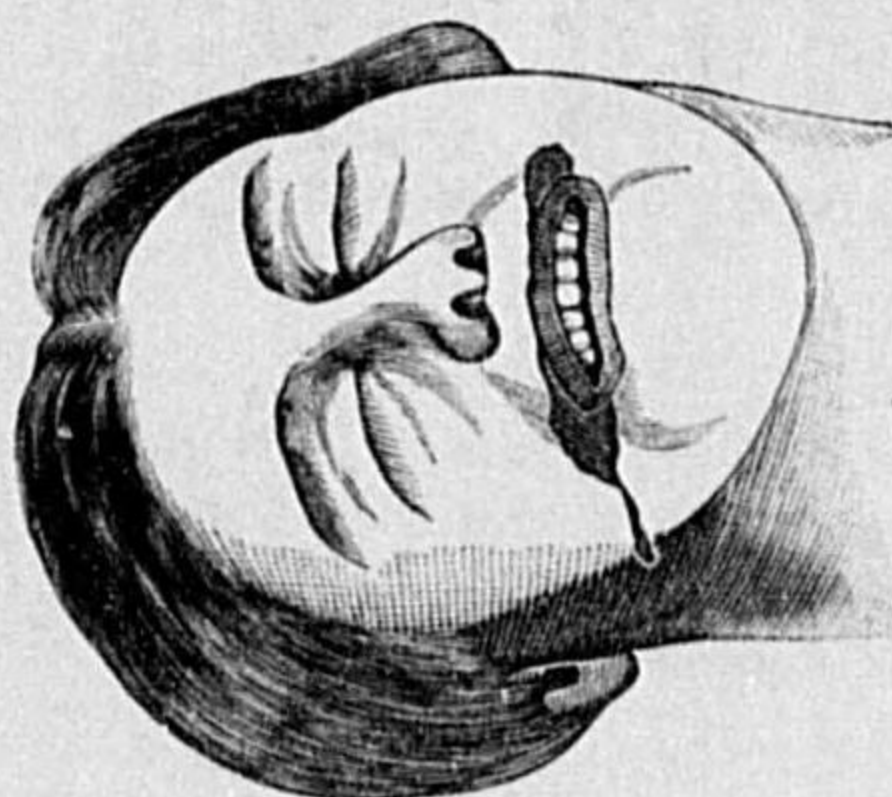
(ニ)腐蝕性瓦斯、くろゝる及ふをるまりん蒸氣等。  
(ホ)有機性腐蝕毒、かんたりちん等。

イ、腐蝕性酸類

一、硫酸中毒

硫酸ハ普ク工業上ニ使用サレテ之ヲ手ニ入ル、コト容易ナルヲ以テ、自殺ノ目的ニ使用スルコト多シ、ソノ他、他ノ藥品ト錯誤シテ中毒シ、或ハ殺人ノ目的ニハ小兒若クハ重病者等、身體ノ自由ナラザルモノ、口腔ニ灌注シテ之ヲ殺傷シ、時トシテ怨恨アルモノ、顔面或ハ衣服等ニ流シテ傷害ヲ與フルコトアリ。

圖三十六百二第



口角ヨリ流出セル毒液ノ線條

ニ變ゼシムルヲ以テ、ソノ中毒ノ際ニハ胃粘膜ハ黒褐色ニ染ミ半煮

作用、濃硫酸ハ蛋白ヲ溶解

スルニ拘ラズ、稀硫酸ハ蛋白物質ヲ凝固壞疽ニ陥ラシメ且水分ヲ奪取スルノ性アルヲ以テ、粘膜或ハ組織ヲ外觀上ハ半煮沸狀トナシ、其質ヲ脆弱ナラシメ或ハ崩解穿孔孔セシメ、且血色素ヲ硫酸ヘまぢん

沸狀トナリ時トシテ穿孔ヲ來スコトアリ。

中毒症狀、硫酸ヲ内用スレバ口腔、咽頭、食道及胃ニ劇痛ヲ發シ

嘔吐甚シ、吐物ハ強酸性ニシテ黒褐色乃至赤褐色ヲ呈シ、顔貌窘蹙、皮膚蒼白、脈搏頻ニシテ微細トナリ、神識ハ毫モ障害セラレズ、大便ハ秘結シ、經過久シケレバ下痢ヲ來ス、尿量減ジ時トシテ尿閉ヲ來シ、尿中ニハ蛋白ト多量ノ硫酸鹽ヲ排出シ、ソノ比重増加ス、急性中毒ノ場合ニハ中毒後二、三時間ニシテ虚脱ニ陥リテ死ニ至リ、胃壁穿孔スレバ嘔吐ハ卒然止ミ、他ノ症狀増悪ス。音聲嘶嘎シ、甚シキ呼吸困難ヲ來スハ氣道粘膜腐蝕セラレ、聲門水腫ヲ生ジタルノ徵ニシテ、此際ハ窒息ニ依リテ死亡ス、中毒ノ經過緩漫ナル時ハ食道粘膜ニ狭窄ヲ起シ或ハ肺炎ヲ來シソノ爲メニ斃ルコトアリ。

剖檢所見、多クハ死體ノ口角ヨリ下方ニ向ヒテ、褐色皮革様ノ線

狀腐蝕痕ヲ有シ(第二百六十三圖)、口腔、舌及咽頭粘膜ハ諸所褐色ヲ呈シ、食道ハ灰白色ニシテ硬固トナリ、頸部ノ血管内ニハ凝血ヲ容レ柱狀トナルコトアリ、胃壁ハ諸所軟化、硬化、乃至炭化シ、ソノ血管ハ硬ク柱狀トナリ、胃ノ内容ハ赤黒色泥狀ニシテ、強キ酸性反應ヲ呈シ、胃粘膜ハ黒褐色乃至赤黒色トナリ、ソノ面凹凸不平トナル、胃壁ノ穿孔スルハ多クハ大彎部ニシテ、内容腹腔内ニ溢出スル

時ハ、諸臟器ニ半煮沸様ノ外觀ヲ呈セシム、尿ハ少量ニシテ硫酸鹽ノ含量増加シ、且蛋白、血球及圓柱ヲ混ズ、中毒後相當ノ時間ヲ經過シテ死亡セルモノニ在リテハ、腎肝及筋肉等ニ脂肪變性ヲ來ス。

致死量、胃内容多キ時ハ其致死量ハ不明ナレドモ、胃空虚ナル時

ハ四乃至五瓦(七〇乃至八〇%ノモノ)ナリト云フ、小兒ハソノ半量ニテモ死ニ至ルコトアリ。

化學的證明、可檢物ニ適當量ノ餾水ヲ加ヘ透析法ヲ行ヒ或ハ滲出

濾過シ、必要ナル場合ニハ純あるこぼるヲ加ヘテ蛋白ヲ去リ、水浴上ニテ成ルベクあるこぼるヲ驅逐シ、且同時ニ濾液ヲ濃縮シ而シテ後之ニ鹽化ばりゆむ溶液ヲ加フレバ、硫酸ばりゆむノ沈澱ヲ生ジ、コハ硝酸ニ溶解セズ、然ル時ハ可檢物ニ硫酸ノ存在ヲ證スルモノナリ。一般ニ硫酸化合物ノ少量ハ生理的ニ吾人ノ體液中ニ存在シ、或ハ食物、醫藥等ニ混在スルモノナレバ、硫酸中毒ノ診定ヲナスニハ可檢物ヨリソノ多量ヲ檢出スルニ非ラザレバ不可ナリ。

二、硝酸中毒

硝酸モ亦工業上多ク使用セラルルモノナレバ、自殺ノ目的ニ服用セラルルコト多シ、傷害ノ目的ニハ硫酸ト略同様ニ用ヒラル、時トシテ錯誤ノ爲メ中毒ヲ來スコトアリ。

作用モ亦硫酸ト同ジト雖、硝酸ハ蛋白ニ對シきさんとぶろていん

反應ナル呈色反應ヲ有シ接觸部ヲ黃變ス、但シ稀硝酸ニ在リテハ、きさんとぶろていん反應ナク、粘膜ハ單ニ凝固壞疽ヲ呈シ半煮沸狀トナル。

症狀、概ネ硫酸ニ於ケルト同ジ、但シ吐物中ニハ黃色ノ粘膜剝離

片ト黒褐色ノ血液ヲ混ズ、急性中毒ニテハ已ニ中毒後一、二日ニシテ死亡シ、慢性ノ經過ヲ取ルモノニ在リテハ往々肺炎ヲ發シ、後日ニ至リ消化管ノ狭窄、腎臟炎乃至全身衰弱ニテ斃ル。

剖檢所見、一般ニ硫酸中毒ニ同ジ、但シ稀薄ナル硝酸中毒ノ場合

ニハ粘膜ノ黃變著明ナラザルモ、三十%以上ノモノニテ中毒セルモノニアリテハ、口腔、食道、胃及腸ノ上部ハ著明ニ黃變ス、胃穿孔ハ硫酸ニ比スレバ稀ナリ。

致死量、胃ノ盈虚ト硝酸ノ濃度トニ依リテ一定セズ、ソノ濃厚ナル

モノ四、五瓦ニテ死亡スルモノアルカト思ヘバ、或ハ稀釋セルモノ五十瓦ニテ尙死亡セザルモノアリ。

化學的證明、可檢物ヲ蒸溜法、透析法或ハ滲出法ニテ所置スルコ

ト硫酸檢出ニ於ケルト同ジクシ、透明ナル可檢液ヲ得之ニ  
(a) 硫酸ニち、ふえにーるあみん試藥ヲ積層スレバ、兩液ノ接觸



面ニ青色輪

- (b) 硫酸ニぶるちん試薬ヲ積層スレバ、赤色輪
- (c) 硫酸ニ硫酸鐵試薬ニテ黒色輪ヲ生ズレバ、硝酸ノ存在ヲ證ス。

### 三、鹽酸中毒

鹽酸モ亦工業上用途廣キモノナレバ自殺ニ用ユルコト多ク、ソノ作用、中毒症狀及剖檢所見ハ硫酸乃至硝酸ニ於ケルト略同様ナレドモ、ソノ程度ハ硝酸ヨリモ輕ク從テ胃壁穿孔ヲ來スガ如キハ甚ダ稀ナリト雖、揮發性强キ酸ナレバ往々氣道ヲ犯スコトアリ。致死量モ亦胃ノ狀態ニヨリ一定セザレドモ、十瓦内外ニシテ、一般ニ硫酸及硝酸ニ比シ多量ナリ。

**化學的證明**、可檢物ヨリ蒸餾法、透析法或ハ滲出法ニヨリテ得タル透明液ニ、少許ノ硝酸及硝酸銀溶液ヲ加ヘテ白色沈澱ヲ生ジ、此沈澱方日光ニヨリテ黒變シ、あんもにあ液或ハ青酸加里液ニ溶解スレバコハ鹽化銀ノ沈澱ニシテ、即チ濾液中ニソノ存在ヲ證ス。

### 四、醋酸中毒

近來醋酸ハ「酢のもと」トシテ販賣セラルルヲ以テ、往々錯誤ニヨリ中毒ヲ來スコトアリ、他殺ノ目的ニハ、本劑ヲ創傷中ニ注入セル

用スルコトアリ。

**作用**、醋酸ニ似タレドモ、尙蟻酸ノ有セル還元力ニ依リテ種々ノ障害ヲ來ス。

**症狀**、蟻酸ニ依リテ刺傷セラレタル時ハ外皮ニ痛痒ヲ或ジ引赤腫脹シ時トシテ發泡ス、内用シタル場合ノ症狀ハ略醋酸ニ同ジ、但シ血液ヲ犯シ力強キヲ以テ、麻痺或ハ痙攣ヲ來シ、ソレニヨリテ斃ル、コトアリ。

**剖檢所見**、本劑ヲ内用シテ死ニ至リタル場合ノ所見ハ略醋酸中毒ニ似タレドモ、剖檢ノ際各臟器ハ蟻酸特有ノ臭氣ヲ有シ、尿ニハ蟻酸ヲ證明シ、血液ハ黒褐色トナル。

**致死量**、醋酸ヨリハ少量ナレドモ、ソノ濃度ニ依リ一定セズ。

**化學的證明**、可檢物ヲ蒸餾シテ得タル溜液ハ蟻酸ノ臭氣ヲ有シ、之ヲ炭酸ソーダニテ中和シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色ニ變ジ、硝酸水銀及硝酸銀液ヲ還元シテ當該金屬ヲ析出セシム。

化學的證明ノ際注意スベキハ肝臟疾患或ハ高熱ヲ有スル時ハ、自然ニ體內ニテ蟻酸ヲ生ズルコトアレバ、此際可檢物ヨリ極微量ノ蟻酸ヲ證明シ得タリトテ、ソハ直ニ蟻酸中毒ナリト云フベカラズ。

### 六、砒酸及砒酸加里中毒

アリ、多クハ自殺ノ目的ニ使用セラル。

**作用**、鹽酸ニ似タレドモ、其作用ハ一般ニ弱シ。

**症狀**、嘔吐、腹痛、搐搦、下肢ノ麻痺、歩行蹣跚等ヲ來シ、呼吸及吐物ニ醋酸ノ臭氣アリ、尿ハ赤褐色ニ染ミ、ソノありかり度減ジ心臟衰弱ヲ伴ヒ、遂ニ肺水腫或ハ體溫下降等ニヨリテ斃ル。

**剖檢所見**、食道、胃内容ハ赤黒褐色ヲ呈シ且酸性反應ヲ示シ、醋酸ノ臭ヲ有スルコトアリ、其他一般ニ酸類ノ中毒ノ所見ニ類ス。

**致死量** 内用トシテ濃醋酸二〇・〇—三〇・〇(大人ニ對シ)トス。

**化學的證明**、可檢物ニ適當量ノ水ヲ加ヘ蒸餾シ、ソノ溜液ニ就テ或ハ可檢物ニあるこほるヲ加ヘテ抽出シ、ソノ抽出液ニ就テ醋酸ノ證明法ヲ施行スベシ。

一、溜液ニハ醋酸特有ノ臭アリ之ヲ炭酸ソーダニテ中和シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナリ、加熱スレバ赤褐色トナル。

二、あるこほる抽出液ニ、硫酸ヲ加ヘテ熱スレバ、醋酸ニ對シテ臭ヲ發ス。

### 五、蟻酸中毒

蟻酸ノ中毒ハ動植物ノ刺毛、或ハ昆蟲(蜂蟻)等ノ刺咬ニヨリテ來リ、又ハ工業用ノ蟻酸ヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、往々他品ト錯誤シテ使

用セルハ眞鍮及銅ヲ研磨スル等工業上稍多量ニ使用セラル、ヲ以テ甚ダ屢々自殺ノ目的ニ内用セラレ、或ハ砒酸カリヲ芒硝ト誤認シテ服用シ死ニ至ルコトアリ、他殺ノ目的ニハ特殊ノ味ヲ有スルヲ以テ使用セラル、コト少シ。

**作用**、此酸モ蛋白ニ凝固壞疽ヲ起スト雖モ他ノ鏽酸ニ比シ其力弱シ、中性鹽トナリシモノハ吸收セラレテ血液、腦、心臟腎臟等ヲ犯ス。

**症狀**、局所ノ症狀トシテハ腐蝕作用ニ依ル咽頭熱灼ノ感、胃部疼痛、酸性黒色物ノ吐出等ニシテ、全身症狀トシテハ服用後數分ニシテ重キ神經症狀ヲ呈シ、人事ヲ辨セズ、牙關緊急、全身痙攣ヲ發シ脈搏細小緩漫トナリ、尿閉ヲ來シ、十分間内外ニシテ死ス、經過緩漫ナルモノハ腎臟炎、尿閉乃至尿毒症ヲ起シ死ニ至ルモノアリ。或ハ消化管障害、血便等ヲ來シ、腦或ハ心臟ノ衰弱ニ依リ死ス。

**剖檢所見**、濃厚ナル蟻酸ノ中毒ニ在テハ口腔、咽頭、食道等潤濁シテ灰白色ヲ呈シ、胃粘膜ハ充分腫脹シ、砒酸石灰之ニ沈着シ、粘膜ノ皺襞頂ニハ溢血斑アリ、且ソノ間ニ蒸酸ノ結晶ヲ發見スルコトアリ、攝取量多キ時ハ胃壁穿孔ス、胃内容ハ赤色乃至赤褐色ニシテ酸性反應ヲ呈ス、腎臟ノ斷面ニ於テハ、皮髓兩質ノ間ニ白色帶ヲ生



ジ、之ヲ鏡檢スレバ明ニ碳酸石灰ノ結晶ヲ見ル。  
致死量、通常五〇乃至一〇〇瓦ナリトスレドモ、四十五瓦ニテ  
尙死ニ至ラザリシ例アリ。

化學的證明、少量ノ碳酸化合物ハ生理的ノ産物ナレバ、此中毒ナ  
ル斷定ヲ下スニハ、稍多量ヲ發見セザルベカラズ。

可檢物ヨリ碳酸ヲ分離スルニハ、あるこぼるヲ以テ抽出濾過シ、  
濾液ニ水ヲ加ヘ水浴上ニテ徐々ニあるこぼるヲ去リ、蒸發殘渣ヲ水  
ニ取り、此浸漬水ヲ以テ次ノ反應ヲ試ム。

- (イ) あんもにあ水ヲ加ヘテ中性トナシ、鹽化かるしゆむヲ加フレ  
バ白色ノ沈澱ヲ生ジ、コハあんもにあ水或ハ醋酸ニハ不溶ナル  
モ、鹽酸ニハ溶解ス。
- (ロ) 中性トナシ硝酸銀液ヲ加フレバ、白色ノ沈澱ヲ生ジ、硝酸ニ  
溶解ス。

(ハ) 稀薄ナル過まんがん酸かり液ヲ褪セシム。

(ニ) 醋酸鉛液ヲ加フレバ白色沈澱ヲ生ズ。

### 七、石炭酸中毒

石炭酸ハ廣ク消毒用ニ供セラル、モノナレバ、往々錯誤ニ由リテ  
中毒ヲ來シ、又屢々自殺ノ目的ニ服用セラル、時トシテ創面ヨリ吸

收セラレテ中毒ヲ來スコトアルモ特有ナル臭氣アルヲ以テ他殺ノ目  
的ニ用キラル、コト少シ。

作用、石炭酸ハ接觸セル局部ヲ犯シ蛋白ヲ凝固壞疽ニ陥ラシメ外  
觀上半煮沸狀トナス、而シテ本劑ハ色素ヲ溶解セザルヲ以テ粘膜  
ヲ着色セシムルコト少シ、又吸收サレテ先ヅ腦神經ヲ刺戟シ次デ之  
ヲ麻痺セシム。

中毒症狀、石炭酸ヲ内用セル時ハ口腔、咽頭、食道、心窩ニ熱灼  
ノ感アリ。嘔吐及全身發汗ヲ伴ヒ間モナク中毒者ハ神識朦朧トナリ  
次デ意識全ク消滅シ、知覺麻痺ス、脈搏ハ細小緩徐トナリ、皮膚蒼  
白四肢厥冷シ、搦搦痙攣ヲ來ス。尿ハ暗赤色トナリ、遂ニ昏睡ニ陥  
リ死ニ至ル、本劑ニテ子宮或ハ腔ヲ洗滌セシ爲メ中毒ニ陥リシモノ  
アリ、又久シク石炭酸濕布ヲ施ス時ハ、所謂石炭酸壞疽ヲ生ズ。

剖檢所見、濃厚石炭酸ヲ嚙下スル時ハ口腔、咽頭、食道及胃粘膜  
ハ所謂半煮沸狀トナリ乳白色ヲ呈シ、胃腸ニハ小溢血點アリ、肺水  
腫或ハ急性腎臟炎ヲ來シ内臟ハ石炭酸臭ヲ放ツ。

致死量、濃厚ナルモノ一〇〇瓦ニテ大人ヲ死セシム、但シ稀釋  
セルモノニアリテハ、ソノ致死スル量一定セズ。

化學的證明 可檢物ニ水ヲ加ヘテ蒸餾スレバ石炭酸ハ鹵液ニ移行

ス、此鹵液ニみるろん氏試藥ヲ加ヘテ加熱スレバ美麗ナル赤色ヲ呈  
シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ青色トナリ、えーくまん氏試藥ニテ赤色帶  
ヲ生ジ、ぶろーむ水ヲ加フレバ肉色ノ沈澱ヲ現出ス、之レ石炭酸ノ  
存在ノ微標ナリ、尙らんとると氏反應及ビれつくす氏法等ヲモ併用  
スレバ確實ナリ、石炭酸モノノ少量ハ死後人體内ニテ自然ニ生ズル  
コトアレバ注意スベシ。

### 八、りぞーる中毒

本中毒ハ石炭酸中毒ニ酷似ス、コハ往年歐洲ニ於テ流行毒トナリ  
自殺ノ目的ニ甚ダ多く用ヒラレタリ、ソノ死體所見ハ之ヲ内用セル



りぞーる中毒、かり及なとろん中毒  
況狀ノ下流液毒中リヨ角口ノ者毒中る一ぞり

モノ、口唇及顔部ノ皮膚ハ黃褐色ニ染ミ、後咽頭、食道等ノ粘膜ハ  
潤濁シテ灰色乃至黄色トナリ、腎ノ内容ハ中性或ハ酸性ヲ呈シ、參  
兒様ノ臭氣ヲ放チ、粘稠ナリ、胃ノ粘膜ハ灰白色ニ潤濁シ、肺ハ血  
管ニ富ミ、切斷ノ際デーる様ノ臭氣ヲ發ス、腎ハ黃褐色トナリ、尿  
ハ潤濁シテ強キ酸性反應ヲ呈ス。(第二百六十四圖)

### 口、腐蝕性あるかり中毒

#### 一、かり及なとろん滴汁中毒

かり及なとろん滴汁ハ工業上甚屢使用セラル、ヲ以テ誤テ之ヲ内  
用シ、或ハ自殺ノ用ニ供スルモノアリ、コハ嫌惡スベキ味アルヲ以  
テ意識或ハ身體ニ障害ナキ人ニハ、他殺ノ目的ニ用ユルコト能ハズ。

作用、かり及なとろん滴汁ハ蛋白ヲ崩解壞疽ニ陥ラシメ、且血色  
素ヲ溶解シあるかり性へまちな變ゼシム、かり滴汁ハ心臟ヲ衰弱  
セシムルコト多キモ、なとろん滴汁ハ其力少シ。

中毒症狀、此毒物嚙下ノ直後、急性中毒性胃腸炎ヲ發シ頑固ノ嘔  
吐アリ、吐物ハ初メあるかり性ニシテ、粘膜強ク褐色乃至黒褐色ヲ  
帶ビ、嘔吐ハ屢々間歇ス、コレ酸類ト異ナル點ナリ、症狀激甚ナレ  
バ人事不省トナリ、直ニ死スルモ、多クハ中毒後二、三日ヲ經過ス  
ルヲ常トス、經過長キ時ハ下痢ヲ發シ往々下血ス、尿量減ジ強ある

第二百六十四圖



かり性トナリ、或ハ食道等ノ癍痕狹窄ノ爲メニ衰弱ニ陥リ死亡ス。

**剖検所見**、口腔及食道ノ粘膜ハ瀾濁腫脹シテ灰白色ヲ顯ハシ、胃ハ收縮シテ、質壁厚ク、内容其ハ黒褐色膠様ニシテ、強あるかり性反應ヲ呈シ、粘膜ニハ黒色若クハ黒褐色ノ軟痂アリ、皺襞ハ増加シテ隆起シ透明トナリ、之ニ觸ルレバ石鹼様ノ感アリ胃壁ヲ穿孔スルコト少シ、死後往々ニシテ此等ノ藥品ハ胃壁ヲ破リ、或ハ滲透シテ肝臓等ヲ腫脹透明ナラシムルコトアリ。

**致死量**ハ一定セザルモ、胃ノ空虚ナル時ハ、濃厚ナルモノニテ一〇〇珪ナリト云フ。

**化學的證明**、かり及なとろん化合物ハ、吾人ノ身體内ニ甚ダ多ク存在スルモノナレバ、化學的證明ニ於テハ遊離セルかり及なとろん満汁ノ多量ヲ發見セザレバ、中毒ノ斷定ニハ效少キモノトス。

可檢物ヨリ透析法或ハ滲出法ニヨリテあるかりヲ抽出シ、ソノ液ニ就テ滴定法ニテあるかり度ヲ定メ、尙濾液ノ一部ヲ白金耳ニ附シぶんせん燈火ニテ檢スレバ、其炎ヲ甚シク黄色ニ染ムルモノハなとろんニシテ、紫色ニ染ムルモノハかり化合物ナリ。但シ僅微ナル着色ニ依リテハ、ソノ何レカヲ判定スルコト能ハズ。

### 二、あんもにあ中毒

本中毒モ亦過失ニ依リテ來ルコト多ク、甚シキ臭ト刺戟アレバ自他殺ニ用キラルルコト少シ。

**作用**、あんもにあ水ハ蛋白ニ對シテハ崩解壞疽ヲ作り、接觸セル消化管ヲ腐蝕シ、氣體トナリテ吸入サレ呼吸器ノ粘膜ヲ犯シ、吸收サレテ中樞神經ヲ刺戟シ、且血色素ヲ溶解ス。

**中毒症狀**、接觸面ヲ崩解シ、水泡ヲ形成ス、嚥下後、口腔及咽頭粘膜ニ熱灼ノ感アリ、上皮ハ剝脱シ、粘膜ハ腫脹紅變シ、聲音嘶嘎、氣管枝刺戟症狀ヲ發シ、呼吸困難及痙攣ヲ來シ、垂涎甚シク硝子様粘稠ノ喀痰ヲ出シ、吐瀉甚シク、呼吸ニハあんもにあ臭アリ、發汗多クナリ、腹痛、下肢ノ麻痺アリ、尿中ニハ多量ノあるかり蛋白及へまちなヲ排泄ス、尙肺炎或ハ肺水腫ヲ來スコトアリ。

**剖検所見**、咽頭、喉頭、口腔、氣管粘膜及胃、腸粘膜ハ腫脹シテ膠様トナリ、上皮剝離ス、各臓器ニあんもにあ臭ヲ放ツ、肺ニハ肺炎ヲ見、血液ハ鮮紅色トナリ、肝臓ハ脂肪化シ、實質性腎臟炎ヲ來スコトアリ。

**致死量**、通常一〇%ノあんもにあ水一〇〇珪ヲ内用スレバ死ニ至ルト云フ。

**化學的證明**、可檢物ノ上ニ溫潤セル赤色試験紙ヲ持チ來セバ直ニ

青色ニ變ジ、濃鹽酸ヲ附セル硝子棒ヲ以テスレバ白色ノ烟霧ヲ生ジ、尙可檢物ヲ蒸留シソノ留液ニねすれる氏ノ試藥ヲ加フレバ褐色トナル。あんもにあノ證明ニ對シテハソノ特有ナル臭氣ハ甚ダ據リ所トナスベキモノナリ、尙死體方腐敗スレバソノ臓器中ニ在ル蛋白質ノ分解ノ爲メ少許あんもにあヲ生ズルコトアレバ注意スベシ。

### 三、ぱりつと中毒

くろーるぱりつとゆむ、硫酸ぱりつとゆむ、硝酸ぱりつとゆむ等ハ工業上多ク使用サルモノナル故、錯誤ニ依リ或ハ工場内ニテ塵埃ト共ニ飛散スルニ依リ中毒シ、又自殺ノ目的ニ使用サル。

**作用** 本劑ハ腸ノ運動中樞ヲ最初興奮セシメ、次デ腦、心臟及血管ヲ犯シ麻痺ニ陥ラシム、即少量ヲ服用スルモ吸收セラレ、心臟或ハ全身麻痺ニ依リテ斃ル。往々甚シキ吐瀉ヲ來スト雖、接觸部ヲ犯スコト少シ。

**症狀**、吐瀉ニ次イデ痙攣ヲ來シ、脈搏ハ堅クシテ緩徐トナリ、血壓昂進シ、四肢ノ不全麻痺ヲ伴ヒ、最後ニハ迷走神經ノ麻痺ニヨリ死ニ至ル。(過まんがん酸かり中毒ノ症狀及剖検所見ハ、甚シクぱりつと化合物ノソレニ類似ス。)

**剖検所見** 胃ハ通常腐蝕サルコトナシト雖、胃腸及心臟ニ於テ

ぱりつと中毒

多數ノ出血點アリ、細尿管内ニハ稀硫酸鹽類ノ結晶ヲ發見シ、又胃腸炎ヲ見ル。

**致死量**、硝酸ぱりつとゆむ及くろーるぱりつとゆむハ一〇〇乃至一五〇瓦、炭酸ぱりつとゆむハ五〇瓦トス。

**化學的證明**、最初可檢物ノ有機物ヲふれぜにゆすばば氏法ニテ崩解セシメ濾過シ、濾液ニ硫酸ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、此沈澱ハ硝酸ニ溶解セズ、之レぱりつとゆむ存在ノ徵ナリ。尙前記濾過殘液中ニモ、ぱりつとゆむノ一部分殘存スルモノナルヲ以テ、ソヲ乾燥シマいる氏ノ溶解物ヲ作り、ソノ浸出液ニ就テ前記ト同様ニぱりつとゆむノ存在ヲ檢スベシ、斯クシテぱりつとゆむノ存在明トナルモ、ソガ如何ナル鹽基ト化合セルモノナルヤハ、檢査物ノ多量ニ存在スル時ニ非ザレバ鑑別不能ナリ。

### ハ、腐蝕性鹽類中毒

#### 一、水銀中毒

水銀化合物中、毒物トシテ最大切ナルハ昇汞ナレドモ、水銀ノ酸化物モ亦甚シキ毒物ニシテ、金屬性水銀スラモ、時トシテ體內ニ入り有毒ノ形トナリテ中毒ス、而シテ水銀化合物ハ工業上使用ノ範圍廣キモノナレバ、該中毒ハ最モ屢々遭遇スルモノナリ、コハ皆一種



ノ味ヲ有スルヲ以テ、他殺的中毒ニ用ユルコト少ク、多クハ工業上中毒或ハ自企的乃至錯誤ニヨル中毒トシテ來ルモノナリ、而シテ水銀化合物中、毒物トシテ最モ多ク用ヒラルルハ昇汞ニシテ、而モソノ代表トスベキモノナレバ、今重ニ之ニ付テ記述セム、他ノモノハ昇汞ニ比シ唯ソノ作用弱キノミナレバ、之ヨリ多クハ類推スルコトヲ得ルモノナリ。

**作用**、昇汞ハ無色ノ結晶ニシテ蛋白ニ對シ凝固壞疽ヲ來シ、且血色素ヲ溶解セズ故ニ接觸セル局部ヲ犯シ、其部ノ粘膜ニ白濁ヲ來シ更ニ吸收サレテ再ビ口腔及胃腸等ニ析出シ、其結果口粘膜炎竝ニ胃腸ニ於ケル潰瘍ヲ伴ヒ、腎臟炎ヲ來ス、水銀軟膏等ニ依レル中毒ハ甚ダ緩漫ニ現出ス、水銀劑ガ吸收サレテヨリ、ソノ排泄ヲ終ル迄ニハ凡ソ二ヶ月ヲ要ス。

**症狀**、急性中毒、昇汞ヲ内用スレバ一種異様ノ金屬味ヲ感ジ、舌、咽頭ニ熱灼ノ感アリ、口内炎、垂涎等ヲ見、粘膜ハ腫脹シ帶青白色トナリ、嘔吐アリ、吐物ニハ血液ヲ混ジ裏急後重、血便ヲ來シ、其狀恰モ赤痢様ニシテ、實際ノ赤痢ト鑑別スルニハ微生物學的検査ニヨルノ外ナキコトアリ、其他尿閉、蛋白尿ヲ來シ、又眩暈及知覺異常ヲ見、脈搏小トナリ、四肢厥冷シ、虚脱ニ陥リ死亡ス、神識ハ死

ニ至ル迄障害セラレズ、中毒死ニ至ルハ、早キハ三十分ナレドモ、多クハ一、二日ノ後ナリトス。

慢性中毒ノ際ニハ四肢ニ於ケル震顫、惡液質、下顎骨壞痕、慢性腎臟炎、骨質炎、筋肉麻痺及水腫等ニヨリテ全身衰弱ヲ來シ死ニ至ル。

**剖檢所見**、齒弛ミ、齒齦及舌ハ腫脹シ、灰白色トナリ、或ハ潰瘍ヲ生ジ、出血セルコトアリ、胃ハ犯サルコト少キモ炎症ヲ起シ多量服用セシ場合ニハ、胃粘膜ハ灰白色不透明トナルヲ見ル、小腸ノ下部及大腸ハ甚シキ變化ヲ被リ、強キ赤痢様ノ所見ヲ呈ス、腎ハ炎症ヲ發シ石灰沈着ス、肝及心臟ハ退行變性ヲナシ、骨髓ハ非常ニ赤色トナル。

**致死量**、昇汞ニハ〇・二乃至〇・五瓦ナレドモ他ノ水銀化合物ニテハ致死量之ヨリ稍多キヲ常トス。

**化學的證明**、急性中毒ノ場合ニ吐物等ヲ濾過シ、濾液ヲ弱酸性トナシ、之ニ研磨セル銅片ヲ浸漬スレバ、水銀ハ銅片ノ間ニ灰白色ノ薄層トナリテ附着ス、此銅片ヲあるこぼる等ニテ乾燥シ、卷縮シテ乾キタル小ナル硝子管内ニ入レ、(豫メソノ硝子ノ一部ヲ細ク引キ延バシ置クベシ)、銅片ノアル部分ヲ徐々ニ熱スル時ハ、水銀ハ揮發

シテ硝子管ノ冷細部ニ至リテ附着ス、之ヲるべニテ窺ヘバ、美麗ナル水銀小球ヲ見ルコトヲ得ベシ、之ヲ水銀鏡ト云フ、併シ尙ソガ水銀ナルヤ否ヤヲ確定スルニハ、此水銀小球ヲ沃度ノ蒸氣ニ觸レシムレバ、直ニ赤變スルヲ以テ鑑別スルコトヲ得、多量ノ有機物ヲ含有スル可檢物、例ヘバ肝臟中ヨリ水銀ヲ檢出セント欲セバ、先ヅ臟器ヲ細切シ、鹽酸ヲ加ヘテ暫時放置後、所謂ふれぜにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ去リ、殘餘ノくろゝる瓦斯ヲ驅逐後、硫化水素瓦斯ヲ徐々ニ通ズレバ、黑色ノ硫化水銀ヲ得、而シテコハ硝酸ニ溶解セザルヲ以テ、びすむーと等ト容易ニ區別スベシ、此硫化水銀ヲ王水ニ溶解シ、更ニ水浴上ニテ過剰ノ酸ヲ驅逐シ、水ニ取り前記ノ如ク研磨セル銅片ニテ處置シ、水銀鏡ヲ作りテ水銀化合物ナルヤ否ヤヲ確定スベシ、尙ホ水銀ガ果シテ如何ナル鹽基ト化合シ居ルヤ純粹ナル檢査材料ヲ得ルニ非ラザレバ鑑別シ能ハザルコト多シ。

第四十八例 鑑定書

被告人坪○新○ニ對スル殺人未遂被告事件ニ付昭和四年四月廿三日〇〇地方裁判所ニ於テ豫審判事伊○久○藏ハ證第五號麥飯及ビ證第七號灰ノ極微量ヲ交附シ。

- 一、證第五號麥飯中ニ昇汞ヲ含有スルトセバソノ量如何。
- 二、右含有量ハ致死量ニ該當スルヤ。
- 三、若シ右含有量ヲ三倍シタル量ナルニ於テハ如何。

水銀中毒鑑定例

四、第七號灰ノ容積ト同量ノ昇汞粉末ハ致死量ニ該當スルヤ。

ヲ鑑定スベキ旨ヲ余ニ命ゼリ。依テ余ハ證第五號及ビ第七號ヲ京都帝國大學醫學部法醫學教室ニ於テ精密ニ検査シソノ結果ニ依リ此ノ鑑定書ヲ作成ス。

天、検査記録

余ハ先ヅ證品ニ付キ肉眼の検査ヲ爲シ次デ化學的検査ヲ施行セリソノ大要ハ概ネ左ノ如シ

第一、肉眼的検査

一、證第五號ハ二ツニ分レ一ツハ外面黑色内面赤褐色ノ漆ヲ以テ塗ラレタル小判形割籠ニ入り居リ内ニハ腐敗セル麥飯ヲ入レソノ表面ハ全白色ノ微ニテ覆ハレ或部ニハ淡青色ヲ又或部ニハ淡赤褐色ヲ帶アル斑點諸所ニ散在ス、試臭スルニ特有ナル臭氣ナク、微臭ヲ呈スルノミ、即チ該内容物ヲ取リテ秤量スルニ三・八五ヲ算ス。

二、他ニハ中等大折箱入り居リ内ニ前者ト全ク同様ナル麥飯ヲ入ル但シソノ表面ハ前者ニ比シ少シク濕潤シ淡黄色ヲ帶アル微ニテ被ハレ諸所ニ淡青色或ハ淡赤色ヲ呈スル斑點在ス、之ヲ試臭スルニ前者ト同様ノ臭氣アリ、秤量スルニ一・〇二・〇五ヲ算ス。

三、證第七號ハ洋紙ニ包マレタル微量ノ灰ニシテ被告ノ用キタル昇汞ノ全容積ニ略ホ一致セルモノナリト云フ。

第二、化學検査

甲、定量検査

四、前記第五號内容物ヲ合シ清淨ナル硝子製ノ乳鉢ニ取り之ヲ四六〇・〇瓦ノ蒸餾水ヲ注ギ全量六〇〇・〇瓦トナシ注意シツツ良ク之ヲ攪拌シ全量中ヨリ二〇〇・〇瓦ヲ取リテ次ノ検査ヲ爲ス。

五、即チ之ヲ中等大ノこるべんニ移シふれぜにゆすばぼー氏法ニ從ヒテ強鹽酸ヲ加ヘ暫時放置後適量ノ蒸餾水ヲ以テ稀釋シ水浴上ニ微熱シツ、時々鹽素酸加里粉末ヲ加ヘ有機物ヲ碎解シ瓶内容ノ淡黄色トナリテ最早微熱ス



- ルモ褐色調ヲ呈セザルニ至リテ之ヲ冷却ス
- 六、次デ冷却後之ヲ濾過シテソノ濾液ヲ水浴上ニ蒸散シ過利ノ鹽酸瓦斯ヲ驅逐シ尙ホ適量ノ水及ビあんもにあ水ヲ加ヘテ弱酸性トシ再ビ濾過ス
- 七、前項最後ノ濾液ヲ水浴上ニ微熱シツツ硫化水素瓦斯ヲ靜カニ通ズルコト四時間、一夜密栓靜置シ、翌朝開栓シテ檢スルニ尙ホ硫化水素臭甚シ、而シテ器底ニ灰黑色ノ沈澱多量ニ存在ス
- 八、前項ノ液ヲ重量既知ノ濾紙ニテ濾過シ濾液ト沈澱トニ別ツ
- 九、第八項ノ沈澱ヲ硫化水素水ニテ洗滌シ温黄色硫化あんもニテ浸出スル事數回次デあんもにあ水、蒸留水、あるこぼる、えーてる、二硫化炭素及ビ再ビ蒸留水ニテ前記同様ニ數回浸出洗滌シ尙温硝酸ニテ浸出スル事數回重ネテ蒸留水ニテ洗滌シ濾液ト沈澱トニ別ツ
- 十、前項最後ノ濾液ヲ濾紙ト共ニ攝氏百十度ニテ乾燥シソノ重量ヲ秤量シ前記濾紙ノ重量ヲ差引クニ〇・〇三六九瓦ヲ得タリ、是ハ本品二〇〇・〇五中ヨリ得タル硫化水銀ノ重量ナリ
- 之ヲ分子量及式ニヨリテ昇汞ノ量ニ換算スルニ〇・〇四三〇瓦トナル、之レ即チ本品二〇〇・〇五中ニ含まル、昇汞ノ重量ナリ、從ツテ本檢査物六〇〇・〇五中ニハ〇・一二九瓦ノ昇汞ヲ含有スルコトナル

乙、定性試驗

- 十一、前記第十項ノ濾液ヲ再ビ濾紙ト共ニこるべんニ取り鹽酸ヲ加ヘ暫時放置ノ後適量ノ蒸留水ヲ加ヘ水浴上ニテ徐々ニ熱シツツ時々鹽素酸加里粉末ヲ少量宛ヲ加ヘテ濾紙ヲ全ク崩壊セシメ且上記濾液ヲ全ク溶解シ終ラシメ冷却シ冷後濾過シテ濾液ヲ蒸留水ニテ良ク洗滌シ之ヲ濾液トニ別ツ
- 十二、前項最後ノ濾液ヲ磁皿ニ取り、水浴上ニ蒸散シ過利ノ鹽素酸瓦斯ヲ驅逐シ適量ノ水ヲ以テ稀釋シ更ニあんもにあ水ヲ適量ニ加ヘ弱酸性ノ可檢液トナシ、次ノ諸檢査ヲ行フ

- 十三、前項可檢液ノ適量ヲ試驗管ニヨリ新ニ製シタル亞くろーる錫溶液ヲ一滴ツ、注加スルニ忽チニシテ白色ノ濁濁ヲ生ジ次テ中等量ノ同色沈澱ヲ堆積シ之ヲ熱スルニハソノ沈澱ノ色ハ灰色トナル、更ニ之ヲ小皿ニ移シ久シク水浴上ニ放置スルニ乾燥殘渣ノ中央ニ銀色ノ光澤ヲ放テル水銀様物ノ集團ヲ認ム
- 十四、第十二項ノ可檢液ノ一部ニ沃度加里少量ヲ加ヘ次ニ一滴ノくろーるあんもにうむ溶液ト更ニ注意シテ一滴ツ、なとろん滴液トヲ加フルニ帶黃褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ
- 十五、第十二項ノ可檢液ノ一部ニ少許ノ沃度加里ヲ加ヘテ後滴砂ヲ含有セルなとろん滴液ヲソノ上ニ注ギ積層セシムルニ兩液ノ接界ニ於テ著明ナル白色及ビ黄色ノ濁濁輪ヲ生ズ
- 十六、第十二項ノ可檢液ノ殘餘ヲ磁皿ニ取り之ニ清鮮ニシテ光輝アル銅片ヲ投シ一晝夜後檢スルニ灰色ノ被膜ノ中等量ヲ認ム即チコノ銅片ヲ乾燥シ脫脂綿ヲ以テ一部ヲ磨擦スルニ僅カニ水銀光澤ヲ生ズ
- 十七、前項被膜ヲ生ジタル銅片ヲソノマ、試驗管ノ内底ニ入レ其試驗管ノ略々中央部ヲ毛細管狀ニ抽延シ、銅片ヲ毛細管ニ近キ管中ニ於テ(管口ヲ斜上ニ向ケテ)徐々ニ熱スルニ該管ノ狭少ナル上部ニ少シク銀色ヲ帶ビタル霜衣(水銀鏡)ヲ認メ得る一ベヲ以テ之ヲ檢スルニソノ細小ナル金屬滴球ヨリナルヲ認ム
- 十八、第十七項ノ霜衣ヲ生ゼル試驗管ノ開口ヲ底面トシテ立テ其底面トナル口ヲ沃度ノ小片ヲ載セタルこるく栓ヲ以テ密栓シ二十四時間放置シテ後之ヲ見ルニ灰色ノ霜衣(水銀鏡)ハ美麗ナル赤色ノ霜衣(沃度水)ヲ變ジる一ベヲ以テ之ヲ檢スルニ内ニ放線狀及ビ針狀ノ結晶形ヲナセルヲ認ム
- 即チ以上ノ定性反應ニヨリ可檢物中ニハ明ニ水銀劑ノ存在ヲ徵セリ

丙、昇汞ノ定性反應

- 十九、前記第四項ノ可檢物中殘餘ノ中ヨリ四〇・〇瓦ヲ取り同量ノ蒸留水ヲ

以テ稀釋シヨク攪拌シ尙別ニ對照トシテ普通米飯ヲ略之ト同様濃度ニ蒸留水ヲ以テ稀釋シ攪拌シタルモノ四〇・〇瓦ヲ取りテ之等兩者ヲ動物膜囊(ふいしゆすきん)ニ入レ口ヲ閉ジテ一〇〇・〇〇〇耗ノ蒸留水ヲ入レタルびーか一中ニ浸漬シ一晝夜ノ後、該兩びーか一中ノ液ヲ濾過シテ其ノ濾液ヲ(可檢液)及對照液トナシ左ノ試驗ヲ行フ

- 二十、前項ノ可檢液及ビ對照液ノ一部同量ヲ試驗管ニ取り之ニ三%ニ硝酸銀溶液ヲ各五滴ツ、滴下スルニ何レモ白色ノ沈澱(くろーる銀)ヲ生ズレドモ可檢液ノ沈澱ハ對照液ノ夫ニ比シテ著シク多量ナリ
- 更ニ之ヲ比重一、二ノ稀硝酸ヲ加フルニ此ノ沈澱ハ何レモ溶解セズ
- 即チ是等兩液ニハ明カニくろーるノ存在ヲ徵シ其量ハ可檢液ノ方著シク多量ナルコトヲ知ル
- 廿一、第十九項ノ可檢液ノ一部ニ新製亞くろーる水液ヲ滴下スルニ忽チニシテ白色ノ濁濁ヲ生ジ之ヲ温ムルニ其沈澱ハ灰色トナル
- 廿二、第十九項ノ可檢物ノ一部ニ石灰水ヲ加フル類赤色ノ沈澱(酸化水銀)ヲ生ズ
- 廿三、第十九項ノ可檢液ノ一部ニあんもにあ水ヲ加フルニ白色ノ沈澱(白降汞)ヲ生ズ。即チ水銀ノ存在ヲ徵ス
- 廿四、前記第十九項ノ可檢液ノ殘餘全部ヲ白色磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シテ得タル殘渣ヲ純あるこぼるニ取り再ビ水浴上ニ蒸散スルコト二回更ニソノ殘渣ヲ水ニ取り獸炭ヲ加ヘテヨク攪拌シ濾過シテ濾液ト殘渣トニ分ツ
- 廿五、前項ノ濾液ヲ約二耗ニナル迄水浴上ニ蒸散シ、後之ヲ常温ニテ徐々ニ蒸散セシメ二晝夜ノ後皿底ノ殘渣ヲ鏡檢スルニ放線狀及ビ針狀ノ結晶ヲ認ム。以上ノ實性反應ニヨリ此可檢物ニ昇汞ノ存在スルコトヲ知ル

丁、證第七號檢査

- 廿六、證第七號ノ灰ト等量ニ見ユル昇汞粉末ヲ數人ノ教室員ニテ日測シ各別々ニ秤量シタルニソレニヨリテ毎回得タル量ニ大差ナク之ヲ平均シテ〇・

一七瓦ナルコトヲ知レリ、而シテ余等ガ證第五號ヨリ得タル昇汞ノ量ハ第十一項ニヨレバ〇・一二九瓦ナレバソノ差ハ大凡〇・〇四瓦ナルコトヲ知ルベシ

地、說明

- 廿七、證第五號ハ第一、二項ニ記載ノ如ク明ニ麥飯ニシテ、ソノ内ニ飯粒ヲモ混ジ居レトモソノ混合ノ割合ハ明カナラズ而シテ其内ニハ明ニ昇汞ヲ含有シ(第四乃至二十五項參照)ソノ全量ハ〇・一二九瓦内外ナリ
- 廿八、一般ニ急性昇汞中毒ノ症狀トシテハ之ヲ攝取スレバ一種異様ノ金屬味ヲ感ジ先ヅ口内炎及垂涎等ヲ來シ次イデ嘔吐アリ吐物ニハ血液ヲ混ジ裏急後重血便アリ其狀恰モ赤痢ニ羅レルガ如ク遂ニハ尿閉蛋白尿知覺異常、脈搏細少乃至四肢厥冷等ヲ來シ虚脱ニ陥リ死亡スルヲ常トス
- 廿九、次ニ昇汞ノ大人ニ對スル致死量ハ中毒者ノ體質、胃腸ノ狀況及中毒症狀等ニヨリテ一概ニハ論ズベカラズト雖モ一般ニソノ最小數量ハ〇・二瓦内外ナリトス故ニ證第五號中ニアル昇汞全量ヲ一時ニ一人ニテ食スル時ハ甚シキ中毒症狀ヲ起スモ大人ニテ健康ナル胃腸ヲ有スル人ナラバ死ニ至ルコトナカラズ、但シソノ三倍即チ約〇・三八七瓦ナラバ健康ナル大人ヲモ死ニ致スコトアルベシ
- 三十、昇汞ハ劇甚ナル金屬性腐蝕性毒物ナレバ之ニ湯水或ハ茶等ヲ混ズルモ變質等ニヨリソノ毒力ヲ減ズルコトナカラズモ只此ノ如キ液體ヲ減ズル事ニヨリ濃度ヲ減ズル爲メソノ腐蝕性毒力ヲ一時的ニ幾分混ズルモノナリ
- 卅一、證第七號灰容積ト同量ノ昇汞粉末ハ第二十六項ニヨレバ大約〇・一七アリ又昇汞ノ最小致死量ハ〇・二ナレバ(第二十九項參照)前者ハ後者ヨリ稍々少量ナリト見ザルベカラズ

玄、鑑定

- 上記(天)乃至(地)ニ記載ノ理由ニヨリ左ノ如ク鑑定ス
- 一、證第五號中ニハ昇汞ヲ含有シソノ全量ハ〇・一二九瓦ナリ



二、昇水ノ最少致死量ハ〇・二瓦ナレバ 證第五號中ニアル昇水全量ハ之ヨリ稍々少ナシ。  
 三、證第五號中ニ在ル昇水ノ全量ノ三倍ハ〇・三八七五ナレバ一時ニ一人ニテ之ヲ攝取セバ大人ヲ死ニ致スコトアルベシ。  
 四、證第七號ノ灰ノ容積ト同量ノ昇水末ハ大凡〇・一七五ナレバ大人ニ對スル致死量〇・二ヨリ稍々少ナシ。

此ノ鑑定ハ昭和四年四月廿三日著手  
 同 年五月卅一日終了  
 昭和四年五月卅一日

鑑定人 小南 又一郎

二、硝酸銀中毒

銀化合物中硝酸銀ハ最モ多ク使用サル、モノニシテ、而モ毒性亦甚ダ強キモノナリ、本劑ハ多ク自殺ノ目的、或ハ錯誤ニ依リテ急性中毒ヲ來シ、慢性中毒ハ本劑ヲ用ユル職工或ハ寫眞師等ニ來ル。

作用、接觸セル局部ニ表面的結痂ヲ作り、コハ間モナク黒色ニ變ズ、吸收サレタル銀ハ小腸或ハ表皮ニ析出シテ此部ニ黒色ヲ帶バシムルニ至ル。

症狀、急性中毒、本劑ヲ内用スレバ、口腔食道及胃粘膜ハ白色ニ潤濁シ、腹痛嘔吐アリ、吐物ハ初メ白色ナレドモ、日光ニ觸レシメバ黒變ス。慢性中毒ノ場合ニハ胃潰瘍、表皮、毛囊、汗腺、口唇及

齒齦等ノ黒變ヲ來スト雖、中毒者ノ自覺症狀極メテ少キコト多シ。

剖檢所見、急性中毒ノ場合ニハ、急性胃腸炎ノ所見アリ、慢性中毒ノ時ニハ、胃潰瘍、表皮及粘膜ノ黒變並ニ細尿管、肝臟ノぐりーそん氏囊、小腸粘膜冠部及骨髓ノ黒變ヲ見、此等ノ變色部ヲ靑酸カリ液ニテ處置スレバ褪色スルコトアリ。

致死量、硝酸銀三十五以上ヲ頓服スレバ死ニ至ルト云フ。

化學的證明、有機物ヲふれぜにゆす、ばぼー氏法ニテ崩解セシムルモ、銀ハ鹽化銀トシテ残渣中ニ殘留スルヲ以テ残渣ヲ灰化シ、ソノ灰分ヲ硝酸ニ溶解セシメ濾過シ、濾液ニ靑酸カリ液ヲ加ヘ白色沈澱ヲ、くろーむ酸加里ニテハ赤褐色ノ沈澱ヲ、鹽酸ニテ白色沈澱ヲ生ズレバ、銀化合物ノ存在ヲ徵ス。但シ銀ガ如何ナル化合物トナリテ攝取セラレタルモノナルヤハ、此方法ニテハ鑑別スルコト能ハズ。

三、くろーむ中毒

くろーむ化合物中、毒物トシテ用ヒラル、モノハくろーむ酸、くろーむ酸加里及くろーむ明礬等ナリ。此等毒物ハ工業上中毒ヲ來シ又自殺ノ目的ニ用ヒラル。くろーむ酸加里ノ中毒ハ、嘗テ我國ニテハ恰モ流行毒ノ觀アリテ、自殺ノ目的ニ多ク使用サレタリ、ソノ他錯誤ニ依リ中毒シ、他殺ノ目的ニハ用ヒラル、コト少シト雖、

予ハ痴愚者ガ友人ヲ殺害セン目的ニテ此粉末ヲ飯ニ振りカケ、或ハ茶粥ニ混ジテ中毒セシメント企テタル例ニ遭遇セルコトアリ。

作用、接觸セル局部ヲ腐蝕シ、吸收後析出スル場所ニ炎症ヲ起シ血液ヲ犯シテめとへもくろびんヲ作ル、くろーむ酸加里等ハ稍強ク中樞神經系統ヲ犯ス。

症狀、急性中毒、くろーむ酸カリヲ内用スレバ、口腔粘膜ハ最初淡赤黒色ニ染ミ、以テ帶灰綠色トナリ、且腫脹シ潰瘍ヲ生ズ、強キ吐瀉アリ、吐物ハ黃色乃至綠色ニシテ、腹痛甚シク遂ニ血便ヲ出スニ至ル、脈搏次第ニ弱クナリ、尿量少ク且蛋白ヲ含有スルニ至リ、虚脱ニ陥リ死亡ス。慢性中毒ハくろーむ化合物ヲ取扱フ工場ニ於テ多ク來リ、手、足、陰莖及鼻隔等ニ潰瘍ヲ生ジ、氣管枝炎、眼瞼結膜炎眼球結膜炎等ヲ伴フ。

剖見所見 口内粘膜ハ黃色乃至綠色ニ染ミ、胃内容モ亦往々同色ヲ呈シ、ソノ粘膜ニハ溢血アリ、黃褐色乃至帶綠褐色ヲ帶ビ、腸粘膜モ亦略同狀ヲ呈ス、心、肝ニハ脂肪變性ヲ來シ、腎臟炎、皮膚潰瘍及氣管枝炎等ヲ伴フ。

致死量、くろーむ酸加里ニテハ結晶二・〇—三・〇瓦ナリ、然レドモ十五程飲用シテ死ニ至ラザリシモノアリ、ソノ他くろーむ化合物

くろーむ中毒

物ニテハ致死量ハ尙多量ナリ。

化學的證明、可檢物ニふれぜにゆす、ばぼー氏法ヲ施行シ、得タル濾液くろーむニヨリテ綠色ニ染ム、此綠色濾液ヨリ全くくろーむ瓦斯ヲ驅逐シ、少許ノ硫化あんもんヲ加フレバ帶綠靑色ノ沈澱ヲ生ズ此沈澱ヲ濾別シ、更ニあるかりノ過剰ニ溶解シ、過酸化鉛液ヲ加フレバ黃變ス、此黃色液ニ酸ヲ加フレバ、黃色ノくろーむ酸鉛ヲ析出ス、此析出物ヲ濾紙上ニ集メ更ニ水溶上ニテあるこほるヲ以テ處置スレバ、綠色トナル、即チくろーむ化合物存在ノ確徵ナリ。此くろーむ化合物ガ、如何ナル形トナリテ存在セルカヲ知ルコト困難ナリト雖、化學的ニくろーむノ存在ヲ徵スレバ、法醫學的ニハ已ニ十分ナル毒物存在ノ微標ヲ得タルナリ。

鑑定實例

第四十九例 鑑定書

大正〇年六月二十一日〇地方裁判所豫審判事KハN殺人未遂被告事件ニ付同廳第五號豫審廷ニ於テ檢第一號證及警第一號證ヲ交付シ

一、檢第一號證ノ茶粥中ニ劇藥又ハ毒藥ノ類ヲ混入セルヤモシアラバ其分量

二、警第一號證ノ赤色粒狀物ハ如何ナルモノナリヤ

ヲ鑑定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同證據品ヲ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ持參シ翌二十二日ヨリ七月六日ニ互ル期間同教室ニ於テソノ檢査ヲ施行セリ



第一、檢第一號證檢査

甲、肉眼的及顯微鏡的檢査

檢第一號證ハ硝子罎中ニ入レラレ内容ハ外部ヨリ窺フニ帶綠汚灰色ニ濁濁セル液體ニシテ器底ニ飯粒様ノモノ稍多量沈澱シ罎頭ニハ「N檢第一號證據品」及「二領三四號N〇年六月十八日」ナル紙札各一枚結ビ付ケアリ罎口ニハ紙封ヲ施シナル封印ヲ施セリ紙封ヲ徹スルニ罎口ハ「キルク」栓ヲ以テ閉ツ栓ヲ抜キテ之ヲ嗅グニ特臭ナク腐敗セル糊様ノ臭アリ之ヲ全部「めすちりん」ニ移シテツノ容積及重量ヲ精檢スルニ、二二五・〇〇〇ニ重サ二二二五アリ之ヲ大ナル白色平皿ニ移シ薄層トナシ「るべ」ヲ以テ精視スルニ内ニ米飯粒、麥飯粒數多アリツノ一小部分ヲ載物硝子板上ニ取り覆蓋硝子ヲ被セ顯微鏡下ニ檢スルニ糊狀ナル植物組織ノ小數及小顆粒無數ヲ見ル之ニ沃度液ヲ加フルニ小顆粒ハ悉ク美麗ナル紫藍色ニ變ズ(澱粉存在ノ徵候)

乙、化學的檢査

(イ)揮發性毒物檢査

本品ヲ佳ク振盪混和後、九〇・〇〇〇ニ耗ヲ採リ檢スルニ弱酸性ノ反應ヲ徵ス之ヲ「くるべん」ニ移シ「きるく」栓ニテ輕ク栓シ其中ニ硝酸銀液或ハ醋酸鉛液ヲ以テ濕潤セル濾紙各一條ヲ下垂シ靜ニ重疊煎上ニ攝氏五〇度内外ニ熱スルニ毫モツノ濾紙ニ變色ナシ(腐蝕性)茲ニ於テ可檢液ニ「一〇」%ノ酒精水超液少許ヲ滴下シ全液ヲ酸性トナシ更ニ五〇度ニ蒸餾水ヲ加ヘテリ「びつひ」氏冷却裝置ニ連結シ式ノ如ク蒸餾スル事二時間ニシテ弱酸性無色無味無臭ノ留液約七〇・〇〇〇ニ耗ヲ得タリ之ヲ以テ揮發性毒物ノ檢査ヲナス即留液約五〇〇〇ヨリツノ都度適量ヲ試驗管ニ取り(一)乃至(七)ノ反應ヲ施行セリ  
(一)留液ニ加里滿汁ヲ滴下シ更ニ硫酸鐵並鹽化鐵溶液一、二滴ヲ加ヘ僅ニ熱シ而シテ鹽酸一滴ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス(胍酸及ツノ鹽類ノ反應陰性)  
(二)留液ニ「れぞるちん」水溶液少許ト「なとろん滿汁」一滴ヲ加ヘ煮沸スルニ淡黃色ヲ呈ス「くろ」ぼるむ、「くろら」るる、「よーど」ぼるむノ反應陰性)

- (三)留液ニ鹽化鐵ノ水溶液ヲ加フルモ變化ナシ(石炭酸ノ反應陰性)  
(四)留液ニ「重くろーむ酸加里」ノ水溶液ト鹽酸ヲ加ヘ熱スルニ淡黃色ナリ(あるこーる)陰性  
(五)留液ニ「にとろぶるしつどなとりゆうむ」液ト加里滿汁ヲ加フルニ淡黃色ナリ(あせとん)陰性  
(六)留液ニ臭素水ヲ加フルニ變化ナク「重くろーる」酸なとりゆうむヲ加フルニ呈色セズ(あにりん)陰性  
(七)前記ノ如ク留液ハ硫化水素臭或ハ「にとろべんぞーる」ヲ含有スルガ如キ臭氣ナシ  
以上ノ檢査ニ據リ留液中ニ揮發性毒物又ハ劇藥ヲ含有スルノ徵候ナシ(因ニ記ス檢第一號證ハ己ニ高熱ニ係リシモノナリトノ事ナレバ揮發性毒物ノ證明殆ド不可能ト思惟セシモ係リ官ノ希望ニ依リ特ニ之ヲ施行セリ)

(ロ)苦味質及「あるかいど」檢査

(イ)項ノ蒸餾殘渣ヲ製蒸發皿ニ移シ重疊煎上ニ徐ニ水分ヲ蒸散乾固シ之ニ九十八「れぞるちん」ノ「あるこーる」ヲ加ヘ加温浸出スル事數回濾過シツノ殘渣ハ後出(ハ)項金屬性毒物ノ檢査ニ用ヒ濾液ハ合併シテ蒸發皿ニ移シ靜ニ重疊煎上ニテ「あるこーる」分ヲ蒸散シ鹽味アル無色弱酸性ノ粘稠物少許ヲ得タリ之ニ温水ヲ加ヘテ浸出濾過シ白色ニ輕濁シ鹽味アル弱酸性ノ濾液ヲ得タリ之ヲ「原液ト」名ヅク  
(天)原液ヲ「ガデーメル」氏浸出器ニ移シ「えー」テ以テ浸出スル事二時間「えー」テ原液「地ニ用ユ」トヲ分離シ「えー」テ蒸散シテ無色無味透明ニシテ中性反應ヲ徵スル粘稠物極メテ少量ヲ得タリ之ヲ温水ニ浸出シ純小白小皿ニ分チ重疊煎上ニテ乾固シ各々夫々濃硫酸、濃硝酸、鹽化鐵、臭素水ヲ加フルモ特異ノ呈色ヲ來スモノナシ即チ苦味質(びくろるときしん、こるひちん、ふえなせちん、うえろなとる、ざりちりる酸等)ノ存在ヲ徵スベキ反應ナシ

(地)原液ニ「なとろん滿汁」ヲ加ヘテ「あるかい性」トナシ「ガデーメル」氏浸出器ニテ更ニ「えー」テ以テ浸出スル事二時間「えー」テ原液「玄ニ用ユ」トヲ分離シ「えー」テ蒸散シテ無色無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ純小白小皿數個ニ分取シ重疊煎上ニ乾固シ各々夫々濃硫酸、濃硝酸、濃醋酸、えるとまん氏試薬、ふれえー「てー」氏試薬ヲ加フルニ無色ニシテ鹽化鐵水溶液ヲ加フルモ變色セズ即チ「こいん」「にちちん」「すとりひにん」「ぶるちん」「あんちびりん」「あとろびん」「こかいん」「こでいん」「ひどらすちん」「こふいん」等ノ存在ヲ徵スルノ反應ナシ  
(空)原液ヲ「あんも」にあ「性」トナシ「ガデーメル」氏浸出器内ニテ更ニ「えー」テ以テ浸出スル事二時間「えー」テ原液「黄ニ用ユ」トニ分離シ「えー」テ「ハ」之ヲ蒸發皿ニ移シテ蒸散シ無色無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ浸出後小皿ニ分取シ重疊煎上ニテ乾燥シ  
(一)濃硝酸少許ト濃硫酸ヲ加フルモ變色ナシ  
(二)ふれえー「てー」氏試薬ヲ加フルモ變色ナシ  
即チ「あぼもるひん」ノ存在ヲ徵セズ

(黄)原液ヨリ全ク「えー」テ驅逐シ更ニ「あんも」にあ「性」トナシ「ガデーメル」氏浸出器ニテ「醋酸えー」テ以テ浸出スル事二時間「醋酸えー」テ原液トヲ分離シ「醋酸えー」テ蒸發皿ニ移シ重疊煎上ニテ蒸散シ褐色中性ニシテ苦味アル殘渣少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ浸出シ純小白小皿ニ分取シ重疊煎上ニ乾燥シ  
一、「ふれえー」氏試薬ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス  
二、「まるきー」氏試薬ヲ加フルニ淡褐色ヲ呈ス  
即チ「もるひね」ノ存在ヲ徵セズ

(ハ)金屬性毒物ノ檢査  
(ろ)項ノ殘渣ヲ蒸發皿ニ取り「あるこーる」ヲ全ク驅逐シ「くるべん」ニ移シ蒸餾水ノ適當量ヲ加ヘ鹽酸ヲ滴加シ重湯煎上ニテ徐々ニ熱シツツ時々鹽素酸加

(地)濾液檢査

淡黃色透明ニシテ強酸性ノ濾液ニ少量ノ(あんも)にあ(水)ヲ加ヘテ弱酸性トナシ重湯煎上ニ僅ニ熱シツ、靜ニ硫化水素ヲ通ズル事數時間ノ後約一晝夜之ヲ靜置シ次ニ濾過シ帶褐色ノ殘渣(ア)ト褐色ノ濾液(イ)トヲ得タリ  
(ア)殘渣ハ之ヲ佳ク硫化水素水ニテ洗滌シタル後濾紙ト共ニ小皿ニ取り發煙硝酸ニテ酸化シ重湯煎上ニ熱シテ全ク硝酸ヲ驅逐シ鹽素酸加里ト鹽酸ヲ以テ浸出濾過シ濾液ヲ重湯煎上ニ靜ニ熱シツ、徐々ニ硫化水素ヲ通ズル事數時間ノ後約一晝夜靜置スルニ灰白色ノ沈澱極メテ少許ヲ生ズ  
即チ錫、重素、あんちもん、銅、鉛、水銀、びすむと、かどみゆーむ等ノ存在ヲ徵セズ  
(イ)濾液ハ之ヲ「びーかー」ニ取り煮沸シテ硫化水素臭ナキニ至リ之ヲ三等分シテ次ノ反應ヲナス  
(一)ニ酸ヲ加ヘテ酸化シ「あんも」にあ「水」ヲ加ヘテ濾過シ濾液ヲ醋酸酸性トナシ之ニ硫化水素ヲ通ズルモ沈澱ヲ生ゼズ(亞鉛陰性)



(二) 濾液ヲ鹽酸性トナシ之ニ硫酸ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ(ばりゆーむ陰性)

(三) 濾液ニ硝石混合物少許ヲ加ヘテ蒸發乾固シ之ヲ少量宛熱シタル白金坩堝ニ移シテ靜ニ融解セシメ黃色ノ融解物ヲ得タリ冷後之ヲ温水ニ浸出濾過シ淡黃色ノ濾液ヲ以テ次ノ反應ヲ施行セリ

(甲) 濾液ノ一部ヲ硝酸酸性トナシ硝酸銀液ヲ加フルニ赤褐色ノ沈澱ヲ生ズ

(乙) 濾液ノ殘餘ヲ醋酸々性トナシ之ニ醋酸鉛ヲ加フルニ淡黃色ノ沈澱多量ヲ生ズ濾過シテソノ沈澱ヲ集メ佳ク洗滌後濾紙ト共ニ小瓷皿ニ移シ「あるこーる」及鹽酸ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スルニ淡綠色ニ變ジ之ヲ蒸發乾固シテ綠色ノ殘渣ヲ得タリ之ヲ硫酸酸性ノ水ニ浸出濾過シ淡綠色ノ濾液ヲ得之ニ「あんもにあ水」ヲ加フル時ハ淡綠色絮狀ノ沈澱多量ニ生ズ

即チ「くろーむ」化合物ノ存在ヲ徵ス

(己) 酸類及「あるかり油汁」ノ検査

檢第一號證ヨリ内容約一〇〇〇珉ヲ取リ小濾過紙ニテ濾過スルニ濾液ハ淡綠色透明ニシテ弱酸性ノ反應ヲ徵ス即チ濾液ノ一部ニ硝酸銀、他ノ一部ニ鹽化「ばりゆーむ」ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ即強酸類及「あるかり油汁」如キモノヲ含有セズ

(ほ)「くろーむ」化合物ノ検査

(イ) 乃至(ハ)ノ検査ニ依リ檢第一號證ニ混入スル毒物ハ「くろーむ」化合物ナリヲ確定シ得タルヲ以テソノ「くろーむ」化合物ハ如何ナル化學的造構トナリテ存在スルカヲ決定セン爲第一號證ノ内容約二〇〇〇珉ヲ取出シ(ろ)項ノ如ク濾過シテ得タル濾液ヲ以テ次ノ反應ヲナス

一、濾液ノ一部ニ「あるこーる」ト鹽酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ濾液ヲ熱スルニ稍綠色ニ移行ス

二、「すとりきにん」ノ少量ヲ濃硝酸ニ加ヘタルモノニ濾液ノ一部ヲ積層スルニソノ接觸面ニ黒褐色輪ヲ生ズ

即チ「重くろーむ酸加里」存在ノ徵標明カナラズ然レ共檢第一號證ハ已ニ腐敗セル有機物極メテ多量ニ含有セルヲ以テ假令最初「重くろーむ酸加里」ヲ混入セル事アリトスルモソノハ之等有機物ノ爲メニ「くろーむ化合物」ノ他ノ造構ニ變化スル事多キヲ以テ「くろーむ」ノ存在ヲ徵シタル檢第一號證中ニ重くろーむ酸加里ノ存在ヲ否定スル事能ハズ要之第一號證中ニ「くろーむ」ガ如何ナル造構トナリテ混入シ居ルカハ有機物ノ混合多キト材料ノ少キトニ依リテ之ヲ決定スル事困難ナリ

(へ) 檢第一號證中ニ混入セル「くろーむ」化合物ノ定量

檢第一號證中ヨリソノ内容一〇〇〇珉ヲ採リ白金坩堝ニ移シ靜ニ熱シテ水分ヲ蒸散シ更ニ強熱シテ之ヲ炭化セシメ硝石混合物ヲ加ヘテ靜ニ融解シ融解物ノ温水ニ浸出濾過シ濾液ヲ醋酸々性トナシ之ニ醋酸鉛液ヲ加フルニ黃色ノ沈澱少許ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ水ヲ以テ洗滌シ濾紙ト共ニ小瓷皿ニ移シ鹽酸性ノ水ト「あるこーる」ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱シ乾固スルニ綠色ノ殘渣少許ヲ得タリ更ニ殘渣ヲ硫酸酸性ノ水ニ浸出濾過シ淡綠色ノ濾液ヲ得此濾液ニ「あんもにあ水」ヲ加ヘテ「あんもにあ」性トナシ暫時靜置スル時ハ淡綠色絮狀ノ沈澱(水酸化くろーむ)ヲ生ズ小ナル濾紙(灰分ノ重量已定)ニテ濾過シ此沈澱ヲ集メ「あんもにあ水」一、二滴ヲ滴加シタル濾液水ヲ以テ洗滌後乾燥シ豫メ重量ヲ計リタル坩堝ニ入レ強熱スル事數時間冷後ソノ重量ヲ計リテ坩堝及蒸紙灰分ノ重量ヲ減ジ(「酸化くろーむ」トシテ)「くろーむ」化合物ノ重量ヲ得タリ前記ノ方法ヲ繰リ返ス事前後四回、得タル成績ハ可檢物一〇〇珉中ニ

(一)	〇〇〇〇五四五
(二)	〇〇〇〇五二五
(三)	〇〇〇〇五九五
(四)	〇〇〇〇五九五

平均〇〇〇五三七五

即チ平均〇〇〇五三七五ノ「酸化くろーむ」ヲ混入スル割合ナリ。

(尙爲念此定量分析法ハ精密ナル結果ヲ得ルモノナル事ヲ豫メ試験シ置ケリ)

第二、警第一號證ノ検査

警第一號證ハ赤色破片狀ノ結晶ニシテソノ重量〇〇七三五アリ其味稍澁ク特臭ナクソノ一小片ヲ取リ試験管内ニテ蒸餾水ニ溶解セシムレバ淡黃色ノ液トナリ弱酸性ノ反應ヲ徵ス之ヲ五分シテ次ノ化學的反應ヲ施行セリ

(一) 一部ヲ醋酸酸性トナシ醋酸鉛ヲ加フルニ黃色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ蒸餾水ヲ以テ洗滌シ濾紙ト共ニ小瓷皿ニ取リ鹽酸性ニ水ト「あるこーる」ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スレバ綠色ヲ呈スソノ水分ヲ蒸散シテ綠色ノ殘渣ヲ得此殘渣ヲ硫酸酸性ノ水ニ浸出濾過シ濾液ニ「あんもにあ」ヲ加フルニ淡綠色絮狀ノ沈澱ヲ生ズ

(二) 硫酸ニ「すとりきにん」ノ少量ヲ加ヘタル試薬上ニ溶液ノ一部ヲ積層スレバソノ接觸面ニ帶褐色ノ輪ヲ生ズ

(三) 溶液ノ一部ニ鹽酸及「あるこーる」ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スレバ淡綠色トナル

(四) 溶液ノ一部ニ硝酸酸性トナシ硫酸銀液ヲ加フルニ帶褐色ノ沈澱ヲ生ズ

(五) 白金線ニ溶液ノ一部ヲ浸シ「ぶんぜん」瓦斯燈ノ焰中ニ熱スルニ焰ハ明ニ淡紫色トナル

即チ警第一號證ハ「くろーむ酸」ノ化合物ニシテソノ色性狀等ヲ綜合スレバコハ正シク「重くろーむ酸加里」ナリ

第三、鑑定

上記検査ノ結果ニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、檢第一號證ノ坩中ニハ「くろーむ」劑ヲ混入シアル事ヲ發見セリ而シテ此「くろーむ」製劑ハ多クハ吾人人類ニ對シテ毒性ヲ有セルモノニシテ檢第一號證ノ茶粥一〇〇珉中ニハ「酸化くろーむ」トシテ約〇〇五三五ヲ含有ス

二、警第一號證品ハ「くろーむ酸」化合物ニシテ正シク重くろーむ酸加里

くろーむ中毒

ナリ

附記、檢第一號證ハ約六〇〇珉ヲ原罐ニ入レ嚴封シ警第一號證ノ小塊二片ハ硝子管内ニ密閉シ大正〇〇年七月七日〇地方裁判所第五號豫審廷ニ於テ係リ官ニ返却セリ

此鑑定ハ大正〇〇年六月二十一日著手  
同 年七月六日結了  
大正年月日

鑑定人 醫師 小南 又一 郎理

四、銅化合物中毒

銅化合物中ニハ硫酸銅、醋酸銅、亞砒酸銅及炭酸銅等アレドモ、ソノ代表者トスベキハ硫酸銅ナリ、是等ハ工業上ノ中毒或ハ錯誤ニヨリ中毒ヲ來スト雖、他殺ノ目的ニ用ユルハ甚ダ稀ナリ、食物調理ノ際往々銅鍋ニ醋酸ヲ用ヒタルモノヲ食シ銅中毒ヲ來スコトアリ。

作用、本劑ノ多クハソノ接觸部ニ凝固壞疽ヲ起シ、血色素ヲ溶解セズト雖直ニめとへもぐろびんヲ作ル、又中樞神經ヲ犯シ嘔吐甚シク、筋肉麻痺ヲ來シ、而シテコハ小腸、唾液、膽汁、尿及皮膚等ニ析出ス、鐵詰ニ添加セラレタル少量ノ銅化合物ハ何等中毒ヲ來スコトナシ。

症狀、急性中毒、硫酸銅等ヲ内用スレバ口内ハ綠色ニ腐蝕セラレ不快ナル銅味ヲ感ジ嘔吐甚シク吐物ハ綠色ヲ帶ブルヲ常トス、次デ



垂涎、腹痛、腹部膨滿及赤褐色下痢、裏急後重、頭痛、痙攣、及黃疸等ヲ發シ虚脱ニ陥リ死ニ至ルカ、或ハ慢性ノ胃疾患ヲ貽シテ治スルコトアリ。

銅劑ノ慢性中毒者ハ黴ミタル淡微綠色ヲ帶ベルガ如キ顔色ヲ呈シ齒牙ニハ銅條アリ腹痛及胃腸炎ヲ伴ヒ、次第ニ衰弱シ行クモノナリ。

剖檢所見、口腔ヨリ肛門ニ至ル迄強キ胃腸炎アリ、吐物及胃内容ハ往々綠色ニ染ミ胃粘膜ハ充血腫脹シ溢血ヲ來シ、潰瘍ヲ見ルコトアリ、大腸ニハ灰白乃至綠色ノ斑ヲ見、時トシテ穿孔ヲ來シ、肝臓及心筋ハ脂肪變性ニ陥ルヲ常トス、其他實質性腎臟炎乃至肝臟炎ヲ伴フコトアリ。

致死量、硫酸銅及醋酸銅十瓦内外ヲ服用スレバ死ニ至ルコトアリト云フ。

化學的證明、可檢物ヲふれぜにゆす、ばぼー氏法ニテ所置スレバ、銅化合物ハ鹽化物トシテ濾液中ニ移行シ、爲メニ濾液ハ綠色ヲ呈ス此濾液ニ硫化水素瓦斯ヲ通ジテ黒褐色ノ沈澱ヲ生ジ、黄色血滴鹽ヲ加ヘテ帯褐赤色トナリ、かり濾汁ヲ加ヘテ初メ青色次イデ褐色ニ變ズル沈澱ヲ生ズレバ、銅化合物ノ存在スルコト明ナリ、尙銅ノ微量ハ生理的ニモ肝臓中ニ存在スルモノナレバ注意ヲ要ス、モシ銅化合物

化學的檢查、ふれぜにゆす、ばぼー氏法ニテ白色透明ノ濾液ヲ得此濾液ヲ中性トナシ、硫化あんもんヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、又前記濾液ニかり濾汁、或ハあんもんヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ來シ、コハあるかりノ過剰ニ溶解ス、又別ニ前記濾液ニ、黄色血滴鹽液ヲ加フルニ白色沈澱ヲ生ズ、之レ亞鉛存在ノ徵ナリ。

ニ、腐蝕性瓦斯

工業上發生スル瓦斯ニ腐蝕性ノモノアリ、例ヘバ發煙硝酸、鹽酸、あんもにあ、くろーる、ぶろーむ、よーど等ノ瓦斯之レナリ、是等ハ多ク職業上ヨリ中毒ヲ來ス、彼ノ歐洲大戰ニ用キラレタル毒瓦斯ハ、發煙硝酸、くろーる、ぶろーむ、いべりつと、ぢふえにーるくるあるしん、同ちあんあるしん、るいさいと及ぼすげん、ぢほすげん等ニシテ、ソノ作用ニヨリテ分類スレバ次ノ如シ。窒息性瓦斯ニ鹽素、ほすげん及ぢほすげん。糜爛性瓦斯ニいべりつと及るいさいと、催涙性瓦斯ニ臭化べんじる、鹽化びくりん、鹽化あせとふえん。噴嚏性瓦斯ニぢふえにーる、くろーるあるしん及ぢふえにーるしあんあるしん、あだむさいと。神經系及血液毒瓦斯ニ青酸、一酸化炭素等トス。今此等毒瓦斯ノ作用ヲ示セバ大約第百用表ノ如シ。ソノ他錯誤ニヨレル此等瓦斯ノ中毒アレドモ、是ヲ以テ自殺又ハ他

物多量ヲ含メル吐物等アレバ、之ヲ濾過シ濾液ヲ弱酸性トナシ、之ニ研磨シ光澤アル鐵片ヲ浸漬スレバ、暫時ニシテ鐵面ニ銅色ノ薄層ヲ附着ス、之ヲ乾燥シ研磨スレバ銅ナルコト益々確實トナル、之ヲ通常銅鏡ト稱ス。

五、亞鉛中毒

鹽化亞鉛、硫酸亞鉛、酸化亞鉛及炭酸亞鉛等ハ何レモ毒物トシテ殺人及自殺ノ目的ニ用ヒラレ、或ハ工業上又ハ錯誤ニヨレル中毒トシテ來ルコトアリ。

作用、亞鉛化合物ノ毒作用ハ略銅ノソレト同ジケレドモ、其毒力ハ弱シ、吸收サレテ神經系統ヲ犯スコトアリ、排出ハ重ニ胃腸ノ粘膜ニ依リ、ソガ内臓中ニ蓄積サル、コトハ少シ。

症狀、本劑ヲ内用スレバ口腔粘膜ハ灰白色トナリ皺襞ヲ呈シ、強キ金屬味ヲ感ジ、垂涎、嘔吐及血便ヲ來シ、次デ全身衰弱眩暈、冷汗等ヲ伴ヒ、慢性中毒ニテハ胃腸炎、脊痛、筋肉衰弱前頭痛及多量ノ發汗等ヲ來ス。

剖檢所見、口粘膜ハ恰モ絨メサレタルガ如ク、胃内腐蝕サレ、溢血點ヲ見、所々剝離ス、腸粘膜、軟腦膜、肺及腎等ニ血量多シ。致死量、ハ硫酸亞鉛ニテ六乃至七瓦、鹽化亞鉛ニテ六瓦ナリ。

第百三十表

Table with columns for chemical name, toxicity, and examples. It lists various gases and their effects, such as '窒息性' (asphyxiating) and '腐蝕性' (corrosive).



殺ヲ行フコトハ稀有ナリ。

### 一、くろろる瓦斯中毒

くろろる瓦斯ハ漂白業、諸種ノ消毒及ソノ他ノ工業ニ使用サルルヲ以テ、職業上ノ中毒ヲ來スコト多シ。

**作用**、總ベテノ蛋白ヲ崩解セシメ、結膜或ハ上皮細胞ヲ腐蝕ス、少許ノ水分アル所ニテハくろろる瓦斯ハ水ト結合シ、一部鹽酸トナリ兩々相持シテ粘膜ヲ犯シ、且血色素ヲ犯シテめとへもぐろびん及へまぢんニ變ズ。

**症狀**、くろろる瓦斯刺戟ノ爲メ、氣管枝肺炎、眼、鼻、口等ニ於ケル炎症即チ呼吸困難、咳嗽、結膜炎或ハ角膜炎等ヲ來シ内用スレバ甚シキ胃腸炎ヲ起シ、下痢、嘔吐、咽頭ニ於ケル輕痛、黃疸、聲門水腫或ハ聲門痙攣ヲ惹起ス。

**剖檢所見**、くろろる瓦斯ヲ吸入シテ死セルモノハ死體ニくろろる臭アリ、肺ニハ溢血點ヲ見、所々ニ肺炎竈散在シ、且此部ハ赤褐色ニ染ム、胃粘膜ニモ溢血點アリ、ソノ他眼結膜、鼻粘膜咽頭及食道、氣管等ニかたる性變狀ヲ見、角膜溷濁ヲ來シ居ルコトアリ。

**致死量**、液狀くろろるヲ内用スレバ稍多量ニ耐ユルコトヲ得ルモ空氣中ニ〇・〇六%ノくろろるヲ含有スレバ、人ヲ死ニ致スコトヲ

ニ至リ、之ヲ避クルコトヲ知ラザレバ、咳嗽、呼吸困難、心悸昂進、眩暈、四肢ノ震顫、表皮蒼白、冷汗等ヲ來シ、遂ニ人事不省ニ陥リ窒息死ニ至ル。

**剖檢所見**、卒中様型中毒ニテハ窒息急死ノ所見アルノ他、硫化水素中毒死ニ特有ナル所見ナシ、徐々ニ硫化水素ヲ吸入シテ窒息死ニ至リタルモノハ表皮ノ色、血液及内臟等綠色ノ調ヲ帶ビ、且一種ノ硫化水素臭ヲ發ス、ソノ他一般ニハ窒息死ノ所見ヲ有ス。

**化學的證明**、硫化水素ニ特有ナル臭アルヲ以テ、ソガ中毒死ナルノ疑ヲ發ス、化學的ニハ可檢物ヲ蒸餾スレバ硫化水素ハ餾液ニ移行シ、金屬鹽ヨリ硫化物ヲ沈澱ス、即チ醋酸鉛紙ヲ黑變シ、或ハにとるふるしとなとりゆゝ弱あるかり性ノ餾液ニ加フレバ藍紫色ヲ呈スルニ依リ、ソノ存在ヲ微ス、茲ニ注意スベキハ人體ハ死後自然ニ腐敗ニ依リ硫化水素ヲ發生シ、又死體ガ糞壺内等ニ在ル時ハ其處ニ存在スル硫化水素ガ死後體内ニ滲入シテ、比較的早期ニ皮色及血液並ニ臟器等ヲ淡綠色トナシ、硫化水素中毒ニ非ラザルヤヲ疑ハシムルコトアリ、コハ小兒死體ヲ糞壺中ニ投ジタル時ニヨク見ルコトニシテ、注意スベキコトナリト信ズ。

### 三、二硫化炭素中毒

二硫化水素瓦斯中毒

得ト云フ。

**化學的證明**、遊離セルくろろる瓦斯ハ、濕潤セル沃度澱粉紙ヲ最初藍色トナシ、次デ褪色セシメ、又らくむす或ハいでいご青試験紙ヲ褪色セシム、金屬性銀ハくろろる瓦斯ニ遭遇シテ鹽化銀ヲ生成シ、コハ日光ニ觸ルレバ黑變ス、然レドモくろろる瓦斯ノ臭氣ハ、ソノ發見ニ最モ好都合ナルモノナリ。

附、ぶろゝむ及よゝど瓦斯ノ中毒モ亦略くろろる瓦斯ノ中毒ニ似タレドモ其毒力稍弱シ、此等中毒ノ詳細ハ、本書ノ如キ小冊子ノ能ク記載スル處ニアラズ。

### 二、硫化水素瓦斯中毒

化學實驗室、或ハ下水坑道内等ニ充滿セル硫化水素瓦斯ニヨリテ往々中毒死ノ至ルコトアリ。

**作用**、硫化水素瓦斯ハ一面ニハ血液ヲ犯シ窒息死ニ導キ、他面ニハ接觸セル局部ヲ刺戟スルモノナリ。

**症狀**、硫化水素ノ逸出セル室内ニ入レバ一種ノ惡臭アリ、眼鼻等ニ微痛ヲ感ジ又呼吸器粘膜ヲ刺戟ス、一乃至二%ノ硫化水素瓦斯ヲ含有スル室内ニ入レバ、往々瞬間ニシテ窒息死ニ陥ルコトアリ、之ヲ卒中様硫化水素中毒死ト名ヅク、普通硫化水素瓦斯ヲ含有スル所

二硫化炭素ハ無色透明ノ液體ニシテ、ソノ不純ナルモノハ少シク着色シ、揮發性ニシテ一種特有ナル臭氣ヲ有シ、工業上ゴム或ハ人造絹絲工場ニ使用サルルヲ以テ、屢々工場内乃至職業上ノ中毒ヲ來ス。

致死量、ソノ一五粒ニテ死亡シタルモノアルカト思ヘバ、五十粒ヲ服用シテ死ニ至ラザリシモノアレバ、致死量ハ不定ト云フヲ至當トス。而シテ一立ノ大氣中ニソノ二、三粒ヲ含有セバ已ニ有害ニシテ、同一〇粒ニ達スレバ危險、之ヲ含有スル所ニ勞働スレバ大人ニテハ約六週、小兒ニテハ已ニ三日ニシテ特有ナル慢性中毒ヲ來スト云フ。

**作用**、二硫化炭素ハ接觸シタル局部ヲ犯シテ炎衝ヲ來シ、中樞神經ニ對シテハ最初刺戟症狀ヲ顯ハシ、次デ麻痺ニ陥ラシメ、最後ニ中毒患者ハ呼吸麻痺ニヨリテ死ニ至ルヲ常トス。

中毒症狀、二硫化炭素ガ皮膚或ハ粘膜ニ接觸スレバ、ソノ部ハ引赤シ疼痛ヲ感ジ、時トシテ水疱ヲ形成スルコトアリ、眼結膜ヲ刺戟シ角膜炎ヲ伴ヒ、之ヲ内服スレバ熱灼スルガ如キ胃痛ヲ感ジ、嘔氣、嘔吐、腹痛ヲ訴フルト共ニ、間モナク顔面蒼白トナリ、人事不省ニ陥リ、瞳孔ノ強直、反射消失、體温下降、振顫、痙攣、呼吸促



迫乃至心悸昂進等ニ次ギ麻痺状態ヲ來シ、數時間ノ後死ニ至ルヲ常トス。

若シ服用量乃至吸入量少ナケレバ、先ヅ頭痛、眩暈、結膜炎、口腔炎、垂涎乃至嘔吐等ヲ來シ、呼吸、尿及大便ニ二硫化炭素臭ヲ伴フ。大氣一立中ニ二硫化炭素一庭内外ヲ含有スレバ數時間ニシテ、同約六庭アラバ二、三十分ニシテ、叙上ノ中毒症狀來ルコト多シ。

ソノ慢性中毒ノ症狀トシテハ、先ヅ一般の身體障害ノ形ニテ、頭痛、胃腸障害、眩暈乃至下肢倦怠等ヲ前驅トシ、次デ神經的障害トシテ末梢性神經炎ヲ來シ、最後ニ中樞性精神の障害トシテ顯出シ、記憶減退、談話障害ニ次ギ刺戟乃至昏迷状態トナリ、即チ初メハ神經衰弱様乃至ひすてり様トナリ、終ニハ痲呆状態ニ陥ルコトアリ。

化學的證明、とりえち一るほすびんの酒精性無色溶液中ニ呼吸ヲ吹込ミ赤色ニ變ズレバ、ソノ中ニ二硫化炭素瓦斯含有ノ疑アリ。血液中ヨリ之ヲ證明セントスレバ、炭酸瓦斯ヲ通ジツツ蒸餾シ、ソノ溜液ニ酒精性あんもにあ溶液五倍量ヲ加ヘテ水浴上ニ蒸散シ、殘渣ニ鹽化鐵液ヲ加ヘテ血赤色トナラバ、二硫化炭素存在ノ徴ナリ。

ホ、有機性腐蝕毒

接觸セル局部ニ刺戟乃至腐蝕ヲ與フル有機性毒物ニハ、かんたり

ちん、がま毒、一種ノ魚毒及蛇毒等アルモ、法醫學的ニ必要ナルハかんたりちん中毒ノミナリ。

一、かんたりちん中毒

かんたりちんハ豆斑猫屬ノ昆蟲ノ體內ニ存スル毒物ニシテ、莖著ちんキトシテ販賣セラル、コハ自殺或ハ他殺ノ目的ニ往々用ヒラレ、俗間ニハ墮胎劑或ハ催淫劑トシテ使用サレ、又醫療ニモ用ヒラルル故錯誤ニヨレル中毒ヲ來スコトアリ。

作用、かんたりちんハ非常ニ強キ局所刺戟劑ニシテ、ソノ排出口ヲスラモ甚シク刺戟ス、吸收サレテ腦神經ヲ犯スコト屢ナリ。

中毒症狀、かんたりちんノ接觸セル外皮ニハ水泡ヲ作り、内用スレバ口内ニ熱灼ノ感アリ、此所ニモ水泡ヲ作ル、ソノ他嚙下困難、垂涎、血樣液ノ吐瀉、腎臟部尿道ニ於ケル疼痛、尿意頻發等ヲ來シ、尿ハ少量ニシテ蛋白、糖及血液ヲ含有スルニ至ル。

剖檢所見、出血性胃腸炎ヲ來シコハ特大腸ニ於テ甚シ、ソノ他實質性腎臟炎、尿道粘膜炎引赤及溢血等ヲ見、時トシテ胃腸ノ内容ニ光輝アル豆斑猫ノ翼片ヲ發見スルコトアレバ注意シテ檢スベシ、又翼片ノ永ク附着セリト認メラルル粘膜炎ハ特ニ甚シク犯サルヲ見ル。

化學的證明、モシかんたりちん含有ノ疑アル散藥等ヲ交付サレタ

ル場合ニハ、注意シテ該毒ノ小翼片存在セザルヤ否ヤヲ檢スベシ。化學的檢出法トシテハ先ヅ可檢物ニかり滴汁ヲ加ヘテ煮沸シ、次デ濾過シ濾液ヲ硫酸ニテ酸性トナシ、くろろほるむニテ振盪シ、該くろろほるむヲ分取シ、更ニ此くろろほるむヲ蒸散シ、殘渣ヲ以テかんたりちんノ證明ヲナシ、又内臟等ヨリかんたりちんヲ證明スルニハナタナ、をつと一氏法ニ從ヒ所置シ、比較的純粹ナルかんたりちんヲ抽出シ、以テソノ證明法ヲ施行スベシ。即チくろろほるむ或ハえーてる殘渣ヲ油類ニ溶解シ、皮膚ニ貼付スレバ水泡ヲ生ズ、之レ即チかんたりちん存在ノ徴ナリ、本劑ハ甚ダ腐敗ニ對スル抵抗強キモノナリト云フ。

乙、實質毒

實質毒ハ其接觸部位ヲ犯スコト比較的ニ少ク、唯僅ニ刺戟反應アルノミナルヲ常トス、主トシテ一旦體內ニ吸收サレ、生活細胞ノ原形質ヲ犯シ、酸素ノ供給ヲ妨ゲ、生活體ノ新陳代謝機能ニ大ナル障礙ヲ來シ、種々ノ臟器ニ脂肪變性ヲ起サシム。之ニ屬スルモノハ燐、砒素劑、鉛及菱角等ナリ。

一、燐中毒

かんたりちん中毒、燐中毒

燐ニハ赤燐ト黃燐トノ二種アリ、前者ハ無毒ナレドモ黃燐ハ猛毒ニシテまつち、殺鼠劑ノ主成分ヲ成スコトアリ、此等ハ日用品ナルヲ以テ、偶々不知ノ間ニ來ル中毒甚ダ多ク又他殺ニモ用キラル、著者ノ遭遇セル二例ハ、一ハ猫いらサト稱スル燐含有セル殺鼠劑ヲ嬰兒ノ口内ニ押込ミ中毒センメタルモノニシテ、他ハ同上劑ヲ食物ニ混ジ中毒ヲ計リシモ、ソノ臭氣ニ依リテ發見セラレ目的ヲ達スルニ至ラザリシモノナリ。泰西ニテハ往々燐まつちヲ以テ墮胎ヲ企ツルモノアリ。燐まつちノ球頭ニ含有スル燐ノ含量ハ一定セザルモ平均一本ニ〇・〇〇五瓦アリ、成人ニテハ其百本ヲ用ユレバ已ニ重篤ノ中毒症ヲ發スト云フ。含燐殺鼠劑ノ公稱含燐量ハ猫いらサ八%、らつとべん十%、らつとりん四%、きるらつと五%等ナレド定量ノ結果常ニ之ヨリ稍少量ナリ、是等ハ現今我邦流行毒トシテ毒物學上注意スベキモノナリ。

作用、燐ヲ脂肪或ハ油類ニ溶解スル時ハ其吸收セラルルコト速ナルヲ以テ、局部症狀ナクシテ直ニ全身症狀ヲ來ス、溶解セザル燐ハ蛋白ニ作用シテろいちん、ちろちん等ヲ作り、又血管壁、肝、胃、腎、筋肉心筋等ニ脂肪變性ヲ來シ、血球ヲ犯シ膽汁ノ分泌過多トナリ黄疸ヲ發センム、又骨質ヲ犯シ壞疽ニ陥ラシムルコトアリ。



**症狀、磷ハ脂肪ニ溶解シテ用フレバ速ニ汎發性作用ヲ發スレド**  
 モ、通常ハ嚥下後數時間ニシテ口内異常ノ味覺、口渴、胃部壓痛及嘔吐アリ、吐物ハ磷臭ヲ有シ、暗處ニテ之ヲ窺ヘバ磷光ヲ放チ、ソノ他頭痛不安等アリ、諸症増悪シ數日ノ後虚脱ニ陥リ死ス、慢性症ニテハ肝ノ腫大黃疸ヲ來セドモ、急劇症ニテハ之ヲ見ルコト能ハズ。  
 中毒ノ經過遷延スル時ハ、嘔吐、口渴、腹痛等一旦輕快シ、外見上良好ノ經過ヲ取ルガ如キモ第二、三日ニ至リ黃疸ヲ發シ、嚥下困難、胃部ニ於ケル苦悶、嘔吐ヲ伴ヒ、吐物ニハ往々血液ヲ混ジ、次デ肝腫大、關節痛、全身衰弱シ心音微弱、脈搏細小、眩暈等ヲ發シ、尿ハ蛋白ヲ含ミ、膽汁及血液ヲ混ジ、又尿量減ズ、意識ハ多クハ障礙セラレザルモ、往々瀕死時ニ諸語ヲ發シ、昏睡ニ陥ルコトアリ、往々齒齦、子宮、胃、直腸、皮膚及結膜、筋間等ニ溢血ヲ來ス。  
 磷ヲ用ユル工場ニテハ、磷中毒ノ爲メ齒牙弛ミ齶齒多ク、下齶骨壞疽ヲ來スコトアリ。

**剖檢所見、磷中毒後急死セルモノニ在テハ、胃腸ノ内容往々ニシテ磷臭ヲ帶ビ、暗處ニテ磷光ヲ放チ、磷片又ハまつちノ球頭片ヲ發見スルコトアリ、胃腸粘膜ハ僅ニ濁セルノミ。**  
 中毒後二、三十時間ヲ經過セルモノニ在テハ、肝細胞ハ顆粒變性ヲ

來シ腎上皮及心筋纖維ニハ顆粒狀ノ觀アルヲ明ニ認ムルコトヲ得、三乃至五日ヲ經テ死亡セル者ニ在テハ、剖檢上極メナ明ナル特徴ヲ呈ス、即チ全身黃疸ヲ呈シ、皮膚及粘膜下ニ溢血ヲ認メ、肝臟ニハ脂肪變性ヲ來シ腫大シテ黃色ヲ呈ス、之ニ觸ルレバ捏粉狀ノ硬度ヲ有シ斷面亦黃色ナリ、處々ニ出血點ヲ見、實質細胞ハ多量ノ脂肪ヲ充盈シ肝小葉ノ境界明ナリ、腎及胃腸粘膜モ亦脂肪變性ニ陥リ、血液ヲ來シ、ソノ内容モ亦血液ヲ混ジ汁粉樣ノ觀アリ、心筋ニモ亦脂肪變性ヲ來ス。血液ハ一般ニ流動性ニシテテ一なる狀ヲナシ、血球崩壞ス、ソノ他網膜、腸間膜、胸膜、筋間等ニ大小種々ノ大サノ溢血ヲ見ル。

第一百三十一表 猫いらす中毒例(單位瓦)

報告者	性	年齢	服用量	轉歸	主ナル解剖所見
佐藤	♀	六	本服用約九瓦	死亡	胃腸粘膜出血性加答兒、心臟、肝臟、腎臟、瀉腸腺、胸腺淋巴體質
青木	♀	七	七〇	治癒	
久藤	♀	一〇	服用(約一〇瓦)一日後	治癒	
山本	♂	三	服用(約一〇瓦)一日後	治癒	
和田	不明	八	八〇	死亡	
系川	♂	二	服用(約一〇瓦)半量	死亡	肝臟實質脂肪變性、腎實質變性及鬱血、心筋實質變性、肺鬱血、水腫、脾臟鬱血、胃腸加答兒性炎
系川	♂	二	服用(約一〇瓦)半量	死亡	肝臟腫大、脂肪變性、鬱血、肺出血斑、鬱血、氣管枝加答兒性炎、胸腺淋巴體質

**化學的證明、可檢物ニ硫酸及水ヲ加ヘテ酸性トナシ、みつちえ**  
 りひ氏裝置ヲ用ヒテ蒸餾スル時ハ、磷ハ水蒸氣ト共ニ蒸溜サル、此蒸餾ヲ暗所ニテ行フ時ハソノ冷却部ニ於テ磷光ヲ放ツ、但シ夾雜物多キ時ハ之ヲ妨グルコトアリ。硝酸銀紙ハ磷蒸氣ニヨリテ黑變スレドモ醋酸鉛紙ハ然ラズ。尙磷ヲ水素瓦斯ト共ニ發生セシメ、之ニ點火スレバ綠色ノ炎ヲ以テ燃ユ、一般ニ磷ハ空氣中ニ於テ甚ダ酸化シ易キモノナレバ、可檢物ハナルベク早ク検査スベシ、若シ磷が酸化シテ磷酸トナレバ最早毒物トシテ證明スルコト能ハズ、何トナレバ磷酸鹽ハ人體ノ生理的成分ナレバナリ。

**鑑定實例**

**第五十例 鑑定書**

大正〇年十月十五日K區裁判所判事K、Sハ同職法廷ニ於テK地方裁判所Mノ委嘱ニ係ル〇〇府〇〇郡〇〇村字〇〇I、s、殺人未遂被告事件ニ付ソノ證據品タル檢第一號(飯籠中ノ麥飯)同第二號(小皿在中ノ味噌)及同第三號(紙箱中ノ小罐内ニ入レル藥品)ヲ交附シ  
 一、檢第三號ノ藥品中ニハ如何ナル毒藥ヲ含ミ居ルヤ又如何ナル分量ヲ飲食物ニ混入シテ食用ニ供セバ人ヲ殺害スルニ足ルベキモノナルヤ  
 二、檢第一號飯籠在中ノ麥飯中並ニ檢第二號ノ小皿在中ノ味噌中ニハ人ヲ殺害スルニ足ル毒藥混入シ居ルヤ否ヤ若シ混入シ居ルトスレバ如何ナル毒藥ヲ混入シアルヤ又檢第三號ト同様ノモノナリヤ否ヤ  
 ヲ鑑定ス可キ旨ヲ余ニ命ゼリ依テ同判事ノ許可ヲ得右記ノ證據品ヲ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ持參シ翌十六日ヨリ同年十一月三日ニ至ル期間同教室ニ於テソノ検査ヲ施行セリ

大沼	久保	竹下	河合	武部
約一〇瓦	約一〇瓦	約一〇瓦	約一〇瓦	約一〇瓦
七六時間後死亡	六五時間後死亡	五五時間後死亡	四四時間後死亡	三三時間後死亡
肝、心、腎實質脂肪變性、氣管枝加答兒、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血	肝、心、腎實質脂肪變性、氣管枝加答兒、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血	肝、心、腎實質脂肪變性、氣管枝加答兒、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血	肝、心、腎實質脂肪變性、氣管枝加答兒、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血	肝、心、腎實質脂肪變性、氣管枝加答兒、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血、肝、心、腎實質脂肪變性、胃腸加答兒、心外膜下出血、肺動脈下出血、橫膈膜下出血

**致死量、磷ノ致死量ハ〇・二乃至〇・〇五瓦ナリ。猫いらすトシテ**  
 ノ致死量ハ大人ニ對シ二・〇乃至五・〇瓦ナリ、然レドモ之ヲ攝取後嘔吐多ケレバ五・〇ヲ取りテスラ、何等ノ症狀ヲ遺サズシテ治癒シタル者サヘアリ。







テ後硝酸ヲ加ヘ濾過シ殘渣(イ)ト濾液(ロ)ニ分ツ

(イ) 殘渣検査

天項ノ殘渣(イ)ヲ鹽酸ニ溶解セシメ之ニ硫酸ヲ加フルニ透明ニシテ(白色)ノ沈澱ニ生ゼズ即チ「ばりゆむ」化合物ノ存在ヲ徴セズ

(ロ) 濾液検査

一、天項ノ濾液(ロ)ノ一部ニ鹽酸ヲ加フルニ沈澱ナシ即銀化合物陰性ナリ  
二、同濾液ノ一部ニ硫酸ヲ加フルニ透明ナリ即チ「ばりゆむ」及鉛化合物ノ存在ヲ徴セズ

兩項ノ濾液(地)少許ノ「あんも」にあ「水」ヲ加ヘテ弱酸性ニ中和シ「こるべん」ニ入レ重湯煎上ニ微温ヲ加ヘツ、徐々ニ硫化水素ヲ通ズル事三時間、一夜之ヲ靜置シ翌朝尙硫化水素臭アリ淡褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ茲ニ於テ濾過シテ濾液(イ)ト殘渣(ロ)ニ分ツ

(イ) 濾液検査

殘渣(イ)ハ之ヲ「びーかー」ニ取り煮沸シテ硫化水素ヲ驅逐シ且乾燥セシメメソノ殘渣ヲ坩堝ニ移シ「硝石ソーダ混合物」ヲ加ヘテ靜ニ融解シ冷後温水ニ取り次ノ試験ヲナス

一、ソノ一部ニ「あんも」にあ「水」ヲ加フルニ褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ(鐵ノ少許陽性)

二、(ア)浸出液ヲ濾過シテ濾液ヲ醋酸々性トナシ硫化水素水ヲ加フルニ白色ノ沈澱多量ニ生ジソノ沈澱ハ酸ニ溶解ス

(イ)濾液ニ黃血鹽水溶液ヲ加フルニ黃色透明ナリ

(ウ)濾液ニ「なとろん滴汁」及「ソーダ水溶液」ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ

(エ)更ニ原検査物(第一號證)ヨリ約一〇〇〇瓦ノ麥飯ヲ取り白金坩堝内ニ強熱シテ炭化セシメ「硝石ソーダ混合物」ヲ加ヘテ融解セシメ冷後温水ニ取り濾過シテ濾液ヲ醋酸々性トナシ之ニ硫化水素ヲ加フルニ透明ナリ

黃血鹽ヲ加フルニ亦然リ

即チ亞鉛ノ存在ヲ徴セズ

三、濾液ヲ醋酸々性トナシ醋酸鉛ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ即チ「くろーむ化合物」ノ存在ヲ徴セズ

四、濾液ヲ鹽酸々性トナシ硫酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ゼズ即チ「ばりーむ化合物」陰性ナリ

(ロ) 殘渣検査

地項ノ殘渣(ロ)ヲ濾紙ト共ニ蒸發皿ニ取り發煙硝酸ニ酸化シ重湯煎上ニ熱シテ殘餘ノ硝酸ヲ驅逐シ後鹽酸ト鹽素酸加里ニテ所置シテ濾過シ同液ヲ重湯煎上ニ熱シツ、硫化水素ヲ通ズル事三時間一夜之ヲ靜置シ後試嗅スルニ硫化水素臭アルモ液體ハ褐色ニ變ズルノ他沈澱ヲ認ムル事能ハズ即チ錫、砒素、「あんちもん」、「水銀、鉛、銀、びすむ」と、銅、「かどみゆーむ」等ノ化合物ノ存在ヲ徴セズ

丁、強酸及「あるかり」検査

第一號ヨリ麥飯五〇〇〇瓦ヲ取り蒸餾水ヲ加ヘテ微温ニテ浸出濾過シテ酸性ノ濾液ヲ得タリコノ濾液ハ

一、「鹽化ばりゆーむ」ヲ加フルニ輕濁ス而シテ此濁濁ハ酸ニ容易ニ溶解ス(硫酸陰性)

二、硝酸銀ヲ加フルニ淡黑色ヲ呈ス(鹽酸陰性)

三、「ぶろちん硫酸」ニ此濾液ヲ積層スルニ接觸面ニ褐色ノ輪ヲ生ズ硫酸反應ナシ

四、(一)、(二)ノ反應ヲ合セ考フル時ハ恐ラク燐酸ノ存在セルモノニシテ即チ本液酸性ノ由テ來ル所以ナリ

尚「あるかり滴汁」ノ存在セザル事ハ言フ俟タズ

以上ノ検査成績ニ依レバ第一號證(麥飯中)ニハ有毒燐ノ存在ヲ徴シソノ他ノ毒物ヲ發見スル事能ハズ

下、有毒燐ノ定量

茲ニ於テ検査物中ニ有毒燐幾何ヲ含有スルヤヲ定メント欲シ第一號證ヨリ麥飯一五〇〇〇瓦ヲ検査時此麥飯ヲ普通ノ飯茶碗ニ普通一杯ニ盛りシ重量ニシテ此重量モ時日ヲ經ルニ從ヒ麥飯乾燥シ水分ヲ失フヲ以テ自ラ變化ス)ヲ取り水ヲ加ヘテ粥狀トナシひるげる、なつてるまん氏法(みつちえりひ氏法ノ改良法)ニ從ヒ炭酸瓦斯ヲ通ジツ、蒸餾スル事三時間ソノ濾液及黑變セル硝酸銀液ヲ合併シ濃硝酸及鹽酸ヲ加ヘテ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發乾固シ殘渣ヲ成ルベク少量ノ水ニ取り小濾紙ニテ濾過シ少量ノ水ニテ洗滌シ濾液ニ「硝酸あんも」にあ「飽和水溶液」ト「もりふでん酸あんも」にあ「液」トヲ加ヘテ一夜靜置スレバ美麗ナル黃色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ「もりふでん酸あんも」にあ「液」ト硝酸ノ混合液ニテ洗ヒ次ニ受器ヲ替ヘ濾紙上ノ沈澱ヲ三%ノ「あんも」にあ「水」ニ溶解シ少量ノ「あんも」にあ「水」ニテ洗滌シ此濾液「まぐねし」や混合液」ヲ加ヘテ一夜靜置シ析出シタル「燐酸あんも」にあ「まぐねし」や「無灰濾紙上ニ捕集シ少量ノ「あんも」にあ「水」ニテ洗滌シ殘渣ヲ濾紙ト共ニ乾燥シ重量已知ノ坩堝ニ移シ強熱シテ「焦性燐酸」まぐねし」トナシソノ得タル重量〇〇〇七五ニ〇二七八九ニ乗ジ換算スレバ燐ノ重量〇〇〇一五二五トナル

次ニ又第一號證麥飯一〇〇〇〇瓦ヲ取り前記ノ方法ニ依リ有毒燐ノ定量ヲナセシニ「焦性燐酸まぐねし」トシテ〇〇〇五五ヲ得タリ之ヲ燐ノ重量ニ換算スレバ〇〇〇一三九四トナル

前述ノ如ク第一號證ノ麥飯ハ時日ノ經過ニ依リテ水分ヲ失ヒソノ重量ニ變化ヲ來シ又ソノ内ニ含有セラルル有毒燐モ時日ヲ經ルニ從ヒ酸化サレテ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第ニ減ズルヲ以テ余ノ検査當時ノ現狀トソノ結果ニ依レバ

普通ノ飯茶碗ニ普通ニ盛ル時ハソノ麥飯(第一號證)ノ量ハ約一五〇〇〇瓦ニシテソノ内ニ含有スル有毒燐ノ量ハ約〇〇〇一五五ナリ然レ共多ク盛ル

時ハ飯量約二〇〇〇〇瓦ナレバソノ内ニ有毒燐〇〇〇二六八瓦ヲ含有スル割合ナリ

第二、第三號證(藥品「猫いらず」)ノ検査

上、一般検査

檢第三號證ハ「猫いらず」ト表記シ且猫ト鼠取籠トヲ商標トセル小紙箱内ニ納メタル小罐内ニ入り居リ小罐ニモ紙箱ト同様ノ商標ヲ附シ「醫藥用外毒物」ト記載シアリ罐ヲ開キテソノ内容ヲ窺フニ褐色「くろーむ」様ノ藥品ニシテ開罐ト同時ニ白霧少シク立昇リ燐臭ヲ發シ中性ノ反應ヲ徴シ無味ナリソノ全量約二〇〇〇瓦(罐ト共)アリソノ少許ヲ載物硝子ノ上ニ取り覆蓋硝子ヲ被セ鏡檢スルニ黃色、褐色乃至黑色ノ小塊、無色ノ三角形若クハ多角形ノ植物細胞ヲ見ル

中、化學的検査

本品約三〇〇瓦ヲ取り蒸餾水ヲ加ヘテ細分シ之ヲ以テ檢第一號證ノ通り甲乃至丁ニ至ル毒物ノ検査ヲ施行セリト雖ソノ重複スル記載ハ之ヲ省キ必要ナル點ノミヲ擧ゲム

甲、揮發性毒物ノ検査

みつちえりひ氏法ヲ施行スルニ當リソノ燐光頗ル長時間繼續シソノ他ノ燐存在ノ反應モ亦明ナリキ即燐含有量遙ニ檢第一號證ヨリ多キ事ヲ示セリソノ他毒物ノ存在ヲ徴セズ

乙、苦味質及「あるかり」検査

檢第一號證(乙)ノ部ト同様ニシテ作りシ原液ハ無色透明無味無臭ニシテ一般ノ苦味質、「あるかり」ト「試薬」ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ來サズ即チ乙苦味質及「あるかり」トノ存在ヲ徴セズ

丙、金屬性毒物ノ検査

檢第一號證検査(丙)ノ部ト全ク同様ニ所置シテ有機物ヲ破壊シ濾過シタル後第一、(丙)、(地)ニ相當スルニ硫化水素ヲ通ズル事前ノ如クスルニ黃色細末



狀ノ沈澱少許ヲ生ジ之ヲ濾過スルニ細末ハ濾紙ヲ通過シ濾別頗ル困難ニシテ濾紙上ニ殘存スルモノナシ即チ輕濁液ニ強硝酸ヲ加ヘテ酸化スルニ直ニ透明トナリ後「鹽化バリウム」ヲ加フルニ酸ニ溶解セザル白色ノ沈澱多量ヲ生ズ即チ前記黄色ノ細末ハ硫黃(硫化水素ヨリ來リシ)ナリシ事ヲ知ル

檢第一號證檢査(丙)(天)ニ相當スル殘渣ヲ檢スルニ銀、「バリウム」混合化合物ノ存在スルノ微標ナシ此所ニ「硝石」混合化合物ヲ加ヘテ強熱スルモ融解セザル灰白色ノ殘渣極メテ多量殘存セルヲ以テ之ヲ温水ニ探リ濾過シ濾液ヲ以テ次ノ反應ヲナス

- 一、硝酸銀ヲ加ルニ黄色ノ沈澱ヲ生ジ
  - 二、醋酸々性トナシ硫化水素ヲ加フルニ淡黄色ノ沈澱ヲ生ジ
  - 三、「鹽化バリウム」ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ酸ニ溶解シ
  - 四、「あんもにあ性」トナシ「まぐねしや」混合液ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ
  - 五、硫酸々性トナシ「もりぶでん酸あんもにあ」液ヲ加フルニ黄色ノ沈澱ヲ生ジ「あんもにあ水」ニ溶解ス
- 即チ有機基ノ存在ヲ徵ス
- ソノ他金屬性毒物ノ存在ヲ徵セズ

丁、強酸及「あるかり」ノ檢査

第一、檢第一號證檢査(丁)ノ部ト略同様ノ所置ヲナシ同様ノ結果ヲ示スト雖有機酸或ハ有機基ノ存在ハ頗ル著明ナリ

下、有毒燐ノ定量

本品三・〇五ニ取り水ヲ加ヘテ細解シ第一、檢第一號證檢査(下)ノ部ト同様ニシテ有毒燐定量ヲナス、「焦性燐酸まぐねしや」トシテ〇・〇八八ヲ得之ニ有毒燐ニ換算スレバ〇・〇二四五二トナル

第三、第二號證小皿在中ノ味噌中ノ毒物檢査

上、一般檢査

磁製小皿ハコレヲ八片(大分三個小片五個)ニ碎解シ内ニ味噌様ノモノ少許ト

檢第三號證ノ藥物様ノモノ乾著セリソノ全量七・七〇五ニシテ「るべ」ヲ以テ窺フニ特異ノ所見ナク顯微鏡標本ヲ作りテ檢スルニ數多ノ植物組織或ハ細胞ヲ見略檢第三號證ノ所見ニ同ジ

下、化學的檢査(有毒燐ノ定量)

小皿ノ破片ニ乾著セル味噌様及藥品様ノモノヲ叮嚀ニ蒸留水ヲ以テ洗滌シテ「こるべん」ニ集メ小皿ノ破片ヲ充分ニ乾燥セシメ秤量スルニ七・六〇五トナル即チ檢査物ノ全量ハ一・〇五ノ割合ナリ「こるべん」ニ集メタル水溶液ハ弱酸性ニシテ味噌様ノ臭アリソノ全部ヲ第一、檢第三號證檢査(甲)ノ如ク蒸留スルニ燐光ヲ發ス即チソノ燐液ヲ集メテ同檢査(下)ノ如ク有毒燐ノ定量ヲナスニ「焦性燐酸まぐねしや」トシテ〇・〇二四四三ヲ得テ有毒燐ニ換算スルニ〇・〇六八五トナリ

蒸留後ノ殘渣ハ極メテ少量ニシテ之ヲ以テ苦味質及「あるかり」金屬性毒物強酸及「あるかり」等檢出スル事頗ル困難ナル故之ヲ省略セリ

第四、說 明

前記第一乃至第三檢査ノ結果ニ依レバ檢第一、二、三號證内ニハ孰レモ有毒燐ヲ含有シソノ他ノ毒物ノ存在スル微標ナシ

一般ニ人體ニ對スル毒物ノ致死量ハソノ攝取スルモノ、男女ノ別年齢、身體ノ狀況(病身ナルヲ將タ健康ノ人ナルヲ)毒物攝取ノ方法(飲用スルカ注射スルカ)、胃ノ盈虛、中毒症狀ノ如何、個人ノ特異性等ニ依リ種々變化アリテ一概ニ論ジ難ケレ共有毒燐(黃燐)ヲ大人ガ約〇・〇五乃至〇・一五内外ヲ内用スル時ハ死ニ至ル事アルモノナリ

檢第一號證ノ麥飯ハソノ二・〇〇五(飯茶碗一杯ノ量)中ニ約〇・〇二六八五ノ有毒燐ヲ含有スルヲ以テ、第一檢査(下)該麥飯十八杯(有毒燐〇・〇五ヲ含有ス)ヲ食サバ時トシテ人ヲ死ニ致スモノナリ檢第二號小皿在中ノ味噌ハソノ一・〇五中ニ有毒燐〇・〇〇六七五ヲ含有スルヲ以テソノ八五(二匁)ノ有毒燐〇・〇五五含有)ヲ食用スル時トシテ人ヲ死ニ致スモノナリ

二、砒素劑中毒

金屬砒素自身トシテハ無毒ノモノナレドモ、空氣中ニ於テコハ直ニ酸化シテ亞砒酸トナリ猛毒ヲ有スルニ至ル。亞砒酸(或ハ砒石)ハ無臭無味白色ノ結晶或ハ粉末ニシテ、冷水中ニハ溶解シ難ク温水或ハあるかり性ノ水ニハ溶解ス、亞砒酸加里、亞砒酸なとりゆむモ亦有毒ナリ、亞砒酸ハ古來毒物ノ王者ト稱セラレソガ無臭無味ナルヲ利用シテ、他殺的中毒ニハ最も多く用ヒラル。予ハ亞砒酸ヲ以テ一家五人ヲ殺殺セル例、及自己ノ妻ヲ保險ニ加入セシメ、其妻ガ風邪ニ罹レル際、醫藥ニ亞砒酸ヲ混ジテ毒殺シ保險金ヲ詐取シ、同様ニシテ保險金詐取ヲ目的トシ第二、第三ノ妻ヲ毒殺シ、第四ノ妻ニ至リテ發覺シ、遂ニ予ノ化學的檢査ニ依リテ、ソガ亞砒酸中毒ナルコト明トナリ、且第二、第三等ノ妻ノ火葬遺骨ヨリモ砒素ヲ發見セル例ニ遭遇セリ。亞砒酸ハ各種々工業ニ用ヒラルル故職業上ノ中毒ヲ來シ、或ハ自殺ノ目的ニ使用セララルコト多シ。

其他砒素化合物トシテハちめちめあるせん、かこぢる酸、あとときしる、さるばるさん及其異名同體等ハ醫藥ニ供セラルル故往々中毒ヲ來シ、鶏冠石、石黃等ハ純粹ナラバ毒性少キモ、不純物ヲ混合スル時ハ一部ハ亞砒酸ニ變ジ、一部ハ砒酸トナリ、毒性ヲ發揮ス、次ニシ

檢第三號ノ藥品ハ第二檢査(下)ニ依レバソノ三・五〇中有毒燐〇・〇二四五五ヲ含有スルヲ以テ一時ニソノ六・〇五以上(有毒燐〇・〇五以上)ヲ内用スル時ハ時トシテ人ヲ死ニ致スモノナリ

茲ニ一言附加スベキハ有毒燐ハ酸化シ易キモノニシテ空氣ニ觸レ或ハ他ノ有機物ト混在スル時ハ徐々ニ變化シテ亞砒酸或ハ有機酸モシクハソノ鹽トナリ有毒燐トシテ證明スル事困難トナルヲ以テ余ノ證明定量セル有毒燐ノ量ヲ以テ直ニ中毒時含有セル量ト見做ス事能ハズ即チ尙注意スベキハ飯籠中ノ麥飯ナリコハ時日經過ト共ニ乾燥シテ水分ヲ失フヲ以テ余ノ檢査時ノ容量及重量ト一定時日前ノソレトハ多少ノ差アル事ヲ考ヘザルベカラズ換言スレバ檢査物ハ一方水分ヲ失フヲ以テソノ濃度ヲ増シ他方ニ酸化サル、ニ依リ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第ニ減ズコトニ要約ヲ願慮スル時ハ一定時日前ノ有毒燐含有量ヲ確定スル事ハ頗ル困難乃至不可能ナリ

第五、鑑 定

前記檢査ノ結果及說明ニヨリ鑑定スル事左ノ如シ

- 一、檢第一號證(飯籠中ノ麥飯)同第二號證(小皿在中ノ味噌)同第三號證(藥品「猫いらす」)中ニハ孰レモ有毒燐(黃燐)ヲ含有セリ
- 二、檢第三號證(藥品)六〇五(一匁六分)内外ヲ服用シ或ハ檢第一號證ノ麥飯普通飯茶碗ニ約十八杯(三六〇〇・〇五)内外ヲ食用ニ供シ若クハ第二號小皿在中味噌約八・〇五(二匁)内外ヲ食スル時トシテ人ヲ死ニ致スニ足ルモノナリ

追記 證據品ノ殘餘ハ密封シテ之ヲ係判事ニ返却セリ

此鑑定ハ大正〇年十月十五日著手

同 年十一月八日結了

大正〇年十一月八日

宿 所

鑑定人 醫師 小南又一郎

砒素劑中毒



えーる氏縁及ふくしんハ又砒素含有ノ染色劑ニシテ、之ヲ以テ敷物、玩具、食用品等ヲ染色シ、中毒ヲ來スコトアリ。

此等ノ砒素化合物中最モ多ク中毒例トシテ顯出スルハ亞砒酸中毒ニシテ、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ヒ誤用、醫藥ノ錯誤等ニヨリ中毒ヲ來ス、即チ亞砒酸ハ法醫學上最モ大切ナル毒物ナリ。

**作用**、砒素劑ハ接觸セル局部ヲ刺戟シ且吸收サレテ血球ヲ犯シ、實質性臟器ニ小出血ヲ來シ粘膜炎ヲ發シ、強キ新陳代謝障礙ヲ來スモノナリ。其他内臟神經及心臟ノ麻痺ヲ伴ヒ、外皮及中樞神經ノ作用ヲ害シ、終ニハ諸種ノ腺ニ排出セラレテ亦ソノ排出口ヲ犯スコトアリ。ソノ代表的ノモノハ亞砒酸ナレバ、予ハ以下主トシテ亞砒酸中毒ニ就テ述ベン。

**中毒症狀**、亞砒酸ノ大量ヲ服用セル時ハ、通常半乃至一時間ノ後ニ至リ始メテ中毒症狀ヲ現ハシ、往々三乃至十時間以後ニ中毒ヲ來スコトアリ。即チ胃腸盈虛ノ如何ニ依リテ差アリ。

ソノ急性中毒ヲ分チテ二種トナス、一ハ急性胃腸炎ノ症狀ヲ以テ來リ、他ハ重ニ神經症狀ヲ以テ終始ス。即前者ニ於テハ服毒後咽頭食道等ニ熱灼苛辣ノ感アリ、次デ劇シク嘔吐シ吐物ハ無色粘液様ニシテソノ末期ニハ血液ヲ混ズ。砒酸ヲ含有セル色素中毒ノ際ニハ吐

數、不正トナリ、舌ハ乾燥シ、紅色トナリ、蛋白尿、血尿等實質性腎臟炎ノ徵ヲ來シ、不眠呼吸困難アリ、皮膚ニハ發病後第三乃至第五日ニ紫斑、丘疹、蕁麻疹、黃疸等ヲ生ジ、遂ニ三乃至十日ニシテ斃ル。

**慢性中毒**、少量ノ砒素劑ヲ毎日少シツツ吸入、服用乃至外用スルモノニハ、胃腸かたゝる、肋膜炎、腹膜炎、知覺異常、麻痺、震顫、痙攣、神經炎、帶狀匐行疹等ヲ來シ、皮膚ニハ亞砒酸黒皮症乃至角化症等ヲ見、精神抑鬱シ、不眠、榮養不良ヲ來シ、遂ニ衰弱ニ依リテ死スルニ至ル。慢性中毒時ニハ毛髮ニスラモ砒素ヲ證明シ得ルヲ以テ、毛髮ヨリ砒素ヲ證明スルヲ得バ急性中毒ニアラズシテ、寧ロ慢性中毒ナラント推定シ得ル場合アリ。

**剖檢所見**、急性中毒ニテ死セルモノハ、嘔吐下痢ノ爲メニ水分ヲ失ヒ眼窩没シ、皮膚弾力ナク、藍紫色ヲ呈シ、腸間膜及胃腸粘膜炎ノ血管ハ暗赤色濃厚ノ血液ヲ以テ滿サレ、胃ノ内面ニハ粘稠ニシテ膠様若クハ血液様ノ粘液ヲ附着シ、噴門及幽門部ノ粘膜炎ハ濁腫脹シ、一部ハ充血シ、一部ニハ溢血點アリ、此部ニ往々砒素劑ノ顆粒ヲ觸知スルコトアリ。ソノ内容ハ米泔汁様ナリ、慢性中毒者ニテハ胃腸、肝臟及心筋等ニ脂肪變性ヲ來ス、神經性中毒症狀ニテ急死セ

物中ニソレ等ノ毒物ヲ發見スルコトアリ、胃及腹部ニハ刺痛ヲ覺エ、多量ノ米泔汁様便ヲ瀉出シ、便中ニハ剝脫セル上皮ト多量ノ粘液ヲ混ズ、其他裏急後重、頻渴、頭痛、薦骨部ノ拘攣、腓腸筋ノ攣縮ヲ訴へ、尿ハ其量ヲ減ジ蛋白及血液ヲ含有シ、時々尿閉ヲ來シ、四肢厥冷シ、顔面及手足蒼白トナリ、次デ紫藍色ニ變ジ、脈搏小、呼吸促進、聲音嘶啞、胸内苦悶等アリ、意識ハ明瞭ナルモ終ニ虚脱ニ陥リ、五乃至二、三十時間ニシテ死ス。恰モ虎列刺病ノ症狀ニ彷彿タリ。故ニこれら流行ノ際ニ往々砒素劑ニテ中毒セシメ其罪ヲ掩ハント企ツルモノアリ。此等ノ鑑別ニハ細菌學的ニ一方これら菌ノ有無ヲ檢シ、他方ニ化學的ニ毒物ノ證明ヲナシテソノ何レナルヤヲ決定スベシ。

時トシテ前記胃腸炎ノ症狀ハ輕ク反テ神經症狀ノ劇烈ナルモノアリ、此型ニ在ツテハ初メ頭痛眩暈ヲ訴へ、四肢ニ拘攣ヲ發シ瞳孔散大シ、次デ失神、譫語、麻痺症狀ヲ來シ、屢痙攣ヲ起シ、遂ニ全身麻痺ニ依リ、數時間乃至十時間ニシテ死ス、之ヲ特ニ腦脊髓性砒素劑中毒ト云フ。

砒素劑ノ吸收緩徐ニシテ經過數日ニ互ルモノニ在テハ、劇甚ノ嘔吐ハ一、二日ノ後ニ輕快スルモ、皮膚ニ熱灼ヲ覺エ、脈搏細小、頻ルモノハ、中毒後ニ於ケル生存時間ニ比例シテ、胃腸ノ症狀明トナレドモ、最モ急ニ死亡セルモノニテハ何等ノ胃腸症狀ヲ發見セザルコトアリ。

砒素劑中毒死者ハ多量ニ水分ヲ失ヒ居リ、又砒素劑ハ防腐ノ效アルニヨリ、ソノ死體ガ往々容易ニ木乃伊トナルコトアリ。  
**致死量**、亞砒酸ノ中毒量ハ〇・〇一乃至〇・〇五瓦ニシテ、致死量ハ〇・一乃至〇・一五瓦ナリト云フ、然レドモ人々ニヨリテ多少ノ差アリ、砒素劑ヲ美容劑トシテ用ヒ、或ハ之ヲ食食スルモノニハ其數瓦ヲ用ユルモ差支ナシト云フ。

**化學的證明**、砒素劑ハ最モ多ク他殺ニ用ヒラルルモノニシテ、而モ其證明最モ困難ナリ、何トナレバ少量ノ砒素ハ地上何レノ處ニモ散在シ、或ハ中毒死ナラザル死體ノ外部ニアル飾花等ヨリ砒素ガ體内ニ滲入シ、或ハ埋葬地ノ土壤ニ含砒ノ處アリ、死後死體内ニ其砒素ヲ滲入セシムルコトアリ。故ニ砒素劑中毒ノ疑アル死體ヲ發掘セル場合ニ、此疑ヲ明白ナラシメン爲メニハ、周圍ニアル物品及土壤等ヲモ採集シ來ル必要アリ、ソノ他砒素劑ハ醫療ニ甚ダ屢々使用サレ、一度使用サレタルモノハ、數ヶ月間肝臟等ニ蓄藏セララルコトアリ、或ハ吾人使用ノ化學的藥品ハ一定量ヲ超過スレバ、常ニ證明



スルニ足ル砒素ヲ含有シ、最モ含砒量多キハ鹽酸及硫酸等ナレバ吾人ハ常ニ無砒ノ藥品ヲ使用スルコトニ努力セザルベカラズ。此等ノ諸方面ニ充分ナル注意ヲナシ、而モ比較的少量ノ砒素ヲ發見シ、中毒症狀、解毒劑所見ヲモ合セ考ヘテ、始メテ砒素中毒ナル診定ヲ下スベク、微量ノ砒素ヲ發見シタル場合ニハ、十分ナル考慮ト研究ノ上ナラデハソノ斷定ヲナサザルヲヨシトス。

砒素劑ヲ臟器等ヨリ析出スルニハふれぜにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ、濾過シテ得タル透明濾液ニ微温ヲ加ヘツツ、硫化水素瓦斯ヲ通ジ、暫時靜置後、得タル黄色沈澱ヲ濾別シ、此沈澱ヲ温硫化あんもんニテ處置スレバ、砒素化合物ハ皆溶解ス、コノ溶液ヲ水浴上ニテ乾燥シ二、三回發煙硝酸ニテ酸化シ、過剰ノ硝酸ヲ去リ、なとろん滴汁ニテ濕シ、而シテ後まいる氏ノ溶解物ヲ作り、之ヲ水ニ取り無砒硫酸ヲ加ヘテ煮沸シ、而シテ後まるしゆ氏裝置ニ導キ砒素鏡ヲ作りテ檢スベシ。砒素鏡ニ類似セルモノハ、硫黃鏡及あんちもん鏡ナレバ注意シテ鑑別スベシ。

尙此ノ如ク砒素鏡ニ依リテ、砒素劑ノ存在ヲ知りタレバトテ、直ニソガ如何ナル化合物トシテ使用セラレンシカハ不明ナリ、此際毒物材料ガ尙殘存セル場合ニハ鏡檢シテ結晶形等ヲ研究スベシ、予ハ粉

類ニ混ジタル亞砒酸結晶竝ニ藥瓶ノ器底ニ沈澱シ居リシ沈澱ヲ檢シテ、亞砒酸ニ特有ナル結晶ヲ發見シ、ソガ亞砒酸中毒ナルコトヲ確定シタルコトアリ。ソノ他砒素劑ヲ絲狀菌ヲ應用シテ檢出セント企テタルモノアリト雖、實際ニハ用ユルニ足ラズ。

第五十一例 死體解剖檢査記録

東京市神田區〇〇〇二丁目十五番地〇〇〇〇方

は

十九歳

右死因鑑定ノ爲メ明治〇十年十二月十八日午後二時ヨリ東京帝國大學醫科大學法醫學教室解剖場ニ於テ〇〇警察署勤務警視廳警部〇〇〇立會ノ上石川哲郎執刀宮永學而補助之ヲ解剖スルニソノ所見左ノ如シ

其一 外表檢査

- 一、男屍身長一五九釐、體重四八七〇〇〇〇五釐、體態佳良、前面ノ皮膚ハ蒼白、背面ニ於テハ暗紫色ノ死斑一般ニ存在ス死後強直ハ凡テノ關節ニ於テ存在ス
- 二、頭部ニハ〇五釐ノ黒髮ヲ密生シ少許ノ白髮ヲ混ズ別ニ損傷異常ヲ認メズ
- 三、顔面兩眼半閉シ眼瞼及眼球結膜淡紫色、角膜透明、中等度ニ散大セル瞳孔ヲ透見シ得、眼球ハ少シク柔軟ナリ鼻翼ヲ壓スルニ異液ノ漏出ナシ鼻ノ直下ニハ鼻翼ノ横徑ニ一致シ表皮ノ刺離轉シテ附着セルヲ見ル口ハ半開キ口唇ニハ乾固セル暗褐色ノ血液少許ヲ附着ス損傷ヲ認メズ口腔内ノ粘膜ハ蒼白色舌端ハ齒列ノ後ニ在リ口腔内異物ヲ存セズ左右ノ耳翼及外聽道内ニハ異物ナシ
- 四、頸部及項部ニ損傷異常ナシ
- 五、前胸部ニハ約十個ノ皮下注射ノ痕跡ヲ存ス心窩部ニ蠶豆大ノ褐色皮剝脫

- 一個ヲ存ス腹部及背部ニ異常ナシ
- 六、左右ノ上肢及下肢ニ損傷異常ヲ認メズ
- 七、外陰部陰阜ニハ黒色ノ陰毛密生シ陰莖陰囊等ニ異常ヲ認メズ肛門ハ略開シ周圍ハ黒褐色ノ糞便ヲ以テ汚染セラレ

第二 内景檢査

甲、胸腔開檢

- 八、胸腹部ノ正中ヲ式ノ如ク縱斷開檢スルニ皮下脂肪組織乏シク橙黄色ヲ呈ス筋肉ノ色ハ赤褐色稍々乾燥ス大網膜ハ腸管ノ全面ヲ掩ヒ脂肪含量稍乏シク血管充盈シ全體ニ紫色ヲ帶ブ腹腔内臟器ノ位置形狀等ニ異常ヲ認メズ腹腔内ニハ上部ニ赤色液骨盤腔内ニ帯赤橙黄色液ヲ存シ其量合シテ約二〇〇〇〇ト算ス(檢査材料トシテ清淨場第一號ニ採取)
- 横隔膜ノ高サ右ハ第五肋骨左ハ第五肋間ニ在リ

其一 胸腔臟器

- 九、肺肋膜ニハ癒著ナク胸腔内ニハ赤褐色透明液少許ヲ含有ス
- 十、心嚢内ニハ橙黄色透明液約三〇〇ト算ス(檢査材料トシテ清淨場第二號ニ採取)内面白朥様滑澤溢血點等ヲ認メズ
- 十一、心臟ハ該屍手拳ノ約一倍中大ニシテ心外膜下ノ血管充盈中等度右心内ニハ濃厚ニシテ「チヨコレート」様色ヲ呈スル大部分流動性一部分豚脂様凝塊ヲ有セル血液約一八〇〇ト算ス(檢査材料トシテ第二號ニ合併)左心内ニハ同様血液約二〇〇ト算ス(同上)心臟別出ノ際周圍ノ大血管ヨリ同様血液約一五〇ト算ス(同上)右房室間孔ニハ四指通ジ左房室間孔ハ二指ヲ通ズ大動脈瓣ハ灌水ニ依ツテ能ク閉鎖スルモ肺動脈瓣ハ閉鎖完全ナラズ心筋ノ色ハ淡赤褐色或褐色ノ調ヲ帶ブ心内膜ハ白色朥様滑澤肉柱ノ部分ニ於テ多數ノ心内膜下溢血點存在スルヲ認ム僧帽瓣三尖瓣及半月瓣膜異常ヲ認メズ大動脈根部ノ内膜ニ於テハ其形不規則ナル硬變ヲ呈スルヲ認ム

- 十二、前縱隔洞ノ結締織間ニ約雀卵大ノ組織間出血ノ存在スルヲ認ム
- 十三、右肺表面ノ色ハ上葉ノ前面及中葉ノ前面ハ蒼白色、氣腫狀ヲ呈スル外一般ニ帶青紫色ナリ肺肋膜下ニハ蚤刺大ノ溢血點多數存在スルヲ認メ上、中、下ノ三葉ノ根部ニ於テ稍廣汎ナル肋膜下溢血點アリ之ニ觸ル、ニ硬度ハ一般ニ柔軟ニシテ著シク嚙嚙ヲ感ズ空氣ノ含量多シ斷面ノ色ハ表面ノ紫色部ニ相當スル部ハ赤褐色ヲ呈シ、血量稍々多ク、之ヲ壓スルニ少許ノ泡沫ヲ混ゼル赤色液中中等量ヲ洩出ス、表面ノ蒼白色部ニ相當セル部ハ帶褐色、蒼白色之ヲ壓スルニ白色ノ泡沫ヲ混ゼル液中中等度ヲ洩ラス其外硬結等ノ異常ヲ認メズ、氣管枝ノ内面ハ汚穢褐色ノ泡沫ヲ混ゼル粘液ヲ以テ蔽ハル粘膜ノ色ハ淡紅色異物ナシ
- 十四、左肺、表面ノ色及性状全ク右ト同ジク肋膜下ノ溢血點ハ多數ニ存在ス、斷面ノ性状全ク右ニ同ジ、氣管枝ハ内容及粘膜ノ性状亦右ト相同ジ
- 十五、頸部器官、舌ニ異常ヲ認メズ、咽頭及食道ノ粘膜ハ帶黃蒼白色ヲ呈スル外損傷等ノ異常ナシ、喉頭ハ泡沫ヲ混ゼル粘液ヲ以テ蔽ハル、粘膜ハ一般ニ上部ハ紅色、下部ハ蒼白ヲ呈ス、聲帶ノ縁ニ沿フテ赤褐色ヲ呈セルヲ認ム、舌骨ニハ體部ヨリ左右ニ向ツテ各々一個ノ贅骨ヲ生ジ移動ス、此贅骨ノ右側ノモノハ三・五釐長、左側ノモノハ、一五釐長、太サ各々〇・三釐ナリ、其外舌骨及喉頭ノ諸軟骨ニ損傷等ナシ

其二 腹腔臟器

- 十六、脾臟大サ九・〇―一五・〇―二・〇釐、其周縁ニ於テ三個ノ截痕ヲ有ス、表面ハ帶褐色ヲ呈シ被膜ハ緊張ス、之ヲ觸ル、ニ弾力性硬固斷面ノ色帶紫褐色、血液ノ含量中等度、脾胞脾材ノ別、明ナリ
- 十七、右腎、大サ一・〇―一・七・〇―一・三・五釐、表面ノ色ハ帶黃淡褐色、之ヲ觸ル、ニ弾力性硬固莖膜ハ稍々剝離シ難ク強ヒテ之ヲ剝離スレバ所々ニ實質缺損ヲ伴フ、斷面ノ色ハ皮質部ハ帶褐灰白色潤澤シ著シク肥厚セルヲ認ム、血量中等度ナリ



十八、左腎、大サ、一〇・一六五—三・〇、表面ノ色硬度性狀共ニ右ニ同ジク前面ノ殆ド中央部ニ於テ小豆大ノ赤褐色ヲ呈セル莢膜下ノ出血存在セルヲ認ム、断面ノ性狀及色並ニ莢膜ノ關係等皆右ニ等シ

十九、膀胱ハ強ク收縮シ殆ド空虚、粘膜ノ色ハ淡紅色ヲ呈シ異常ヲ認メズ、二十、胃、其外面ニ於テハ小彎ニ沿フテ漿膜下出血點ノ存在セルヲ認ム、内容ハ汚穢帶褐色ノ液約三〇・〇〇トシテ(檢査材料トシテ清淨場第三號ニ採取)、中ニ蠅蟲一條ヲ存ス、粘膜ハ其前壁ニ於テ體部及噴門ニ近キ部分ハ一般ニ赤褐色ヲ呈シ大彎ノ上部ニ沿フテハ赤褐色ヲ呈シ、其他ノ部分ハ汚穢帶灰白色ヲ呈ス、粘膜ハ一般ニ肥厚シ之ヲ觸ル、ニ粗漏ナリ、前記赤褐色ノ變色部ヲ精檢スルニ皆粘膜下ノ出血及溢血點ノ聚集セルモノナルヲ認ム又小彎ノ中央ヨリ一指横徑後壁ノ方ニ偏シテ小指頭大ノ部分ノ粘膜ハ粗糲面ヲ呈シ其中ニ大サ麻實大ノ凝血一個ヲ附著セルヲ認ム

二十一、十二指腸ノ内容ハ胃ノ内容ト同ジク其量約一五・〇トシテ(檢査材料トシテ第三號ニ合併)ナリ粘膜ノ色ハ同ジク汚穢暗褐色ヲ呈シ粘膜稍々肥厚シ水分ニ富ムヲ認ム、膽道ハ能ク通ズ

二十二、小腸上部ノ内容ハ汚穢暗綠色ノ粘稠液下部ハ赤褐色ノ粘稠液合セテ約一〇・〇トシテ(檢査材料トシテ清淨場第四號ニ採取)中ニ蠅蟲一條ヲ存ス粘膜ハ汚穢暗褐色ヲ呈シ皺襞ノ頂點ハ赤褐色ヲ呈シ、粘膜ハ一般ニ肥厚セルヲ認ム下部ノ粘膜ハ赤褐色ヲ呈ス集腺ハ著明ナリ

二十三、大腸ハ赤褐色ノ粘稠ナル液約二〇・〇トシテ(檢査材料トシテ第四號ニ合併)、粘膜ノ色ハ赤褐色ヲ呈シ著シク肥厚皺襞ノ頂點ニ於テ赤褐色ニ變色セルヲ認ム、孤腺ハ著明ナリ

小腸及大腸ノ内容ヲ水ヲ以テ薄メ之ヲ濾過シタル液ニ就キ光像鏡ヲ以テ檢スルニ酸化「へもくろびん」ノ二條ノ吸收線ヲ認ム

二十四、脾臓、其周圍ノ結締織間ニハ溢血點ノ存在セルヲ認ム、脾臓ノ長サ、一七・〇、幅四、五、種一般ニ腫大シ實質稍々黃色ノ調ヲ帶ブ

二十五、肝臓、大サ三〇・〇—一六・〇—一〇・〇、表面ノ色一般ニ著シク帶褐色ヲ呈シ、硬度ハ硬ク、断面色ハ著シク黃色ヲ呈シ血量稍々少シ、小葉ノ別ハ明カニシテ其中心ニ於テ黃色ノ殊ニ著シキヲ認ム、膽囊ハ帶黃褐色ノ粘稠ナル胆汁ヲ以テ充タザル

二十六、胸部及腹部大動脈内ニハ一部暗黑色ノ流動性血液ヲ含ミ内膜ニハ異常ヲ認メズ

乙、頭腔開檢

二十七、頭皮ヲ式ノ如ク横斷開檢スルニ軟部組織ハ一般ニ淡紅色ヲ呈シ、水分ニ乏シキヲ認ム

二十八、頭蓋骨鋸斷ノ際ニハ殆ンド血液ヲ漏ラサズ、頭蓋腔内ニハ流動性暗褐色血液少許ヲ含ム、骨ノ厚サ最厚部一・五、最薄部〇・二、板障ノ血量中等、骨折等ナシ底面ノ骨質ニモ相傷異常ナシ

二十九、硬腦膜ハ白色膠樣滑澤、血管ノ充盈中等度、軟腦膜血管ノ充盈著シク且ツ濕潤セルモ別ニ異常ヲ認メズ基底ノ軟腦膜亦然リ

わろる氏橋ト小腦トノ間ノ右側ニ於テ銀杏實大ノ透明ナル漿液ヲ含ムトコロノ軟腦膜下囊腫一個存在ス、腦底ノ脈管ニハ硬變等ノ異常ニ認メズ

大腦實體、腦室内、大腦神經節、小腦大脚、小脚、わろる氏脚、延髓等ニハ別ニ記スベキ異常ヲ認メズ

右ニテ解剖檢査了期ニ午後四時二十分ナリ

第三 化學的檢査

明治〇十年十二月二十五日〇〇警部ノ交付セル灰白色ノ粉末極少許トシテニ前記屍體ヨリ採取セル第一號ヨリ第四號ニ至ル檢査材料ニ就キ砒素定性試驗ヲ施行シタルニ其成績左ノ如シ

第一、飲用ノ疑アリトシテ交付セラレタル粉末ヨリ一帽針頭大量ヲ取リテ細小ナル試験管内ニ入レ其上ニ新鮮ナル炭末極少量ヲ加ヘテ之ヲ熱シタルニ著明ナル砒素鏡ヲ作成ス

三、あんちもん中毒

あんちもん化合物中毒最モ多ク中毒ヲ來スモノハ吐酒石ニシテ、四硫化あんちもん、シリつべ氏鹽酸等モ亦往々中毒スルコトアリ、多クハ醫療上ノ錯誤或ハ誤用等ニヨリ本劑ノ中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ユルコトハ少シ、あにりん色素中ニあんちもん含有ノモノアリ注意スベシ。

作用ハ砒素劑ニ酷似ス、只ソノ作用ハ砒素劑ニ比シ弱シ。

中毒症狀、急性中毒ノ症狀トシテハ惡心、金屬味、垂涎、甚シキ嘔吐及胃腸炎ヲ來シ、これら様ノ症狀ヲ見ル、次デ皮膚厥冷、脈搏細小、頭痛、眩暈、人事不省、排腸筋痙攣、全身ノ痙攣來リ虚脱ニ陥ル。

職業等ニ起因スル慢性中毒トシテハ、胃腸かたゝる、頭痛、眩暈、聲音嘶啞、筋力衰弱、皮膚厥冷、蛋白尿、甚シキ下痢等來リ、虚脱ニ陥ルコトアリ。

剖檢所見、胃腸炎、腎、肝、心、血筋壁ニ於ケル脂肪變性等ノ所見ハ、砒素中毒ノ場合ニ於ケル所見ニ酷似ス。

致死量モ亦一定セズト雖モ、一般ニ砒素劑ニ比シ少シク多量ナリ。

第二、檢査材料第一號ヨリ第四號ニ至ル者ニ就キのいまん氏有機質破壞法ニヨリテ此ヲ灰化シ次デ適當ニ處置シテまるしゆ氏法ニヨリテ砒素定性試験ヲ施行シタルニ其成績皆陰性ナリキ

右ニテ化學的檢査終了時ニ明治〇十年〇月〇十日ナリ

說明

右解剖所見及ビ化學的檢査ノ結果ニ據レバ本屍ノ死斑ハ著シク暗紫色ヲ呈シ(記錄第一項)、皮下組織並ニ筋肉ハ乾燥シテ水分ニ乏シク(記錄第一項及第二十七項)、血液ハ濃厚ニシテ「チヨコレート」様ヲ呈シ(記錄第十一項及第二十八項)、肝臓、心臓、腎臓ハ黃色ヲ呈シ著明ナル脂肪變性ヲ起シ(記錄第十一項第十七項、第十八項及第二十五項)、又胃ノ粘液ハ赤褐色ヲ呈シ潰瘍等ヲ存在ス(記錄第二十項)ルコト等ハ全ク砒素中毒ニ於ケル屍體ノ解剖的所見ナリトス

胃腸等ノ内容ニ就キ砒素ノ存在ヲ證明スルコト能ハザリシモ此ハ飲用後時日ヲ經過シタル際ニ觀察セラルル事實ニシテ敢テ怪ムニ足ラザルナリ

又飲用ノ疑アリタル粉末ハ著シキ砒素ノ反應ヲ呈スルヲ認ム

故ニ本屍死因ハ亞砒酸中毒トナスコトヲ至當ト信ズ

鑑定

右說明ノ理由ニ據リ鑑定スルコト左ノ如シ

一、本屍ノ死因ハ亞砒酸中毒ニアリ

此鑑定日數ハ明治〇十年十二月十八日ヨリ同〇十年〇〇十日ニ至ル〇〇〇日間トス

明治〇十年〇月〇日

東京地方裁判所醫務嘱託  
鑑定人 石川 哲 郎 印  
東京地方裁判所醫務嘱託  
鑑定人 宮 永 學 而 印  
あすちもん及ビ鉛中毒



化學的證明 砒素劑ニ於ケル場合ト同ジ方法ヲ取レドモ、まいえ  
る氏融解物ヲ水ニ溶解セル際、砒素劑ハ水ニ溶解スルモ、あんちも  
ん劑ハ溶解セズ、又まるしゆ氏法ニ依リ得タル砒素鏡ト、あんちも  
ん鏡トヲ鑑別センニハ、前者ハ次亞鹽素酸なとりゆむニ溶解スル  
モ、あんちもん鏡ハ否ラザルヲ以テ、容易ニソノ何レナルカヲ知ル  
コトヲ得ルモノナリ。

#### 四、鉛中毒

鉛化合物中、鉛糖ハ腐蝕性ヲ有ス、ソノ他ノ酸化鉛、炭酸鉛等ハ接  
觸局部ヲ犯スコトナシト雖、吸收サレテ所謂慢性鉛中毒ヲ發ス。諸  
種ノ顔料、白粉、べんき等ニハ鉛化合物ヲ主成分トスルモノアレバ、  
往々職業上、食用上ノ中毒ヲ來スコトアリ、鉛糖ハ甘味ヲ有スルヲ  
以テ、往々錯誤ニヨレル中毒アリト雖モ、鉛化合物ヲ以テ自殺或ハ  
他殺ヲ企ツルモノハ非常ニ少シ。

作用、大量ヲ内用スレバ口腔、胃腸等ノ粘膜ヲ犯シ、ソノ外觀恰  
モ糝シタルガ如ク見ユト雖モ、少量ニテハ之ヲ見ズ、多クハ吸收サ  
レテ新陳代謝障礙ヲ來シ、中樞神經麻痺、榮養不良、胃腸ノ強キ痙  
攣、筋肉羸瘦等アリテ、慢性ニ經過スルヲ常トス鉛化合物ハ永ク臟  
器中ニ蓄積セラレ、徐々ニ腸、腺、腎臟、皮膚唾液、乳汁等ヨリ排

出サル。

中毒症狀トシテハ急性中毒ノ場合ニハ垂涎、一種ノ金屬味、齒牙  
ニ於ケル鉛條、胃痙攣、腹痛、便秘、發汗、蟻走ノ感等アリ。脈搏  
ハ硬ニシテ遲徐トナリ、知覺異常、四肢ノ麻痺、人事不省等來ル。  
慢性中毒症狀トシテハ一般ニ氣分勝レズ、腹痛、關節痛、知覺異常、  
視力減弱、譫語、搐搦、攣骨神經麻痺等ヲ見ル。

剖檢所見、急性中毒ノ場合ニハ特有ナル剖檢所見ナキコト多シ。  
慢性中毒死ノ場合ニハ、上肢ニ於ケル伸筋ノ羸瘦、副腎ノ硬變、  
肝臟實質ノ腫脹等ヲ見ル。

致死量、鉛醋ニテハ二〇・〇瓦以上、鉛糖ニテハ五〇・〇瓦以上ナ  
リ。

化學的證明、可檢物ニふれせにゆす、ばぼー氏法ヲ施シ、高溫ニテ  
濾過スレバ、濾液ノ冷ユルニ從ツテ鹽化鉛ヲ析出ス、此濾液ニ硫化  
水素瓦斯ヲ加ヘバ、直ニ黑色沈澱ヲ、硫酸ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ、  
くろーむ酸カリヲ加ヘテ、黃色ノ沈澱ヲ生ズレバ鉛化合物ノ存在ヲ微  
ス。鉛化合物ハ往々食器等ヨリ、微量ツツ人體内ニ攝取サレ居ルコ  
トアレバ、化學的證明ノ注意ヲ要ス。

#### 五、麥角中毒

毒ノ際ハ、蟻走ノ感ニ次デ脈搏遲徐トナリ、血壓昂進シ往々ニシテ  
胎兒ヲ母體ヨリ離脱セシメ、ソノ他癲癇様發作、痴鈍、たべす様  
歩行障礙、前膊及下腿ニ於ケル筋萎縮ヲ來ス。

剖檢所見、腸内血ニ於ケルちふす様變化、及出血並ニ腸間膜  
及ソノ他諸所ノ臟器ニ於ケル出血ヲ見、壞疽部ハ乾燥セルニ拘ラ  
ズ、血管内ニ血液充盈シ、筋或ハ神經組織ハ退行變性ニ陥ルヲ  
見ル。

致死量、麥角ノ產地及收穫ノ時期等ニヨリ致死量ハ一定セズ。

化學的證明、麥角ハソノ特有ナル形態ニ依リ容易ニ鑑別スルコト  
ヲ得ルヲ以テ、麥角中毒ノ疑アル時ハ、注意シテ有形組織塊ノ存否  
ヲ檢シ、モシアラバ之ヲ植物學的ニ研究スベシ。

化學的ニハ可檢物ヲ濃あるこほるヲ以テ四十五度ニテ一晝夜浸出  
シ、浸出液ヲ減壓ノ下ニ濃縮シ、之ヲあるこほる含有ノ酸性ノ水ニ  
取り、えーてるヲ以テ振盪スレバ、麥角存在ノ場合ハえーてるハ赤  
色ヲ呈シ、或ハ六十%ノくろらるひどらーと水溶液ニ浸出スレバ水  
溶液ハ同ジク赤色トナル、此液ヲ白色濾紙ニ附シテ乾燥セシメ、之  
ヲあるこほるあんもにや水ニテ濕セバ、汚紫色トナル、尙此赤色ヲ  
呈スル色素ハ一定ノ吸收線ヲ有ス。

麥角トハ麥實ニ一種ノ絲狀菌(Claviceps purpurea)ノ寄生セルモ  
ノニシテ、此中ニハ無毒ナル色素及脂肪ノ外ニ、有毒ナルすばちえ  
りん酸及こるぬちんヲ含有シ、前者ニヨリテ所謂壞疽性麥角中毒ヲ  
來シ、後者ニヨリテ痙攣性麥角中毒ヲ惹起シ、兩者相合シテ亦蟻走  
感症ヲ起スコトアリ、麥角ハ往々麵麩中ニ混入シテ食用中毒ヲ來  
シ、或ハ墮胎ノ目的ニ使用シテ中毒ニ陥ルコトアリ、自殺或ハ他殺  
ノ目的ニ麥角ヲ使用スルコトハ甚ダ稀ナリ。麥角ハ收穫後一、二月  
間ハ最も毒性強キヲ以テ、食用中毒ハ多クハ此期間ニ來ル。

作用、すばちえりん酸ハ接觸セル局部、並ニ吸收後身體ノ末端ニ  
所謂麥角壞疽ヲ來ス、之レ其部ニ於ケル細血管ガ痙攣ニ陥ルニ由ル、  
こるぬちんハ最初中樞神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、時トシ  
テ神經或ハ筋纖維ニ退行變性ヲ伴フコトアリ、是等ノ副作用トシテ  
子宮ヲ收縮セシムルノ力ヲ有ス。

症狀 壞疽或ハ痙攣ハ麥角中毒ノ際各別ニ來リ、或ハ相伴フテ顯  
ハルル場合アリ、時トシテ壞疽性ノモノヨリ痙攣性ニ移行スルコト  
アリ、兩者共最初ハ四肢端ニ蟻走ノ感及吐瀉アリ、次デソノ末端感  
覺鈍麻シ、厥冷シ紫藍色トナリ、遂ニ壞疽ニ陥リ離脱スルコトア  
リ、腸内面ニ於テハ集腺ハ恰モちふす狀トナリ、特ニ痙攣性麥角中



### 丙、血液毒

本類ニ屬スルモノハ血色素ト結合シテ、ソノ本來ノ作用ヲ障礙スルモノニシテ、或ハ血色素ヲめとへもぐろびんとナシ、或ハ之ヲ溶解シ、或ハ更ニ結合力强キ血色素ノ變成物ヲ作り、酸素ノ供給ヲ不十分ナラシムルモノナリ。

#### 一、くろーる酸かり中毒

本劑ハ醫療或ハ工業上ニ汎用サルル故、往々錯誤ニヨレル中毒ヲ來ス、自殺ニハ稀ニ用ヒラルコトアレドモ、他殺ノ目的ニハ常識アルモノニハ使用スルコト能ハズ。

**作用** くろーる酸かり血液ニ加フル時ハぐろびんヲ析出シ、且血色素ヲめとへもぐろびんニ變化シテ、赤血球ヲ崩解セシム。動物ノ體內ニ於テ此ノ如キ血液變化起ル時ハ、呼吸障礙ヲ招來シ、窒息急死スルモノナリ。

**症狀**、くろーる酸かりノ稍多量ヲ嚥下スレバ、先ヅ嘔吐、下痢ヲ來シ、次デ血液犯サレ、呼吸困難、ちやのーぜ、心臟衰弱體溫下降等ヲ見、尿ハ暗赤褐色トナリ、腎臟ノ作用充分ナラズ、即尿毒症ヲ起シテ死シ、或ハ窒息急死ス。

**剖檢所見**、本劑中毒ニテ最モ著シキ變化ハ血液ガ暗赤褐色トナレ

ルコトアリ、ソノ爲メニ視診シ得ル粘膜、屍斑ハ赤褐色トナリ、内臟ノ色モ亦同色ヲ呈ス、ソノ他ニハ一般窒息急死ノ所見アリ、尙あんちびりん、ふえなせちんノ中毒症狀ハくろーる酸かり中毒ノソレニ酷似ス。

**致死量**、大人ニテハ十五瓦内外、小人ニテハ十五瓦内外ニテ死ニ至ルト云フ。

**化學的證明**、本劑ハ中毒後、成ルベク早クソノ化學的證明ヲ施行セザレバ、漸次變化シテソノ證明困難乃至不可能トナル。くろーる酸かりヲ證明スルニハ、可檢物ヨリ透析法ニヨリテ本劑ヲ抽出シ、ソノ抽出精製液ニ硫酸及いでいごー溶液少許ヲ加ヘ微熱スルニ變色ナケレドモ、一、二滴ノ亞硫酸液ヲ加フレバ、直ニ褪色ス、之レ遊離くろーるヲ發生シタル證ナリ。

#### 二、青酸及青酸加里中毒

純青酸ハ無色ノ液ニシテ固有ノ苦扁桃臭氣ヲ放チ、猛毒ナレバ之ヲ吸入スルカ、或ハ嚥下セル時ハ數十秒ニシテ斃ル、此毒物ハ天然ニ遊離シテ存在スルモノニ非ラザレドモ、苦扁桃、櫻、桃、杏、梅等ノ核中ニ在ルあみぐだりんガ、胃中ニ入りテ分解シテ青酸ヲ發生シ中毒スルモノナリ、小兒ガ青梅ヲ食シテ中毒急死スルハ、重

ニ此種ノ中毒ニヨルナリ。青酸化合物中容易ニ分解シテ、青酸ヲ發生スルモノハ凡テ猛毒ニシテ青酸加里ノ如キ此例ナリ。而シテ青酸加里及ソノ他ノ青酸化合物ハ、工業上多ク使用セラルルモノナレバ、錯誤ニヨリ或ハ自殺ノ目的ニ、時トシテハ他ノ食物ニ混ジテ他殺ノ目的ニ用ヒラルアリ。

**作用**、初メ神經中樞ヲ刺戟シ、後之ヲ麻痺ス。最モ急速ナル中毒ニ於テハ、毒物攝取後他ニ何等ノ症候ヲ呈スル邊ナク、殆ンド瞬間ニ斃死スルモノアリ、然ラザル時ハ先ヅ血色素ヲ犯シ、ちあんへもぐろびんヲ作り、血液ハ鮮紅色ニシテ美麗ナル色彩ヲ呈スルモ、酸素ノ輸送ヲナス能ハザルニ至リ、呼吸困難ヲ來シ、次デ中樞神經系統ヲ侵スモノナリ。青酸かり中毒ノ際ニハ蛋白ニ對シ崩解壞疽ヲ來サシメ、尙心臟ニ對シ、かりゆむ作用アレドモ、青酸ノ中樞神經ニ及ボス作用劇甚ナル爲メ、此等ノ作用ヲ充分發揮スルノ邊ナクシテ死ニ至ルモノナリ。一般ニ青酸ハ皮膚又ハ創面ヨリモ容易ニ吸收サレ、中毒作用ヲ惹起スルモノナリ。

**症狀**、多量ノ青酸或ハ青酸加里ヲ嚥下スル時ハ、忽チ昏倒シテ人事不省、呼吸困難ヲ來シ、呼吸ニハ青酸様臭氣ヲ放チ、全身痙攣ヲ發シ、毒物攝取後二、三十秒時乃至五、六分時ニシテ死亡ス、經過稍

緩漫ナルモノニ在リテハ毒物攝取後、直立不能、歩行蹣跚トナリ、悪心、頭痛、眩暈ヲ訴へ、脈搏細小ニシテ呼吸促進シ、次デ皮膚厥冷、冷汗、瞳孔散大、全身痙攣等ノ症狀ヲ發シ、呼吸及心跳不正トナリ、遂ニ昏睡ニ陥リ死亡ス。若シ毒量少キ時ハ中毒症狀經過シ去レル後、害ヲ殘サズシテ治癒スルコトアリ。

**死體所見**、青酸中毒ニ在テハ經過極メテ迅速ナルヲ以テ獨特ノ剖檢所見ナク、胃或ハ腹腔開檢ノ際青酸ノ臭氣ヲ感ズ。其他ニハ一般窒息急死ノ所見アルノミナリ。

青酸加里中毒ノ際ニハ胃等ニ青酸ノ臭氣ヲ感ズルコト前者ニ同ジト雖、毒物ノ觸レタル胃腸粘膜ハ鮮紅色ヲ呈シ、著シク腫脹シテ所々膠狀ヲ呈ス、胃内容ハ強あるかり性粘滑ニシテ紅色ヲ帶ブ。此等中毒ノ際、腦ハ久シク青酸ノ臭氣ヲ放ツコトアル故、特ニ注意シテ密閉保存スベシ、ソノ他咽頭、食道等ノ消化管ニ於テ青酸加里ノ接觸セル部分ハ、粘膜亦胃ニ於ケル如ク腫脹シ、血色素ノ滲潤ヲ來スコトアリ。血液ハ鮮紅色流動性トナリ、死斑ハ鮮紅色ヲ呈ス、之レ血色素ガちあんへもぐろびんニ變化スルガ故ナリ。

**致死量**、純青酸ニテハ〇・〇五瓦、青酸加里ニテハ〇・一五瓦ヲ以テ普通致死量トナス。



化學的證明、青酸或ハソノ化合物中毒體ハ一種ノ特臭ヲ放チ、胃腸内容モ亦然ルヲ以テ、該酸ノ中毒ナル疑ヲ起スコトヲ得、化學的ニハ可檢物ニ酒石酸水ヲ加ヘテ蒸餾スレバ、青酸ハ餾液中ニ移行ス、此餾液ヲ更ニ一、二回精製シ、ソノ餾液ニ硫酸鐵液及カリ滴汁ヲ加ヘテ加熱シ、更ニ鹽化鐵液ヲ加フレバ伯林青ヲ生ジ、或ハ餾液ニ硫化あんもにあヲ加ヘテ水浴上ニ乾燥シ鹽化一、二滴ヲ滴加シ、更ニ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナル、或ハ餾液ニカリ滴汁及びくりん酸溶液ヲ加フレバ紫赤色トナル、之レ青酸存在ノ徵標ナリ。青酸ハ甚ダ揮發滲透シ易キ藥品ナレバ、死後往々體外ヨリ體內ニ滲入スルコトアリ注意ヲ要ス。

### 三、酸化炭素中毒

酸化炭素ハ木炭、石炭等ノ不完全ナル燃燒ニ依リテ發生スルモノニシテ、燈用或ハ燃燒用瓦斯ガ石炭ヨリ製セララル際ハ、六乃至十%ノ酸化炭素ヲ含有シ、薪材ヨリ製セララル時ハ六十%以上ノソレヲ含ム、ソノ他水製燈用瓦斯ハ酸化炭素ト水素トノ混合物ニシテ、前者ハ凡ソ三十%アリ、坑氣ハ四乃至十%ノ酸化炭素、一%内外ノ硫化水素、五十三%ノ炭酸瓦斯ヨリ成ル。無煙火藥爆發ノ際ニハ三十%ノ酸化炭素瓦斯二十%ノ炭酸瓦斯、十%ノめたん瓦斯、八

%ノ窒素瓦斯、二十三%ノ水蒸氣等ヲ發生シ甚ダ危險ナルモノナリ。自動車ニ於テガそりん燃燒ノ際ニモ、亦數%ノ一酸化炭素ヲ出スコトアリ。

酸化炭素中毒ハ燈用瓦斯漏洩、大火災ノ際或ハ密閉室内ニ於ケル多量ノ炭火、ガそりんノ不完全燃燒等ニヨリ、不注意ノ爲メニ中毒死ニ至リ、或ハ故意ニ自己ノ室内ニ少量ツツ燈用瓦斯ヲ漏ラシテ、一夜中ニ徐々ニ中毒死ニ至ルモノアリ。而シテ呼吸氣中ニ於ケル燈用瓦斯ノ含有量ノ多少ト、吸入時間ノ長短トニ依リテ中毒症狀ニ強弱アリ。

**作用、**酸化炭素ハ赤血球中ノ血色素トノ結合強ク、所謂酸化炭素へもくろびんヲ作りテ、酸化へもくろびんニ復歸スルコト困難ナレバ、爲メニ赤血球ハ最早酸素ノ輸送器官タル能ハズシテ、内窒息ニ陥ルモノナリ、而モ同時ニ先ヅ中樞神經ニ於ケル痙攣中樞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、中毒ガ徐々ニ經過シタル時ハ心臟、腎臟及肝臟ニ逆行變性ヲ來スヲ常トス。

**症狀、**酸化炭素瓦斯含有ノ空氣ヲ吸入スレバ、先ヅ耳鳴、眩暈、嘔氣、嘔吐ヲ來シ、次デ呼吸ハ響音性トナリ、顔面潮紅シ酪酐狀ヲ呈シ、感覺異常、知覺消失、痙攣、麻痺等ヲ來シ昏睡状態ニ陥ル。

此ノ如キ中毒状態ヲ呈スルモノヲ、新鮮ナル氣中ニ出セバ、知覺等ハ徐々ニ恢復スト雖、頭痛、嘔氣、全身衰弱ノ感ハ永ク殘存ス、或ハ精神異常ヲ來スモノアリ。本中毒ニ於ケル死因ハ呼吸麻痺、腦出血乃至腦軟化等ナリ。

**剖檢所見、**死斑及諸内臟ハ鮮紅色ニシテ、血液中ニハ酸化炭素へもくろびんヲ證明ス、ソノ他心肝及腎ニ於ケル退行變性、腦出血、皮膚ニ於ケル火傷、發泡、瘰癧、肺炎、肋膜炎ヲ伴ヒ、尿ニ糖並ニぐるくろん酸及乳酸ヲ證明スルコトアリ。

**致死量、**〇・八瓦ナリト云フモ一定セズ。通常一酸化炭素一%含有ノ氣中ニ入レバ、十五分乃至二十分ニシテ人事不省トナリ、同一%含有スル時ハ、極メテ短時間内ニ死ニ至ルト云フ。

**化學的證明、**血液中ノ酸化炭素へもくろびんヲ證明シ、ソノ中毒ナルコトヲ確定スルヲ以テ唯一ノ據リ所トス。酸化炭素へもくろびんヲ含有スル血液ニハ次ノ反應アリ。

(イ)酸化炭素へもくろびん含有ノ血液ハ、酸化へもくろびんト略同様ノ吸收線ヲ現ハスモ、之ニ還元劑ヲ加フルニ、吸收線ハ何等ノ變化ヲ來サズ、然ルニ酸化へもくろびんノミノ血液ナレバ、還元劑ニヨリテ還元へもくろびんトナリ、一條ノ吸收線ヲ顯出ス、コ

ハ酸化へもくろびんノ二條ノ吸收線ヲ融合セシメタル太ク稍薄キ一條ノ吸收線ナリ。

(ロ)ほつべいれる氏檢法、十%ノなとろん滴汁ニ酸化へもくろびん血液ヲ滴下スルニ、直ニ汚褐色トナルモ、酸化炭素へもくろびん血液ナレバ毫モ變色セズ。

(ハ)硫化水素ニ酸化炭素液ヲ滴下スレバ鮮紅色ナルモ、通常ノ血液ナレバ徐々ニ汚綠色トナル。

(ニ)十%ノ硫酸銅水溶液ニ酸化炭素血液ヲ滴下スレバ變色ナキモ、通常ノ血液ナレバ汚赤褐色トナル。

(ホ)醋酸鉛液ニ酸化炭素血液ヲ加ヘ振盪スルモ變色ナシ、通常ノ血液ナレバ汚赤褐色トナル。

(ヘ)片山氏檢法、黃色硫化あんもんニ、血液ヲ水ニテ稀釋セルモノ同量ヲ加ヘ、之ニ氷醋酸ヲ加フルニ、酸化炭素ヲ含有スル血液ハ鮮紅色ノ沈澱ヲ作り、通常ノ血液ニテハ帶綠灰色ノ沈澱ヲ生ズ。

(ト)たんにんノ一乃至三%ノ水溶液ヲ作り、之ニ血液約二倍量ヲ加ヘ、放置スルコト二十四時間ニシテ窺フトキハ、酸化炭素へもくろびん血液ナレバ鮮紅色トナリ、通常血ナレバ汚灰色トナル。

此等ノ檢法ハ皆酸化炭素へもくろびんガ酸化へもくろびんニ比シ、



比較的安定ナルコトヲ基礎トシタルモノニシテ、酸化炭素中毒ノ際血液ハ全部酸化炭素へもぐろびントナルモノニ非ラズシテ、必ズ酸化へもぐろびンヲ混在スルモノナレバ、此等ノ検査法ノ成績不明瞭トナルヲ免レズ、故ニ可檢液ハ確實ニ通常血液ナルコトヲ知レルモノヲ取り、相對照シテ検査スルヲ必要トス。此他石油ペンジン、にとろぐりせりん、さぼにん等動物及植物ヨリ由來セル血液毒數多アレドモ、コレ等ハ多クハ藥物學の興味ヲ有スルモノニシテ、法醫學的ニハ大ナル意義ナキヲ以テ之ヲ省略ス。

### 丁、神經及心臟毒

本項ニ屬スル毒物ハ、ソノ接觸局部ニハ注意スベキ症狀ヲ起サズ、吸收後主トシテ中樞神經及心臟ヲ侵害スルモノニシテ、ソノ他ノ内臟ニハ著變ヲ見ルコト少ナク、即チ獨特ナル剖檢所見ヲ有セズ。而シテ植物性毒物、例ヘバ苦味質及あるかろいドノ多數ハ、主トシテ神經及心臟ニ作用シテ中毒ヲ來スモノナリ。

### 一、くろろほるむ中毒

外科的手術ノ際、くろろほるむハ麻酔劑トシテ用ヒラルルニ由リ往々ソノ中毒死ヲ來ス、麻酔ノ際、偶然くろろほるむ死ヲ來スハ約二千五百乃至一萬人ノ麻酔手術ニ對シ、死者一人ノ割合ナリト云

慢性中毒死ノ際ニハ黃疸、肝、腎及心筋ノ脂肪變性、貧血等ヲ認め、屍體或ハ臟器ノくろろほるむ臭ヲ發スルコトアリ。

**致死量**、内用スレバ五〇・〇瓦内外ニテモ死ニ至ラズ、吸入スレバ一〇・〇瓦内外ニテ死ニ至リ、或ハ約一〇〇・〇瓦ヲ吸入シテ死ニ至ラザルコトアリ。即チくろろほるむノ致死量ハ、個人關係ニヨリテ多大ノ差異アルモノナリ。

**化學的證明**、屍體ヨリ腦及血液等ヲ採集シ、其ノ約百瓦ヲ取り酒石酸ノ少許ト水ヲ加ヘテ蒸餾スル時ハ、くろろほるむハ餾液ノ最初ノ部分ニ油滴狀ヲナシテ餾出シ、特有ノ臭氣ヲ發ス。此餾液ニれぞるちん水溶液(一一・〇cc)及一滴ノなとろん滴汁ヲ加ヘ煮沸セバ帶黃赤色トナリ、透見スレバ帶黃綠色ノ螢火ヲ發シ、或ハあるふあなふとをるノ少許ヲ、三十%ノかり滴汁ニ溶解シ五十度ニ温メ、之ニ可檢液ヲ加ヘ青色トナリ、次ニ綠色乃至褐色トナレバ、くろろほるむ存在ノ徴ナリ。

### 二、抱水くろらーる中毒

本劑ハ催眠劑トシテ使用セラルル故、錯誤ニヨリ往々中毒スルコトアリ、ソノ他自殺或ハ他殺ノ目的ニ稀ニ用ヒラル。

**作用**、本劑モ原形質毒ニシテ先ヅ血管壁ヲ麻痺セシメ、次デ中樞

抱水くろらーる中毒

フ。ソノ他くろろほるむヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、或ハ惡意ヲ以テ婦人及睡眠者等ニ之ヲ吸入セシムルコトアレドモ、くろろほるむ麻酔ノ下ニ姦セラレタリ、誘拐サレタリ、金錢ヲ窃取セラルナド云フハ多クハ虚偽ナリ、何トナレバ、くろろほるむハソノ性質上不知若クハ不得心ノ下ニ、麻酔スル程之ヲ吸入セシムルコト甚ダ困難ナレバナリ。

**作用**、くろろほるむハ原形質毒ニシテ、先ヅ腦ノ節細胞ヲ麻痺セシメ、次デ赤血球ヲ溶解シ、組織ニ退行性變化ヲ來サシムルコトアリ。

**症狀**、本劑ハ接觸セル局部ヲ僅ニ刺戟シ、吸收サレテ先ヅ腦及其他ノ神經細胞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシメ最後ニ延髓ヲ犯ス。瞳孔ハ最初縮小シ終ニ開大ス、筋ハ張力ヲ失ヒ、凡テノ反射機能亦消失ス、長時間麻酔ヲ繼續スル時ハ、赤血球ヲ犯シ黃疸ヲ惹起ス。慢性的ニくろろほるむヲ用ユルモノハ、之ニ對スル習性ヲ得、癩瘵、貧血、黃疸、心臟衰弱等ヲ來ス。

くろろほるむ急性中毒ノ際ノ死因ハ多クハ呼吸麻痺ニシテ、慢性中毒ノ場合ニハ心臟休止ニヨリテ死ニ至ルコト多シ。

**剖檢所見**、急性中毒死ノ場合ニハ窒息急死ノ所見アルノミナリ、

神經ノ作用ヲ障礙シ腎臟ニ退行變性ヲ來サシム。

**症狀**、本劑ヲ多量内用スレバ先ヅ嘔吐ヲ來シ、次デ甚シキ催眠感、血壓下降、表在血管ノ擴張ヲ見、呼吸遲徐トナリ、表皮ハ紫藍色ヲ呈シ厥冷ス、往々突然ニ來ル呼吸麻痺、心臟休止ニ依リ死ニ至ル、慢性中毒ノ際ハ、消化器障礙、口腔粘膜ノ腫脹、無力、癩瘵、下痢、譫言等ヲ來シ、時トシテ本劑ニ對スル習性ヲ得テ、恰モるひね中毒ニ於ケルガ如クナルコトアリ。

**剖檢所見**、本劑ヲ内用シテ死ニ至リタルモノニ在リテハ、口腔及咽頭粘膜腫脹シ、胃粘膜ニハ退行變性アリ、所々ニ溢血點ヲ認め、細尿管上皮細胞ニハ脂肪變性ヲ來ス。

**致死量**、心臟疾患アルモノハ既ニ一〇瓦ニテ死ニ至ルコトアリ、普通ニハ五〇瓦以上ヲ用ヒザレバ中毒セズ。二八・〇瓦ヲ用ユルモ尙死ニ至ラザリシコトアリ。

**化學的證明**、前記くろろほるむニ於ケルガ如ク蒸餾スレバ、ソノ餾液ハ亦くろろほるむニ於ケルガ如キ呈色反應ヲ呈スルモ、くろろほるむノ有スルガ如キ特臭ナク、又餾液ニねすれる氏試藥ヲ加フレバ、帶黃赤色ノ沈澱ヲ生ジ、又チを硫酸なとりゆむ溶液ト餾液トヲ加ヘ煮沸スレバ、煉瓦様赤色ヲ呈スルニ依リ、くろろほるむト鑑別

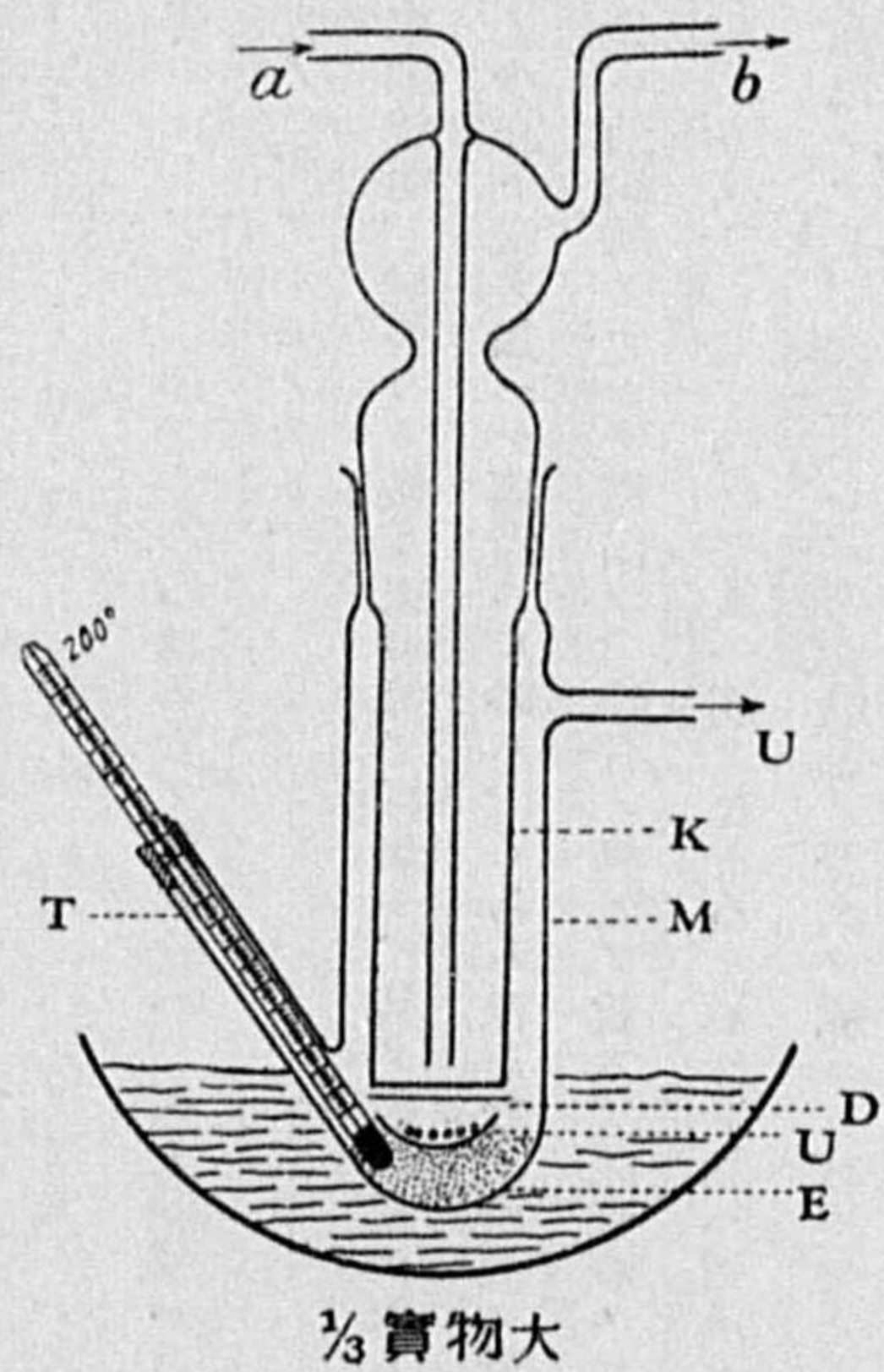


スルコトヲ得。

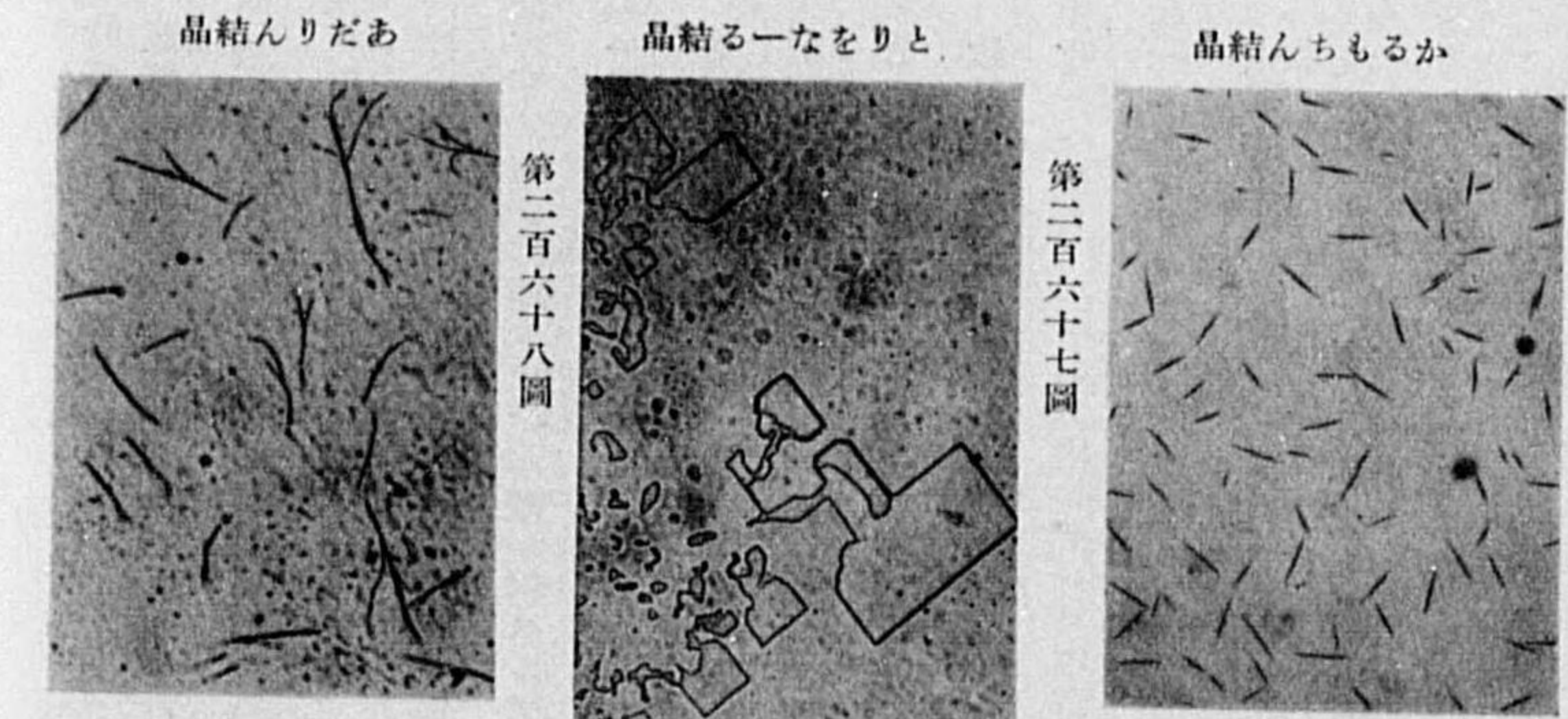
三、催眠劑中毒

近時催眠劑ヲ以テ自殺シ、稀ニ他殺ノ目的ニ往々之ヲ用ヒ或ハ用量ノ錯誤ニヨリ中毒ニ陥ルコトアリ、即チあだりん Bromdiethylacetylarnstoff、ぶろばりん、かるもちん及びぶろむらゝるハ異名同體ニシテ a-Monobromisovalerianylarnstoff、ナル化學名ヲ有シ、又ハえろなゝる Diethylbarbitursäure、いあゝる Diallylbar-

圖五十六百二第



bitursäure、等ノ如キ之レナリ、是等ハ尿素モシクハソノ誘導體ニ臭素、纈草酸等ノ如キモノノ結合シテ生ジタルモノコレバ、此等ノ中毒ノ際ニハ夫等ガ單ニ有機基ノミニヨリテ成ル時ハ、剖檢上多クハ



第二百六十六圖

第二百六十七圖

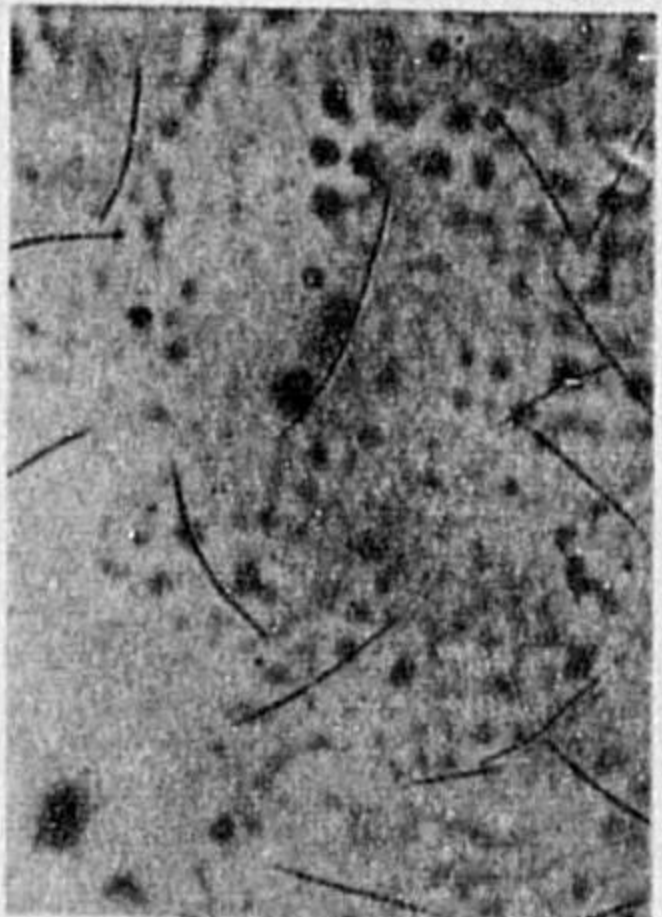
第二百六十八圖

目ニ立ツガ如キ異常ナク肺鬱血甚ク、時トシテ肝臟ノ脂肪變性ニ見ルノミナレドモ、其内ニテ臭素イをんヲ遊離スルガ如キモノニアリテハ、胃腸ノ内面ニ刺戟性症狀ヲ來シ、時トシテ粘膜炎下出血ヲサヘ見ルコトアリ。而シテ此等ノモノノ中毒症狀ハ先ツ深キ睡眠ニ陥リ、次デ中樞性麻痺ノ如キ症狀ヲ來シ、或ハ就下性肺炎ヲ惹起シ、毒物攝取後通常二、三日ニシテ徐々ニ心臟衰弱死ニ陥ルヲ常トス。致死量、ハ一定セザレ

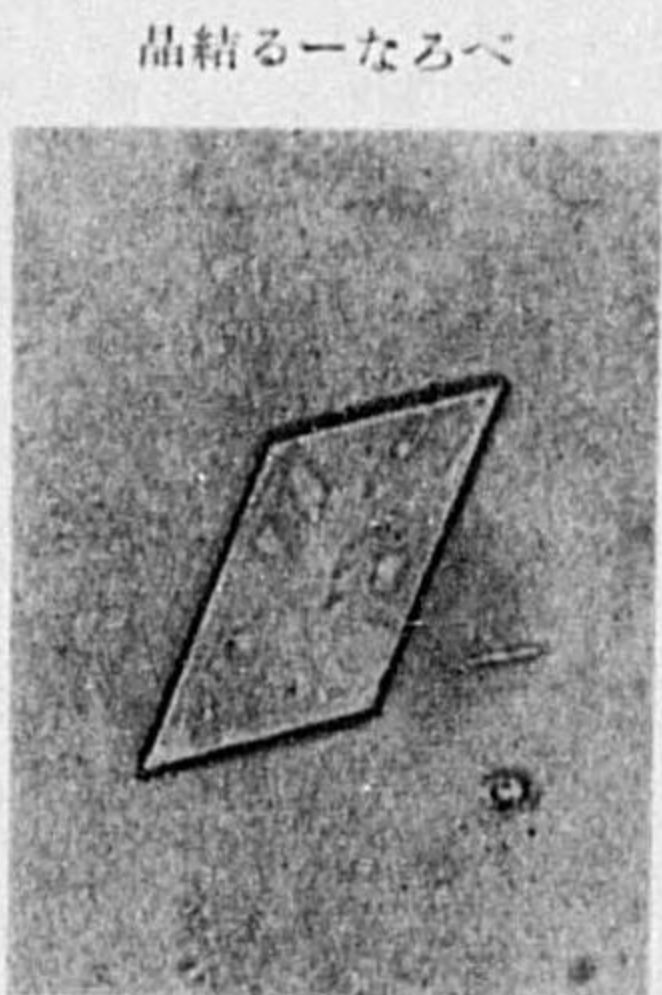
第二百六十九圖



第二百七十圖



第二百七十一圖



催眠劑中毒

ドモ大體ニ於テ、ぢあゝる五・〇瓦—七・〇瓦、ぶろむらゝる及かるもちん約五・〇瓦、べえろなゝる約一〇・〇瓦ナリトス。但シコハソノ體質、胃腸ノ盈虚等ニヨリ可ナリノ差アルヲ忘ルベカラズ。尙此等ノ錠劑ハ不溶性ノモノナレバ、其十數瓦ニ相當スル量ニテ死ニ致ラザルコトアリ。

催眠劑ノ微量證明法、

一般ニ催眠劑ハ昇華シ易ク、且酒精ニ溶解シ易キ爲メ、先ツソノ中毒者ヨリ採集セル吐物、胃内容乃至臟器等ヲ成ルベク細

第二百七十二圖



第二百七十三圖



二百七十三圖参照) 及ビ溶解點乃至化學的呈色反應ニヨリテ、何レノ催眠劑ナルカヲ診定スベシ。

而シテ此等催眠劑ノ溶解點ハ、あだりん一六—一八度、かるもちん、ぶろむらゝる及びぶろばりんハ一四七—一四九度ニシテ、ねされる氏試薬ニヨリ、あだりん結晶ハ先ツ橙黄色次デ赤褐色ニ變ジ、かるもちん及共同性體結晶ハ最初淡黄色、加熱ニヨリ帶綠黄色トナ



リ、べろなる結晶ハ變色セズ、尙此催眠劑ノ結晶ハ抽出セル臟器ニヨリテ、ソノ形ヲ異ニスルヲ忘ルベカラズ。

四、急性あるこぼる中毒

あるこぼる性飲料ノ濫用、自殺ノ目的、或ハ愚鈍ナル飲酒競争等

第百三十二表 (酒類、酒精含有量)

Table with 2 columns: (一) 酒精含有量, (二) 酒精含有量. Lists various types of alcohol and their alcohol content percentages.

Table listing various types of wine and their alcohol content percentages, including categories like 葡萄酒, 啤酒, etc.

ニヨリあるこぼる中毒ヲ來ス、又歐米諸國ニテハ飲酒シテ高速度交通機關ヲ運轉スル時ハ、一定ノ制裁ヲナスベキ規定アレバ、此爲メ

作用、本劑ハ接觸セル局部ノ水分ヲ奪取シ、蛋白ヲ凝固セシメ血色素ヲ溶解セズ、即チ局部ニ炎症ヲ惹起ス、吸收サルレバ先ヅ腦細胞ヲ刺戟シ次デ之ヲ麻痺セシム。

症狀、急性中毒ノ場合ニハ酩酊ニ次デ卒倒、人事不省、顔面潮紅、響音性呼吸、嘔吐、脱糞等來リ、終ニ脈搏細少、ちやのいぜ、血壓及體溫下降ヲ招來シ、呼吸麻痺或ハ心臟障礙ニヨリテ死ニ至ルコトアリ。慢性中毒ノ際ハ、消化器管ニ於ケル一般性炎症、肝臟ノ脂肪

變性乃至硬化、血管硬化、譫語、震顫、體力減退及虚脱等ヲ來シ又特ニ精神的方面ノ甚シク犯サルコトアリ。

致死量、あるこぼるノ含有量ト個人ノ特異性乃至習性ニヨリテ、酒精性飲料ノ致死量ハ一定セズ。

剖所檢見、急性あるこぼる中毒死者ニハ腦ニ於ケル充血乃至出血ヲ見、胃内容あるこぼる臭ヲ放チ胃腸炎ヲ見、肺水腫ヲ伴フコトアリ、慢性中毒者ニハ肝臟ノ脂肪變性乃至硬化、血管壁ノ硬化、消化器一般ニ互レル炎症等ヲ見ル。

化學的證明、あるこぼるハ水蒸氣ト共ニ容易ニ餾出スルモノナレバ、可檢物ヲ蒸餾シソノ餾液ヲ取り次ノ反應ヲ行フ。

(イ) 餾液ニ沃度沃度加里液ヲ加ヘ微熱スレバ、沃度ほるむ臭ヲ發シ、又沃度ほるむノ結晶ヲ見ルヲ得。

(ロ) 餾液ニ鹽酸少許ヲ加ヘ、更ニ重くろーむ酸加里液一、二滴ヲ注加シ水浴上ニ熱シ綠色トナル。

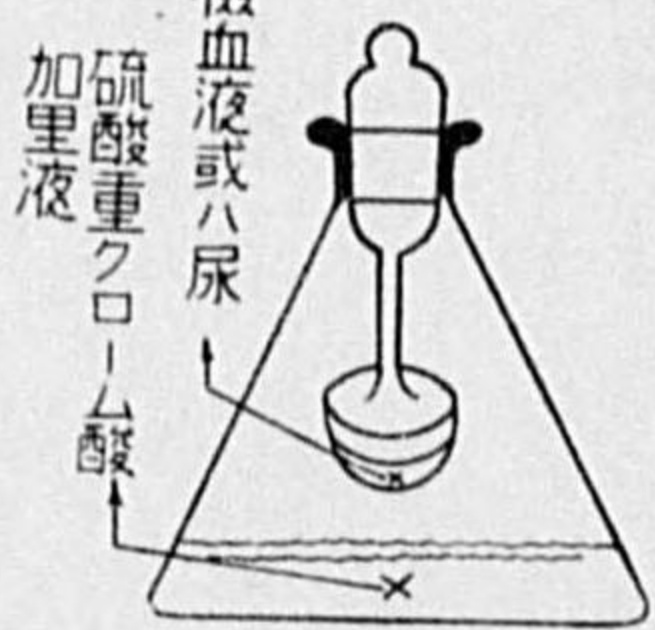
(ハ) 且餾液ニあるこぼる臭アレバ、あるこぼるノ存在ヲ確微ス。尙僅微ノあるこぼる、あせとん等ハ生體內ニモ又屍體現象ノ進行ト共ニ死後體內ニ於テモ醱酵作用ニヨリ發生スルコトアレバ、化學的證明ノ際ハ此點ニ留意スベシ。尙血

くろゝほるむ中毒

行中ノあるこぼる量ヲ測定シテ、酩酊ノ有無ヲ定メントセルモノアリ。

うおどまるく氏微量酒精定量法、先ツ左圖ノ如キ同氏考案ノ小蒸餾器底ニ硫酸重くろーむ酸加里液(重くろーむ酸加里ヲ少許ノ水ニ溶解シ、一珪ノ硫酸中ニ同劑二・五珪ヲ含有スル様ニ作成シタルモノ)ニ珪ヲ入レ置キ、此壘附屬ノ硝子共栓下端ニ垂下セル小皿内へ、酒精含量ヲ檢査スベキ血液或ハ尿一〇〇珪内外ヲ精確ニ秤量シテ注入シ、直ニ密栓シタル上、此蒸餾壘ノ頸部迄五十六度乃至六十度ノ水中ニ沈メ、光線ヲ遮斷シツツ約二時間放置スレバ、可檢物ヨリ蒸發セル水分及酒精ハ全部壘底ニアル硫酸重くろーむ酸加里液ニ吸收サレ、同時ニ酒精分ハ完全ニ酸化セラル。次デ硝子共栓ヲ可檢物皿ト共ニ去リ。硫酸重くろーむ酸加里液ニ五%沃度加里液〇・五珪ヲ

圖四十七百二第



加ヘタル後、之ヲ 1/100 ちを硫酸なとりゆーむ定規ニテ測定スレバ過剩ノ重くろーむ酸加里ノ量ヲ知ルコトヲ得、即チ 1/100 ちを硫酸なとりゆーむ一珪ハ丁度純酒精ノ〇・一一三珪ニ相當スルヲ以テ、



之ニヨリテ可檢液中ノ酒精含有量ヲ計算スルコトヲ得ベシ。或ハウ  
むどまるく氏ハ此計算ヲ省略スルコトヲ得ル便利ナル酒精含有量表  
ヲ作製シ居レリ。

而シテ本法ニヨリテ得タル血中酒精量ト酪酐トノ關係ヲ示セバ、  
大約左ノ如シト云フ。

血液酒精含量%	酪酐ノ程度
〇・〇三迄	生理的含有量
一・〇前後	上機嫌、微醉
二・〇前後	輕度乃至中等度酪酐
二・五以上	高度酪酐
三・五以上	重症中毒死

### 五、めちるあるこぼる中毒

めちるあるこぼるハ通常ノあるこぼるニ比シ廉價ナル爲メ酒類偽  
造ニ用ヒ、或ハ不快ノ味アル故工業用あるこぼるヲ飲用不能トナラ  
シムル爲メ混入サレアリテ、ソレヲ飲用シ中毒ヲ來スコトアリ、自  
殺或ハ他殺ニ用ユルコトハ稀有ナリ。あまりか合衆國ニテハ往時ヨ  
リめちるあるこぼる中毒ニ注意シ、之ヲ報告セシガ、獨逸及我國ニ  
於テ注意サルルニ至リシハ、千九百一十一年ノ交伯林市ノ共同宿

泊所ニテめちるあるこぼるノ多數中毒アリテヨリ後ノコトナリ。

**症狀**、本劑ヲ内用スレバ間モナク頭痛、眩暈、急性胃腸炎、視力  
減退、四肢ノ麻痺、呼吸困難、譫語、人事不省、虚脱等來リ、遂ニ  
呼吸麻痺ニ依リテ死亡ス。此中毒ニテ特有ナルハ一種ノ視力障礙ナ  
リ。

**剖檢所見**、急性あるこぼる中毒ニ略類似ス、胃内容ニハめちるあ  
るこぼるノ臭アリ、肝、腎ハ腫大シ、網膜炎、視神經炎等ヲ見ル。  
**致死量**、百乃至二百瓦ナリト云フト雖、十瓦内外ニテモ視力障礙  
ヲ來シタルモノアリ。

**化學的證明**、めちるあるこぼるハ人體ニ入りテ、直ニ蟻酸化化合物  
トナル故、吾人ハ可檢物ヲ蒸餾シ、餾液中ヨリ蟻酸ノ證明ヲ行ヒテ、  
めちるあるこぼるノ證明トナス。

### 六、阿片及もるひね中毒

コトアリ。特ニ其鎮痛劑トシテもるひねヲ用ユル時ハ常習性ニ陥リ  
易ク、即チ慢性もるひね中毒ハ醫師、看護人、藥種商等ニ甚ダ多ク  
見ル所ノモノナリ、もるひねハ多ク皮下注射ニ用ヒ阿片ハ多ク内用  
セラル、此兩者ノ中毒ハあるかろいど中毒中甚ダ屢遭遇スルモノナ  
リ。

**作用**、猫、犬、牛、馬等ハもるひね劑ニ依リテ、先ヅ大脳ヲ刺戟  
サルルモ、人類ハ之ニ由リテ麻痺セラル、即チ反射機能及知覺ハ消  
失シ嗜眠昏睡ニ陥リ、又腸ノ蠕動運動及呼吸運動ヲ低下乃至休止セ  
シム、慢性中毒者ハ往々一種ノ精神異常ヲ來スモノナリ。

**致死量**、五歳以下ノ小兒ハもるひね〇・〇一乃至〇・〇四瓦ニテ甚  
シク中毒シ、大人ハ〇・四瓦ニテ死ニ至ル。但シもるひねニ習性ア  
ルモノハ、數瓦ヲ攝取スルモ生命ニ危險ヲ及ボスコトナシト云フ、  
阿片ノ致死量ハ稍多ク一・〇一乃至一・〇五ニ達ス。

**症狀**、急性中毒ニテハ服用後三十分乃至一時間ニシテ、頭痛、眩  
暈、酪酐狀興奮アリ、視覺及聽覺混亂シ、光及音響ニ對スル感覺銳  
敏トナリ、次デ人事不省ヲ來シ、反射機能消失シ熟睡ニ陥リ、鼾聲  
ヲ發シ、筋肉麻痺、脈搏ノ遅徐及細小、瞳孔縮小尿閉等來リ、遂ニ  
昏睡ニ陥リ五乃至十二時間ノ後死ス、時トシテ一旦神識明亮トナリ、

諸症輕快スルモ、再ビ昏睡ニ陥リ死ニ至ルモノアリ、亞急性中毒ニ  
テハ皮膚ニ癢痒ヲ感じ、口渴甚シク便秘ス、稀ニ一、二日ノ後醒覺  
シテ治癒スルモノアリ。

慢性中毒者ハ睡眠及食欲少クナリ、便秘シ、瞳孔狹ク、注射癱ア  
ルモノニテハ、注射部位ノ皮膚ハ硬化シ、往々膿瘍ヲ生ジ血便嘔吐  
等アリ、色慾及體力減弱ス、而シテ精神界ニモ異常ヲ來シ、家族妻  
子等ヲ省ミズ、手指ニ震顫來リ往々幻覺ヲ供フコトアリ。

**剖檢所見**、阿片ヲ内用セル時ハ、腸内容ニ特有ナル阿片臭アリ、  
もるひね中毒屍ニハ何等特有ナル剖檢所見ナシ、時トシテ軟腦膜ニ  
於ケル血管充盈シ腦脊髄液ハ腦室ニ集マリ、肺ニハ鬱血アリ膀胱ハ  
尿ニテ充滿サルル等ノ所見アリ、慢性中毒者ニテハ注射痕跡、身體  
ノ羸瘦及胃腸炎等ヲ認ム。

**化學的證明**、もるひねヲ内用シタルモノハ勿論、又注射セラレタ  
ルモノモ、大腸等ニ大部分之ヲ析出スルモノナレバ、此點ニ注目シ  
テ材料ヲ蒐集スベシ、亦もるひねハ複雑ナルあるかろいどナルニ拘  
ラズ、死體内ニ於テ比較的永ク腐敗ニ抵抗シ、證明可能ナルモノナ  
レバ、古キ屍體ヨリ得タル可檢物ニ付テモ落膽セズシテ検査ニ着手  
スベシ、予ハもるひね劑ヲ内用シテ中毒死ニ至レル一老女ノ屍體ヲ



埋葬後六ヶ月餘ニシテ發掘シ、ソノ臟器ノ中ヨリ明ニもるひねヲ證明シタル例ヲ有ス、尙もるひね中毒ノ際注意スベキハ屍體もるひねナリ、コハ屍體現象進行中體內ノ蛋白質ヨリ自然ニ分解生成スルモノニシテ、之ト實際ノもるひねトハ動物試驗ノ結果ニ依リテ鑑別スルヲ得ルコトアリ、阿片ヲ内用セルモノハめこん酸ノ檢出、阿片ニ特有ナル鏡檢所見ニヨリ、ソヲ鑑定スルコトヲ得。

可檢物ヨリ化學的ニもるひねヲ檢出スルニハ前記すたす、をつと一氏法ニ從ヒ所置シ、コハソノあんもにあ性母液ヨリくるるほるむ或ハあみーあるあるこほるニ移行スルモノナレバ、此くろろほるむノ蒸散殘渣ニ更ニ一、二回精製法ヲ施シテ後、所謂もるひねノ實性反應ヲ試ムベシ。即チ可檢物ヨリもるひねヲ比較的純粹ニ析出スルコトヲ得バ、次ノ呈色反應ヲ行フベシ。

- 一、ふれえで一氏試薬ヲ加フレバ、初メ紫色トナリ、次第ニ藍色、綠色黄色、淡紅色ニ移行ス。
- 二、まるき一氏試薬ニテ鮮紅色ヲ呈ス。
- 三、ふーぜまん氏法ニテ赤血色素トナル。
- 四、沃度酸ノ結晶ヨリ沃度ヲ析出セシメ、或ハ鹽化鐵液ニ遭遇シ藍色ヲ呈ス。

五、動物試驗トシテハ可檢物ヲ白鼠ニ注射シテ、尾ヲS字狀ニ曲グレバ眞正もるひねニシテ、然ラザレバ假令化學的ニもるひねノ呈色反應ヲ來スルモ、もるひねニ非ラズト、併シ此動物試驗ノ結果ハ、尙此ノ如ク確實ナルモノニアラズ。

鑑定實例

第五十二例 鑑 定 書

〇地方裁判所檢事SハYOガ明治〇十年八月六日解剖セルMノ死體中ヨリ採取セル左記物件ヲ化學的ニ檢査シテ「もるひね」ノ存否ヲ確定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ

- 第一號瓶 血液 三一〇〇瓦
- 第二號瓶 腦 九七五〇瓦
- 第三號瓶 胃腸及其内容 七一〇〇瓦
- 第四號瓶 腎、肝、脾、心臟 一六〇〇〇瓦

第一號瓶ノ血液ヲ檢スルニ暗赤色ヲ呈シ凝固シ「あるかり性」ノ反應ヲ呈ス其半量即一五〇〇瓦ヲ取リ九十三「%」ノ純「あるこーる」約三倍量ヲ加ヘ醋酸ヲ以テ弱酸性トナシ水浴上ニテ攝氏五十度内外ニ加温スル事數時間、冷後「あるこーる」ヲ濾過シ殘渣ニ尙「あるこーる」ヲ加エテ前同様ニ所置スル所ニ回前後三回ノ「あるこーる」濾液ヲ集メ水浴上ニテ靜ニ蒸散シテ舍利別樣ノ殘渣ヲ得タリ次之ニ無水「あるこーる」ヲ加エテ放置スル事十數時間ニシテ濾過シ殘渣ヲ更ニ無水「あるこーる」ニテ所置スル事數回此濾液ヲ集メテ靜ニ「あるこーる」ヲ蒸散シ冷却後蒸留水ヲ加エテ放置スル事數十時間濾過シ殘渣ヲ蒸留水ヲ以テ能ク洗滌シ濾液ヲ集メテ淡黄色酸性ノ液ヲ得タリ之ヲ靜ニ蒸散シ約三〇〇乃至四〇〇〇瓦トナセリ、

ヨノ三五五〇瓦ヲ取リ第一試驗ト同様ノ所置ヲナシテ苦味ヲ有シ褐色ニシテ中性ノ粘稠液少許ヲ得タリ之ヲ以テ「もるひね」ノ反應ヲ檢スルニ

- 一、「ふれえで」氏試薬ニヨリ美麗ナル紫色ヲ呈シ次第ニ藍色、綠色、黄色、ニ移行ス。
- 二、まるき氏試薬ヲ注加スルニ紫紅色ヲ呈ス。
- 三、一牛鹽化鐵溶液ヲ加フレバ美麗ナル藍色ヲ呈ス。
- 四、沃度酸ニヨリテ紫色ヲ呈ス。

以上ノ反應ニヨレバ胃腸及其内容中ニハ「もるひね」ノ存在スル事明ナリ。第四試驗 腎、肝、脾、心臟 此等ノ臟器ハ一般ニ帶灰赤褐色ニシテ弱酸性ヲ呈ス。其半量即(各臟器共約半分宛)八〇〇〇瓦ヲ取リ第一試驗ト同様ニ所置ヲナシ第三試驗ト略同様ノ結果ヲ得故ニニ上掲ノ各臟器ニモ「もるひね」ノ存在ヲ認ムル事ヲ得タリ。 此試驗ハ明治〇十年八月十五日ヨリ同年同月二十九日ニ至ル期間京都市帝國大學醫科大學法醫學教室東化學室ニ於テ施行セリ 明治〇十年十月 日

京都市吉田町腰前一番地 小南又一郎 印

七、すとりきにーね中毒

すとりきにーねハ無色無臭ニシテ強キ苦味ヲ有シ、水ニ溶解シ難ケレドモノノ鹽類ハ皆水ニ溶解シ猛毒性ヲ有ス。之ヲ用ヒテ自殺セシル例少ナカラズト雖、其味甚苦キヲ以テ他殺ニ用ユルニハ、びーる或ハ醫藥ニ混ジテ用ヒザルベカラズ、予ハ醫藥ト共ニすとりきにーねヲ服用シメ、婦人二名ヲ毒殺セル例ニ遭遇セリ。

- 一、右酸性ノ水溶液ヲ「がだーめる氏」ノ浸出器ヲ以テ「えーて」ニテ浸出スル事一時間並ニ於テ「えーて」層ト水層トヲ分離シ、
- 二、ソノ水溶液ニ「なとろん」滴汁ヲ加エテ「あるかり」性トナシ更ニ「えーて」ニテ浸出スル事一時間「えーて」層ト水層トヲ分離シ、
- 三、ソノ水溶液ヲ靜ニ熱シテ「えーて」層ト水層トヲ分離シ、
- 四、ソノ殘渣ニ水ヲ加エ更ニ醋酸數滴ヲ加エテ放置スル事十數時間、之ヲ濾過シ濾液ニ「あんも」に「水ヲ加ヘテ「あんも」に「性トナシ醋酸「えーて」ヲ以テ前ノ如ク浸出スル事一時間後醋酸「えーて」ヲ集メテ蒸散シ得タル殘渣ヲ更ニ前ノ如ク處置スル事數回ニシテ最後ニ比較的純粹ナル中性淡黄色ニシテ苦味ヲ有シ無色ノ結晶ヲ存スル粘稠物ヲ得タリ。 此粘稠物ヲ取リ「もるひね」ノ反應ヲ施行セリ。 即チ、一、ふれえで氏試薬ニ依リテ先ヅ淡紫色ヲ呈シ暫時ニシテ藍色綠色、稍多時ニシテ黄色ニ移行ス。
- 二、まるき氏試薬ニヨリ淡紅色ヲ呈シ。
- 三、一牛鹽化鐵溶液ヲ加フレバ淡藍色ヲ呈ス。
- 四、沃度酸ニ遇フテ紫色ヲ呈ス。

上記ノ反應ニ依リ第一號檢査物件中ニハ「もるひね」ノ痕跡ヲ存スルモノト認ム。 第二試驗 腦 腦ハ帶綠灰色ヲ呈シ酸性ナリ其半量即チ四八七・〇瓦ヲ取リ第一試驗ト同様ノ所置ヲナシテ「もるひね」ノ反應ヲ試ミ略同様ノ結果ヲ得タリ。

第三試驗 胃腸及其内容 第三號瓶内ニハ汚穢綠灰色ノ粘稠物ト同色ノ胃腸壁ヲ存シ酸性反應ヲ呈ス、すとりきにーね中毒







成、材料採集

- 七、上記解検ノ結果化學的検査ノ材料トシテ次ノ臟器ヲ採集ス
  - 一、胃液、前鑑定人WSガ採集シ「ふおるまりん」ヲ加ヘ貯藏セルモノヲ再ビ交附セラレタリ
  - 二、腸壁及ソノ内容、其壁質ハ殆ンド存セザレドモ糞便ハ明ニ鑑別スルコトヲ得タリ
  - 三、骨片、小骨ノ一部

第二章 化學的検査

- 八、前記(第三一六項)ノ如クGノ屍ハ甚シク死體現象ノ進行セル爲メ或ハ胃壁ノ如キハ貯藏後種々ノ人工加ハリシヲ以テ毒物検査ノ際揮發性毒物ヲ探究スルモノノ效ナカルベク又前鑑定人WSガ貯藏シタル胃壁ヲ檢スルモ(第二節第二項参照)毫モ特殊ノ所見ナキヲ以テ強酸及強「あるかり」中毒ニアラザルコトヲ略推定スルコトヲ得

上記ノ理由ニ依リ予ハ本項毒物検査ニ於テ植物性毒物及金屬性毒物ノ存否ヲ檢シ強酸及「あるかり」竝ニ揮發性毒物ノ検査ハ之ヲ行ハズ

第一節 内臟検査

(甲) 一般検査

- 九、採集セルGガ内臟ノ脂肪アル部ハ皆屍臘化シ居リソノ他ハ孰レトモ鑑別スルコト能ハズソノ中腸管ラシキモノヲ白色平皿ニ移シ檢スルニ内ニ汚黃色粘稠ノ糞便ヲ容レンソノ他特記スベキモノヲ認メズ

(乙) 化學的検査

(天) 苦味質及「あるかり」検査

- 十、此屍臘化セル内臟ノ一部ト糞便ト合シテ百三十五ヲ取り「くるべん」ニ移シテ「あるかり」法ニ從ヒ純ヒ純「あるかり」約三倍量及少量ノ酒石酸溶液ヲ加ヘ約三尺ノ還流硝子管ヲ附セル「くるく」ヲ以テ栓塞シ攝氏約八十五度ノ水浴上ニテ時々震盪シツ、數時間放置シシヨリ一日間室温ニ靜置セ

ル後濾過シ殘渣ニハ更ニ純「あるかり」ヲ加ヘテ二回同様ニ所置セリ最

- 後ノ殘渣ハ第二十三項ニ用ユ
- 十一、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ磁皿ニ取り煽風器ヲ以テ風ヲ送リ且攪拌シツ、水浴上ニテ微熱ノ下ニ「あるかり」ヲ驅逐シ豆腐粕同様ノ殘渣極メテ少量ヲ得之ニ蒸留水ヲ加ヘテ數時間放置後浸出濾過ス濾液ハ淡褐色ニシテ極メテ少量ナリ之ヲ水浴上ニ濃縮スレバ褐色ニシテ透明ナル酸性液ヲ得之ヲ原液ト名ヅケ之ヨリ苦味質及「あるかり」ノ浸出ヲ行フ

十二、前項ニ於ケル原液ヲ分液漏斗ニ取り「えー」テ「あるかり」ヲ加ヘテ振盪スルコト

十數分、暫時靜置後「えー」テ「あるかり」ヲ加ヘテ振盪スルコト同様ニ處置スルコト數回、原液ハ次ノ第十四項ノ検査ニ用ヒ前後數回ニ分離セル「えー」テ「あるかり」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散スルニ弱酸性ニシテ苦味質ヲ呈スル褐色液少許ヲ得タリ此殘渣ヲ少許ノ水ニ取り第十三項ノ一般「あるかり」沈澱試驗ヲ行フ

十三、各一滴ヲ硝子板上ニ取り黑板ノ上ニ置キ各々次ノ「あるかり」一般試驗ヲ加フルニ

まい、える氏試驗

しやいぶれる氏試驗

昇、水、溶、液

鹽、化、金、溶、液

び、く、り、ん、酸、溶、液

即チ「びくろ」ときしん、こるひちん、びくりん酸、あせとあにりど、ふえなせちん、あんちびりん、こつふえいん、かんたりでいん」等ノ存在ヲ微

セズ

- 十四、第十二項ニテ「えー」テ「あるかり」ヲ分離セル原液ニ「なとろん」滴汁ヲ加ヘテ「あるかり」性トナシ更ニ第十二項同様ニ「くるべん」ヲ以テ所置シ原液(第十八項ニ用ユ)ト「くるべん」ヲ分離シ「くるべん」ハ之ヲ小硝子皿ニ取り水浴上ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ針狀結晶性ノモノ含有スル殘渣少許ヲ得タリ

- 十五、前項ノ殘渣ハ中性ニシテ無臭強苦味アリ結晶ハ水ニ溶解シ難シ此殘渣ヲ温水ニ取り前記第十三項ノ如クシ一般「あるかり」ノ沈澱試驗ヲ行フ

イ、マイエル氏試驗

ロ、シヤイブレル氏試驗

ハ、昇、水、溶、液

ニ、鹽、化、金、溶、液

ホ、單、寧、酸、溶、液

ヘ、び、く、り、ん、酸、溶、液

ヲ加フルニ皆沈澱ヲ生ズ

- 十六、前項ノ温水ニ取レル液ヲ小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ検査ヲナス

イ、濃硫酸ヲ加フルニ無色ニシテ之ニ重「くるべん」酸加里ノ小塊ヲ加フルニ紫色トナル

ロ、えるとまん氏試驗ニテ無色トナリ

ハ、ふれえーで氏試驗ニテ無色ナリ

ニ、まんでりん氏試驗ニテ直ニ紫色トナリ後ニ血赤色トナル

ホ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

即チ「あこにちん、あとろびん、ぶるちん、へりどにん、ひにん、こかいん、こでいん、ごにいん、でるひにん、えめちん、ひおすちあみん、なるこちん、にこちん、ば、べりん、ひぞすちぐみん、びろかるびん、ぞらにん、てばいん、べちとりん」等ノ存在ヲ微セズシテ「すとりきにーね」ノ存在ヲ微ス

- 十七、第十五項及第十六項ノ化學的反應ニ依レバ「すとりひにん」存在ノ微標アリト雖、本検査物ノ如ク死體現象ノ進行セルモノニハ蛋白質ノ分解産物タルぶとまいん多ク存在スルアリテ實際「すとりきにーね」ニ用ヒザル死體ヨリモ往々化學的ニ「すとりきにーね」類似ノ反應ヲ來スコトアルヲ以テ之ト鑑別セン爲メ次ノ生理的試験ヲ行フ

イ、十七五ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分ニシテ強キ痙攣ヲ起シテ死亡ス

すとりきにーね中毒

ル後濾過シ殘渣ニハ更ニ純「あるかり」ヲ加ヘテ二回同様ニ所置セリ最

- 後ノ殘渣ハ第二十三項ニ用ユ
- 十一、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ磁皿ニ取り煽風器ヲ以テ風ヲ送リ且攪拌シツ、水浴上ニテ微熱ノ下ニ「あるかり」ヲ驅逐シ豆腐粕同様ノ殘渣極メテ少量ヲ得之ニ蒸留水ヲ加ヘテ數時間放置後浸出濾過ス濾液ハ淡褐色ニシテ極メテ少量ナリ之ヲ水浴上ニ濃縮スレバ褐色ニシテ透明ナル酸性液ヲ得之ヲ原液ト名ヅケ之ヨリ苦味質及「あるかり」ノ浸出ヲ行フ

十二、前項ニ於ケル原液ヲ分液漏斗ニ取り「えー」テ「あるかり」ヲ加ヘテ振盪スルコト

十數分、暫時靜置後「えー」テ「あるかり」ヲ加ヘテ振盪スルコト同様ニ處置スルコト數回、原液ハ次ノ第十四項ノ検査ニ用ヒ前後數回ニ分離セル「えー」テ「あるかり」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散スルニ弱酸性ニシテ苦味質ヲ呈スル褐色液少許ヲ得タリ此殘渣ヲ少許ノ水ニ取り第十三項ノ一般「あるかり」沈澱試驗ヲ行フ

十三、各一滴ヲ硝子板上ニ取り黑板ノ上ニ置キ各々次ノ「あるかり」一般試驗ヲ加フルニ

まい、える氏試驗

しやいぶれる氏試驗

昇、水、溶、液

鹽、化、金、溶、液

び、く、り、ん、酸、溶、液

即チ「びくろ」ときしん、こるひちん、びくりん酸、あせとあにりど、ふえなせちん、あんちびりん、こつふえいん、かんたりでいん」等ノ存在ヲ微

セズ

- 十四、第十二項ニテ「えー」テ「あるかり」ヲ分離セル原液ニ「なとろん」滴汁ヲ加ヘテ「あるかり」性トナシ更ニ第十二項同様ニ「くるべん」ヲ以テ所置シ原液(第十八項ニ用ユ)ト「くるべん」ヲ分離シ「くるべん」ハ之ヲ小硝子皿ニ取り水浴上ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ針狀結晶性ノモノ含有スル殘渣少許ヲ得タリ

- ロ、十一五ノ蛙ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ與フルニ三分目ニ角弓反張ヲ來ス

ハ、十九五ノ蛙ニ可檢液一〇ヲ皮下ニ與フルニ五分ノ後「すとりきにーね」ニ特有ナル痙攣ヲ起シテ死亡ス

即チ「すとりきにーね」ノ存在ヲ確證ス

可檢液ノ殘餘、全量ノ三分ノ一ハ更ニ精製法ヲ施シテ比較的純粹ナル「すとりきにーね」ノ結晶ヲ作り之ヲ秤量スルニ〇・〇〇三五アリ即チ全量中ニハ〇・〇〇九五アルナリ

- 十八、第十四項ニテ「くるべん」ト分離セル原液ヨリ「くるべん」ヲ驅逐シ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後「あるかり」性ヲ呈スル迄「あるべん」モ「あるべん」ヲ加ヘテ「えー」テ「あるかり」ヲ以テ第十四項ニ於ケルガ如ク所置シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「えー」テ「あるかり」ヲ分離シ「えー」テ「あるかり」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散シテ無味ニシテ中性ヲ有スル液少許ヲ得タリ此液ヲ以テ次項ノ検査ヲ施行ス

イ、まい、える氏試驗

ロ、しやいぶれる氏試驗

ハ、昇、水、溶、液

ニ、鹽、化、金、溶、液

ホ、單、寧、酸、溶、液

ヘ、び、く、り、ん、酸、溶、液

ヲ加フルニ何等沈澱ヲ生ズ

即チ「あほもるひね」ノ存在ヲ微セズ

- 十八、第十八項末節ノ溶液ヲ白色小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ反應ヲ行フ

イ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

ロ、濃硫酸ヲ加ヘ硝酸ノ一滴ヲ加フルニ無色ナリ



スルコト二回、前後三回ノ「くる」はるむヲ小硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ淡黄色ニシテ無味ナル中性液少許ヲ得タリ此残渣ヲ温水ニ取りソノ一部ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ

イ、まゝいえる氏試薬  
ロ、しやいぶる氏試薬  
ハ、昇 汞 溶 液  
ニ、鹽化金 溶 液  
ホ、單 寧 酸 溶 液  
ヘ、びくりん酸 溶 液

ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ

二十一、前項ニテ温水ニ浸出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ取り水浴上ニ乾燥シ之ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ

イ、ふれえーで氏試薬ヲ加フルニ青色トナル  
ロ、ふーぜまん氏反應陰性

即チ「もるひね」ノ存在ヲ徴セズ

二十二、前記第十項乃至第二十一項検査ノ結果ニ依レバGノ内臓中ニハ明ニ「すとりきにーね」ノ存在ヲ徴ス而シテ余ノ得タル「すとりきにーね」量ノミニテモ〇・〇〇九五アリ「すとりきにーね」ノ此ノ如キ量ハ決シテ死後周囲ヨリ滲入スルモノニ非ラザルヲ以テコハGガ生前攝取セシモノナラント思料ス

(地) 金屬性毒物検査

二十三、第十項ノ濾過残渣ヨリ殘餘ノ「あるこーる」ヲ驅逐シ「こるべん」中ニ蒐集シふれせにゆすばばー氏法ニ從ヒ濃鹽酸四〇部ヲ加ヘテ一夜放置後約三尺ノ硝子管ヲ穿通セル「こるく」ヲ以テ栓閉シ水浴上ニ加温シツ、時々開栓シテ鹽素酸加醋ノ粉末少量ヲ加ヘ振盪混和シ有機物ノ大略碎解セシ後冷却シ濾過シテ濾液(第二十九項ニ用ユ)ト残渣(次項ニ用ユ)ニ分ツ  
二十四、前項ノ濾過残渣ハ之ヲ磁皿内ニテ灰化シ更ニ硝石合劑ヲ加ヘテ靜ニ融解シ銹色ノ融解物少許ヲ得タリ冷却後之ヲ温水ニ取り炭酸瓦斯ヲ通ズルコト三十分次ニ七分間煮沸シ冷後濾過シ少許ノ銹色残渣(次項ニ用ユ)ヲ得

素水ヲ加フルニ輕濁シコハ硝酸ヲ加フルニ變化ナシ即チ亞鉛化合物ノ存在ヲ徴セズ

ロ、第二分ハ濃鹽酸ニテ酸性トナシ濾過シ濾液ニ硫酸ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ

即チ「ばりゆーむ」化合物ノ存在ヲ徴セズ

ハ、第三分ハ水浴上ニテ乾燥シ更ニ之ヲ灰化シ硝石合劑ヲ加ヘテ融解スレバ血色ノ融解物少許ヲ得タリ此融解物ヲ温水ニ取り濾過シ濾液ヲ醋酸性トナシ醋酸鉛溶液ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ

即チ「くるーむ」化合物ノ存在ヲ徴セズ

三十一、第二十九項ノ沈澱ハ黑色ニシテ稍多量アリ之ヲ硫化水素水ニテ洗滌シ「温硫化」あんもん」ニテ所置スルコト數回、濾液(第三十五項ニ用ユ)ト残渣(第三十三項ニ用ユ)トニ分ツ

三十二、第三十一項ノ残渣ハ黑色ナリ佳ク洗滌後温硝酸ニテ所置スルニ溶解スルモノ甚ダ少シ即チ濾液(第三十三項ニ用ユ)ト残渣(第三十四項ニ用ユ)トニ分ツ

三十三、前項ノ濾液ヲ磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シソノ残渣ヲ温水ニ取り濾過シ濾液ヲ以テ(イ)及(ロ)ノ検査ヲナス

本項ノ濾液ニ

イ、「あんもにあ」ヲ加フルニ無色透明ナリ

ロ、硫化水素水ヲ加フルニ白色ニ輕濁ス

即チ「びすむーと、かどみゆーむ」及銅、鉛化合物ノ存在ヲ徴セズ

三十四、第三十二項ノ残渣ヲ更ニ鹽酸及鹽素酸加里ニテ處置シ次ニ濾過後濾液ヲ水浴上ニ蒸散乾燥スレバ鮮黄色ノ残渣稍多量ヲ殘ス此残渣ヲ温水ニ取レバ皆溶解ス之ヲ以テ次ノ反應ヲナス

イ、硫化水素水ヲ加フルニ褐色ノ沈澱多量ヲ生ズ

ロ、光輝アル銅片ヲ加フルニソノ表面ニ白色ノ合金ヲ作ル此銅片ヲ「あ

すとりきにーね中毒

タリ

二十五、前項ノ銹色濾過残渣ハ水ヲ以テ佳ク洗滌シ稀硝酸ニテ所置スルニ一部ハ溶解シ(濾液ハ第二十六項ニ用ユ)一部ハ銹色ニ殘流トナリテ殘留スノ残渣ハ更ニ鹽酸ニテ所置シ濾液ニ

イ、硫酸ヲ加フルニ透明ナリ(ばりゆーむ化合物陰性)

ロ、黃血鹽溶液ヲ加フルニ濃藍色トナル

ハ、ろだん加醋ヲ加フルニ濃赤色トナル

即チ(ロ)ニ依リ鐵化合物ノ多量ニ存スルコトヲ知ル

二十六、第二十五項ノ濾液ト水浴上ニ蒸散シソノ残渣ヲ温水ニ取り濾過シ濾液ヲ以テ第二十七項乃至第二十八項ノ検査ヲナス

二十七、第二十六項ノ濾液ハ鹽酸ヲ加フルニ透明ナリ即銀化合物ノ存在ヲ徴セズ

二十八、第二十六項ノ濾液ニ

イ、硫化水素水ヲ加フルニ輕濁ス

ロ、硫酸ヲ加フルニ透明ナリ

即チ鉛及「ばりゆーむ」化合物ノ存在ヲ徴セズ

二十九、第二十三項ノ濾液ハ淡褐色透明ニシテ強酸性ナリ之ヲ磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シツ、鹽酸ノ過剩ヲ取り「こるべん」ニ移シ「あんもにあ」水ヲ加ヘテ酸性ヲ減弱シ水浴上ニ微熱シツ、硫化水素瓦斯ヲ通ズルコト數時間ソレヨリ一夜靜置シ翌朝之ヲ嗅グニ尙硫化水素臭甚シ而シテ「こるべん」ノ上清ハ褐色ニシテ黑色ノ沈澱多量アリ之ヲ濾過シテ濾液(第三十項)ト沈澱(第三十一項ニ用ユ)トニ分ツ

三十、前項ノ濾液ハ帶黃褐色弱酸性ナリ之ヲ磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シテ硫化水素瓦斯ヲ驅逐シ之ヲ三分シテ次ノ(イ)乃至(ハ)ノ検査ヲナス

イ、第一分ハ硝酸ヲ以テ酸化シ更ニ水浴上ニテ硝酸ノ過剩ヲ去リ「あんもにあ」水ヲ加ヘテ弱酸性トナシ濾過シ濾液ヲ醋酸性トナシ硫化水

るこーる」ニテ洗ヒヨク乾燥セシメタル後硝子管内ニ納メ靜ニ熱スルニ銅片ハ直ニ赤變シ硝子管ノ冷後更ニ小ナル水銀球ヲ作ル之ニ沃度瓦斯ヲ觸レシメバ赤色ニ變ズ

即チ水銀化合物ノ存在ヲ徴ス

三十五、第三十一項ノ濾液ハ濃黒褐色ヲ呈ス之ヲ小磁皿ニ集メ水浴上ニ乾燥シ少許ノ發煙硝酸ヲ加ヘテ再ビ水浴上ニ乾燥スルコト二回、少許ノ「なとるん」滴汁ヲ以テ温シ硝石合劑ヲ加ヘテ佳ク混和シ鉄鐵坩堝内ニテ靜ニ融解シ冷後融解物ヲ温水ニ取り炭酸瓦斯ヲ通ズルコト二十分銹色ノ沈澱稍多量アリ之ヲ濾過シテ濾液(第三十六項)ト残渣(第三十七項)トニ分ツ

三十六、前項ノ濾液ニハ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ煮沸冷却後硫化水素ヲ加フルニ白色ニ輕濁スルノミ即チ砒素化合物ノ存在ヲ徴セズ

三十七、第三十五項ノ残渣ハ再ビ少許ノ鹽酸及鹽素加里ニテ處置後濾過シ濾液ヲ水浴上ニテ乾燥シ温水ニ取り濾過シ濾液ニ

イ、硫化水素水ヲ加フルニ白色ニ輕濁ス

ロ、「あんもにあ」水ヲ加フルニ褐色ノ沈澱ヲ生ズ

即チ「あんちもん」及錫化合物ノ存在ヲ徴セズ

三十八、第一節第九項乃至第三十七項ノ化學的検査ニ依レバGノ内臓百三十五中ニハ毒物トシテ「すとりきにーね」〇・〇〇九五ト尙多量ノ水銀化合物ヲ檢出ス然ルニGノ死體ハ余ハ検査材料採集ノ際本節第三乃至六項ニ記載ノ如ク甚シキ屍體現象ニ陥リ埋葬期間中或時期ハ水中ニ浸漬シ居リタルノ證アルニ拘ハラズ此ノ如ク「すとりきにーね」及水銀化合物ヲ檢出ス。死前Gガ體內ニ輸入サレタル毒物ハ餘程多量ナリシナラント想像サル

第二節 胃壁検査

一、本検査物ハ前鑑定醫WSガ大正六年三月四日採集ノ上ノ内容ヲ検査ニ使用シ盡シ殘餘ノ胃壁ヲ「ふおるまりん」液ニ貯藏シ置キ同氏ノ必要上數回ソノ貯藏液ヲ交換放棄シ今日ニ至リタルモノヲ更ニ検査材料トシテ交附サ



レタルモノナリ此ノ如キ次第ナルヲ以テ本検査ニ於テハ單ニ「あるからい」

二、交附セラレタル胃壁ヲ白色平皿ニ移シ肉眼ヲ以テ精檢スルニ切開セラレタル全胃壁ハ内外面共全部着白ニシテ特ニ濃色ノ部ナクツノ内面ニハ粘膜

(甲) 一般検査

三、胃壁ノ殆んど全部七五〇瓦ヲ取り剪刀ヲ以テ出來得ル丈ケ細切シ「こるべん」ニ移シ「すた」す、おつとー氏法ニ從ヒ純「あるこる」二〇〇〇〇

(乙) 化學的検査

四、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ濾皿ニ取り扇風器ヲ以テ風ヲ送リツ、水浴上ニテ微熱ノ下ニ「あるこる」ヲ蒸散シ舍利別様ノ殘渣ヲ得此殘渣

沈澱試薬ヲ加フルニ

イ、まいてる氏試薬ニテ  
ロ、しやいぶれる氏試薬ニテ  
ハ、單寧酸溶液ニテ  
ニ、びくりん酸溶液ニテ  
ホ、昇汞溶液ニテ  
ヘ、酸化金溶液ニテ

七、第五項ニ於ケル最後ノ水溶液各數滴ヲ白色小磁皿數多ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ本項乃至第十三項ノ試験ヲ行フ

イ、濃硫酸ヲ加フルニ變色ナシ  
ロ、らんぐれー氏反應陰性  
即チ「びくろ」ときしんノ存在ヲ徵セズ  
ハ、第七項ノ可檢水ニ

イ、濃硝酸ヲ滴下スルニ褐色トナル  
ロ、つあいせる氏反應陰性(紫色)  
即チこるひちんノ存在ヲ徵セズ

九、第七項ノ可檢物ニ  
イ、葡萄糖水溶液トならん満汁極メテ少許ヲ加ヘ微温スルニ帶赤褐色ナリ

ロ、青酸加里及「ならん」満汁一滴ヲ加ヘ微熱スルニ淡黄色ナリ  
即チ「びくりん」酸ノ存在ヲ徵セズ

十、第五項ノ可檢液ヲ試験管ニ三耗取り鹽酸ヲ加ヘテ煮沸シ冷後一、二滴ノ飽和石炭酸及「くろ」るかるく「水一、二滴ヲ加フルニ白色ニシテ更ニ「あんに」あ「水ヲ滴下スルモ變色ナシ

即チ「ふえなせちん、あんにふえぶりん」ノ存在ヲ徵セズ  
十一、イ、第五項ノ可檢液ニ「みるるんす」氏試薬ヲ加ヘ加熱スルニ黄色ナリ

ロ、第七項ノ検査物ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黄色ニシテ之ニ水ヲ加フルモ變色ナシ

即チざりちる酸及ソノ鹽類ノ存在ヲ徵セズ  
十二、イ、第七項ノ検査物ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黄色ナリ

ロ、同上物ニ發煙硝酸ヲ加フルニ黄色ナリ  
即チ「あんにびりん」ノ存在ヲ徵セズ

十三、イ、第五項ノ可檢物ハ單寧酸ニテ沈澱ヲ生ズ

ロ、同上ノ検査物少許ヲ小磁皿ニ取り「くろ」る「水ヲ加ヘテ水浴上ニ蒸散スルニ無色ノ殘渣少許ヲ留メ之ニ「あんに」あ「水ヲ加フルモ著色セズ

即チ「こつふいえん」ノ存在ヲ徵セズ

十四、第五項ニテ「えー」てる「層ト分離セル原液ニならん満汁ヲ加ヘテ「あるかり」性トナシ更ニ第五項ト同様ニ「くろ」る「水ヲ以テ處置シ原液(第十八項ニ用ユ)「くろ」る「層ト分離シ「くろ」る「水ヲ以テ處置シ原液(第十八項ニ用ユ)ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ結晶性ノモノヲ有スル殘渣ヲ得タリ

十五、前項ノ殘渣ハ中性ニシテ無臭苦味アリ結晶ハ水ニ溶解シ易シ此殘渣ヲ温水ニ取り前記第六項ノ如クシ「一般」あるからい」ト沈澱試験ヲ行フ

イ、まいてる氏試薬  
ロ、しやいぶれる氏試薬  
ハ、昇汞溶液  
ニ、單寧酸溶液  
ホ、單寧酸溶液  
ヘ、びくりん酸溶液  
ヲ加フルニ皆輕濁ヲ生ズ

十六、前項ノ温水ニ取レル液ヲ小磁皿ヲ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ検査ヲナス  
イ、濃硫酸ヲ加フルニ無色ニシテ之ニ重「くろ」る「水」酸加里ノ小塊ヲ加フルニ紫色ノ條線ヲ生ズ

イ、まいてる氏試薬ニテ  
ロ、しやいぶれる氏試薬ニテ  
ハ、單寧酸溶液ニテ  
ニ、びくりん酸溶液ニテ  
ホ、昇汞溶液ニテ  
ヘ、酸化金溶液ニテ

七、第五項ニ於ケル最後ノ水溶液各數滴ヲ白色小磁皿數多ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ本項乃至第十三項ノ試験ヲ行フ

イ、濃硫酸ヲ加フルニ變色ナシ  
ロ、らんぐれー氏反應陰性  
即チ「びくろ」ときしんノ存在ヲ徵セズ  
ハ、第七項ノ可檢水ニ

イ、濃硝酸ヲ滴下スルニ褐色トナル  
ロ、つあいせる氏反應陰性(紫色)  
即チこるひちんノ存在ヲ徵セズ

九、第七項ノ可檢物ニ  
イ、葡萄糖水溶液トならん満汁極メテ少許ヲ加ヘ微温スルニ帶赤褐色ナリ

ロ、青酸加里及「ならん」満汁一滴ヲ加ヘ微熱スルニ淡黄色ナリ  
即チ「びくりん」酸ノ存在ヲ徵セズ

十、第五項ノ可檢液ヲ試験管ニ三耗取り鹽酸ヲ加ヘテ煮沸シ冷後一、二滴ノ飽和石炭酸及「くろ」るかるく「水一、二滴ヲ加フルニ白色ニシテ更ニ「あんに」あ「水ヲ滴下スルモ變色ナシ

即チ「ふえなせちん、あんにふえぶりん」ノ存在ヲ徵セズ  
十一、イ、第五項ノ可檢液ニ「みるるんす」氏試薬ヲ加ヘ加熱スルニ黄色ナリ

ロ、えるとまん氏試薬ヲ加フルニ淡黄色ナリ  
ハ、ふれーで氏試薬ヲ加フルニ無色ナリ

ニ、まんでりん氏試薬ヲ加フルニ始メ紫色ニシテ後赤色ヲ呈ス  
ホ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

即チ「あにちん、あとりびん、ぶるちん、へりとにん、ひにん、こかいん、こでいん、こにん、でるひにん、えめちん、ひおすちあみん、なるこちん、にこちん、ばべりん、ひぞすちぐみん、びるかるびん、ぞらにん、てばいん、べらとりん」等ノ存在ヲ徵セズ「すとりきにーね」ノ存在ヲ徵ス

十七、第十五、六項ノ化學的反應ニ依レバ「すとりひにん」存在ノ微標アリト雖本検査物ノ如ク死體現象ノ進行セルモノニハ蛋白質ノ分解産物タル「屍毒」ノ多ク存在スルアリテ實際「すとりきにーね」ヲ用ヒザル死體ヨリ往々化學的「すとりきにーね」類似ノ反應ヲ來スコトアルヲ以テ之ト鑑別セン爲メ次ノ生理的試験ヲ行フ

イ、七〇五蛙ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分ニシテ蛙ハ輕キ揺擗ヲ來シコハ周圍ノ刺戟ニヨリテ間代性ニ亢進ス十分ニシテ死ス  
ロ、五〇瓦ノ蛙ニ可檢液〇・三ヲ臀部ノ皮下ニ注入スルニ三分日ニ特有ナル角弓反張ヲ來ス

ハ、八〇瓦ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部皮下ニ注入スルニ二分ノ後「すとりきにーね」ニ特有ナル痙攣ヲ起シテ死ス  
即チ「すとりきにーね」ノ存在ヲ確徵ス

本検査物ニ於ケル「すとりきにーね」ハ貯藏液交換ノ爲メ大部分除去セラレ僅ニ一小部分存セルノミナレバ敢テ定量ヲ行ハズ  
十八、第十四項ニテ「くろ」る「水」ト分離セル原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後「あるかり」性ヲ呈スル迄「あんに」あ「水ヲ加ヘテ「えー」てる「水」ヲ以テ第十四項ニ於ケルガ如ク處置シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「えー」て



る「層」ヲ分離シ「えーてる」ヲ硝子皿ニ集メ静ニ蒸散シテ中性無色ニシテ弱鹽味ヲ有スル粘稠物少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ取り本項及次項ノ検査ヲナス

イ、まゐる氏試薬  
ロ、しやいぶる氏試薬  
ハ、昇永溶液  
ニ、びくりん酸溶液  
ホ、たんにん酸溶液  
ヘ、鹽化金溶液  
ヲ加フルニ何等沈澱ヲ生ゼズ

十九、前項ノ水溶液ヲ白色小磁皿ニ、三個ニ分取シ水溶上ニ乾燥シ次ノ反應ヲ行フ

イ、濃硝酸ヲ行フルニ無色ナリ  
ロ、濃硫酸ヲ加ヘ之ニ硝酸一滴ヲ加フルニ無色ナリ

即チ「あほもるひね」ノ存在ヲ徴セズ  
二十、第十八項ニテ分離セル原液ヨリ「えーてる」ヲ驅逐シ約三倍量ノ「くろゝほるむ」ヲ加ヘ十分間強ク震盪シ静置シテ原液ト「くろゝほるむ」トヲ分離シ更ニ新鮮ナル「くろゝほるむ」ヲ加ヘ同様ニ處置スルコト二回、前後三回ノ「くろゝほるむ」ヲ小硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ褐色中性ニシテ弱苦味ヲ有スル殘渣極メテ少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ取り一部ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ

イ、まゐる氏試薬  
ロ、しやいぶる氏試薬  
ハ、昇永溶液  
ニ、びくりん酸溶液  
ホ、たんにん酸溶液  
ヲ加フルニ何等沈澱ヲ生ズ

二、一、前項ニテ温水ニ浸出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ之ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ

イ、ふれえでー氏試薬ヲ加フルニ無色ナリ  
ロ、ふーぜまん氏反應陰性ヲ呈ス

(甲) 死直前病狀

二、吾人ハ先ヅ以テGノ死ハ疾病ニ起因スルモノナルヲ否ヤヲ決定セザルベカラズ一件記録ニ徴スルニ

大正〇年二月二十七日付醫師Y聽取書中ニ

問、KHノ先妻〇〇ノ姉G死亡ノ際ニモ診察シタル趣左様ナリヤ  
答、左様ナリ

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ

答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三年十月末ナリシト思フ頸部ニ「ア」リ「ラ」生ジタリト診察ヲ求メニ來リシ故ニ診察シタル所徴毒ナラント認めラレシ故其手當ヲナシ置キタル所其後一度來テ來ラズ十一月十日頃突然前ノ川邊ニテ卒倒シタリト往診ヲ求メ來リシ故行キ見タルニ已ニ宅内ニ擔ギ込ミ居リ診ルニ精神朦朧トシテ發熱三十九度餘ニ昇リ居リシ故徴毒ノ腦ヲ犯シタルモノト認め共手當ヲナシ居タル所熱度ハ段々下リタルガ十五、六日頃ヨリ輕度ノ痙攣ヲ起シ終ニ同月二十一日強度ノ痙攣換言スレバ小ナル搐搦ヲ起シ結局死亡シタル様ノ次第ニテ徴毒性ノ腦炎ト認めタリ

大正五年十二月十一日付同人調査中ニモ

八、問KHノ先妻Gヲ診察セシ時ノ顛末如何

大正三年十一月初メ頃喉ガ痛ムニ依リ見テ吳レト云フテGガ自分デ來リタルニ付診察シタルニ頸部ノ左ノ淋巴腺ガ腫大シ居リ徴毒性ノモノト考ヘ水銀劑ト「よちうむ」丁幾ヲ投藥シ二日分ヅツ二度與ヘタリ同月十二日頃川端ニテ正氣ヲ失ヒシ故來テ吳レト申シ來リシニ付往診セシニ輕度ノ痙攣アリ精神朦朧トナリ居リ毎日往診シタルガ追々衰弱ヲ加ヘ來リ同月二十一日病人ガ大變悪イカラ來テ吳レト申シ來リシヲ以テ往診セシニ搐搦ヲ起シ瞳孔ハ強直ヲ來シ已ニ危篤ニ陥リ居リシニ付注射ヲモ爲サズ終ニ死亡シタリ

中略

すとりきにーね中毒

即チ「もるひね」ノ存在ヲ徴セズ

二十二、第二節第三項乃至第二十一項検査ノ結果ニ依レバGノ胃壁ニハ稍多量ノ「すとりきにーね」ノ附著セルコトハ明ナリ但シ本検査物ニ於テハ前記(第一、十七項)ノ理由ニ依リ他ノ毒物ノ検査並ニ「すとりきにーね」ノ定量ハ之ヲ行ハズ

第三節 骨 檢 査

一、第一章ニ記セルGノ病歴ニ就テ見ルモ本章第一及第二節ノ化學的検査ニ依ルモGノ中毒セル主要毒物ハ「すとりきにーね」ナルヲ以テ第三節ニ於テハ單ニ「あるかるい」とノ検査ノミヲ行フコトセリ

(甲) 一般検査

二、採集セルGノ骨ハ上膊骨二本前膊骨二本及肋骨數本合セテ二四五・〇瓦アリソノ表面ハ淡黑色ニシテ少許ノ泥土ヲ附著ス之ヲ清拭シテ檢スルニ骨體ト骨端トノ間ニ尙明ニ接合線ヲ認め得特ニ上膊骨上端ノ如キハソノ接合比較的緩ニシテ骨體ト骨端トヲ容易ニ脱離スルコトヲ得

(乙) 化學的検査

三、今全部ノ骨ヲ鋸斷シテ薄片ヲ製シ「こるべん」ニ移シ「あるこーる」及酒石酸溶液ヲ加ヘテ温浸シ以テ第二節第三項乃至第二十一項ノ如ク處置シ「すとりきにーね」ノ有無ヲ檢スルニ陰性ナリ  
之レ恐ラクハ死後體外ニ滲透シ盡セシニヨルナラン

第三章 Gノ死因決定

一、余ハ化學的検査ニ入ルニ先チソノ必要上第一章ニ於テ已ニGノ病歴解剖所見等ノ大要ヲ述ベ而シテ第二章化學的検査ニ於テ毒物トシテノ内臟百三十五ヨリ〇・〇〇九ノ「すとりきにーね」並ニ多量ノ水銀ヲ及胃壁ヨリすとりきにーねヲ檢出セリ而シテ此等ノ毒物ハ生理的ニハ體内ニ存在セザルモノナルヲ以テ前述G死直前ノ病狀ト併セ考ヘテ死因ニ關シテハ頗ル疑問ヲ挾マザルベカラズ

十問ノ答、……保險醫ガ一度來リ診察セシ由ニテKHハ保險醫ガ流行性腦脊髓炎ト申シ居リ云々……中略

十一問、Gニ就テハ「すとりきにーね」ノ中毒ノ疑ハナカリシヤ

答、腦微毒ニテモ搐搦及瞳孔強直ヲ來スコトアルヲ以テ此時ハ中毒ノ疑ハ起サザリシ

大正六年五月十六日第三回公判始末書中證人Y訊問調査中ニ……中略

問、是迄見テ居タルニ此ノ如キ急變ハ在ル管ナリト思ヒタル様ノコトハナカリシヤ

答、ソレハナカリシ

問、死亡ノ二、三日頃ニ死ノ結果ヲ來タス可キコトヲ認めタルヤ

答、左様ニテ死亡ノ二、三日頃ニ於テ最早四、五日位ヨリ持テモノト見込ミタルガ同人ハ徴毒性ノ腦炎ニテ急變ヲ來タシ死亡シタルモノト考ヘタリ

問、何故左様ニ考ヘタルヤ

答、一月一日ニ同人ガ川邊ニ倒レタル時ヨリ左頸腺ニ腫起物ガ生ジタリ私ハ之ハ徴毒性腦炎ニ因ルモノト思ヒタルガ其時ヨリ餘程弱リ居リ死亡ノ二、三日頃ニ診察シタルトキハ漸次虚脱スル症狀ノ現ハレ居リシ故ナリ……中略……トアリ

三、要之Gハ大正三年十月末頸部淋巴腺ノ腫脹ヲ示シタル爲メソノ治療ヲ受ケソノ後同十一月十日頃突然自宅前川邊ニ於テ卒倒シ精神朦朧トナリ三十九度餘ノ熱發アリシモ治療ニ依リテ漸々解熱シ居リタル所同十五、六日頃ヨリ輕度ノ痙攣ヲ來シ同月二十一日ニ至リ強度ノ痙攣ヲ發シ終ニ死亡セルモノナリト云フニアリY醫師ハ單ニ此等ノ所見ノミヲ以テGノ死因ヲ徴毒性腦炎ニ歸セリ

四、然ルニY醫師ノ述ブル簡單ナル二、三ノ症狀ヲ以テGノ疾病ヲ徴毒性腦炎ト決定スルハ甚ダ早計タルヲ免レズ何トナレバ急性ノ熱發痙攣卒倒等ハ



該肺炎ノ症狀ニアラザレバナリ今日ヨリ見レバ之等ノ陳述ノミニ依リテハ  
單ニGガ或種ノ疾病ニ罹リタルコトヲ推知シ得ルノミニシテ何病ナリシカ  
ハ之ヲ知ルコト能ハズ從ツテソノ死因トナリ得ル程ノモノナリシヤ否ヤモ  
全ク不明ナリ

(乙) 解剖検査記録

- 五、茲ニ於テ吾人ハ大正五年三月四日WS醫師ガGノ死體ヲ剖檢シタル記録  
ヲ參考シ死因決定ニ向ツテ一步ヲ進メザルベカラズ大正五年四月十五日付  
同醫師ノ提出セル鑑定書ヲ見ルニ……前略……
- (一) 女性屍全身ノ表面殆ンド屍臘化シ身長體重等ヲ知ルコト能ハズ
- (二) 頭部、顔面、頸部、頂部、胸部、腹部、背部、左右上下肢、外陰部、肛  
門等ニ損傷異常存在セザルモノ、如キモ表面ノ皮膚屍臘化セルヲ以テ精細  
ノコトヲ檢スルコト能ハズ
- (三) 頭蓋腔内ハ既ニ腐敗軟化ニ陥リ検査ノ目的ヲ達シ得ラザルベキニ依リ  
開檢ヲ行ハズ
- (四) 胸、腹部ノ正中ヲ法ノ如ク縱斷シ次ニ胸腔ヲ檢スルニ左右肋膜ニ異常ヲ  
認メズ
- (五) 心内異常ヲ認メズ
- (六) 心臟大サ約本屍ノ手拳大ニシテ瓣膜及房室間孔等ニ異常ナク房室内ニ血  
液存在セズ
- (七) 左右肺臟著シク萎縮シテ詳細ヲ檢スルコト能ハズ
- (八) 喉頭全骨ニ異常ヲ認メズ
- (九) 脾臟、腎臟、膀胱、臟肝、子宮等死後ノ變化ヲ來シ詳細ニ檢スルコト能  
ハズ
- (十) 胃、噴門及幽門部ニ於テ堅ク結紮ヲ行ヒ其結紮ノ近傍ニ於テ切除シ清澄  
ナル硝子壺ニ採集シ置ケリ
- (十一) 小腸内ニハ汚穢草綠色ノ軟便存シ他ニ異常ヲ認メズ

(十二) 大腸内ニハ汚穢草綠色ノ軟便ヲ存シ他ニ異常ヲ認メズ……中略……  
前記解剖検査記録(十)ニ採集シ置キタル胃壁ヲ開檢スルニ汚穢赤褐色ノ流  
動性内容約百三十五存在ス依リテ右流動性内容物約七十五ヲ取り毒物「す  
とりきにーね」ノ存在スルヤ否ヤヲ検査……後略……  
トアリテ腐敗ノ進行甚シキ爲メ注目スベキ記載ナク余等ノ剖檢所見ニ於テ  
ハ特ニ然リ又極メテ必要ナル胃壁ノ性質ニ付テモWSノ鑑定書ニハ何等ノ  
記述ナケレドモ貯藏後余ニ交附セラレタル胃壁ヲ精檢スルニ内外面共全部  
若白ニシテ特ニ濃色ノ部ナクソノ内面ニハ粘膜ノ缺損剝脫異物ノ附著ヲ見  
ズ(第二節第二項參照)即チ是等解剖所見ニ依リテGモガ死因ニ對シ何等ノ  
據リ所ヲ得ル能ハズ

(丙) 檢出セル毒物ト死因トノ關係

- 六、最後ニ吾人ハ最早化學的検査ノ成績ニ依リテGガ死因ヲ決定セザルカバ  
ラズ然リ而シテ予ガ毒物トシテGノ内臟ヨリ證明セル水銀ハ醫師(第三  
章第二項參照)ガ治療ニ用ヒタル水銀劑ヨリ由來セルモノナルベキハソノ  
死直前少シモ水銀中毒ノ症狀ナキヲ以テソノ證左トス即チGノ死因ト水銀  
劑トハ何等關係ナキモノナリ
- 七、次ニ予ガ檢出シタル「すとりきにーね」ハ腐敗セル内臟百三十五中ニ〇・  
〇九五アリタリ夫レ毒物ガ身體内ニ輸入セラル、ヤ多クハ間モナク血行  
中ニ入りテ全身ニ分布スルモノニシテ又人類ノ臟器ガ腐敗シ或ハ水中等ニ  
置カル、時ハ毒物ハ外界ニ滲透シテソノ量遞減スルモノナレバモシ當人ガ  
Gノ死直後ニ毒物検査ヲ行ヒ且全身ニ分布スル「すとりきにーね」全部ヲ捕  
集スルコトヲ得ベ〇・〇九五ノ十數倍ヲ得タル事明カナリコハ「すとりき  
にーね」ノ大人ニ對スル致死量〇・〇三乃至〇・〇四五ノ數倍ニ相當ス而シ  
テ該毒ガ死後體内ニ滲入シタルモノニアラザルコトハ骨ニソノ痕跡ヲ見出  
ス能ハザルヲ以テソノ證左トス

第一及第二編ニ於ケル検査ノ結果及説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定  
ス

一、KHノ先妻G及後妻Rノ直接死因ハ「すとりきにーね」中毒ニ在リ

此鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手

同 年〇月〇日終了

大正〇年〇月〇日

京都市外田中村大溝二十一番地

鑑定人 醫師 小南又一 郎 郎

以上神經毒及心臟毒トシテ甚ダ屢遭遇スルモノニ就テ述ベタルガ、  
之ヨリ以下ノ毒物ハ法醫學的事件トシテ遭遇スルコト甚ダ稀有ナル  
モノナレバ、單ニソノ名稱ト大要トニ就テ述ベン。

八、あとりびね中毒

眞蓉ノ實、根或ハ葉ヲ食スルカ、或ハあとりびん溶液ヲ誤用スル  
ニヨリテ中毒ヲ來ス、苦味アル爲メ他殺ノ目的ニ本劑ヲ用ユルハ甚  
ダ稀有ナリ。予ハ保險金詐取ノ目的ニテ、本劑ヲ牛乳ニ混ジテ實弟  
ヲ毒殺セル實例ヲ鑑定セリ。

致死量、大人ニ對シ最小致死量ハ〇・〇七乃至〇・〇八五ナリト云  
フト雖、〇・二五乃至〇・五ヲ攝取シテ死ニ至ラザリシモノアリ。

症狀、内用後二、三分ニシテ口腔咽頭ノ乾燥、嚔下、發語ノ困難、  
聲嚙嘶嘎、顔面潮紅、瞳孔散大、從ツテ複視、筋肉震顫、體溫下降、

第三章 死因決定

- 八、「すとりきにーね」ノ大人ニ對スル致死量ノ少クトモ數倍ヲ攝取セルGガ  
間代性痙攣ヲ起シテ短時間中ニ死亡セリトセバGノ死因ガ「すとりきにー  
ね」ノ中毒死ナルコトハ殆ンド疑フノ餘地ナシ此ノ如クナルヲ以テ「すとり  
きにーね」攝取當時Gガ病身ナリシニセヨ(Y醫師曰ク腦炎)彼女ノ直接死  
因ト該病トハ直接大ナル關係ナキモノナルベシ
- 九、尙Gガ「すとりきにーね」中毒死ナルコトWS醫師ガ胃内容中ヨリ相當量  
ノ同劑ヲ檢出セシコト及胃壁等ニ特記スベキ變狀ナカリシコトモ亦ソノ證  
左トスベシ
- 十、余ガ検査セルGノ死體ノ如ク腐敗進行セルモノニ在リテハ假令「すとり  
きにーね」標物多量ヲ檢出シ得タリトモ之ニ類似セル「アトマイン」トハ充  
分ナル注意ヲ以テ鑑別セザルベカラズ余ガGノ内臟及胃ヨリ檢出セル「す  
とりきにーね」ハ明ニ針狀ノ結晶ヲ作り(第二章第一節第十五、十六、十七  
項參照)又動物ニ對シテ常ニ特有ナル痙攣ヲ來セシヲ以テ「ぶとまいん」(屍  
毒)ニアラザルコトハ明白ナリ屍毒ハ多ク結晶ヲ作ルコトナク又「すとりき  
にーね」ノ如ク特有ナル痙攣ヲ起スコトナシ

第二編 KH後妻Rニ關スル記録(全部略ス)

第一章 病歴、死後ノ經過並解剖所見

第二章 化學的検査

- 第一節 肝臟検査「すとりきにーね」陽性
- 第二節 腸及肝臟検査 同右
- 第三節 腸及ソノ附著物検査「すとりきにーね」陰性
- 第四節 骨質検査 同右
- 第五節 筋肉検査 同右
- 第六節 胃壁検査「すとりきにーね」陽性



觸覺減少、呼吸脈搏緩徐、頭痛、眩暈及痙攣等ヲ發シ、精神的ニハ恰モ狂氣センガ如ク、次デ括約筋ノ麻痺ヲ來シ呼吸及脈搏頻數トナリ、全身麻痺ニ依リテ斃ル。剖檢所見ニハ特徴ナシ。

**化學的證明**、あるかり性母液ヨリ、えーてる或ハくろろほるむニ移行シ、あとりびんノ溶液ハ沃度かり溶液ニテ沈澱ヲ生ジ、發煙硝酸ヲ加ヘテ蒸散シ、あるこほる性かり滴汁ニテ濕セバ櫻赤色トナリ、あるこほる性昇汞溶液ヲ加フレバ、先ヅ黄色トナリ次ニ瓦赤色トナリ、猫眼瞳孔ノ擴大スルコト數十時間ニ及ブヲ以テ、類似ノぶとまいんと鑑別ス。

九、でいきたりす、でいきたれいん及

でいきときしん中毒

本劑ハ甚ダ多ク醫藥ニ用ヒラルル故、ソノ錯誤ニヨリテ往々中毒ヲ來シ、或ハ之ヲ栽培スル地方ニテハ、でいきたりす葉ヲ喰ヒテ中毒スルコトアリ。中毒ノ輕症ナルモノハ、往々醫師ノ遭遇スル所ナレドモ、本劑ヲ用ヒテ自他殺ヲ企ツルモノハ甚ダ稀ナリ。

**致死量**、でいきたりすノ產地、ソノ收獲ノ時期、或ハ製劑ノ種類新古等ニヨリテ、ソノ作用程度種々ナレバ、從テ致死量亦一定セズ。  
**作用**、接觸セル局部ヲ輕ク刺戟シ、吸收サレテ後迷走神經中樞、

心臟神經ヲ犯シ、遂ニ心臟ヲ麻痺セシム。

**症狀**、本劑ヲ内用スレバ嘔氣、嘔吐、胃部ノ疼痛、腹痛、下痢、心氣充進ヲ來シ、次デ脈搏ハ非常ニ硬ク且ツ不正、遅徐、後ニハ速トナリ、頭痛、眩暈、耳鳴、視野暗黒、尿閉等ヲ招來シ、遂ニ心臟休止ニ依リ斃ル。

**剖檢所見**、本中毒ニ特有ナル所見ナシ、但シ輕キ胃腸かたゝるヲ見ルコトアリ。

**化學的證明**、でいきたりん等ノ少量ハ不變ニ尿ニ排出サルト雖モ、ソノ證明ハ困難ニシテ寧ロ胃腸内容ヨリでいきたりす葉片ヲ證明シタル時ハ鑑定確實ナリ。化學的ニハ可檢物ヲどらげんどるふ法ニテ所置スベシ、本劑ハぶちるあるこほるニテ振盪スルコトヲ得ト云フ報告アレドモ、ソノ成功ハ甚ダ困難ナリ。

十、にこちん中毒

煙草ノ濫用、或ハ灌腸劑トシテ本劑含有品ヲ應用スルコト等ニヨリテにこちん中毒ヲ來シ、或ハ自殺ノ目的ニ煙草浸出液ヲ用ユルコトアリ。我煙草專賣局ノ報告ニヨレバ各煙草ノにこちん含有百分率ハ大略左ノ如シ。

敷島一・八三。朝日一・五五。ちえり二・二三。えあふしつぶ二・一

ジ、くろろゝる瓦斯ニ觸レシメバ血赤色トナル、尙植物學的ニ胃内容等ヨリ煙草葉片ヲ檢出スレバソノ鑑定確實トナル。

十一、あこにつと中毒

あこにちんハ雙蘭菊ノ根花中ニ含有スル有毒成分ニシテ、往々自殺又ハ他殺ノ目的ニ用ヒラレ、又藥用上ノ過失ニ依リ中毒ヲ來スコトアリ。我國ニテ烏頭、とりかぶと、またかぶと、かぶとばな、ふすいも、はなづる、たりこさす、わたりぎくと俗稱スルモノノ中毒ハコノあこにつと中毒ナリ。

**作用**、接觸セル局部ヲ犯シ次デ先ヅ中樞神經竝ニ心臟神經ヲ刺戟シ、然ル後麻痺セシメ、尙瞳孔擴大中樞ヲ刺戟ス。

**致死量**、一・二匙ナリ。

**症狀**、胃部ニ刺シキ刺スガ如キ痛ヲ覺エ、嚔下困難、流涎、嘔吐、舌麻痺ノ感、知覺異常、頭部壓重、三叉神經痛アリ、脈搏幽微ニシテ不正トナリ、呼吸緩徐、眩暈、痙攣、四肢厥冷、胸内苦悶、筋力ノ衰弱等ヲ來シ、遂ニ呼吸及心動停止ニ依リ、痙攣ヲ伴ヒテ死ス。

**剖檢所見**、本中毒ニ特有ナル剖檢所見ハナシ、往々胃腸粘膜或ハ漿膜ニ腫脹或ハ溢血點アリ、尿ニハ不變ナルあこにつとヲ出シ、肝腎血液等ニ之ヲ蓄積ス。

三。リリー二・一九。こーるでんばと二・一六。胡蝶一・九〇。白梅一・五一。さつき一・五三。あやめ一・三八。はぎ一・一七  
**作用**、接觸セル局部ヲ犯シ、あとりびねニヨリ侵サルル臟器ヲ神經側ヨリ先ヅ刺戟シ次デ麻痺セシム。又神經中樞ニモ同様ニ作用シ終ニ呼吸中樞ノ麻痺ニ依リテ斃ル。  
本劑多量ヲ内用スレバ、先ヅ口内熱灼ノ感、垂涎、嘔氣、吐瀉ヲ來シ、次デ脈搏緩徐不正トナリ、發汗、瞳孔縮小、眩暈、人事不正、呼吸困難、痙攣等ヲ招來シ、慢性中毒ノ際ニハ咽頭、喉頭又をいすたきー氏管ニ於ケルかたゝる、心機昂進、視力減弱、眩暈、胃痛、動脈硬化等ヲ來シ、時トシテ精神異常ヲ惹起スルコトアリ。

**剖檢所見**、屍體及内臟ニ煙草臭アリ、咽頭、胃腸ニかたゝる性變化ヲ見、心臟弛緩シ、硬、軟腦膜充血ス、要之、にこちん中毒ニ特有ナル剖檢所見ナシ。

**致死量**、純にこちんニテハ〇・〇六五ニシテ、煙草葉ニテハソノ量ヲ確定スルコト能ハズ。

**化學的證明**、にこちんハあんもにあ性溶液ヨリ、石油えーてるニテ振盪抽出スルコトヲ得、或ハあるかり性溶液ヨリ蒸餾スルヲ得。にこちんノえーてる溶液ニ沃度ヲ加フレバ、るびん紅色ノ結晶ヲ生



化學的證明、あこにつとハ甚ダ分解シ易キ毒物ナレバ、臟器ヨリ抽出検査スルコトハ殆ド不可能ナリ、コハあるかり性母液ヨリ、くろくぼるむニ移行スレドモ、本品ヲ確實ニ證明スベキ呈色反應ハ尙未ダ發見セラレズ。

十二、綿馬えつきす中毒

綿馬えつきすハ驅蟲劑トシテ用ヒラレ、往々中毒ヲ來スコトアリ、重症ニ於テハ胃腸炎乃至神經障礙及痙攣ヲ發シ、昏睡ヲ以テ斃ル、輕症ニテハ頭痛、眩暈、視力障礙、竝ニ神經障礙及痙攣等ヲ發ス。

十三、商陸中毒

商陸ハ民間ニ山芋ト稱ヘ、水腫或ハ微毒ニ效アリトナシテ内用シ、往々中毒スルコトアリ、其症狀ハ急劇ノ嘔吐、腹痛、下痢ヲ發シ、便ハ水様ニシテ四肢厥冷シ、脈搏幽微細小、顔面紫藍色トナリ遂ニ心臟麻痺ニ依リテ死亡ス。

十四、さんとにん中毒

さんとにんハちな花ノ有毒成分ニシテ水ニ溶解シ難キヲ以テ、胃腸内ニ於ケル吸收モ從テ遅ク排泄モ亦遅ク、ソノ致死量ハ不明ナリ本劑ハ驅蟲劑トシテ用ユル爲メ、醫藥上ノ錯誤ニ依リ中毒ヲ來スコ

ト多シ。

症狀、本劑多量ヲ攝取スレバ數時間ニシテ始メテ眩暈、頭痛、不安震顫、呼吸困難及顔面筋ノ搐搦等ヲ來シ、次デ癩癩様痙攣ヲ發作ス、而シテ明所ハ黃色ニ、暗所ハ淡紫色ニ見エ、皮膚ニハ蕁麻疹ヲ生ジ、顔面ニハ水腫ヲ發シ、尿意頻數、尿閉、膀胱痙攣、黄疸、へもぐろびん尿ヲ起シ死ニ至ル、ソノ死因ハ多クハ痙攣發作ノ際ニ於ケル窒息、若クハ反復スル痙攣ニ依ル虚脱ナリ。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ハナシ、但シ本中毒死ニテハ腦ニ於ケル充血、溢血斑、黄疸等ヲ見、尿ニかり満汁ヲ加フレバ赤色ヲ呈ス。

化學的證明、さんとにんハ酸性母液ヨリ、えして或ハくろくぼるむニテ振盪抽出シ、其抽出物ヲ六十六%ノ硫酸ト共ニ熱シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ赤血色トナリ、漸時ニシテ紫色ニ移行ス、靑酸かりト共ニ融解スレバ赤色ヲ呈シ、透視スレバ綠色ノ螢光ヲ發ス、さんとにんハ臟器内ニ於テ變化シテ、證明困難トナルコト多シ。

十五、急性こかいん中毒

こかいんハこ葉ノ有效成分ニシテ、醫藥ノ誤用ニ依リ中毒スルコトアリ、或ハ嗜好品トシテ濫用シ中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ニ用

ヒラルルコトハ甚ダ稀ナリ。

致死量ハ個人的關係ニヨリテ大差アリ、通常ハ大人ニ對シ一〇瓦ナリト云フ。

作用、先ヅ中樞竝末梢神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、即チ知覺神經鈍麻シ心臟ニ於ケル迷走神經ヲ麻痺セシメ、瞳孔ヲ廣大シ慢性中毒者ニ在リテハ精神的異常ヲ來スコトアリ。

症狀、本中毒ニ於テハ、先ヅ咽頭ニ於ケル乾燥及熱灼ノ感、嚥下困難、嘔氣、嘔吐等ヲ來シ、次デ腹痛、脈搏頻數、心機昂進、瞳孔擴大、呼吸困難等ヲ見、又精神的ニハ爽快ノ感アリ、酪酊狀トナリ次デ抑壓狀ヲ呈シ、胸内苦悶、不安、ちやのいぜ、虚脱、視力減弱、知覺異常、搐搦痙攣、麻痺等相次デ來ル、慢性中毒者ハ非常ニもるひね中毒ニ類似シ、體力及精神的視力ノ減弱ヲ訴フ。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ナシ、但シ本中毒屍ニハ腦、肝、脾、腎等ニ於ケル充血、瞳孔擴大ヲ見、尿ニハ不變ニこかいんノ排出セラルルヲ認ム。

化學的證明、こかいんハあるかり性母液ヨリえしてテ振盪抽出スルコトヲ得、此抽出物ヲ精製シ、硝酸ヲ以テ水浴上ニ乾燥セシメ、更ニあみるあるこぼる性かり満汁ト共ニ加温スレバ紫色トナ

毒うつぎ中毒、まんだらけ中毒

ル、ソノ他ニハ著明ナル呈色反應ナシ、但シ此抽出液ヲ舌上ニ試ミ知覺鈍麻ノ感アレバ、略こかいんナリト推定スルコトヲ得。

十六、毒うつぎ中毒

本品ハ又いちらるべころし、ぬすみころし、うまをどろかし、みそやかす、河原うつぎ、をにうつぎ、いぼのき等ノ名アリ、本邦ニ於ケル植物中毒中、本中毒ハ最も多クシテ小兒ニ於テ食用上ノ錯誤ニ依リテ中毒スルヲ見ル、即チ毒うつぎノ果實ガ成熟シテ紅色ヲ呈スル七月ノ交ニ於テ、中毒者甚ダ多數ナリ。此果實中ニハこりあみるちんト稱スル猛毒ヲ含有スト云フ。

症狀、少量ヲ食シタル場合ニハ、食後一、二時間内外ニシテ腹痛ヲ起シ、下痢、嘔吐アルモノニシテ治スルモ、稍多量ヲ攝取スレバ口唇ちやのいぜヲ呈シ、不安苦悶、失神ヲ來シ、次デ腹痛、嘔吐、下痢、間歇性痙攣、呼吸促進、四肢厥冷、發汗、牙關緊急、全身搐搦、心機亢進、發音障礙、嗜好、人事不省等ヲ來シ、遂ニ死ス。致死量ハ四、五粒以上ニシテ剖檢所見等未詳ナリ。

十七、まんだらけ中毒

食用上或ハ醫藥上ノ錯誤ニ依リテ本品ノ中毒ヲ來ス、本品ハ俗ニきちがひ茄子或ハてうせんあさがぼト稱シ、果實ハ直徑一寸許ニシ



テ其形茄子ニ似タリ、種子ハ扁平ニシテ黒褐色ヲ呈シ西洋胡麻ト稱セラル、ひをすちあみん及あとりびんヲ含有ス。

症状、本品ヲ内用スレバ數分ニシテ早ク四肢ノ自由ヲ失ヒ、起立スルコト能ハズ、脈搏急速、嘔吐、發音障礙、顔面潮紅、皮下靜脈怒張、觸覺過敏、四肢厥冷、熱發、呼吸困難、四肢麻痺、痙攣ヲ來シ、次テ腹痛、嘔氣、頭痛、眩暈、煩渴、嚥下困難、視力及聽力減弱等アリ、服毒後數時間乃至十數時間ニシテ人事不省トナリ、譫語ヲ發シ、無意味ニ怒リ、或ハ笑ヒ、手指ノ異常運動アリ、瞳孔散大シテ光線ヲ忌ミ往々ニシテ錯覺ヲ來ス、然レドモ豫後ハ多ク良好ニシテ死スルモノ少ク、致死量ハ全ク不明ナリ。

十八、しきみ中毒

本品ハ又しきび、はなのき、はなしば、こうのき等ト云ヒ、枝葉根皮花實共ニ有毒ニシテ種子ノ内ニハしきみんと稱スル結晶性ノ毒物ヲ含ム、食用上及醫療上ノ錯誤ニ依リ、往々本品ノ中毒ヲ來ス。

症状、激烈ナル頭痛、嘔吐、瞳孔縮小、四肢厥冷、ちやのーぜ、顔面蒼白、發生性ノ痙攣、次テ全身ノ麻痺、人事不正ニ陥リ、輕症ナルモノハ數日內ニ治癒スルモ、中毒者ノ約半數ハ死亡ス、致死量ハ大人ニ對シ種子四、五十粒以上ナルベキモ未定ニシテ、剖檢所見亦詳

ナラズ、本品ノ有毒成分ハ人體內ニ入りテ後ハ直ニ變化サルルガ如ク、ソノ證明不能ナルモ、植物學的ニ未消化ノ細片ヲ檢出スルコトヲ得バソノ中毒ナルヲ鑑定スルコトヲ得。

上記ノ如ク毒うつぎ、まんだらげ、しきみ等特ニ我國ニ於テ見ラルル、草木類ニ依ル中毒ニ就テ略述シタレバ、嘗テ予等ガナセル統計ニ依レル此等各中毒ノ出現頻度ヲ表示スレバ左ノ如シ。

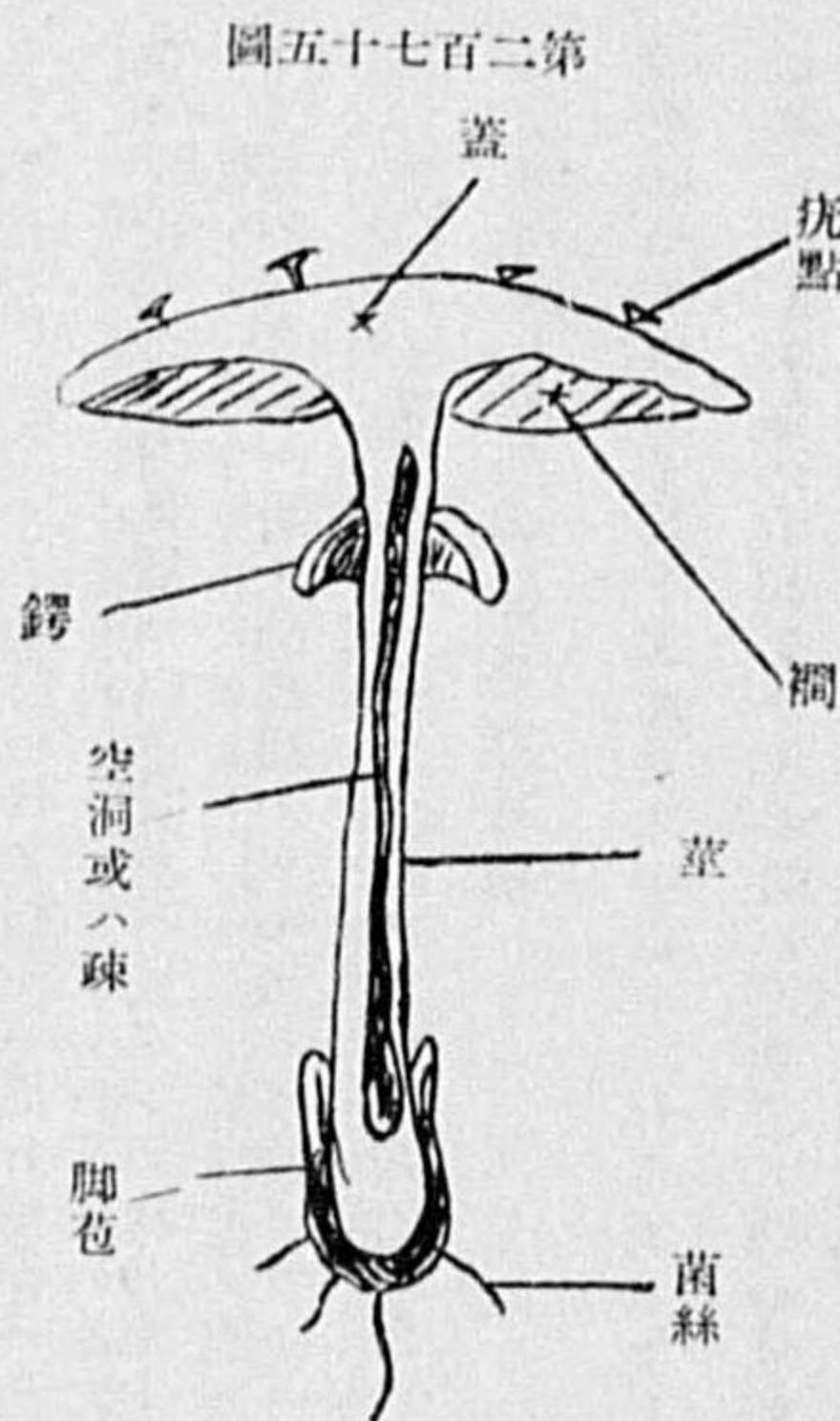
有毒植物ニ依レル中毒者三百九十五人中	
毒うつぎ中毒	百七十七例
蘇鐵樹中毒	三十例
しきみ中毒	十八例
馬鈴薯中毒	十一例
麻中毒	七例
蛇毒中毒	六例(以下中略)
まんだらげ中毒	四十七例
蓬ニ似タル不詳草中毒	二十一例
うづ中毒	十五例
商陸中毒	九例
天南星中毒	七例

戊、菌蕈類中毒

多クハ毒菌ヲ食用菌ト誤認シテ食スルニ依リ中毒ヲ來ス、我國ニ於ケル菌蕈類中毒統計ヲ見ルニ、西川氏ニヨレバ大正四年ヨリ大正七年ニ至ル四年間ニ、故意中毒八、誤用中毒四六七人アリテ内五十七人ハ死亡セリト云フ、高田氏及予ノ蒐集セル統計ニヨレバ、菌類中毒者三百四十五名中、月夜茸中毒者五十五名、一本占地中毒者十

六名、さゝ茸中毒者十三名、天狗茸中毒者十六名、軸大占地中毒者八名、千本占地中毒者七名等アリキ。

以下菌蕈類中毒ノ記載ニ付テハ西川博士(日新醫學第九年五、六號)ニ依ル所多シ、今同氏ニ從ヒ菌蕈類ノ性狀記述ニ必要ナル、菌



各部ノ名稱ヲ圖示セバ左ノ如シ。菌蕈類ヲ以テ自殺或ハ他殺スルコトハ稀有



ナリ。多クハ食用菌ト誤用シテ中毒シ、或ハ民間治療劑トシテ用ヒ中毒ヲ來スコトアリ、中毒成分ハむすかりん、ふありん、ひよりん及あとりびん等ナルガ、是等ニ化學的ニ檢出スルコト困難ナル毒物ナルガ上ニ、菌蕈類中毒ノ際ニハ特有ナル剖檢所見少キヲ以テ、未

菌蕈類ニ依ル中毒

消化ノ菌片ヲ吐物或ハ胃腸内容ヨリ檢出スルコトハ、菌中毒診斷上最モ緊要ナルコトナルガ、幸ニモ菌類ハ消化不良ノモノ多キヲ以テ此目的ヲ達スルニハ好都合ナリ。

今菌蕈類中毒ノ大要ヲ示セバ概ネ左ノ如シ。

一、玉子天狗茸中毒

蓋ノ形初メハ球形ニシテ鵝卵ノ如クナレバ此名アリ、蓋ハ後テ漸次展開スルモ上ニ反り返ルコト少ク、直徑三乃至八厘、表面ハ白色ニテ濕ヘル時ハ粘滑ナルガ、乾燥セバ平滑ニシテ光澤アリ、肉及欄ハ純白、莖ハ長ク六乃至十五厘ニ達シ、白色ニシテ内部空虚ナレドモ、初期ニハ軟ナル菌絲ヲ充シ中央ニ弛緩下垂セル鏢アリ、下端膨大シテ壺トナル、夏日山野陰濕ノ地ニ生ジ胞子ハ白色球狀ナリ。本品ハ原茸、玉子茸或ハがん茸等ト誤認シテ中毒スルコトアリ、而シテソノ毒分ハふありんと稱スルモノニシテ血球ヲ溶解スル毒作用アリ。中毒症候ハ本菌攝取後通常約十時間内外ニシテ顯ハルルモ、稀ニハ二、三時間ニテ發症スルモノモアリ。主トシテ中毒性胃腸炎ヲ來シ、心窩苦悶、胃痛、腹痛、煩嘔吐、下痢、腓腸筋痙攣等ヲ起シ其狀恰モこれら病症ニ酷似スルコトアリ、又時トシテ中樞神經性症狀ヲ見、意識濁濁、強直、痙攣、顔面搐搦、斜視、間代性痙攣、嚥



下困難、麻痺及虚脱等ヲ來シ短時間内ニ死亡ス、通常ハ中毒後二、三日ニテ死亡スルヲ普通トス。解剖所見ハ燐或ハ砒素中毒ノ所見ニ類似シ、肝、腎、心筋等ニ於ケル脂肪變性、肋膜下及肺實質内點狀出血及胃腸壁ニ於ケル毛細管出血等ヲ見ル。

### 二、紅天狗茸中毒

又ノ名赤蠅取茸又ハ足高紅茸ト云ヒ、蓋ノ徑四、五寸、形扁平、表皮紅色ニシテ初メ小ナル白砂様多數ノ疣點附着スルモ、後ニハ消失スルコトアリ、ソノ赤色ハ日ヲ經ルニ從ヒ褪色スルモ、特ニ中央部ハ鮮紅ナリ、肉及欄ハ白色、莖ハ長クシテ八乃至十五種ニ達シ、白色ニシテ内部ハ始メ蜘蛛狀ナルモ後ニ空虚トナル、莖ノ中央ニ下垂セル白色ノ皮膜様鏢ニ有ス、多クハ秋季高山地帯ニ生ジ、胞子ハ白色短橢圓ナリ。

本品ハ往々玉子茸ト誤用シテ中毒シ、有毒成分トシテハむすかりん及ビひよりんナリトセラル、而シテ本菌ノ約六分ノ一ハ十歳ノ小兒ヲ倒スニ足リ、ソノ二個ハ大人ヲ重症ニ陥ラシメ、四個ハ大人ニ對スル致死量ナリト云フ。

中毒症狀ハ食後短時間ニ發來シ、胃腸ノ症狀ハ比較的少クシテ、重ニ中樞神經ノ症狀ヲ來シ、屢酪酩發揚狀態トナリ、恰モ泥醉者ノ

ト云フ。輕症ナル時ハ三日計ニシテ全治スルモ重症ナル時ハ中毒後數日ニシテ手足厥冷シ、視力朦朧トナリ遂ニ呼吸又ハ心臟麻痺ニヨリ斃ル。

致死量ハ不明ニシテ剖檢的ニハ重ニ急性胃腸炎ノ所見アリ、法醫學的ニハ吐物或ハ胃腸ノ内容ヨリ、未消化ノ莖片ヲ檢出シテ、植物學的ニ之ヲ攻究シソノ鑑定ヲナスベシ。

### 四、一本占地中

蓋ノ大サ徑三、四寸淡灰色乃至淡黄色ニシテ、其表面平滑光澤アリ、欄ハ初メハ白色ナルモ胞子成熟後ハ淡紅色、莖ニ接スル部分ハ上方ニ彎曲シ、莖ニ接觸セズ、莖ノ長ハ平均三十五寸、徑一寸内外ニシテ白色、太クシテ且長シ、鏢ヲ有セズ九、十月頃山中ニ生ズ。本菌ハ占地、杖つき茸、梗茸等ト誤用シテ中毒ス、ソノ症狀ハ天狗茸ニ酷似セリト云フ。

### 五、毒杉茸中毒

一名汗茸トモ云フ、蓋ノ大サ凡ソ一寸圓錐形ヲナシ、表面茶褐色ニシテ光澤アリ、且編絲狀ノ纖維ヲ被リ往々ニシテ裂ケ白色ノ肉ヲ露ハセリ、欄ハ稍彎生シ初メ白色ナルモ後ニ黄褐色トナル、莖ハ長サ一寸五分乃至二寸白色纖維質ニシテ穴洞ナシ九、十月頃樅或ハ檜

菌類ニ依ル中毒

如ク昏朦、幻覺、譫語、躁狂性發作、四肢ノ震顫、顔面筋ノ搐搦、輕度ノ痙攣等ヲ來シ、遂ニハ冷汗、ちやのーゼ呼吸困難、體温下降等ヲ招來シ、攝取後十時間乃至三日ニシテ死ニ至ル、解剖所見トシテハ胃腸加答兒、肺水腫、内臟ノ脂肪變性及出血等ナリトス。

### 三、天狗茸中毒

一名蠅取茸、豹茸、蠅とまらず、蠅取占地或ハ蠅殺シト云ヒ、蓋ノ徑三乃至五寸、形狀ハ前記紅天狗茸ト同様ナルモ、唯ソノ表面茶褐色ナルヲ異トシ、小ナル白色疣點ヲ散布シ、斑紋ヲ有スルヲ以テ豹茸ナル別名ヲ有ス、欄ハ白色ニシテ幅廣ク、遊離端ハ莖ノ近傍ニテ上方ニ彎曲シ莖ニ直生セズ、莖ハ長サ四、五寸ニシテ白色中質ナルヲ常トス、九、十月頃人里近キ林野、路傍ノ陰地帯ニ生ズ。

本菌ハ蠅ニ固有ノ毒性ヲ有シ、蠅此液ヲ吸吸スル時ハ直ニ死ニ至ルガ故ニ又蠅取茸トモ云フ、其味及臭氣ニ特有ナル點點ナキヲ以テ秋季松茸、玉子茸等ト誤用シテ中毒スルコト稀ナラズ。

本菌ノ有毒成分ハむすかりんニシテ、尙内ニあとりびんヲ含有スト稱スルモノアリ、攝取後凡ソ二、三時間ニシテ渴、惡心眩暈、幻覺、嗜眠、譫語及散瞳等ヲ來スモ、本邦産ノモノニハ時トシテ胃腸ノ症狀、主トシテ顯出シ、錯覺、躁狂、意識濁濁等ヲ伴フコトアリ

等ノ樹下蘇苔ノ生ゼル土上ニ生ジ、胞子ハ茶褐色ニシテ橢圓ナリ。

本菌ニハ不快ナル臭氣アルヲ以テ誤用スルコトハ甚ダ少シト雖、赤蠅捕茸及蠅取茸ニ比シ、大量ノむすかりんヲ含有スレバ、ソノ中毒症狀ハむすかりんノ中毒ニ一致シ、通常消化管ニ異常ナク、高度ノ發汗、唾液、氣管枝液等ノ分泌亢進シ、縮腫症、徐脈及腸蠕動亢進等ノ諸徵アリ。

### 六、色變り中毒

又ノ名あはたけ、あみたけ、あいたけ、いくち或ハをせん殺シト云ヒ、蓋ノ徑一・五乃至五寸ニシテ、表面暗褐色、裏面ノ管孔面ハ鮮紅色ニシテ肉ハ黄色ナルモ、毀傷セラレテ空氣ニ觸ルルヤ忽チ青藍色ニ變ズル特徴アリ、夏期山中ニ生ズ。

本菌ハひよりんノ外ニむすかりん様物質ヲ含有シ、中毒症狀トシテハ胃腸加答兒、痙攣、昏睡等ヲ起スト云フモ、本菌ノ毒力ハソノ發生地ニヨリテ大差アリ、時トシテハ全ク無毒ノモノアリト云フ。

### 七、毒紅茸中毒

蓋ノ直徑三、四寸ニシテ初メ鐘狀ナレドモ、後ニ展開シテ平面トナリ中央ニ窪ミアリ、表面平滑ニシテ光澤ヲ有シ、鮮紅色又ハ暗赤色ナルモ、時トシテ褪色シテ殆ンド白色トナレルモノアリ、肉ハ白



色ニシテ厚ク且脆シ、欄モ亦白色ニシテ幅廣ク且疎ナリ、莖ハ質脆ク白色又ハ淡紅色ナリ、長サ一・五乃至三・〇寸初メ中實ナルモ後ニハ内部海綿狀トナル、夏秋ノ季、雨多キ時山林原野ニ生ズ、孢子ハ白色ニシテ味ハ苦烈ナリ、本菌ハ小形ナル小紅茸ト誤用スル事多シ毒成分ハむすかりん、あとろびん及びよりんヲ含有スト云フ、中毒症候ハ主トシテ中毒性胃腸炎ニシテ、時トシテこれら様症候ヲ來ス。

### 八、土かぶり中毒

一名地割リト云ヒ、蓋ノ徑三乃至八寸、漏斗狀ヲ呈シ表面平滑白色ニシテ、菌體ヲ毀損スレバ白色ノ乳汁ヲ出スコト多シ質硬クシテ厚シ、莖ハ太クシテ短ク半バ地中ニ在リ充實セルモ脆シ、夏秋山野ニ生ジ苦味アリ孢子ハ白色球狀ニシテ一般ニ毒性弱シ。

本菌ハ赤竝ニ白樺茸及初茸ト誤用スルコトアリ、本菌ノ毒成分ハ脂肪ニシテ胃腸加答兒ヲ惹起スルコトアルベシ、死ノ轉歸ヲ取ルモノハ殆ドナシ、中毒症候トシテハ咽喉、痒痒、嘔氣、心窩疼痛、惡心、嘔吐、腹痛及下痢等ヲ見ル。

### 九、からはつたけ及火傷菌中毒

蓋ノ徑五乃至一〇糎、表面平坦ニシテ白色ノ綿毛ニテ掩ハレ、中央ハ陥入シテ漏斗狀トナリ淡黄褐色ニシテ内ニ數條ノ濃黄褐色ヲ呈

スル同心環アリ、分泌セル液汁ハ白色、欄ハ淡黄褐色ニシテ薄ク且密生シ、肉ハ淡赤色ニシテ質脆シ、莖ハ長サ一、二寸表面平滑褐色ヲ呈シ斑紋ヲ有スルコトアリ、内部ハ空洞ヲ形成ス、十月頃芝原牧場等ニ生ズ。

本菌ハあかはつ茸ト誤用シテ中毒ス、ソノ毒成分ハ尙未ダ明カナラズト雖多分ハこりんナラント云フ、中毒症候トシテ特有ナルハ肢端紅痛症ヲ來シ即四肢ノ末端腫脹、潮紅、灼熱シ疼痛甚シ、發病ハ食後數時間、或ハ一、二日後ナリ、胃腸症候ヲ見ルコト少ク、重症ノ際ハ精神昏睡ヲ來シ遂ニ死ニ至ル。

火傷菌ハソノ名やぶしめじ、笹茸、やぶ茸、竹もたし、笹もたし或ハ濃もたしト云ヒ、其蓋直徑二乃至一〇糎、中央凹ミ鱗片ナク表面平滑ニシテ、橘黄色乃至暗赤褐色ナリ、欄ハ薄クシテ密、白色ナリ、莖ノ長サ一・五乃至五・〇糎、蓋ノ中央ニ附着シ空洞アリ、蓋ト同色ヲ呈シ、十、十一月ノ交、叢地ニ生ズ、ソノ中毒症候ハ前記からはつたけニ同ジ。

### 十、月夜茸中毒

本菌ハ又ノ名光りごけ、くまびら、わたり、をめき、どくかたは等ト呼ビ、蓋ノ徑二乃至七寸、半圓形圓扇形ヲ呈シ、初メハ凸圓ナ

ルモ後ニ展平トナリ、淡紅褐乃至暗紫色ヲ呈シ表面平滑ナリ。欄及肉ハ白色ニシテ一種ノ臭氣アリ、葉ハ短クシテ長サ約四五分乃至七八分、太サ四、五分ニシテ蓋ノ側面ニ附着シ秋時山毛櫨等ノ枯朽セルモノニ發生ス。

本菌ハソノ含有スル發光素ノ酸化ニヨリテ、欄ハ暗處ニ於テ磷光ヲ發ス、椎茸等ト誤用シテ中毒ス、而シテソノ毒成分ハ恐ラクハこりんナラント云フ、中毒症候ハ嘔吐、下痢、腹痛ニシテ又昏睡ヲ伴フコトアリ。

### 十一、笑茸中毒

又ノ名踊茸又ハ舞茸ト云ヒ、蓋ノ徑約一寸、原質ニシテ半球狀、平滑、表面暗赤褐色ニシテ中央部稍濃ナリ、欄ハ廣クシテ莖ニ近ク生ジ、幅約三分、孢子ノ成熟後ハ其色遂ニ黒變ス、莖ハ徑一分長サ三、四寸内部空虚ニシテ纖維質ナリ、ソノ中毒症候ハ唯中樞神經系統ヲ犯シ、酪酐狀ニ陥リ意識ヲ亡失シ、興奮ノ極歌舞跳躍ヲナスト云フ。

### 十二、裏紅いくち中毒

蓋ニ於ケル管ハ黄色ニシテ入口ハ血赤色又ハ鮮黄色ナリ、莖ノ上部ハ黄色ニシテ網狀紋アリ、いくち又ハ山鳥茸ト誤用シテ往々中毒

菌類ニ依ル中毒

ヲ來ス、中毒症候ハ多クハ一、二時間後ニ發現シ、眩暈、不快、嘔氣、頸部痒痒感、發汗、胸内苦悶、起立不能、嘔吐、不安、眼光閃發、視力及聽力減退脈搏不正、心悸亢進、煩渴胃、炎乃至下痢等ヲ發シ、終ニハ血性嘔吐或ハ血性下痢ヲ見ルコトアリ。

### 十三、鞍茸中毒

本菌ハ一名のぼりやうト云ヒ、蓋ハ結節狀ニ膨大シ外面波狀ノ皺襞ヲ呈ス、幅二乃至八糎ニシテ珈琲様褐色ナリ、莖ハ白色ニシテ長サ三乃至九糎、大サ一・五乃至三糎、圓筒狀ヲ呈ス、春秋ノ候森林中ノ砂地ニ發生ス、本菌ハ乾燥シ或ハヨク洗滌スレバ無毒トナルコトアリト云フ、本菌ノ毒成分ハへるべら酸ニシテ、尙のいりん、毒蛋白等ヲモ含有スト云フ、中毒症候ハ通常攝食後四、五時ニシテ來リ玉子天狗茸ノ中毒症候ニ酷似ス、即チ輕症ノモノハ嘔吐散腫及輕度ノ黃疸ヲ起シテ治癒スルモ、重症ノモノハ虎列拉様症候ヲ呈シ、下痢、嘔吐、腹痛、暈眩、頭痛、ちやのいぜ、冷汗、細胞虚脱ヲ來シ、時トシテ血性下痢ヲ見、次デ黃疸ヲ發シ、牙關緊急、瞳孔散大、麻痺、譫語、昏睡ヲ來シ、二日後死亡ス、解剖所見トシテハ諸臟器ノ脂肪變性、中毒性腎炎及黃疸等ヲ認ム。

### 十四、小玉子天狗茸



蓋ハ初メ鐘狀ニシテ後扁平トナル、表面平滑ニシテ淡黄色ヲ呈ス、欄ハ白色ニシテ莖ニ離生シ莖ハ下端球狀ニシテ肥大シ、上部ニハ軟カナル鏢ヲ有シ臭氣アリ、玉子天狗茸ノ一種ナリト目セラレ、其毒性ハ玉子天狗茸ニ讓ラズト云フ。

其他やなき茸(苦杉茸)毒つる茸、絹傘茸、ささくれ一夜茸、紅茸、すつぽん茸、いんき茸等アリテ中毒シ、又毒性ノ有無未定ナル狐ノ繪筆(鬼筆)狐ノ蠟燭、やぶ茸、涙菌等アリ。

巳、魚介並ニ食品中毒

予等ノ集メ得タル食用品中毒者二千二百二十一名中、ふぐ中毒者五百〇三名、えび中毒者二百十五名、さば中毒者百五十六名、かに中毒者百五名、いか中毒者七十三名、或ハたこ中毒者七十九名等ヲ最モ多シトス。

一、河豚中毒

多クハ食用上ノ中毒ニシテ、時トシテ本品ヲ食ヘバ微毒或ハ癩病ヲ治スト信ジテ内服シ中毒スルモノアリ、我國到ル處ふぐ中毒ヲ見、食品中毒中最モ多數ヲ占ム、予等ノ集メ得タル河豚中毒五百〇三名中、三百十五名ハ死亡セリ。河豚ノ身體中卵巣最モ有毒ニシテ、所謂てとろどときしんヲ含有シ、コハ神経系ヲ犯シテ麻痺症狀ヲ起

カシメ、顔面潮紅、瞳孔縮小、嘔吐、四肢厥冷、言語澀滯、全身麻痺、脈搏充進、呼吸不正等ヲ來シ、心臟麻痺ニ依リ死亡ス。剖檢所見トシテハ特異ノ徵ナク、本毒ノ化學的證明法トシテハ未ダ確實ナルモノナシ。

二、食品中毒

新鮮ナラザル肉類、えび、鶏卵焼、かに、たこ、かまぼこ、腸詰、けいぜ及筋等ヲ食スル時ハ蛋白質ノ分解産物、附着セル細菌、莢雜セル毒物、或ハたこ、えびノ如キニ至リテハ、ソノ生殖時期ニ有スル或レタル食物ノ爲メニ、多數ノモノガ一時ニ此中毒ニ陥ルコトアリ。而シテ此中毒症狀ニハ自ラ二種アリ、一ハ重ニ胃腸ヲ犯シ、即チ急性中毒胃腸かたゝるヲ起シテ、腹痛、吐瀉甚シクこれらトノ鑑別容易ナラザルガ如キ激症ヲ來スコトアリ、他ハ重ニ神経系ヲ犯シ、痙攣、麻痺、譫語等ヲ來ス。故ニ食用品中毒ナルヤ、或ハ傳染病若クハ藥劑中毒ナルヤノ鑑別ハ化學的毒物ノ證明ニ依ルノ外ナシ。即チ一面ニハ細菌學的ノ検査ニ依リテ、急性傳染病源ヲ發見スルコト能ハズ、他面ニハ化學的検査ヲ充分ナル注意ト熟練ヲ以テ行フモ、何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、而モ臨牀的症狀ガ前記食用品中毒ノ

第三百三十三表 本邦ニ於ケル細菌性食品中毒例

Table with columns: 報告者, 年, 月, 原因食, 潜伏期, 患者數, 死亡者數及死亡率(%), 原因菌, 發生場所. It lists various food poisoning incidents across different regions and times.

ソレニ一致スル時、初メテ食用品中毒ナラント診定ヲ下スベキモノニシテ、此診定ヲ下スニハ充分ナル注意ヲ要ス。但シ略時ヲ同フシ同様に食物ヲ取リシモノニ限り多數ノ中毒者アリタル場合ニハソノ診斷比較的容易ナリ。俗ニ云フクひあわせハ胃腸ノ抵抗弱キ際ニ、不消化物或ハ腐敗物ヲ食ヒタル爲メニ來レル食品中毒ナリ。予ハ明治四十四年冬かすのこ及鯖ヲ食シテ中毒死ニ至レル母子ノ一例及ビ昭和四年夏靜岡縣堀ノ内町ニテ役場新築落成祝ニ分配セル折詰ニヨリテ食品中毒來リ、三百八十三名ノ罹病者中十六名死亡セル實例ガ司法上ノ問題トナレル事件ニ遭遇セリ、即チソノ内五、六ノ屍ヲ剖檢セルニ、急性胃腸炎ノ外特記スベキ剖檢所見ナク、而モ採集セル材料ヨリハ精密ナル化學的検査ニ依リテ何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、又細菌學的ニ特有ナル細菌ヲ發見セズ、即チ死直前ノ症狀ヲ綜合シテ熟慮ノ結果、右二例ハ共ニ食品中毒死ナラント鑑定セシコトアリキ、次デ昭和十一年濱松市ニ於テ大福餅ニヨリ約二千名ノ大衆中毒ヲ來シ、其内四十一名死亡セリ、精檢ノ結果ニハけるとねる菌ガ其發病ノ原因トナリシト云フ。今我邦ニ於ケル重ナル食品中毒ヲ示セバ、大約第百卅三、四表ノ如シ。



### 第三編 法學的精神病學

#### 甲、總論

##### イ、精神病者監護法

(明治三十三年三月法律第三十八號)

第一條 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四等親内ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スル義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得

第一 後見人、第二 配偶者、第三 親權ヲ行フ父又ハ母、第四 戶主、第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四等親内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者

第二條 監護義務者ニ非サレハ精神病者ヲ監護スルコトヲ得ス

第三條 精神病者ヲ監護セムトスルキハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヘシ

前項監護ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

行政廳ノ許可ヲ受ケテ監護シタル精神病者ノ監護ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監護セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治産者ヲ監護セムトスルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第四條 精神病者ノ監護ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第五條 監護シタル精神病者治療シ死亡シ若ハ行方不明ト爲リタルトキ又ハ其ノ監護ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第六條 精神病者ヲ監護スル必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者

其ノ義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所、住所、地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止シ又ハ其ノ廢止ヲ命セラレタル者監護ヲ廢止セザルトキハ行政廳ハ直接ニ監護ヲ廢止スルコトヲ得

第八條 精神病者監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護ヲ命スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同ジ本條ニ依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ本條ニ依リ監護義務者ヲ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私宅監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ必要ナル費用ハ被監護者ノ負擔トシテ被監護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス

第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲シメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル訊問ヲ爲シメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アルモノハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ行爲ヲタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第十六條 左ニ掲ケル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス一 詐欺ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監護シ又ハ拘禁ノ程度ヲ加重シタル者

二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虛偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら診斷セシテ診斷書ヲ授與シタル者

前項第一號ノ場合ニ於テハ監護又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條 左ニ掲ケル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監護又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サズ若ハ命ヲ受ケシテ精神病者トシテ人ヲ監護シタル者

二 禁治産ノ宣告又ハ監護ノ許可ヲ取消サレ又ハ監護ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監護ノ期間ヲ經過シタル後監護ヲ廢止セザル者

三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條 左ニ掲ケル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加

精神病者監護法

シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 精神病者ノ監護ニ關シ虛偽ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二 監護義務ヲ履行スベキ順位ニ在ラザル者ニシテ許可ヲ受ケ又ハ命ニ依ルニ非スシテ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者

三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者

第十九條 左ニ掲ケル者ハ百圓以下ノ罰金ヲ處ス

一 監護ノ方法若ハ場所ヲ變更ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セザル者

二 監護義務者精神病者ノ監護ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セザル者

三 第八條第四項第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 附則

第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監護シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セントスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スベシ

第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サズシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監護ヲ廢止セザル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市區町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スベキ者之ヲ行フ

第二十二條 外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 人事訴訟手續第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命ジタル場合ニ關シテハ本法ヲ適用セズ

#### ロ、精神病者監護法施行規則

(明治三十三年六月内務省令第三十五號)

第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シ







精神病院法

右昭和參年貳月二十日本院ニ於テ診定候也  
昭和三年二月二十日

〇〇府〇〇郡〇〇村〇〇病院  
醫師 土屋 榮 吉郎

精神病者監置許可願(別紙診斷書添付)

原籍地 福井縣南條郡神山千福第五號拾貳番地  
現住所 京都市上京區出町今出川上ル青龍町七拾四番地  
族籍職業 平民乾物商  
姓名 川上金之助  
年齡 當二拾五年

監置場所 京都府愛宕郡岩倉病院内

右者精神病ニ罹リ監置治療相受度候ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ得タル上入院可爲致之處不穩ノ状態ニテ其暇無之候間明治三十五年内務省令第拾五號精神病者監置法施行規則第四條ニ據リ貴署ニ於テ監置ノ義御許可相成度別紙醫師診斷書相添此段奉願候也

昭和參年貳月 日 右監護義務者父戸主

川上 太郎 兵衛

〇〇警察署長〇〇〇〇殿

精神病者入院監置許可願(別紙診斷書添付)

原籍地 福井縣南條郡神山千福第五號拾貳番地  
現住所 京都市上京區今出川上ル青龍町七拾四番地  
族籍職業 平民乾物商  
姓名 川上金之助  
年齡 明治參拾七年九月參日生

右之者精神病ニ罹リ治療上監置ノ必要有之候ニ付京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置致度候間御許可被成下度別紙醫師診斷書相添此段願上候也

昭和三年二月二十二日本院ニ於テ診定候也

京都府愛宕郡岩倉町岩倉病院  
醫師 土屋 榮 吉郎

昭和參年貳月 日

右監護義務者父戸主

川上 太郎 兵衛

京都府知事〇〇〇〇殿

精神病者監置場所變更再監置届(診斷書添付)

滋賀縣栗太郡常盤村字支那百五拾八番地平民農  
冬 野 少 吉

明治參拾年拾月五日生

右者精神病ニ罹リ大正拾四年四月拾八日附貴廳指令第二五八九號ノ許可ヲ得京都帝國大學醫學部精神科へ入院監置致シ同年拾貳月貳拾五日退院監置廢止仕候然ルニ今般同病ノ再發ニ依リ本日京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置場所變更再監置致シ度候間別紙醫師診斷書相添此段御届申上候也

昭和參年貳月貳拾日

右監護義務者夫戸主

冬 野 進

滋賀縣知事〇〇〇〇殿

診斷書

岡山縣吉備郡新本村字長谷一〇二一番地

木 村 長 太郎

明治貳拾年拾月八日生

病名 癲癇性痴呆病

發病 不明

疾病狀態 目下輕快ス

昭和三年二月二十二日本院ニ於テ診定候也

監置廢止御届(輕快診斷書添付)

原籍 岡山縣吉備郡新本村字長谷千百貳拾壹番地  
族籍職業 平民農  
姓名 木村長太郎

監置許可指令 昭和貳年八月五日岡山縣指令第五九二三號  
年齡 明治貳拾年拾月八日生  
有置廢止事由 輕快退院  
監置廢止日付 昭和參年貳月貳拾日

右者精神病ニ罹リ貴廳ノ許可ヲ得京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置中之處今回許置廢止候間別紙醫師診斷書相添此段御届仕候也

昭和參年貳月貳拾日

右監護義務者妻

木 村 綾 野

岡山縣知事〇〇〇〇殿

精神病者再監置届(診斷書添付)

京都府久世郡淀町字新町參百貳拾五番地  
平民 理髮業 松 本 竹 次 郎

明治貳拾五年五月貳拾日生

右者精神病ニ罹リ大正拾五年貳月拾五日貴廳指令第一二二六號ノ許可ヲ得京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置致シ昭和貳年八月八日退院監置廢止仕候然ルニ今般同病ノ再發ニ依リ本日同院へ入院再監置致シ度候間別紙醫師診斷書相添此段御届仕候也

昭和參年貳月貳拾日

右監護義務者妻

松 本 ム メ

京都府知事〇〇〇〇殿

尙此等各願届書々式ニ付テハ、各府縣ニ於テ多少ノ規定ヲ異ニスル所アレバ、注意ヲ要ス。

法醫學的精神病學

一、緒 言

法醫學的精神病學トハ人ノ精神狀態ヲ探究シテ立法、司法乃至行政ニ科學的補助ヲ與フル學問ニシテ、換言スレバ、應用精神病學乃至犯罪心理學ノ一部ナリ。即チ法醫學的精神病學ハ立法者ニハ立法ノ基礎トナルベキ智識ヲ供給シ、或ハ行政官ニハ精神病者取扱等ノ便宜ヲ與フト雖、ソノ最モ重要ナル事業ハ法術ニ訴ヘラレタル人ノ精神狀態ヲ調査診定シテ責任能力者ナルヤ否ヤヲ判定シ、司法官ヲ補助シ法ノ適用ヲ誤ランメザルニ在リ。茲ニ於テカ吾人ハ精神狀態鑑定ノ必要上、犯罪若シクハ犯罪人ニ關スル大體ノ智識ヲ得ルノ必要ヲ感ズ。一般ニ法律上犯罪トハ故意若シクハ過失ヲ伴フ責任能力者ノ反社會的行爲ニシテ、刑罰法規ニ列學セラレタルモノヲ云ヒ、所謂法ナケレバ罰ナキノ謂ニシテ、嘗テ或ハ現今ニ於テモ或社會ニテハ殺人モ窃盜モ單ニ罪トセザルノミナラズ、勇者ノ行爲トシテ稱讚セラルル所サヘアリ、故ニ犯罪ノ觀念モ時トニヨリ大ニ其意義ヲ異ニス、但シ吾人ガ以下述ブル犯罪ノ意義ハ、現代ノ文明國ニ於ケル普通ノ觀念ヲ以テ、之ヲ取扱ハントス。

天、犯罪者ノ分類











尙犯罪者ハ犯行後、内省的ニ満足、悔悟、寂寞乃至孤獨ノ感アリ、不知不識ノ間ニ社會的壓迫ヲ感ジ外圍ヨリ蔑視乃至疎外セラルト思ヒ、所謂、犯罪者ニ友ナシトナシ自ラ進ンテ社交ヲ避ク、其他犯罪者ハ尙自己の辯解、自暴自棄乃至良心ノ呵責ヲ感ジ、酒ニヨリテ之ヲ忘レントシ或ハ遊蕩ノ巷ニ入り自ラ慰ム、反之、時トシテ所謂、犯罪虚榮ナルモノアリ、犯罪者ト名ヅケラルル位ナラバ小盗ト云フヨリモ寧ロ大盗ト云フニ如カズト、自己ノ犯罪ヲ誇大化シテ得々タルガ如キアリ、或ハ死刑囚ガ死ニ就ク際シ我犯罪ノ世評ヲ氣ニスルガ如キ、實ニ興味深キ心理状態ナリト云フベシ。

玄、精神病者ト犯罪

然リ而シテ犯罪者ニハ精神病者多キコトハ已ニ一般ニ知悉サルル所ニシテ、杉江氏ノ報告ニヨレバ巢鴨病院ノ在院患者四百二十五名中、ソノ過半数ニ犯罪モシクハ不良行爲アリタリト云ヒ、あつしやつふえんぶるぐ氏モ亦精神病患者ヲ調査シ其四十三%ハ犯罪性精神病者ナリシト云ヘリ。

今大正二年乃至五年ノ日本刑事統計年報告ニヨレバ、犯罪者中心神喪失ノ理由ニ基キ不起訴モシクハ免訴トナリタルモノ千二百二十五名ニ就キ、ソノ罪質及件數ヲ示セバ左ノ如シ。

第三百三十七表

罪質	不起訴	免訴	計	百分率
殺人	一八七	七六	二六三	一三・三七
傷害	一〇七	三	一一〇	九・六〇
窃盜	二九九	一	三〇〇	二六・六七
放火	二二二	二六	二五八	一三・九三
詐欺	四二	一	四三	三・八〇
其他	一四〇	一一	一五一	一三・三〇
計	一〇〇七	一一八	一一二五	一〇〇・〇〇

即チ之ニヨリテ見ルモ犯罪人中ニ如何ニ精神病者多キカヲ知ルニ足ルベク、其他受刑者中ニモ随分精神異常者アリ、又累犯者ニハ所謂精神の中間者多ク、ねめと氏ニヨレバ六千四百九十八人ノ在監者中、六百五十人ハ變質者(二〇・七%)、八百四十六人ハ酒客(二二・八%)ニシテ、初犯者中ニハ變質者及酒客八・九%ナルニ、累犯者中ニハ三九・七%アリシト云フ。

尙一般ニ猥褻行爲者ニハ癲癇者、變質者、痴呆、痴愚及酒客等多ク、殺人犯人ニハ痴愚、癲癇性變質者、放火犯人ニハ痴愚、婦人、幼者等ヲ見ルコト多シ、其他不良少年、浮浪者乃至賣笑婦等ニモ精神異常者、或ハ精神低格者等多シト云フ。

黄、病的心理ニヨル犯罪

ルヲ云ヒ通常之ヲ分チテ錯覺及幻覺トス、前者ハ刺戟ニ適應セザル知覺ニシテ、之ヲ錯視、錯聽、錯味、錯觸乃至錯嗅等ト云ヒ、例へバ、夜中石燈籠ヲ盜賊ト見、風聲ヲ戸ヲ叩ク聲ナリト聽クガ如キ之レナリ。時トシテ或刺戟ニ相當シタル感覺ヲ來スト共ニ、他ノ感覺ノ生ズルコトアリ之ヲ續發性感覺ト云フ。

後者ハ何等ノ刺戟ナクシテ起ル知覺ニシテ、幻味、幻聽、幻視、幻嗅乃至幻觸ト云ヒ、例へバ物ナキニ空中ニ妖怪ヲ見、或ハ何等ノ裝ナクらちおヲ聞キ、故ナク食物中ニ毒嗅アリト云フガ如キ之レナリ。

是等ノ妄覺ハ多ク判斷力ノ衰弱セル精神病者ニ來ルモノナルモ、時トシテ精神發育弱キ小兒、婦人或ハ強ク心身ノ疲勞セルモノ等ニ來ルコトアリ。例へバ小兒ガ往々幽靈ヲ見、斷食セル不眠ノ迷信者ガ神佛ノ聲ヲ聞キ、或ハ其妻ヲ幻視スルガ如キ、或ハ過度ニ疲勞セル難船者數十人ガ同時ニ打掃ヒテ救助船ヲ望見シ、如何ニ追跡スルモノソノ實物ニ遭遇スルコト能ハザルガ如キ、或ハ自己ノ考フルコトガ直ニ目前ニ見ユルコトアリ、之ヲ有形考慮ト云ヒ、若クハ自己ノ思フコトガ直ニ言語トナリテ聞ユルコトアリ、之ヲ有聲考慮ト云フ、自己暗示的神懸ニハ往々此状態ニ陥レルモノアリ。

(甲) 智能界ノ障礙

而シテ或病的心理ニヨリテ精神病者ガ犯行ヲ爲シタル疑アル場合、一般ニ犯罪者ノ智的方面ノ缺陷ニハ相當ナル注意ヲ拂フモ、精神界ノ他ノ二大方面タル感情及意志ノ障礙ニ就テハ、左程重キヲ措カザルヤノ憾アリ、之レ大ナル誤謬ト云ハザルベカラズ、何トナレバ、精神界ヲ假リニ大別シテ智情意ノ三要素トスレバ、ソノ何レニ障礙モシクハ缺陷アルモ之ヲ健全ナル精神ト見做スコト能ハズ、故ニ精神状態鑑定ノ際ハソノ何レヲモ平等ニ取扱ハザルベカラズ、往々犯罪者ガ犯行ノ方法ヲ良ク考へ、或ハ其際ノ行動ニ大過ナシナドノ理由ヲ以テ、精神ニ障礙ナクシテ敢行サレタル犯罪ナリト連斷スル人アルモ、コハ精神界ノ全方面ニ眼ヲ放タザリシ爲メニ來リシ誤謬ニシテ、之レ犯時ノ精神状態ヲ研究スルモノノ心セザルベカラザルコトナリ。即チ茲ニ如何ナル病的心理ニヨリテ、精神病者ガ往々犯罪ヲナスモノナルヤノ大要ヲ略記セン。

(イ) 精神異常者ニアリテハ常人ニ比シ或刺戟ヲ非常ニ強ク、或ハ之ニ反シ甚ダ弱ク感ズルコトアリ、前者ヲ感覺過敏症、後者ヲ感覺鈍麻症ト云フ、或ハ感覺ノ常人ニ比シ全ク倒錯セルモノアリ、次ニ知覺ノ障礙ハ所謂妄覺ニシテ、コハ刺戟不相當ノ知覺ヲ來シタ



然り而シテ此妄覺ニヨリテ往々犯罪ヲ惹起スルコトアリ、即チ罵詈惡口ヲ幻聽シテ假想ノ發言者ヲ傷害シ、食物ニ毒アリト幻味シテソノ加害者ト思フ人ヲ斬リ、或ハ神ノ命令ト信ジテ故ナク人家ニ放火スルガ如キ、其二三例ヲ舉ゲタルニ過ギズ、又妄覺アル證人ヲ取調ブル際ノ如キモ、ソノ供述ヲ如何ナル程度迄信用スベキカハ、十分ナル考慮ノ必要アルモノトス。

(口)領解ノ障礙、一旦知覺シタルモノヲ已ニ有スル潛在觀念ト照合シテ深ク識ルヲ領解ト云ヒ、物ヲ知覺スルモ領解スルコト能ハザルヲ認識不能症ト稱シ、疲勞時、興奮時等ハ物ヲ知覺スルコトヲ得ルモ領解スルコトヲ得ザル場合アリ、人物誤認ノ如キ之レナリ。

(ハ)注意障礙、多數ノ判裁中ヨリ任意ニ其一ヲ選擇シテ、明瞭ニ之ヲ知覺領解スルヲ注意スト云フ、注意ノ喚起セラルルハ判裁ノ強度及情調、潛在觀念ノ多少等ニヨルモノニシテ、一定ノ判裁ニヨリテ自ら注意ヲ向クルヲ能動的注意ト名ヅケ、他ヨリ促サレテ之ニ注意ヲ集中スルヲ被動的注意ト云フ。往々妄想ニ氣ヲ取ラレ或ハ一事ニ熱中スル時ハ、他事ニ注意ヲ向クルコト困難ナリ、之ヲ注意固着セリト云ヒ、時トシテ注意ヲ一事ニ固定スル能ハズシテ一ヨリ他ニ容易ニ轉移スルコトアリ、之ヲ注意散漫ナリト名ヅク。

リ。即チ病的醗酵中數人ヲ殺傷シテ之ヲ記憶セズ、殺人後發狂ヲ企テ其殺人行爲ヲ知ラズト云ヒ、癲癇ノ發作中種々雜多ナル行爲ヲナシテ、之ヲ想起スルコト能ハザルガ如キ之レナリ。時トシテ記憶不良ナルモノガ、往々記憶ノ缺陷ヲ諸種ノ想像ヲ以テ補綴スルガ爲メ、追想ハ全ク虚談トナルコトアリ、ソノ甚シキモノヲ虚談症ト云ヒ、低能者ひすてり或ハ癡呆性精神病者等ニ之ヲ見、彼等ハ全ク惡意アルニアラズシテ種々ノ虚談潤色ヲナスモノナリ。故ニ此ノ如キ精神缺陷者ガ原告或ハ被告トナレル際ニハ、ソノ甲立ノ眞實性ニ就テハ、十分ノ注意ヲ以テ評價スベキモノトス。

時トシテ記憶ノ障礙ノ爲メ他人ヨリ委任セラレタル金品ノ交付期限ヲ忘レ、或ハ契約ヲ履行スルヲ忘却シテ對者ニ損害ヲ被ラシメ、或ハ自己ノ職責ヲ忘レテ官吏服務令ニ違反シ、不實ノ供述ヲナシテ偽證ノ罪ニ問ハレ、或ハ奇異誇大ノ流言ヲナシテ世人ヲ惑ハシ、以テ諸種ノ犯罪ニ該當スルコトアリ。

(ホ)次ニ想像ハ記憶ト異ナリ實際知驗ノ單ナル再生ニアラズ、之ニ一定ノ觀念ヲ結合シテ新ラシキ觀念ヲ生ゼシムル作用ナリ、而シテ或目的ノ爲メニ新ラシキ考ヲ案出スルヲ工風力ト云ヒ、目的モナク任意ニ考フルヲ空想ト云フ。即チ此想像ニモ昂進ト減退トア

小兒或ハ精神薄弱者ハ注意散漫ニシテ、常人ノ甚シク疲勞セル時ノ如キモ亦然リ、此ノ如キ場合ニ精密ナル仕事ニ従事スル時ハ、往々ニシテ必要ナル事ヲ觀過シ過失ノ罪ヲ犯スコトアリ。

(ニ)記憶及記銘ノ障礙、記銘トハ知覺像ノ痕跡ヲ保存スル能力ニシテ、記憶力トハ一旦得タル知覺ヲ再生セシムル能力ナリ、故ニ記銘力ニ障礙アル時ハ事物ノ知驗ヲ腦裡ニ殘存スルコト困難ニシテ、新事實ヲ速ニ忘レ去ルガ如キ之レナリ、通常記銘ハ若年者ニ強ク老年者ニ漸次薄弱トナルモノナリ、而シテ一時的ニハ疲勞、嗜眠、醗酵、感動乃至頭傷等ニヨリ記銘ノ障礙ヲ來シ、病的ニハ癡呆性精神病者ノ症狀トシテ來ル。

次ニ記憶力ニ障礙アル時ハ往時ニ於ケル經驗ヲ再生想起スルコト困難乃至不可能トナル、即チ前記ノ如ク記銘不良ナル時ノ知驗ハ追想モ亦困難ニシテ、全ク追想力ヲ失フ時ハ之ヲ健忘症ニ稱レリト云フ。

一般ニ健忘症ヲ分チテソノ分量ノ關係ニヨリ部分性或ハ全部性健忘、時間上ヨリシテ一時性或ハ持續性健忘、ソノ進行ノ方向ニヨリテ、前進性、後進性及遲發性健忘等ニ大別ス。例ヘバ醗酵、腦震盪、絞殺頸或ハ癲癇發作等ニ際シ、諸種ノ健忘ヲ來スコトア

ルハ言フ俟タズ、一般ニ小兒、婦人、ひすてり患者及變質者等ニ於テハ想像力昂進シ、反之精神薄弱者ニアリテハ減退スルヲ常トス、而シテ彼等ハ追想不良ナルガ故ニ、想像昂進スル時ハソノ虚談症ハ益々著明トナル。

(ヘ)抽象障礙、吾人ハ數多ノ觀念群中ヨリ或觀念ニ共通類似セル點ヲ抽出シ、夫等ヲ集合シテ其概念ヲ構成スル能力ヲ有ス、之ヲ抽象力ト云フ、即チ此力アルニヨリ吾人ハ能ク具體的觀念ヨリ形而上ノ概念ヲ構成スルコトヲ得ルモノナリ、而シテ此概念ノ構成ハ無教育者、及ビ精神薄弱者ニハ著シク貧弱ニシテ、例ヘバ痴愚者ハ窃盜乃至殺人ノ惡事ナルヲ知ルモ、罪惡ナル概念ノ如何ナルモノナルヤヲ、十分會得スル能ハザルガ如キ之レナリ。

(ト)觀念聯合障礙、觀念聯合ハ記憶、思考及ビ判斷等複雜ナル精神作用ノ結合ヲ要スルモノニシテ、ソノ意義ニヨル聯合ヲ内聯合ト云ヒ、然ラザルモノヲ外聯合ト云フコトアリ、内聯合ニハ一部ヨリ全部ヲ聯想スル上位聯合、一部ヨリ一部モシクハ全部ヨリ全部ヲ思出ス同位聯合、全部ヨリ一部ヲ聯想スル下位聯合、或觀念ヨリ之ニ從フ觀念ヲ思出ス賓位聯合、因果ノ關係ヲ聯想スル因果聯合等アリ、次ニ外聯合ニハ同時聯合、類音聯合、口調聯合等ヲ區



別シ、而シテ此等觀念聯合ノ障礙ハ直ニ精神作用ノ障礙ヲ來サシム、而シテ觀念聯合ノ遅徐トナルハ精神薄弱者、憂鬱者等ニシテ、ソノ速進スルハ興奮時及酩酊ニ在リ、特ニ酩酊時ニハ類音聯合多シトナス。前者ハ言ヲ左右ニ托シ居ルガ如ク見エ、後者ハ出鱈目ヲ云ヒ居ルガ如ク見ユル故注意スベシ。

(子)考慮障礙、吾人ガ或考慮ヲ表出セントスルニハ先ツソノ目的或指導觀念ヲ定メ、之ニ關係アル觀念群ヲ選擇排列スルノ要アリ、故ニ觀念聯合ノ障礙アラバ考慮モ亦自ラ障礙ヲ被ルハ自然ノ數ナリ、例ヘバ老人或ハ精神薄弱者ハ考慮拙ナル爲メ、ソノ表出ガ目的觀念ニ違スルニハ、頗ル迂遠冗長ヲ極ム、時トシテ或觀念ガ考慮中ニ絶ヘズ浮出シテ去ラズ、到底之ヲ排除スルコト能ハザルコトアリ、之ヲ優越觀念ト云ヒ之ニ似タルモ理由モナキ觀念ヲ湧出シ、之ヲ除カントスレバ益々強力トナル之ヲ強迫觀念ト呼ビ、コハ神經者或ハ憂鬱病者乃至ひすてり患者等ニ屢々現出スルモノアリ。

考慮ノ進行促進スルモノハ酩酊者、躁病患者等ニシテ、甚シキハソガ輕移奔逸シテ談話ニ系統連絡ヲ缺クコトアリ、或ハ思考錯亂セルモノニアリテハ單ニ無意味ノ音聲ヲ羅列セルニ過ギズ之ヲ

々判斷及推理ニ誤謬ヲ來ス之ヲ妄想ト名ヅク、換言スレバ妄想トハ一種ノ錯誤の所信ナリ、故ニ妄想ハ他ヨリ如何ニ其誤謬乃至矛盾ヲ力説スルモ、毫モ之ヲ訂正變更スルコトナキヲ特徴トシ、之ヲ以テ精神健常人ニ來ル誤信乃至迷信ト鑑別スルコトヲ得、即チ誤信及迷信等ハ他ヨリ其反證ヲ擧ゲ來ラバ、容易ニ之ヲ訂正スルコトヲ得ルモ、妄想ハカカルコトニヨリテ却テソノ強度ヲ増シ、或ハ系統的ニ變ジ所謂妄想城府ヲスラモ形成スルコトアリ。

然リ而シテ、妄想ハ全ク原發的ニ來ルコトアリ、或ハ幻覺、錯覺ニ誘發サルアリ、或ハ感情ノ激發、意識濁濁、精神薄弱、追想錯誤等ニヨリテ顯出スルコトアリ、而シテ妄想ノ種類ハ極メテ大ク、誇大性、發明性、及ビ色情性妄想ノ如キハ、一括シテ發越性妄想ト云ヒ、反之、抑鬱性妄想ニ屬スルモノハ罪業性、追跡性、關係性、嫉妬性、化身性、憑依性、貧困性、心氣性及虛無性妄想等ナリ、是等ハ夫々凡ソ名詮自稱ノ意味ヲ有スレバ一々之ヲ説明セズ、例ヘバ化身性妄想ニ於テハ男ニシテ女化シタリト妄信シ、憑依妄想ニ於テハ神或ハ狐狸等ニ取り付カレタリト思惟スルガ如キ之レナリ、尙妄想ニハ一時性ノモノアリ或ハ持続性ノモノアリ、

語臆ト云フ、反之、鬱病者及神經者等ノ沈鬱時ニ於テハ、考慮ノ進行ハ甚シク遅徐トナリ思想ノ發表極メテ貧弱單調トナル、之ヲ考慮制止ト云フ、往々ニシテ思考錯亂シ或ハ考慮制止アル爲メ訊問ノ際、言ヲ左右ニ托スルガ如ク思ハレ、意想奔逸スルヲ見テ、出鱈目ヲ云ヒ居ルガ如ク思惟サル事アリ。

時トシテ、強迫觀念ガ優越ナル勢力ヲ有シ、常ニ思考ノ中心ヲ占居シテ甚シク強迫的ニ病者ヲ壓迫シ、病者ハソノ惡事ナルヲ知リツツモソレニ左右セラレテ不快不安ニ陥リ、此病的觀念ノ命令ニ從ハバ一時ハ安易ヲ感ズルモ、然ラズンバ容易ニソノ不安ヲ脱出スル能ハザルコトアリ、爲メニ一時ノ安易ヲ得ントシ或ハ止ムナキ苦悶ニ驅ラレ、諸種ノ犯罪ヲ敢行スルコトアリ、例ヘバ潔癢、水淫、穿鑿、計算癖等ニヨリ家宅侵入ヲナスガ如キ之レナリ。

(リ)判斷及推理ノ障礙、多クノ命題ノ意義ヲ斷定スルヲ判斷ト名ヅク、其内ヨリ更ニ新ラシキ命題ヲ構成スルヲ推理ト云フ、而シテ此推理ニハ歸納的ノモノト演繹的ノモノトアルハ言ヲ俟タズ、而シテ此判斷及推理ハ精神健常人ニテモ、觀察ノ粗漏ナルコト、熟慮ヲ缺クコト、乃至偏見ニ捕ハルルコト等ニヨリテ往々誤謬ニ陥ルヲ免レズ、低能者或ハ精神病者ハソノ病的心理ニ驅ラレテ、往

遂ニ一生不拔ノ妄想城府ヲ作ルコトスラモアルモノナリ。此ノ如キ有様ナレバ妄想ガ犯罪ノ原因トナルコト甚ダ多ク、通常ノ考ヘ方ニ於テ非常ニ奇妙ナル動機或ハ原因不明ノ犯罪アラバ、先ヅ眼ヲ此方面ニ向クル必要アルナリ、例ヘバ被害妄想アル患者ガ假想ノ仇敵ヲ斬リ、嫉妬妄想アルモノガ假説ノ姦夫ヲ害スルガ如キ、或ハ罪業妄想ニヨリ自殺ヲ企ツルガ如キ之レナリ。

(ヌ)智力薄弱、先天性ニ智力薄弱ヲ來スモノハ白痴、痴愚及魯鈍等ニシテ後天的ニハ諸種ノ痴呆症、中毒症、老耄病、腦疾患及外傷等ニ精神薄弱ヲ顯出ス、而シテ此等ハソノ思慮淺薄、判斷力十分ナラズ、意志ノ被影響性ニ富メルガ故ニ憤激シ易ク、他人ノ犯罪ヲ模倣シ、或ハ他人ニ教唆セラレテ、諸種ノ犯罪ヲ來スモノニシテ犯罪者中痴愚者ハ甚ダ多キモノナリ。

(ル)意識障礙、意識トハ外界ヨリ來ル刺戟ヲ精神作用ニ變化スル力ナレバ、完全ナル無意識狀態ト清明ナル意識狀態トノ間ニ、濃淡種々ノ程度ノモノアリ。即チ無差別、昏迷、嗜眠、譫妄乃至朦朧狀態ヲ指シ、此等ノ意識濁濁狀態ニ在リテハ、外界ノ事物ヲ了解スルコト正シカラズ、注意不完全ニシテ、考慮ノ進行ハ妨害セラレ、判斷ニ誤謬多ク、記憶不良、感情ノ發露十分ナラズ、行爲ハ



衝動性無目的トナリ、精神ハ一般ニ茫乎トシテ、外界ノ認識ハ不確實、往々妄覺妄想ヲ伴フモノナリ。而シテ此意識濁濁中ノ行爲ハ多クハ追想不能ナルカ或ハ不十分ニシテ、事實ヲ錯誤シテ追想スルコトアリ。此内悟性謬妄状態ニ於テハ外見上意識清明ノ如ク行動シナガラ、ソノ實精神内界ノ甚シク濁濁セルモノアリ、コハ犯罪學上最モ注意ヲ要スベキモノナリ。

次ニ意識全ク缺如スル場合ニハ犯行ヲナスコト少ナシ、然ルニ意識濁濁スレドモ朦朧ナガラニモ外來ノ刺戟ニ對シテ反應ヲ呈スルコトアリ、之ヲ朦朧状態ト稱シ往々此間ニ種々ノ犯罪ヲナス。一般ニ意識障礙ハ睡眠、酩酊、感動、月經時、分娩時、頭部外傷、高熱及中毒等ニヨリテ來ルモ、特ニひすてり及癲癇ニ來ル朦朧状態ニ種々ノ犯罪ヲ惹起スルモノアリ。即チカカル患者方朦朧状態ニ陥ラバ、亢奮、躁暴、苦悶乃至謬妄等ヲ來シ、恐怖性や被害性ノ幻覺又ハ妄想ヲ有シ、爲メニ種々ノ危害ヲナシ、時トシテ同一人ニテ異ナレル意識状態ニ相當シ、相違セル二種モシクハソノ以上ノ人格ヲ有スルコトアリ、之ヲ二重人格者ト云フ。而シテ此朦朧状態ノ持續ハ、短キハ一、二時間ナルモ、長キハ數週乃至數ヶ月ニ互ルコトアリ、此間ニ於テ兩者ハ往々萬引、放火、家宅侵入、猥

シ、甚シク殘酷ナル犯罪ヲナスコトアリ。

次ニ精神感動甚シキ時ハ常人ニテモ多少意識濁濁ヲ免レズ、思慮アル人モ感動ニ驅ラレ思ハザル傷害乃至殺人等ヲナスコトアルガ、精神病者等ニ於テハ感動ノ異常發作常人ニ比シ尙甚シ、從テ此ノ爲メニ犯行スルコト多シ。

ひすてりー性及變質性婦人ニ在リテハ、月經時及分娩時ニ往々意識濁濁ヲ來シ、萬引、放火乃至殺兒等ヲナスコトアリ、此際重症ナル時ハソノ兇行ノ記憶殆ンド無キヲ普通トス、原因不明ナル婦人ノ萬引、或ハ放火等ニ就テハ常ニ此點ニ注意スベシ。

其他腦震盪ノ際ニ意識濁濁ヲ來シ逆行性健忘ヲ伴フコトアリ、嘗テ予ハ犯行中頭部ヲ強打セラレタル爲メ、全ク犯行ヲ想起ス能ハザリシ實例ヲ鑑定セリ、次ニ躁暴謬妄状態ニテモ、意識濁濁ヲ來スコトアルハ言フ俟タズ。

時トシテ生理的睡眠ノ際ニモ種々ノ程度ノ意識濁濁ヲ來スモノアリ、例ヘバ突然睡眠ヨリ覺醒セントスル際、暫時意識朦朧トシテ周圍ヲ辨ゼザルコトアリ、之ヲ睡眠酩酊ト云フ、此間ニ於テ感動若クハ夢中ノ觀念ニ捉ハレテ意外ノ犯罪ヲナスコト稀ナラズ、特ニ酒客及癲癇ニ罹レルモノニ此ノ如キコト多シ、又往々不快恐怖

襲行爲乃至殺人等ヲナシ、而モソノ後全ク之ヲ想起シ得ザルコトスラアリ。

次ニ被催眠状態ニモ濃淡種々ノ意識濁濁程度アリ、良ク催眠術ニ罹リシモノハ一般ニ術者ノ暗示ノママニ行動スルモノナリト云フモ、催眠術ヲ利用シテ犯罪ヲナスコトハ非常ニ困難ナルモノニシテ、催眠術ニカケラレテ強姦セラレタリ、殺人ヲ暗示ニヨリテナセリナド云フ時ハ非常ナル注意ヲ以テ之ヲ診定スベキモノニシテ、被催眠術者ハ無害ノ暗示ハ容易ニ之ヲ行フモ、有害ナル暗示ハ大抵實行セザルヲ常トスト云フ。

酩酊ノ際ニモ意識濁濁ノ程度ニ種々アリ、其輕度ノ際ニハ思考散亂シ、多辯トナリ、洒落ヲ亂發シ、多動不安ニシテ考慮ハ淺薄トナリ、批判偏狹、感情刺戟性ニ變ジ、憤怒シ易ク、ヨク喧嘩シ、從テ傷害放火等ノ犯罪ニ陥リ易シ。次ニ酩酊ノ極、全然意識ヲ喪失スレバ、反ツテ反社會行爲ニ出ヅルコト少シ、時トシテ癲癇、ひすてり或ハ變質者等ニハ、酒精ノ作用常人ニ比シ甚ダシク強ク所謂病的酩酊ニ陥リ、比較的少量少ナキニ係ハラズ、甚シキ意識濁濁ヲ來シ、抑鬱性苦悶性トナリ、盲目的ニ暴行乃至自殺ヲ企テ甚シキ場合ニハ狂亂状態ニ變ジ、恐怖性ノ幻覺及被害妄想等ヲ來

性ノ夢ニ襲ハレ或ハ酩酊シテ睡眠セルモノガ、突然覺醒セントスル時ニ所謂睡眠酩酊ヲ來シ、多少原因アルガ如ク見ユル犯罪ヲナスコトアリ。夢中遊行トハ睡眠中起キ上リテ諸所ヲ徘徊遊行シ、或ハ複雑ナル行爲ヲナシタル後再び床中ニ復歸シ睡眠ヲ續ケ、覺醒後ニ其間ニ行ヒタル何事ヲモ記憶セザルモノヲ云フ。本症ヲ來シ易キモノハ、癲癇、ひすてり及變質者等ニシテ、小兒ニモ往々之ヲ見、此發作中、時トシテ窃盜放火等ヲナシテ之ヲ知ラザルコトアリ。

(乙) 感情界ノ障礙

感情トハ精神ノ緊張性ヲ指シ、ソノ緊張ノ去リタルハ快、緊張ノ甚シキハ不快トナリテ顯出ス。而シテ通常快、不快ノ如キ要素的感情ヲ單一感情ト名ツケ、憤怒、恐怖及鬱鬱ノ如キ複雑ナル感情ヲ複合感情又ハ情緒ト云フ、情緒ノ稍永續的ノモノヲ氣分ト云ヒ、氣分ノ現ハレ方ノ傾向ヲ氣質ト名ツク、時トシテ強甚ナル情緒起リテ思考及行爲及ヲ支配スル時ハ之ヲ感動ト云フ、而シテ高等ナル審美及道義ニ關スル感情ヲ情操ト云ヒ、情操ノミ先天的乃至後天的ニ鈍麻スルモノヲ道德狂ト云フ。

而シテ癲癇、ひすてり乃至患者變質者等ハ多ク異常氣質ヲ有ス



ルモノニシテ、俗ニ變人ト呼バルルモノ往々之ニ屬ス、例ヘバ常ニ陰氣ニシテ些細ナルコトヲ苦慮心配シ、前途ヲ悲觀シ厭世ノ極、自殺ヲ企圖スルガ如キ悲觀性氣質者、反之、常ニ爽快、上機嫌ニシテ希望幸福ニ充チタル樂天性氣質者、小膽臆病ニシテ決斷力ニ乏シク恐怖羞耻ノ念アリ、常ニ孤獨閑居ヲ好ム怯懦性氣質者及自恣ニシテ不平不滿多ク、憤怒激昂シ易キ憤怒性氣質者等アリ學ゲテ數フベカラズ。而シテソノ氣質ニ映ヒサレテ諸種ノ犯罪ヲナスコトアリ。

(イ)感情過敏、精神異常者ニハ往々ニシテ感情過敏ナルモノアリ、僅微ナル誘因ニヨリテ忽チ不滿乃至憤怒ヲ來ス、コハ酩酊者、癲癇者乃至ひすてり患者ニ見ルコトニシテ、又感情轉換ノ甚シキモノアリ忽チ笑ヒ、忽チ泣ク、ひすてり患者癲癇等ニ此ノ如キモノ多シ。時トシテ精神病者ニ於テ全ク外因ナクシテ突然強激ナル感動起リ、或ハ妄覺妄想ノ爲メニ感動續發シ、又ハ僅微ノ原因ニヨリ意外ニ大ナル感動ノ來ルコトアリ、例ヘバ、病的憤怒ノ如キ之レニシテ、癲癇、ひすてり患者乃至精神質者ガ僅カノコトニ甚シク憤怒シ、強度ノ意識濁濁ヲ伴ヒテ種々ノ行爲ヲナシ、後ニ至リテソノ追想不充分ナルコト多キハ其例ニシテ、此際ハ顔面蒼白、四肢震顫、發汗及筋肉攣縮等ヲ見ル。

(ロ)病的恐怖モ亦屢精神病者ニ顯出シ、恐怖ノ餘リ逆襲的ニ妄想上ノ仇敵ヲ傷害スルコトアリ。次ニ病的鬱憂モ亦罪業乃至心氣妄想ニ伴ヒテ來リ、遂ニ憂鬱ノ極所謂苦悶發作ヲ來シ、激情ノ爲メ身體的ニモ知覺脫失、心悸亢進、顔面蒼白、呼吸困難、四肢震顫乃至發汗等アリ、遂ニ肺心ノ壓迫感、意識濁濁等顯出シ最後ニ所謂暴動發作或ハ苦悶性暴動トナリ、殆ンド衝動的或ハ無目的ニ暴行シ、自殺ヲ計リ或ハ人ヲ殺傷ス、而シテ此暴行ヲ遂行スルヤ、苦悶ハ突如トシテ消失シ、胸内苦惱去リ恰モ深夢ヨリ醒メタルガ如ク、暴行ヲ悔イ後ニ至リテ發作中ノ言動ニ對スル追想不十分ナルヲ常トス、而シテ此暴動發作ノ持續時間ハ通常數分間乃至三十分位ナルモ稀ニハ數ケ月ニ亙ルコトアリ。

(ハ)反之、感情鈍麻シ來レバ刺戟ニ對シテ感情動カズ、如何ナルコトニ遭遇スルモ一向平氣ニシテ毫モ知ラザルガ如クス、之ヲ感情不管理ト云フ、コハ精神薄弱者及痴呆者ニ見ル特徴ナリ。一般ニ痴呆ニ進ム精神病ニ於テハソノ初期智力ノ甚シク犯サレザルニ先チ、感情ハ著シク鈍麻シ喜怒哀樂ノ情動カズ、事物ニ對シテ無趣味冷淡トナリ破廉恥ニシテ、只管、我儘強情トナルコト多シ。時トシテ精神ノ各方面殆ンド犯サレザルニ比シ、道德的感情ノ

ミ甚シク發育セザルカ若シクハ退化セルモノアリ、之ヲ道德狂ト云ヒ、或ハ尋常人ニ不快嫌惡ヲ催スガ如キコトヲ却テ好快ニ感ズルモノアリ、之ヲ感情倒錯ト云フ、神經質者或ハひすてり患者ガ花ノ香ヲ嫌ヒ、妊婦ガ奇異物ヲ食フヲ好ミ、道義的感情ノ倒錯ヨリ人或ハ動物ノ痛苦ヲ見テ、却テ好快ノ情ヲ催スガ如キノ例ナリ。

(ニ)慾情障礙、時トシテ饑餓感情ノ減退セル爲メ精神病者ガ數日乃至數週拒食シ、或ハソガ昂進セル爲メ盜食或ハ窃盜ニヨリテ、ソノ食慾ヲ滿サントシテ犯罪ヲナスコトアリ、コハ屢々白痴及痴愚者等ニ見ルコトナリ。又飢餓感情倒錯シ砂礫壁土、白墨乃至炭等ヲ好ンデ食フモノアリ、コハ痴愚者、ひすてり患者等ニ多ク現出ス。

次ニ色慾ノ昂進ハ痴愚及變質者等ニ多ク、男子ハ荒淫ニ流レ姦通、強姦及之ニ關スル詐欺窃盜等ヲナス。女子ニ於テハ、不貞破倫ノ行動ヲナスコト多シ。

色情ノ減退ハ生理的ニハ老年、病的ニハ精神病ノ初期及中毒等ニ於テ來ル。又生來性ニ色情ニ全ク冷淡ナルモノアリ、或ハ色慾アルモ精神的ニ交接不能トナル場合ヲ見ル、之ヲ精神的陰萎ト云

フ、此ノ如キ人ハ普通ノ性交ニ成功セザルガ故ニ、婦女ノ衣服ニ觸レツツ手淫ヲナスガ如キコトアリ。

而シテ色慾ハ通常春機發動期ヨリ起リ、女子ニ於テハ四、五十歳、男子ニテハ六、七十歳ニ及ベバ漸次減退スルヲ常トスルモ、時トシテ十二、三歳稀ニ六、七歳ニシテ生殖器ノ異常發育ヲ伴ヒ、或ハ然ラズシテ色慾ノ早發ヲ來シ、異性ヲ追ヒ或ハ公然手淫ヲナスガ如キコトアリ、之ヲ色慾早發症ト云フ、反之、常人ナラバ已ニ色慾ノ甚シク減退スル頃ニ至リ、頓ニ亢進シ來リ或ハ老年者ガ少女ヲ弄ビ、老女ガ青年ニ戯ムルガ如キコトアリ、之ヲ色慾再燃症ト云フ、何レモ精神薄弱者及痴呆者ニ多ク顯出ス。尙尋常ノ手段ニヨラズ變態的方法ニヨリテ、色慾ノ亢進ヲ感ズル色慾倒錯症ナルモノアリ。之ニ屬スル手淫、陰部露出症、淫虐症、被淫虐症、淫物症、同性愛、姦姦及屍姦等ニ就テハ、前記猥褻行爲ノ部ニ略述シタレバ、茲ニ之ヲ省略ス。

(丙) 意志障礙

精神ノ發動性ヲ意志ト云ヒ、ソノ發動シタルモノヲ行爲ト云フ。而シテ行爲ヲ心的過程ニヨリテ五種ニ區別ス、即チ單ニ刺戟ヲ受ケタル後直ニ反射的ニ來ルモノヲ反射行爲ト云ヒ、本能ニ基キテ無意



識ニ行ハルヲ本能行爲ト云ヒ、此二者ハ通常責任ヲ缺ク行爲ト見做サル、次ニ衝動ノミニ驅ラレテ行ハルヲ衝動行爲、始メハ意識的ニ行ハレタルモ習慣的ニ殆ンド無意識ニ行ハルルニ至リタルヲ自動行爲ト云ヒ、此二者ハ責任能力ナキカ或ハ輕減サルヲ常トシ、二以上ノ動機ノ内ヨリソノ一ヲ選擇シ、意志ノ自由決定ニヨリ行ハルルモノヲ意志行爲ト云ヒ、コハ完全ナル責任能力ヲ有スルモノニシテ、コハ意志ノ自由ナル決定ヲ經テ行爲ヲナスガ故ナリ。

(イ)意志充進セルモノハ舉止落付カズ、忍耐力ニ乏シク同一事ニ長ク從事スルコト能ハズ、從ツテ動モスレバ輕舉暴動ニ出デ易シ、酩酊者、發揚者、癲癇病者或ハ緊張病者等ニ之ヲ見ル。

(ロ)意志ノ減退セルモノハ言動緩漫トナリ不活潑ニ見ユ、早發痴呆者、泥醉者及老耄者等ニ之ヲ見ル。

(ハ)意志被影響性ノ昂進セルモノニアリテハ容易ニ外界ノ刺戟ニ支配セラレ、模倣性ニ富ミ他人ニ使喚煽動サレ易シ、コハ被催眠術者、早發痴呆患者、痴愚者乃至ひすてり患者等ニ見、甚シキニ至リテハ所謂反響症狀ヲ呈スルコトアリ。

(ニ)意志倒錯セルモノニアリテハ行動ハ錯亂シ、ソノ行爲ノ目的ヲ知ルコト能ハズ或ハ態ト奇體ナル行動ヲナスコトアリ、之ヲ奇

症狀ト云ヒ、或ハ一定ノ行爲ヲナサントスル際ニ、故ナク他ノ行動顯出シ初メノ目的ヲ逸脱スルコトアリ、之ヲ意志ト脱線ノ名ツケ或ハ一旦始マレル運動ヲ永ク變化セズソノママニ長時間續クルコトアリ、之ヲ常同症ト云フ。

(ホ)時トシテ癲癇及ひすてり患者或ハ變質者ガ衝動的ニ種々ノ犯行ヲナスコトニアリ、即チ殆ンド動機モ原因モ知ル能ハズシテ、殺人、自殺、窃盜乃至放火等ヲナシ、或ハ徘徊衝動ニヨリ何等ノ目的ナク屢外出彷徨ナスガ如キ之レナリ。

此ノ如キ有様ナルガ故ニ精神健全人ニテモ往々犯罪時ニハ一時的ニ多少精神ニ異常ヲ來シ居ルコトアリ、又前記犯罪者ノ分類乃至犯罪心理ヲ丁寧ニ研究スレバ、犯罪人ノ多數ハ生レナガラノ精神の缺陷者ナリト云フヲ得ベシ。而シテ是等犯罪人等ノ精神の缺陷ヲ調査シテ、ソガ如何ナル程度ニアルカヲ診定スルハ、法醫學的精神病學ノ對象トスル所ニシテ、ソノ診定ニ基キ社會ニ於ケル危險分子ヲ適當ニ所置シ、公益ヲ保護スルハ司法官竝ニ行政官ノ爲スベキ事業ナリ。輒近世界文明ノ躍進ト共ニ精神病者モ亦甚ダ増加シ、從テ一面ニハ犯罪人乃至訴訟事件増加シ、他面ニハ法ノ適用益々巧妙トナルニ從ヒ法醫學的精神病學ノ應用愈多キヲ加フルニ至レリ。論ジテ茲

ニ至レバ社會公安ノ義務ヲ分擔スル醫師ハ、ソノ職責上竝ニ彼ノ専門の技術上、是非共法醫學的精神病學ノ智識ヲ豊富ニシ、常ニ眼ヲ社會問題ノ上ニ放タザルベカラズ。

予ハ本書ニ於テ法醫學的精神病學ノ大要ヲ述べ、一ハ初學者ノ嚮導トナリ、他ニハ實地醫家ノ參考ニ供セントス、即チ本書ヲ閱ミスルモノハ已ニ精神病學ノ大體ニ通曉シ居ラルルヲ前提トシ、精神病學の事項例ヘバ精神病ノ症候乃至診察法等ニ就テハ、精神病學書ニ譲リ敢テ贅言ヲ費サズト雖、我等ノ遭遇シタル鑑定例ハ長キヲ厭ハズ添加シテ、一面ニハ精神病者診察法等ノ補助トナシ、他面ニハ鑑定書記載方ノ參考トナサント欲ス。

二、刑法ト精神病者

刑法ノ目的トスル所ニ二學說アリ、一ハ報復主義ニシテコハ其犯シタル罪ノ結果ヲ以テ標準トナシ、社會又ハ個人ニ及ボシタル損害ノ程度ニ正比シテ罪ノ輕重ヲ定メ、以テ罪人ニ報復シ同時ニ社會ヲ威嚇シテ、ソノ公安ヲ保持ストノ主意ヲ有スルモノナリシガ、現今ニ至リテハ此主義ニ贊同スルモノ少クナレリ、他ハ目的主義ト云ヒ專ラ社會ニ犯罪ヲ斷絶スルヲ以テ原則トシ、犯罪者ノ心性ヲ矯正馴化シテ惡事ヲ再ビセザル様ニシ、以テ出來ル限り社會ヨリ犯罪ノ源

泉ヲ除去セント欲スルニ在リ。今日ノ刑法學者ハ多ク此主義ニ從フ。刑法ノ目的此ノ如クナルニ於テハ、精神の缺陷ニ基キ或ハ無意識ノ間ニ爲サレタル犯罪ニ對シテ、犯人ニ刑ヲ加フルモ報復威嚇ノ效ヲ奏セズ、況ンヤ矯正馴化ヲヤ、即チ精神病者ノ犯行ニ就テハ之ニ刑罰ヲ加フルニ當リ、司法官ハ一定ノ考量ヲ費サザルベカラズ、犯罪人ノ精神狀態鑑定ノ必要茲ニ於テカ起ル。

ソノ他犯罪者ノミナラズ刑法上ノ原告或ハ證人參考人等ニ就テモ、豫メソノ精神狀態ニ異常ナキヲ確實ニシ置カザレバ、彼等ノ申立モ何等法廷上ニ價值ナキモノトナラン。今刑法ト精神病者トノ關係ニ付注意スベキ要點ヲ舉グレバ左ノ如シ。

(イ)精神病者ノ犯罪行爲、犯罪人ノ多數ハ精神の缺陷者ナルコトハ已述ノ如シ、逆ニ精神病者ハ亦屢々犯法的行爲ヲナスモノニシテ、例ヘバ癲癇病者或ハ變質者ハ往々極メテ殘酷ナル殺人ヲナシ、老耄狂者、麻痺狂者或ハ變質者ハ意外ナル猥褻行爲ヲナシ平然タルガ如キ之レナリ。ソノ他分娩直後ノ婦人ノ初生兒殺害、常習性犯罪者ノ外見上動機明白ナラザル犯罪等ヲ發見シタル場合ニハ、必ズ犯人ノ精神狀態ニ注目スベシ。實ニ精神病者ハソノ内の興奮或ハ刺戟性充進ノ爲メ、輕微ノ動機或ハ刺戟ニ依リ不相應ナル反應



的行動ヲ惹起シ、社會ニ不測ノ災禍ヲ及ボスモノナリ。然レドモ或種精神病様ノ一症候アリトテ、之ヲ以テ直ニ病的行爲ト論ジ、反復サル、殺人、窃盜乃至放火等ノ行爲ヲ目シテ容易ニ殺人狂、放火狂或ハ窃盜狂トシテ、精神病ノ名ヲ亂用スル傾キアレド、精神病學ニハ此ノ如キ名稱ナシ。實際放火ハ愚鈍者、或ハ婦人ニ多ク、同ジク自殺行爲ノ如キモ精神病者ニ多キハ事實ナルモ、自殺者ヲ目シテ直ニ精神病者トナスガ如キハ穩當ナラズ。又性的犯罪ノ如キモ精神病異常者ニ來タル事多ク、あつしやふえんぶるぐ氏ノ報告ニヨレバ猥褻罪ヲ犯セル受刑者三百名中、精神健全ナルモノ僅ニ四十五名ナリシト云ヒ、れつぶまん氏ノ研究ニヨレバ強姦犯人九十名中精神健全ナルモノ二十名ニシテ、他ハ皆精神病者ナリシト云ヒ、ぼんふえるへる氏モ亦略同様ノ報告ヲナシ、ろんぶるぞう氏ハ癲癇病者ハ發作性ニ情慾甚シク發揚シ、強姦罪ヲ犯スコト多キモノナリト云ヘリ、尙色慾異常例ヘバ、淫虐症、被淫虐症等又精神病者ノ一症狀トシテ來ルコト多キモ、斯クノ如キ色慾異常アレバトテ悉クソノ精神病者ト斷ズルハ早計ナリ。即チえりす氏ハ全ク精神健全ナル人ニ淫虐症ノ來ルコトアルヲ報告シ、紳氏ハ色慾異常者ト稱セラルルモノノ狀況ヲ覗ヒテ、ソ

レヲ健全者ニ發見スルモノトセバ只慾情ノ強サヲ異ニスル爲メ、重篤ナル名ヲ附セラルルニ過ギズト云ヘリ、故ニぼまん氏ノ如キハ時トシテ色慾ノ異常ハ完全ニ責任能力アル状態ニテ行ハルルコトアリ、ソノ行爲自身ハ如何ニモ奇抜ニシテ人ノ耳目ヲ惹クベキモノナルニセヨ、只ソレノミヲ以テ精神病異常者ノ行爲ナリト云フ能ハズト云ヘリ。

予ヲシテ一言ニ之ヲ盡サシメバ、斯ル奇妙ナル行爲ガ精神病ノ一症候トシテ現出スレバ、勿論責任能力ニ影響ヲ及ボスナランモ、單ニ健康人ニ來ル異常ノ行爲ニ關シテハ寧ろ適當ナル責任ヲ負ハシムベキモノナリト信ズ、之レ單ニ異常行爲ナルガ故ニ直ニ責任能力ヲ左右セシメントズル人ノ爲メニ一言附加シタル所以ナリ。

(口)證人及原告トシテノ精神病者 證人ノ證言及原告ノ申立ヲ確實ナラシメンニハ、ソノ精神状態完全ニ正常ナルヲ必要トス、何トナレバ精神病者ハ妄覺、妄想及記憶錯誤等ニ依リテ、種々ノ虚言ヲ吐キ事實ヲ忘ルル等ノ事アレバナリ。例ヘバひすてり患者ガ想像ヲ以テ事實ヲ虚談潤色シ、癲癇患者ガ記憶ノ缺損ヲ想像的夢想ヲ以テ補綴シ、妄想性癡呆患者ガ妄想ヲ事實トシテ申立ツルガ如キ之レナリ。

(ハ)精神病者ニ對スル犯罪 精神病者或ハ白痴ヲ利用シテ金品ヲ詐取シ之ニ淫行ヲナシ、又ハ他ノ心神喪失或ハ抗拒不能ニ乘ジ種々ノ惡事ヲ行フコトアリ。

### 三、民法ト精神病者

民法上成年ニ達シタルモノハ自己ノ財産ヲ合法的ニ且安全ニ處理シ、民法ノ規定スル所ニ從ヒ財産權ニ對シ同意拒絶等ノ意思表示ヲ明瞭ニセザルベカラズ、即チ物權及債權ニ付キ讓渡、契約、贈與、賣買、交換、貸借、委託、管理等ヲ履行シ又親族關係ニ於テ婚姻、離婚、養子、扶養、相続、遺言等ヲ所理セン爲メニハ、各般ノ習慣的乃至學習的智識及正常ナル判斷、並ニ意思作用ノ完備ヲ緊要トス、今是等ニ對スル能力ノ幾分或ハ全部ヲ缺如セルモノハ、自己ノ家族ニ對シ相當ナル處分ヲナスコトハ能ハズシテ、小ニシテハ自己ノ不幸ヲ招キ、大ニシテハ國家管理上ニ障礙ヲ來スモノナリ。斯カル能力缺如者ニ對シテハ國家ハ其者ノ權利ヲ制限シ以テ不測ノ災ヲ避ケザルベカラズ、之レ民法上精神状態鑑定ノ必要アル所以ナリ。

### 四、精神状態ニ關スル鑑定事項

刑法第三十九條及四十一條ニ依レバ心神喪失者及滿十四歳以下ノ者ノ行爲ハ之ヲ罰セス、心神耗弱者ノ行爲ハソノ罪ヲ輕減セラル、

精神状態ニ關スル鑑定事項

又民法第七條ニヨレバ心神喪失ノ常態ニ在ル者ハ一定ノ人ノ請求ニ依リ禁治産トナシ、尙民法第七百十三條ノ規定ニヨレバ、心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ賠償ノ責ニ任セズトアリ、ソノ他之ニ準ジテ心神耗弱者ヲ準禁治産トナスコトヲ得ルモノナレバ、是等ノ關係上醫師ガ屢法廷ニ關係アルモノノ精神状態ニ關シ鑑定ヲ命ゼラルルコトアリ。

今醫師ノ鑑定ヲ命ゼラルル必要ナル事項ヲ擧グレバ概ネ左ノ如シ。  
一、犯罪者ガ刑法上ニ所謂心神喪失者ナルヤ、將タ心神耗弱者ナリヤ。(責任能力)

二、民法上自己ノ財産又ハ家族ノ損益ニ關シテ之ヲ處分乃至管理スルノ能力アリヤ否ヤ。(處分能力)

三、處分或ハ管理能力ナキ爲一旦禁治産、準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノガ、若干ノ時日ヲ經テ精神上ソノ能力ヲ恢復シタリヤ否ヤ。

四、原告或ハ證人トシテ信據スルニ足ルベキ陳述ヲナスコトヲ得ルヤ否ヤ。(信證能力)

五、契約又ハ遺言ヲ爲セントキニ、其者ノ精神状態ハ健全ナリシヤ否ヤ。(契約能力及遺言能力)

六、婚姻、養子又ハソノ他縁組ノ際ニ當リ、完全ナル意思表示ヲ爲



シ得ルヤ否ヤ。(表示能力)

七、裁判未決ノ中ニ精神異常ノ疑アリテ、尙裁判上ノ審理ヲ續行シ得ル精神能力アリヤ否ヤ。(審理能力)

八、裁判確定後ニ精神異常ノ疑アリテ、刑ノ執行ヲ續行シ得ルヤ否ヤ。(執行能力)

九、負傷ノ結果トシテ精神障礙ヲ起シタリト稱スルモノノ眞偽。

十、精神障礙ノ疑アルモノニ虐待、淫行、自由束縛等ヲナシタル場合、ソガ犯罪ノ構成ニ關スル鑑定。

是等ノ件ニ關シ鑑定ヲ命ゼラレタル場合、醫師ハヨクソノ患者ノ心身状態ヲ診定シ、精神病學上如何ナル疾患ニ罹レルモノナルカ、或ハソノ智識ノ程度ハ凡ソ何歳位ノ小兒ノソレニ比較スルヤ等ヲ記載スルニ止メ、問題ノ人ハ心神喪失者ナリ或ハ耗弱者ナリト斷定スルコトハ成ルベク避クルヲ良シトス、然レドモ一般ニ司法官ハソノ鑑定命令ニ心神喪失者ナリヤ否ヲ問フコト多シ、此際醫師ニシテ之ヲ心神喪失者ナリト答フル場合アリトセンカ、ソハ醫師ガ犯罪人ニ對シ判決ヲ與フルガ如キ感ナキ能ハズ。然リ而シテ尙司法官ハ醫師ニ心神喪失者ナリヤ將タ耗弱者ナリヤノ問題ヲ課スルトセバ、醫師ハ法官ノ云フ所ノ法律的術語ノ大要ヲ了解シ居リテ鑑定ニ從事シ、

行ヲ停止ス

同 第五百四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ 檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レムルコトヲ得 刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ刑期ニ算入ス 陪審法第十三條 左ニ掲クルモノハ陪審員タルコトヲ得ス

- 一、禁治産者準禁治産者
- 二、破産者ニシテ復権ヲ得サルモノ
- 三、聾者、啞者、盲者
- 四、懲役六年以上ノ禁錮刑罰ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

責任能力ナル文字ノ定義ハ、多クノ刑法學者乃至精神病學者間ニ於テモ、其意義ノ解釋區々タルガ如シ、ぞんめる氏ニヨレバ、責任能力ナル文字ハ「數エ込ム能力」ナル意ニシテ、嚴格ナル意義ニ於テ裁判ニ關與スル司法官ノ能力ヲ示シ、初メ被告ヲ罪人中ニ數エ込ム能力ノ謂ヒナリシガ、漸次犯罪者ガ科刑者中ニ數エ込マルル能力ノ意ニ轉ジ、更ニ現今ノ責任能力ナル意ニ用ヒラルルニ至リシモノナリト云フ。

而シテあるふえると氏ハ、責任能力或ハ負責能力トハ、刑法上ノ責任負擔ヲ創立シ得ベキ精神状態ナリト説キ、りすと氏ハ社會的動作、即チ國家的共同生活ニ適應スル動作ヲ爲シ得ベキ行為者ノ心理状態ニアル時ハ、其行為者ハ責任能力アルモノナリト論ジ、びるくま

一面ニハ法官ノ命令ニ、他面ニハ個人ノ利益ニ悖ラザル様心掛ケザルベカラズ、即チ以下法律的術語ノ一、二ヲ説明セントス。

五、責任能力

刑法第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

同 第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

同 第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其行為ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ務アル者ニハ之ヲ適用セス

同 第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

同 第四十條 瘖啞者ノ行為ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

同 第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セス

同 第四十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ瘖瘂又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

同 第五百四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ瘖瘂ニ至ル迄執行ヲ停止ス

いやー氏ハ責任能力トハ動作ニ付、刑事上ノ責ヲ負ヒ得ベキ人ノ資格即チ罰セラルベキ資格ナリト稱シ、すとうす氏ハ行為ノ當時ニ於ケル行為者ガ、刑法上ノ責ヲ負ヒ得ベキ心理状態ナリト爲シ、勝本氏ハ凡ソ人ガ或行為ニ付、責ヲ負フガ爲メニハ、即チ其行為ガ其人ノ行為ナルガ爲メニハ其人ハ負責能力ヲ有スルコト、即チ其人ニ健全尋常ナル精神状態ヲ有セザルベカラズト稱へ、泉二氏ハ責任能力トハ法律ガ違法行為ニ付、本人ヲシテ法律上ノ制裁ヲ負擔セシムルニ適當ナリトスル常則的精神状態ナリト云ヒ、大場氏ハ負責能力トハ自己竝ニ外界及自己行為ノ事實上、竝ニ法律上ノ意義ヲ辯識シ、且ツ此辯識ニ從ヒ、現ニ有スル動機ニ關シ行為ヲナスヤ否ヤヲ通常ニ決定シ得ル能力ナリト主張シ、最後ニ牧野氏ハ責任能力トハ一定ノ行為ニ付、一定ノ刑法上ノ效果ヲ受クベキ資格ヲ云フト爲セリ。是等責任能力ニ對スル定義ハ多ク刑法學者ノ作レルモノナレバ、吾人醫師ヨリ見レバ餘リニ純法律的ニ傾キタルヤノ嫌ナキニアラズ。然ラバ責任能力ヲ有ストナスニハ如何ナル條件ヲ備フベキヤト云フニ、りすと氏ハ責任能力アリトナスニハ次ノ如キ精神状態ニアルヲ要スト云ヘリ。



- 一、平常ナル方法竝ニ速度ニ於テ觀念聯合ヲナスコト。
- 二、豫觀ノ感覺及ビ一般的、法律的、道德的、宗教的準則、其他ノ誘導力ガ平均點ニ適合スルコト。
- 三、意志感動ノ傾向及強度ガ甚シク異常ナラザルコト。
- 四、觀念ガ通常ナル内容及誘導力ヲ有スルコト。
- 五、觀念ガ通常ナル内容及誘導力ヲ有スルコト。
- 六、行爲及侵害ヲ意志シ、自己ノ満足ヲ慾望シ、行爲ガ無挑撥ニ出デザルベカラズ、而モ行爲者ハ行爲ノ行ハルベキ周圍ノ狀況ヲ理解シ、且之ヲ測量スルコトヲ要ストナセリ。更ニ如何ニ責任能力者ノ反社會的行爲ナリト雖、吾人ハ常ニソノ行爲ニ對スル批難性ニ付、十分考慮セザルベカラズトナスモノアレドモ、コハ寧ろ口家ノナスベキコトナリ。故ニ或個人ノ責任能力ヲ有スルヤ否ヤヲ鑑定スルニハ、如何ニ細心綿密ナル注意ヲ拂ハザルベカラザルカヲ知ルニ足ラシ。

茲ニ於テ精神病者ニ刑罰ヲ加ユル歴史ヲ探グルニ、已ニ羅馬法ニ於テハ明ニ痴呆、亂心、愚鈍及強キ感動者ノ行爲ハ罰セズ、酷罰者ノ行爲ハ過失ヲ以テ論セラレタリ。さくせん法ニ於テモ愚人及失神者ヲ罰セズトノ規定アリ。其他之ニ類似ノ立法諸國ニ散見セシガ、

中世ニ至リ一時精神病者ヲ宗教的迷信ニヨリ過酷ナル取扱ヲナシタルコトアリ。然ルニ十九世紀ニ至リ又々精神病者ヲ責任能力及輕減責任能力トスベシトノ觀念起リ、次第ニ現今ノ法律觀念ニ迄進化シタルモノナリ。

我邦ニ於テモ大寶律令中、老者及廢疾者ハ其罪ヲ論セズ若クハ減刑シ、徳川御定書百ヶ條ニ於テモ亂心、愚昧者ハ重罪ニ限り處罰シ、其他ハ不論罪トナシ、幼者ハ其罪ヲ輕減シ、酒狂者ノ犯罪ハ處罰スルノ規定アリ、明治ノ新律綱領ニ於テモ老幼者ノ罪ハ論セズ若クハ輕減シ、瘋癲者ノ殺人罪ハ終身禁固ヲ命ジ、又狂者ヲ假リテ殺人ヲナセルモノハ謀殺ヲ以テ論ジタルモ、舊刑法ニ於テハ幼者ハ輕減責任能力者トシ、精神病者ニ對シテ責任能力ノ有無ハ其場合ニヨリテ之ヲ定メ、其中間ナル輕減責任能力ヲ認メザリシガ、現行刑法ニ於テハ精神病者中ニモ責任能力アルモ又ナキモアリ、且輕減責任能力者ノ存在スルヲ認メタリ。

而シテ最近諸種ノ科學進歩スルニ從ヒ、人ニ實際意志ノ自由存在スルモノナルヤ否ヤノ疑問ヲ生ジ、且理性是非辨別ノ有無ヲ以テ責任能力ノ有無ヲ論ズトセバ、小兒或ハ或種ノ精神病者ニハ是非ノ辨別、或ハ一程度ノ理性ヲ有スルモノ少カラズ、從テ此等ノ理由ヲ以俟タズ。

而モ刑法上ノ責任能力者ハ心神喪失者、滿十四歲以下ノ小兒及ビ強度ノ瘡癡者等ニシテ、輕減責任能力者ハ弱度ノ瘡癡者及心神耗弱者ナリ、

民法上ノ責任能力トモ云フベキ處分能力ハ成年滿二十年ヲ以テ完全ナルモノトナシ、未成年者ハ處分能力ナキモノトシタリ、民法ニ於ケル處分能力ノ發生ガ刑法ニ於ケル責任能力ノ發生ヨリモ尙高年ヲ要スルハ、是非善惡ノ辨別ハ卑近ナル道義的觀念ヲ以テ足ルモノニ過ギザレドモ、民法上ノ治産ニ關スル處分能力等ハ、多大ノ智識ト考慮決意ニ俟ツコト多キガ故ニ、心身ノ十分發育セル時期ヲ以テ成年トシ、法律的行爲ヲナスヲ得ルコトトナシタルモノナリ。

### 六、心神喪失者及耗弱者

刑法上ノ心神喪失乃至心神耗弱ナル文字ハ、モト立法者ガ類推的ニ責任能力者及之ニ準ズルモノヲ、概括シテ命名シタルニ過ギザルモノニシテ、心理學的或ハ精神病學的名稱ニハアラズ、故ニ司法

以テ十四歲内外ノ小兒或ハ智識ノ比較的犯サレザル精神病者ガ責任能力ヲ有セザルモノトスルハ、甚ダ根據少キノ感ナキニアラズ、即チ前述セルガ如ク刑法ハ其目的ヲ變ジテ報復主義ヨリ目的主義トナリ、責任能力ニ對スル思想モ犯罪ノ方面ヨリ考フル代リニ刑罰ノ方面ヨリ考究セラルルニ至リ、其極責任能力ヲ以テ刑罰ヲ加フルニ效アル能力ト解スルニ至レリ。即チ矯正遷善ノ望ミナキモノニハ刑罰ヲ加フルモ效ナキニ依リ責任能力者ト見做セリ。予ヲシテ之ヲ云ハシメバ可罰的價値ノミヲ以テ責任能力ヲ定ムトセバ、常習性犯罪者ノ如キモノヲ如何ニ取扱フベキカ、又責任能力者トシテ免訴サレタル精神病者ニ付テハ我國ノ如ク感化院、孤兒院及精神病院ノ設備不十分ナル所ニ於テハ、一考ヲ費サザルベカラズト思惟ス。何トナレバ此主義ニ從ヒ到底改善ノ見込ナキ慣習性犯罪者等ノ如キヲ、責任無能力者トシテ刑罰ヲ課セズトセバ、彼等ヲ監禁スル所ナク徒ニ社會ニ散逸シテ公安ヲ害スルニ至レバナリ。

輕減責任能力トハ報復主義ノ刑法學者ノ考案ニ基クモノニシテ、半理性ヲ保ツガ故ニ責任無能力トスル能ハズ、サレバトテ完全ナル人格ヲ供フル人ニモ非ザルモノヲ云フ、例ヘバ、幼者ト成年トノ中間ニ位スル智識ヲ有スルモノ、或ハ精神病者ト健者トノ間ニ位ス



ノ局ニアルモノスラモソノ解釋ヲ異ニシ、心神喪失者ハ前後左右ノ  
辨別モ自他ノ異同モ明ニセザルモノナリト思惟セルアリ。況ンヤ法  
律的術語ヲ知ラザル醫師ニ於テオヤ、元來心神喪失ト云ヒ耗弱ト云  
フハ、精神障礙ノ強弱ヲ表示セルモノニシテ、前者ハ意識ノ清明、  
是非ノ辨別及自由ナル意志決定ニ甚シキ障礙アリテ、ソノ辨識ニ從  
ツテ行動スル能力ナキモノヲ指シ、後者ハソノ能力ガ常人ニ比シ減  
退セルモノヲ云フ、而シテ此兩者ノ間ニ嚴密ナル境界ヲ立ツコト能  
ハザルハ自明ノ理ナリ。刑法學者ハ行爲者ガ行爲ノ當時、事實上、  
自己外界及行爲ノ事實上及法律上ノ意義ヲ辨識スルノ能力ナキカ、  
又ハ現ニ存スル動機ニ關シ通常ソノ意志ヲ決定スル能力ナキ者、又  
ハ此兩能力共ニナキモノヲ心神喪失者ナリトシ、心神耗弱者トハ行  
爲ノ當時責任能力ニ必要ナル辨識及意志ニ完全ナラザル所アルモ、  
不完全ノ程度薄弱ニシテ、未ダ心神喪失ノ程度ニ達セザル者ヲ指稱  
セリ。

心神喪失トナルベキ重要ナル要件ハ是非辨別ノ缺如、衝動ニ對ス  
ル抑制力ノ缺如、熟慮及決意ノ障礙アル場合、病的動機ニ基ク動作  
等ニ起因スル犯罪行爲ニシテ、之ヲ精神病學上ヨリ見ル時ハ如何ナ  
ル状態ニ在ルモノナルカト云フニ、大略左ノ如シ。

學者ニヨリテハ精神病ガ現存スト診斷セバソノ病症ノ輕重ヲ問ハ  
ズ、直ニ心神喪失者ノ内ニ數ヘ込ムモノアリ、理論上ヨリ云ハバ誠  
ニ然ラン、何トナレバ、心神ノ基底ニ於テ已ニ多少ナリトモ質的ノ  
變化アル精神病者ニ於テ、イカデカ尋常ナル精神の作業ノ運用ヲ完  
全ニナスコトヲ得ンヤト云フ理由ノ存スレバナリ。

然レドモ予ハ精神病者ガ直ニ心神喪失ナル説ニハ贊スルコト能ハ  
ズ、精神病者ニテモソノ輕度ナル場合若クハ發作寛解ニ近キ時ニハ、  
或程度ノ精神作業ヲナシテ誤リナキ事アレバ、斯ル際ニ或犯罪ヲナ  
シ而モソノ動機ノ選ビ方、執行ノ意思、之ニ伴フ感情及ソノ欲スル  
所ト達シタル結果ニシテ異常ナクバ、假令精神病者ナリトスルモ相  
當ノ責任ヲ科スベキモノナリト信ズ。即チ現行刑法ガ心神耗弱者ナ  
ルモノヲ有スルハ全ク此意味ニ外ナラズト信ズ、然リ而シテ精神病  
者即心神喪失者ノ説ニ從ヘバ、純理論的ニハ精神健全者ト病者トノ  
二者アルノミニシテ、其中間性ノモノハアルベキ理ナク、從ツテ心  
神耗弱ナルモノノ存在スベキ理由ナシ、然レドモ予ハ已ニ現行刑法  
ガ心神耗弱ナル語ヲ有シ、之ヲ實行シツツアルニ鑑ミテ、精神健全  
者ト精神病者トノ間ニ、ソノ中間性モシクハ移行型ノ存在ヲ實用上  
便利ナリト信ジツツアリ。但シ行爲ニ對シ幾分ノ責任アリト云フ

(イ)意識ヲ全然喪失セルモノ、例ヘバ卒中發作時、病的酩酊、癲癇  
性或ハひすてり性癡癲發作時、全身麻痺及催眠術ニカカレル時等  
ノ如キ之レナリ。

(ロ)強度ナル意識濁濁ニ陥レルモノ、例ヘバ癲癇性又ハひすてり性  
朦朧状態、泥酔、酒客譫妄、熱性譫妄中毒又ハ急性傳染病ニ顯出  
スル意識障礙、夢中遊行、分娩時及感情激發ニ陥レル際ノ意識濁  
濁等之レナリ。

(ハ)病的動機ニ基ク行爲、例ヘバ躁鬱病、早發癲癇、癲癇、憂鬱  
狂及偏執病ニ來ル衝動行爲及憂鬱者、癲癇病者乃至あるこぼる中  
毒ニ來ル暴動發作、病的性慾ニ基ク犯罪、妄想妄覺ノ爲メニナセ  
ル行爲等ノ如キ之レナリ。

(ニ)衝動ヲ抑制スルニ能力ナキ場合ノ行爲、例ヘバ強迫觀念、白痴、  
癡愚、悖德病、癲癇、早發癲癇、老耄性者性、中酒性癲癇等ニ罹レ  
ル爲メ衝動抑制ノ能力ナキ行爲、即チ此等ノ患者ノナセル猥褻、  
竊盜、暴行等ノ動作之レナリ。

(ホ)熟慮決意ノ障礙アルモノ、即チ白痴、癡愚、早發癲癇、癲癇、噪  
揚狂、ひすてり、癲癇者及變質者ノ重症ナルモノニ見ルソレノ如キ  
之レナリ。

ハ、直ニ刑罰ニ加ユルニ適應性アリト云フニアラズ、加刑スル際ニ  
ハ更ニ其時ノ精神状態ヲ鑑定シテ、之ヲ決定セザルベカラズ、而シ  
テ心神耗弱ノ範圍ニ入ルベキモノハ概ネ左ノ如シ。

(イ)輕度ノ癡愚者及魯鈍者。  
(ロ)癲癇ノ小發作、ひすてりノ中等症、神經衰弱、ひよれあ等ニ於  
ケル氣質異常。

(ハ)酩酊者、變質者、悖德者、氣質異常者、中間者。  
(ニ)精神病ノ前驅期タル輕度ノ精神變調又ハ刺戟状態(月經、妊娠、  
分娩等)ニ於ケル行爲。

心神喪失或ハ耗弱ナル文字ハ民法ニ於テハ前記セル刑法ニ於ケル  
モノト稍ソノ意義ヲ異ニス、民法上ノ心神喪失ノ常況ナル文字ハカ  
ルル精神異常ガ現時ニ於テ存在シ、且ツ將來ニモ持續シテ水クソノ  
能力ヲ失墜セルコトヲ意味スルモノニシテ、自己ノ地位財産ニ對シ  
之ヲ適應ニ管理處分スル能力、即チ處分能力ノ喪失ヲ意味スルモノ  
ナリ。故ニ同程度ノ精神障礙モ、日々僅微ノ出納ヲ司ル車夫ノ如キ  
モノニ在リテハ心神耗弱ニ過ギズシテ、大會社ノ重役等ニ取リテハ  
心神喪失ト解スベキガ如キ場合アリ。即チ民法上ノ心神状態ヲ鑑定  
スル場合ニハ、ソノ人ノ精神状態ト共ニ、財産或ハ四圍ノ狀況ヲ合



セ考ヘテ診定スベキモノトス。今上記責任能力ノ有無、處分能力、罪科等ニ變スル大體ヲ表示スレバ左ノ如シ。

第三百八十八表

精神發育程度及障礙程度ト法律的關係	禁錮(二十歳以下)	準禁錮	治産
民法上	責任無能力(十四歳以下)	輕減責任能力	責任能力
刑法上	強幼者及心神喪失者	心神耗弱者	心神健全者
精神醫學的	強幼者及心神喪失者	心神耗弱者	心神健全者
處罰	免罪、無罪	刑罰輕減	刑罰
法律行為	爲不能ハズ	或種ノ行為ヲ爲ス	爲ス

註、上表ニ於テ横列ニ在ルモノハ相類似ノ意味ヲ有スルモノナリ

七、審理及証言能力

已ニ前述セルガ如ク審理能力トハ司法官ノ訊問ニ對シ、被問者ガ確實ナル解答ヲ與ヘ得ベキ能力ニシテ、証言能力トハ同ジク信憑シ得ルニ足ル正確ナル証言ヲ爲シ得ベキ能力ヲ云フ。此ノ能力ハ精神狀態ニ異常アルモノニハ往々缺如スルモノニシテ、之ニ對スル法律規定ハ左ノ如シ。

刑訴第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行為ニ付之ヲ代表ス  
同 第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

同 第三百五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得  
一 被告人ノ所在分明ナラサルトキ  
二 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ  
前項ノ決定ハ之ヲ送達セズ

同 第三百三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得  
一 被告人二十歳未満又ハ七十歳以上ナルトキ  
二 被告人婦女ナルトキ  
三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ  
四 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ  
五 其ノ他必要ト認ムルトキ

同 第三百五十二條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免罪、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タズ直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得  
被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ  
第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ヲ適用セズ

同 第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ  
同 第三百五十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セ

コレナリ。

更ニ知覺ノ錯誤タル錯覺及幻覺ニ至リテハ生理的ニモ其實例擧ゲテ數フベカラザル程顯出スルモノニシテ、例ヘバ何等精神ニ異常ナキ人ニテモ往々鹹味ヲ甘シト云ヒ、一ヶ所ニ接觸サレナガラ數ヶ所ニ觸レタリト感じ、全ク空虚ナル棺桶ニ屍臭アリト思ヒ、熟睡中ニ聞キタル小聲ハ大聲ト感ズルヲ常トシ、且驚愕時ニ於ケル認識ニハ間違多ク、夜中ニ顯ハレタル強盜ハ常ニ雲突クバカリノ大男ニ見ユルヲ常トスルガ如キ皆ソノ例ナリ。

妄覺ノ如キモ往々精神健全人ニ顯出シ、強キ期待ノ下ニハ無味ヲ甘味アリト云ヒ、甚シク火災ヲ恐怖スルモノニハ火ナキニコゲ臭シト思ハレ、來訪ヲ待テル時ハ人ナキニ訪問者ノ聲ヲ聞キ、恐怖ノ極ニ達セバ幽靈ヲ見、或ハ猛獸兇器等ヲ幻視スルコトアリ。然ルニ精神病者ニ至リテハ此等ノ錯覺乃至幻覺ハ殆ンド常在ノ現象ナレバ、之レ等ニ審理能力ナシトサル所以ニシテ、精神健全ナルモノニ於テモ此ノ如キコトアルヲ以テ、証言ヲ取ル人ハ常ニ之ヲ心セザルベカラズ。

又注意ノ如何ニヨリテ實在ヲ見ズ眼前ニアルモノヲ知ラザルコトアリ、所謂見レドモ見エズ聽ケドモ聞エズトハ之ヲ指示シタルモノ

サルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ  
有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ  
前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

凡ソ或實在ヲ吾人ガ正確ニ認識シ且錯誤ナク發表シ得ルヤ否ヤノ哲學的疑問ハサテ置キ、別ニ惡意ナクトモ物理的若クハ心理的ニ事實ヲ誤リテ領解シ、或ハ領解乃至判斷ハ正シクトモ心理的ニ之ヲ不正ニ供述スルコトアリ、況ンヤ其間ニ故意ノ加ハルアリテ虛偽ノ陳述ヲナス場合アルニ於テヤ、故ニ吾人ハ人ノ供述或ハ証言ヲ聽ク際ニハ常ニ此點ニ留意シテ供述ノ信憑度ニ付考慮セザルベカラズ。  
夫レ或實在ガ媒介體ニヨリテ吾人ノ五官器ニ達シ感覺トナリ、更ニ中樞ニ至リテ知覺サレ、次デ領解判斷サルル間ニ於テ、ソノ道程或ハ心的過程中ニ何等カノ錯誤アラバ、已ニ該實在ヲ正シク認識スルコト能ハズ、例ヘバ誰ニモアリ得ル傳達媒介體ニヨル物理的ノ錯誤トシテハ、晴天ニ於テヨリハ曇天ニハ甚シク物ヲ近シト判定シ、或ハ水中ノモノヲ變形シテ認ムルガ如キハコレニシテ、又ソノ心理的ノ誤謬トシテハ色彩ノ表現ニ各人夫々差異アリ、又黒色ノモノヨリ白色ノモノガ大きく見え、或ハ暗夜ノ火災ガ近ク思ハルルガ如キ

審理、証言能力



ニシテ、眼前ニ大事件突發シ居ルニカカハラズ、心茲ニアラザレバ之ヲ知ラズ、殊ニ感情ノ昂奮セル際ニ於テ然リ。故ニ殺人犯人ニ何處ヲ如何様ニ斬付ケタルカノ精密ナル説明ヲ求ムルハ求ムルモノガ無理ニシテ、又逃走スル盜人ノ年齢、人相乃至衣服ノ縞柄等ヲ詳細ニ知ラザルガ普通ニシテ、之ヲ知ルハ特殊ナル場合ノミ、餘リソレ等ヲ詳述スルハ寧ロ虚構モシクハ思違ナリト思惟スルヲ至當トス。已ニ屢述セルガ如ク記憶及追想等ノ錯誤ハ生理的ニモ疲勞、嗜眠、銘酎、感動乃至時間ノ經過高等ノ爲メ常人ニ顯出スルモノニシテ、完全ナル記憶ノ缺損ハ頭傷及絞頸後等ニ來リ、中樞神經ノ作用ヲ停止スル麻醉、人事不省及諸種ノ精神病者ニ見ルモノナレバ、審理ノ際人モシ記憶ナシ或ハ追想スル能ハズト云ハバ、嘗テ上記ノ如キ状態ニ立至リタルナキカヲ丁寧ニ調査スベキモノニシテ、妄リニ虚言ナリト直ニ連斷スベカラズ。

次ニ想像力ノ昂進セル小兒、婦人乃至精神病者ハ意外ノ虚言ヲ吐キ、或ハ常人ガ故意ニ事實ヲ詐ハルコトアリ、前者ハ殆ンド無意味モシクハ病理的ニ之ヲナシ、後者ノ虚言ハ何カノ企圖アリテ之ヲナスモノナルガ、時トシテ常人ニテモ談話ノ語勢上或ハ詩的ニ眞實ヲ避ケ、別ニ惡意ナク虚談潤色スルモノアレバ、常ニ之ヲ豫備智識ト

斯クノ如ク或實在ヲ直接認識乃至判斷セルモノガ之ヲ供述スルヲ直接供述ト云ヒ、自己ノ知覺ニヨリ之ヲ供述スル迄ノ間ニ於テテスラ、已ニ幾多ノ錯誤挿入サルル虞アルハ已述ノ如クナルガ、更ニ他人ノ認識供述セルヲ聞キ二次的ニ之ヲ他人ニ供述スルヲ間接供述ト云ヒ、此間接供述ハ再ビ上記錯誤ヲ二重ニ反復シテ領解サレ供述サルモノナレバ、直接供述ニ比シ、此信憑力ハ甚シク低下スルハ言フ俟タズ。

即チ間接供述ニハ序列的錯誤アリ、人ヨリ人ニ傳達サルルニ從ヒ次第ニソノ確實性ヲ失ヒ、別ニ惡意ナクトモ或ハ談話ノ色彩ヲ増ス爲メ、多クハ誇大乃至誇小ヲ伴ヒ、甚シキニ至リテハ故意ノ虚言モ加ハリ、或事實ハ數人ノ供述ヲ經過セバ殆ンド最初ノママナル眞實ヲ失フニ至ル。之レ流言乃至世評ノ信ズル能ハザル所以ナリ。故ニ證人或ハ參考人ノ陳述ニ何程ノ價值ヲ附スベキヤハ十分ニ考慮シテ後決定スベク、被疑者若クハ被告ノ言ニ至リテハ更ニ故意ノ虚構アレバ、常ニ物的證據等ニヨリテ之ヲ確實ニセザルベカラズ。

### 八、禁治産及準禁治産

民法上成年滿二十歳ニ達シ心神ノ發育適度ニシテ十分ナル處分能力ヲ有スルモノヲ治産トシ、精神病者、或ハ智識ノ發育程度ニ缺陷アル爲メ、處分能力全然缺如セルモノヲ禁治産ト云ヒ、精神狀態或

禁治産及準禁治産

シテ證言ノ價值ヲ定ムベシ。

時トシテ考慮ノ進行甚ダ遅延セル老年者及ビ或種ノ精神病者ニテハ、談話ハ迂遠冗長トナリ訊問ノ核心ニ達スル能ハズ。外見上恰モ言ヲ左右ニ托スルガ如ク見ユルコトアリ、コハ別ニ惡意アリ若クハ故意ニ然カスルニアラズシテ、考慮ノ方法拙ナル爲メ、談話ノ要點ヲ摘ム能ハザルモノナレバ、氣永ニ訊問シテ質疑ノ本旨ヲ得ベキモノナリ。

尙審理ノ際最モ注意スベキハ判斷及推理ノ錯誤ニシテ、精神健全ナルモノニテモ過信、誤判、迷信乃至偏見等アリテ、同一事實ヲ正當ニ解釋セズ、或ハ同一言語ニテモ之ヲ發言者ノ有スル意義ニ領解セザル場合アリ。況ンヤ妄想ヲ主トセル精神病者ノ曲解ニ於テオヤ、故ニ吾人ハ人ノ供述ヲ聞クニ當リテハ常ニ此點ヲ考慮シテ判定セザルベカラズ。ソノ他、意識障礙ノアルモノニ於テハ、ソノ認識ニ錯誤アルハ言フ俟タズ、コハハひすてり及癲癇者ノ朦朧狀態乃至強度ノ銘酎者ニ於テヨク見ル所ニシテ、其他感情ノ激發者ニ於テモ同様ノコトアルハ已述ノ如ク、又意志發育ノ完全ナラザルモノ、若クハソノ障礙アルモノニ威壓的乃至誘導的ニ訊問ヲナサバ、問者ノ意志ニ影響サレ返答ハ次第ニ事實ト違サカリ行クコトアリ。

ハ智能ノ缺陷程度、前者ノ如ク甚シカラズシテ若干ノ制限ヲ附セバ處分能力ヲ發揮セシメ得ルモノヲ準禁治産トス、處分能力ノ如何ナルモノナルヤハ已ニ便宜上責任能力ノ條下ニ略述シ置キタリ、今禁治産及準禁治産ニ關スル法律の規定ヲ擧グレバ左ノ如シ。

民法第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

同 第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四等親内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

同 第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

同 第九條 禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

同 第十條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

同 第十一條 心神耗弱者、啞者、聾者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

同 第十二條 準禁治産者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 元本ヲ領收シ又ハ利用スルコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 訴訟行爲ヲ爲スコト

五 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

六 相続ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト

七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト

八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト







後授シテ吳レマシタノデ暫時親戚ノ別荘ヲ借りテ居リマシタガ何時マデモ斯ウシテ居テモ何ウモナラント思ヒマシテ兄ニ相談シテ食ベル丈ケノ事ヲシテ見タイト申シマシタ兄ハソラ結構ジヤガオ前モ男ナラト身ヲ手ト身ヲ手ト云フテ相手ニシテ呉レマセンノデ私モ夫レモサウダト思ヒマシテフト私ガ軍隊デ縫工ノ方ニ居テ事ヲ思ヒ出シマシテ「ミシ」ヲヤツテ見タイガ當分補助ヲシテ貰ハニヤツテ行ケント申シマシタラ家賃ハ出シテヤラウト云フテ〇〇ノ方ニ家ヲ借りテ呉レマシテ夫レカラ私ト家内トガ別ニ師匠ニ付クト云フ事モナシニ一生懸命ニ色々法衣ノ考案ヲシテヤツテ見マシタガ初メノ内ハ一生懸命ニヤリマシテ月ニ拾五圓位ニシカナリマセンデシタガ其處デ何糞ト思フテ二人デ一生懸命ニヤリマシタラオ蔭様デ一年半位ノ後ハ貳百八拾圓入ル様ニナリマシテコレ結構ナ事ヤト喜ンデ居リマスト兄ガ伊勢ノ方ヘ海水浴ニ参リマシテア、シテ海ノ中デ心臓麻痺デ急ニヤラレマシテ本家ノ方デハ相續人ガ未ダ九歳デ其ノ後ニ男ガ二人御ザイマスガ色々親戚ガ寄ツテ相談ノ結果何ウモ營業ヲ止メテ仕舞フ譯ニハ参リマセンシ相續人ガ何様子供デスカラ子供ガ成長スルマデヤツテ呉レト云フ様ナ事デ此ノ方ノ家ヲ疊マシテ確カ昭和四年八月廿五日カ六日頃カラ母家ノ方ニ移リマシテ今迄繼續致シテ居リマス

貴方ガ禁酒シタノハ何時頃カラデスカ  
大正十三年...私ガ府立病院ヘ入院シテ居ル時カラデス  
其ノ後絶對ニ禁酒デスカ  
其ノ方ハ一切御免ヲ蒙ツテ居リマス兼ネテ〇〇先生カラモ如何考ヘテ見テモ一寸モ利益ノナイモノト云ハレテ居リマスノデ宴會等ヘモナルベク代人ヲヤリマシテ自分デハ止ムヲ得ン宴會丈ケ行ク様ニシテ居リマス殊ニ兄ガア、云フ不時ノ死方ヲ致シマシタノデ其ノ後ニ整理センナラン仕事ガ澤山アリマシテ私一人デヤラネバナリマセンノデ一切酒ノ方ハ御免ヲ蒙ツテ居リマス

貴方ハ子供サンハアリマセンカ

何ウ云フモノカ之レバカリハ授カリマセンノデ...〇〇先生ニ色々検査シテ戴キマシタガ何ウモナイト云ハレテ居リマス  
貴方ノ今シテ居ル仕事ハ如何ナ事デスカ  
母家ノ營業...織物ノ方デスカ...夫レト借家ノ管理株式ノ配當小作田地簾ノ管理町内ノ交際親戚ノ交際等デツイ忙シクヤツテ居リマス  
其ノ仕事ノ内デ何ガ一番難シイデスカ  
マア...親戚間ノ事ヲゴタノ、ナシニヤツテ行ク事デ御ザイマス商賣ノ方ノ事ハ私共小サイ時カラ教育ヲ受ケテ居リマスノデソラ難シイ事モアリマスガ何ント申シマスカマアヤツテ行ケバヨロシイノデスカ小サイ家作ラ〇村ノ家デハ私ガ一番年長者デ御ザイマスカラ老人デモ居リマストヨロシウ御ザイマスガ

今財産ハ如何程アリマスカ  
金解禁前後トデハ大分違イマスガマア...三割ハ現在ハ小サク見ナケレバナリマセンガ價值ニシテ五拾一萬圓下リマスマイト思ヒマス現金ハ御ザイマセン...何シロ金解禁ガ非常ナ打撃デ御ザイマシテネ商品ハ安クナル公債ハ下ルデ御ザイマシテ打撃デ御ザイマス

商賣ノ方デハ如何ナル事ガ一番厄介ダト思ハレマスカ  
一番厄介ナノハ何カ一ツ織物ノ模様ヲ作りマシテ賣リ出シマシテモ夫レガ當リマセントトント買ヒ手ガナクテ賣レマセン夫レガ一番困リマス  
競争デスカラ...人ニヤラセルノモアリマスシ自分ニモヤリマス當リマシタラボロイモノデスカ當リマセントトント困リマス  
財政ノ方ハウマクヤツテ居リマスカ  
イヤーソナ事ハ御ザイマセンガ昨年モ金解禁ノ豫告ガ出テ色々心配シマシタガ何レ物價ガ下ルニ違イナイト思ヒマシタノデ店ノモノニモ鬼ニ角商

品ノ有ル丈ケ賣ツテ賣リ捲クレト申シマシテ持ツテ居ル商品ノ殆ンド大部分ヲ賣ツテ了ヒマシタノデ非常ナ打撃ヲ受ケズニ通ツテ参リマシタ  
金解禁ハ何故物價ガ下落シテ来マシタカ  
私共モヨク存ジマセンガ早イ話ガ外國爲替ガ三十八弗ガ四十弗ニナルトドウシテモ内地デハ品物ヲ安ク作ツテ安ク賣ラネバナランガ様ニナリマス  
何故爲替ガ上ルノデスカ

現金支拂ヒマスノデ正貨デ拂フトナルト外國トシテモ安心シテ取引スル事ガ出来マス正貨デナイト爲替ガ決算書ニナルカラデ御座イマスアノ當時私共モ方々色々六ヶ敷イ話ヲ聞キマシテ何ウ仕様カト思フテ居リマシテ鬼ニ角スルニ違イナイト思フテヤツテ見ルト矢張りアノ通り今デハ株券ハ暴落シマスシエライコトス千五百圓位シマシタ相續モ今デハ五百圓位ニ下リマシテエライコトス尤モ金解禁モ平價ニ切り下ゲテヤツテ呉レルト斯ナ事ハアリマセンガソラ政府ハ理想通りヤツテヨイカモ知リマセンガ一番困ルノハ國民デス何程緊縮々々ト云フテモ之レ以上ハ出来マセンモウナル餘地ガ御ザイマセン

金解禁ハ國家トシテ利益カ不利益カ何レダト思ヒマスカ  
大キク考レバ丁度戦争後ノ獨逸ノ様ニ國民ガ皆緊張シテヤルノデスカラ大キク云ヘバ國家ノ爲メニナル事ト思ヒマスガ日々國民ノ困ル状態ヲ見ルト思想ヲ悪化シテ居ル今日如何カト思ヒマス斯ウ世間ニ金ガナクナツテハ皆ガ實際上ヤツテ行ケンノデスカラネヤツテ行ケント云フ程強イモノハゴハセン今朝モ私ハ家事調停ノ事デ裁判所ヘ行テ参リマシタガ世間ハ全く逆ニナツテ居リマス家ヲ貸シテ二年計リ家賃ヲ滞ラセテ貰ヒマシテ其ノ揚句ニ向フカラ拂ヘマセント云フテ訴ヘテ出マス全く反對デシテ結局參百圓計リノ處ヲ四圓ノ月賦デ拂フト云フ向フノ申込ニ通りデ夫レデ結構デ御ザイマスト云フテ参リマシタ...五年程カ、リマス全部貰ヒマスノニ...此ノ不景氣ノ上ニ色々可愛想ナ事情モアリマシテ家ヲ明ケルト申シマシ

テモ行ク所モ移轉費モナイト申シマス...段々ト斯ウ世間ガ難カシクナツテ参リマシタ  
〇〇君ノ話ニ依ルト貴方ノ悲境時代ニ貴方ノ奥サンガ非常ナ苦勞ヲサレタサウデスカ貴方ハ御存ジデスカ  
イヤ...モウ...アレガ居テ呉レマシタノデ私ガ斯ウナレタノヤト非常ニ感激シテ居リマス未ダ未熟ナモノデスカラ之カラ皆サンノ御後授ヲ得テ何カト二人デキバツテヤラネバナラント思フテ居リマス

準禁治産ハ具合ガ悪イデスカ  
ドウモ工合ガ悪ウ御ザイマス最モアレハ私ノ兄ガ申立テマシタモノデ私ノ所ヘ「實兄次」兵〇ガ申立ニ依リ準禁治産ニスル」ト云フ書キ付ケガ来マシタノデイヤエライ事ニナツタト思ヒマシタガ私モ兄ヲ信用シテ居リマシトオ上ガ斯ウヤト云ハレバ仕方ガナイト思ヒマシテ別ニ反對致シマセンデ居リマシタガ其ノ後ノ商賣上ニ困ル事ガ多ク御ザイマシテ何ウモ認メラレント云フ事ニナルト店ガヤツテ行ケマセンノデ〇林サンニ相談シテ私ガ其ノ取消ヲ申請シタノデ御ザイマス  
保證人ハ誰デスカ  
家内デス何ウモ準禁治産ノマ、デハ總テニ遠慮ヲセンナラン様ナ工合デ...マア其方ガヨイノデスカガ店ノ營業上ノ事デモ何ウモ都合ガ悪ウテ...今度私共ノ方デ西陣織物組合ノ仲繼ギ商人ト云フモノヲ作ル事ニナツテ居リマスガソナ事ニモ矢張り具合ガ悪ウ御ザイマシテ困リマス銀行ノ方ノ取引モ興信所ノ方デ先方ガ調査ヲシマスト彼奴ハ準禁治産者ヤト云フト...ヤツモウ何ウモ取引ガ出来マセンシ第一證書ヲ一切書ク事ガ出来マセンノデ全く何ウモ勝手ナ御願デ相濟マントハ存ジテ居リマスガ取消シテ戴ケタラ大變具合ガ良イト思フテ御願ヒシタ様ナ次第デ御ザイマス  
此ノ前ニ鑑定シタ時ノ話ヲ記憶シテ居リマスカ  
覺エテ居ル所ト居ラン所トアリマス

此ノ前ニ鑑定シタ時ノ話ヲ記憶シテ居リマスカ  
覺エテ居ル所ト居ラン所トアリマス



夫レデハ今日ハ是レマデニシテ置キマセウ

ヘイ有難御ザイマス

態度普通禮儀備ハリ静カニ検査室ヨリ退去ス

第二回検診(六月廿四日前同所ニ於テ)

態度前同ノ如シ即チ問診ヲ始ム

オ忙シイデスカ

ヘイ一人デ御ザイマスノデ極メテ忙シウ御ザイマス

旅行シテ居リマシタカ

何ウモ一寸彼方此方ヘ行カネバナリマセスノデ……大變勝手バカリ致シマ

シテ相濟ミマセン又明朝モ早々カラ行カネバナリマセンノデ……

此ノ前ノ御大典ハ何時デシタカ

昭和四年十一月十日ニ式ガアリマシタ

大正三年ヤツタト思フテ居リマス

大正三年ノ何月何日デスカ

ハツキリ記憶シテ居リマセン

大正天皇ノ御崩御ニナラレタノハ何時デスカ

大正十五年ノ十二月ノ廿五日ヤト思テ居リマス

日露戦争ノ時旅順ノ陥落シタノハ何時デシタカ

明治廿八年ノ一月八日ヤト思フテ居リマスガ

最近日本デモラトリアムノアツタノハ何時デシタカ

昭和二年ノ三月ト思ヒマスガ日ハ記憶シテ居リマセン

アノ銀行ノ取付ケノアツタノハ何時デシタカ

アノ當時ハ私ハ田舎ノ方ヘ參ツテ居リマシテ新聞モ見マセン唯話ヲ聞イタ

丈ケデスコツテ良ク存ジマセン

甲乙兩地ノ間ヲ電車デ三十分ヲ要ス今甲乙兩地ヨリ五分間毎同時ニ電車ガ發

車シテ居ルスルト甲地ヨリ乙地ニ向ツテ出發セル電車ガ乙地ニ到着スルマ

デニハ乙地ヨリ甲地ニ向ツテ出發セル電車何臺ト途中ニテ行遭フカ

五臺デスカ(直ニ答フ)

五臺デスカ

最初ガ出タトシタラ……八臺デスカ……十臺デスカ一分違ヒデ十臺ニナリマ

ス……イヤ四臺デスカ

五分間毎ニデスカラ二分半毎ニ行キ違ヒマスヨ

三十分ノ距離故……ア、判リマシタ十臺デスカ……九臺カ十臺デスカ

聖德太子ハ何年位前ノ人デスカ

此ノ間千五百年ノ御法要ガアリマシタ

何ナ事ヲサレタオカデスカ

佛教ノ傳來ヲ初メテ崇拜セラレタオ方デ御ザリマス

親鸞ハ何年程前ノ人デスカ

明治四十四年ニ六百五十年回忌ガアリマシタカラ……

元寇ノ役ハ何時デシタカ

北條時宗ノ時代デスカラ……七百年以上ニナルト思ヒマス

親鸞ト日蓮トハ何レガ先キデスカ

日蓮ガ後デ親鸞ガ古イノデ五十一一年位違ヒマス、オ生レノ日ハ存ジマセン

ガ商賣ヲシテ居リマスト御法要ガアリマスノデ大體ハ存ジテ居リマス

日本カラベるリンニ行クニハ幾通りノ行ク道ガアリマスカ

陸ト海ト飛行機ト三通リアリマス先ヅ海カラ行クトスルト郵船デ歐洲航路

ニ乘リまるせいゆカラ上陸シテ汽車ニ乘リマス陸ノ方ハしべりお鐵道ガア

リマス先ヅ朝鮮カラ行ツテ滿鐵デはるびンニ行キマスソシテるしおニ入り

汽車ヲ乘リ替ヘテベるリンニ行キマス

モウ他ニ道ハアリマセンカ

飛行機ガアリマス

成程モウアリマセンカ

海ヲ行ツテあめりかヘ上陸シあめりか大陸ヲ横斷シテ汽車デ横切ツテ又船

デ歐洲ニ行キマス

あめりかふーばー大統領提案ノ獨逸賠償金モラトリアムハ日本ニハ如何ナル

影響ガアルト思ヒマスカ

直接大シタ影響ハアリマセンガ國家トシテハ繁榮策デ政府トシテハ六、七

百萬圓近クノ損害デスカ他ノ國モ同ジ様ニ金ガ遺入ラナイカラ夫レヨリ

モツマリ日本ノ貿易ガ盛ントナリ結局都合ガ良イ事ニナリマス、ツマリ不

景氣ガ幾分デモ立直シハセンカト思ヒマス人氣トシテハ何ウモ良イ方ニ解

釋シタ方ガ徳ナ様ニ思ヒマス

鐘紡株ハ何程高クナリマシタカ

昨年ノ安値ガ百五十圓デシタガ昨日ノ夕刊ヲ見マスト貳百圓ニナツテ居リ

マス

絹絲ノ値ハ何ンナニナツテ居リマスカ

今ノ處デハ大シテ上ツテハ居リマセンガ安イ時ガ百五十圓今デハ百五十圓

位ニナツテ居リマス

人絹ト本絹ト違フ點ヲ云ツテ下サイ

性質カラ申シマス本絹所謂天蠶ハ動物性人絹ハ植物性デアリマシテ價格

方違イマス用途モ違ヒマス保チハ天蠶ノ方ガ良イデスシ人絹ハ一時的ニス

ルノデ御ザイマスカラ何ウモ一般ニ受ケマセン人絹モ今日デハ色々用ヒテ

居リマスガ重量ガ重イノデ受ケマセン

同ジ點ヲ答ヘテ下サイ

マア外見ケデスネオ素人ノ方デハ一寸判別ガ出來マセンガ手ニオ取リニ

ナツテモ一寸判リマセンガ染メマスト人絹ノ方ハ何ウシテモ同ジ光澤ニハ

參リマゼン然シオ素人ニハ一寸判リ難イカト思ヒマス

まるくす主義ト云フノハ如何ナル譯デスカ

禁治産及準禁治産

新聞雜誌デチヨイノ見マス位デ特別ニ研究シマセンガマア貨幣制度ガアル  
ル爲メニ非常ナ警察ガアルノデ夫レヲ直シテ社會ヲ幸福ニ導ク様ニスルノ  
ネデゼウネ  
ぎると組織トハ如何ナル事デスカ  
存ジマセン

身體的検査

體格中等、榮養良、皮下脂肪層及筋肉ノ發育亦良ク脈搏一分間八十四至整ニ

シテ緊張良稍硬シ

頭形尋常頭部ニハ毫毛癢痕ノ跡ナシ頭部ヲ輕打スルニ疼痛ヲ訴フル部ナシ兩

耳殼尋常りんね及びうえトベ氏檢法異常ナシ顔面左右均等顔面筋ノ緊張ニ

異常ナク顔面神經ノ配下ニ麻痺癱瘓無ク其ノ出現點ニ壓痛ナシ舌ヲ伸出セシ

ムルニ少シク震顫アリ眼動ニ異常ナク瞳孔左右同大圓形ニシテ對光反應及ビ

調節機能存ス

胸部ハ左右均等呼吸運動尋常肺心臓ニ聽打診上粗大ナル異常ナク腹部ヲ按摩

スルニ特記スベキ壓痛及ビ硬結ナク腹皮反射左右均等ニシテ尋常

上肢ニ於ケル深反射亦之ニ同ジ手ニ尙未ダ少シク震顫アリ膝蓋腱反射左右均

等尋常腓腸筋ニ壓痛ナシ

觸覺及ビ痛覺共ニ特記スベキ異常ナクろんべる氏微候ナシ

(丙) 檢診總括

茲ニ於テ申立人檢診ノ結果ヲ總括スレバ概ネ左ノ如シ

申立人ノ態度ハ普通ニシテ表情ニ異常ナク衣服整ヒ禮讓備ハリ談話ハ普通ニ

シテヨク其ノ意識ヲ通ジ發言ニ異常ナシ

申立人ハ時所及ビ人ニ對スル指力充分ニシテ全ク病覺ナク注意力普通、領

解力及ビ判斷力ノ如キ常人ノ上ニ出デ從テ毫モ安覺安想ナク記憶力尋常ナリ

ト雖モ稍平均値下ニアリ

精神能力ハ少シク平均人ノ上ニアリト云フモ不可ナク計算ハ普通常識ニ富ミ



特ニ其ノ職業上ノ智識ニ至リテハ遙ニ常人ヲ抜ク觀念ノ内容ハ尋常ニシテ病的觀念ナク其ノ聯合法ニ異常ヲ認メズ從テ思考ノ方途尋常ニシテ談話ハヨク其ノ意ヲ盡スヲ得。

感情ハヨク發育シ特ニ道德乃至法律的感情ニ富ミ氣分尋常幾分多幸性情緒著シク意志發動力モ亦尋常ニシテ無意味ノ行爲等無ク言動全ク紳士的ニシテ人觸リモ良シ。

次ニ申立人ノ身體ヲ精査スルニ精神々經學上特記スベキガ如キ異常ナシ即チ現時申立人ノ心身ニ於テ何處ニモ異常アルヲ發見スル事能ハズ

(丁) 診斷及ビ説明

上記(甲)乃至(丙)ニ記スル所ニ依リテ申立人ノ現時ニ於ケル精神状態ヲ診斷スル事左ノ如シ。

申立人ノ遺傳關係ヲ探グルニ彼ハ稍々重キ精神病ノ遺傳的負因ヲ以テ生レタルモノ、如ク小學校通學中ハ可成ノ成績ヲ得居リ卒業後父ノ家業ヲ手傳ヒテ相當ノ技量ヲ示シタルモノ、如シ。

然ル所申立人ハ十七、八歳ノ頃ヨリ飲酒シ始メ次第ニ其ノ量ヲ増シ特ニ軍隊ニ入りテヨリ益々酒量ツノリ飲酒酩酊ノ上隨分奇行多カリシモノ、如ク遂ニ酒氣ナクテハ仕事モ碌々手ニ就カズ元氣衰へ不平等ナルト云フ有様トナリ所謂慢性酒精中毒ノ精神病候ヲ呈シ居レリ。

除除結婚後申立人ノ飲酒量ハ少シモ減セズ特ニ某々ナル惡友出來シヨリ後ハ内外ノ別ナク飲ミ廻ハリ手形等ヲ亂發シ乍ラ毫モ覺エナシト云フ有様ナリシカバ實兄ノ申立ニ依リ準禁治産ヲ宣告セラレテ次イデ破産宣告申立事件等起リシカバ申立人ハ大正〇年京都市立醫科大學病院精神科ニ入り禁酒シテ専ラ療養ニ務メタリ

大正十四年前記破産宣告申立事件ニ付キ〇〇、××兩博士及ビ子ハ申立人ノ精神状態鑑定ヲ命ゼラレ何レモ彼ガ慢性酒精中毒ニ因ル精神薄弱者ナリト鑑定シ置キタリ。

然ル所爾後申立人ハ殆ンド全ク禁酒シ且ツ飲酒ノ爲メ浪費失産セル狀況ニ立チ乍ラ實兄ノ扶助ト愛妻ノ力ニヨリテ内職ヲ始メ最初ハ一ヶ月收入僅カニ拾貳圓位ナリシモ彼等夫婦ノ其眞面目ナル努力ハ報ヒラレ終ニハ法衣ノ考案等ヲナシテ一ヶ月ノ收入貳百五十圓位トナリ生活ノ安定ヲ得ルニ至レリ。

斯ル際ニ當リ申立人ノ實兄ハ伊勢ノ海水浴場ニ於テ不慮ノ頓死ヲナスニ至リ實兄ノ相續人ハ尙ホ幼ニシテ一家ヲ處理スル事困難ナリシカバ親族會議ハ眞面目ノ生活ニ歸レル申立人ヲ撰ビテ〇郎〇衛家ノ經營ヲ托シタリ。

茲ニ於テ申立人ハ實兄方ノ經營ニ當リ財界ノ不況ト不景氣時代ニ遭遇シ乍ラ良ク五拾萬ノ資産ヲ運轉シテ嗟歎アラシメザルハ周圍ノ人ノ嘆稱シテ措カザル處タリ然レドモ彼ハ前記ノ如ク大正十三年京都市區裁判所ヨリ準禁治産ヲ宣告サレ居ルヲ以テ種々ノ商行為ハ云フニ及バズ公開ノ席上ニ出ヅルスラモ不便ヲ感ジ且ツ禁酒後全ク精神状態尋常ニ復シタルヲ以テ準禁治産宣告ノ取消申立ヲナシタルモノナリト云フ。

然リ而シテ今回予ガ申立人ヲ檢診シタル結果ニ依レバ其ノ精神界ノ何處ニモ異常アルヲ發見セズ即チ申立人ノ七、八年ニ亘ル禁酒ハ大正十四年彼ノ酒精中毒ニ因ル精神薄弱者ナリト診定セル所現時ノ状態ニ於テ完全ニ證明シ居ルモノナリト云フベシ此ノ如キ有様ナレバ申立人ハ現時完全ナル處分能力ヲ恢復シタル事ハ言ハテ俟タズ。

(戊) 鑑定

上記(甲)乃至(丁)ニ記載ノ事實ト理由トニ依リ左ノ如ク鑑定ス。

一、本件申立人〇〇文〇郎ハ現時(予ノ檢診時)完全ナル處分能力ヲ有スル精神健全者ナリ

此ノ鑑定ハ昭和六年四月二日著手  
同 年七月十日終了  
昭和六年七月十日

宿 所  
小南 又一 郎 郎

九、遺言能力

遺言能力トハ遺言ヲナスニ當リ遺言者ガ自由意志ヲ以テ之ヲ爲ス精神的能力ヲ有スルヲ云ヒ、民法ニ於テハ年齢滿十五年以上ノ精神健全者、或ハ成年ノ精神病者ガ本心ニ復シタル時ハ遺言能力アルモノトナセリ。精神病者ガ自由意志ニ復シ遺言ヲナス場合ニハ、醫師二人以上ノ立會ヲ以テ遺言能力アルヲ證明シタル時、始メテ民法上ノ效力ヲ生ズルモノトス、遺言能力ニ關スル法律の規定ハ左ノ如シ。

民法第六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

同 第六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

同 第七十三條 禁治産者ガ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ封紙ニ右ノ記載及ビ署名捺印ヲ爲スコトヲ要ス

同 第七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 刑罰公權者及ヒ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者
- 五 推定相續人受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生屋人

精神異常者ニ對スル犯罪

十、精神異常者ニ對スル犯罪

精神異常者ト雖モ相當ノ手續ヲ履マズシテ監禁スレバ不法監禁ノ罪ニ問ハレ、精神異常者或ハ十三歳未滿ノ幼者ニ對シテハ、假令ソノ承諾ヲ得タル後ト雖之ニ對スル姦淫ノ行為ハ強姦ヲ以テ論ゼラレ、精神異常者ヲ利用シテ犯罪ヲナシ、又ハ特別ナル利益ヲ取得スル時ハ又一一定ノ罪ヲ課セラル。今精神異常者ニ對スル犯罪ニ關シ、法律ノ規定スル所ヲ擧グレバ左ノ如シ。

刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

同 第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

同 第二百十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行為ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

同 第二百十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同 第二百十八條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

同 第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交附セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルモノハ十年以下ノ懲役ニ處ス

十一、精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ



精神病者鑑定書ニ關シテハ特ニ所定セラレタル所ナシト雖、簡潔且明瞭ニ鑑定ノ要項ヲ記載シ、十分ニ鑑定命令ノ所旨ヲ満足セシメ...

所ヲ記載シ、次デ鑑定ヲ要スルニ至リタル大要ヲ述べ、信據スルニ足ルベキ人ヨリ既往歴ヲ採リ、現在症候トシテハ心身兩方面ヨリ...

更ニ他ノ(乙)様式ハ數回診察ノ結果ヲ綜合シ、指南力ニ對スル問答或ハ検査ハ指南力ノ部ニ集メ、注意力ニ關スル検査ハ、全部注意...

甲様式鑑定書

第五十五例 鑑定書

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審廷ニ於テ豫審判事〇〇〇〇ハ

原籍 住 所 平民奉助長男

明治〇〇年〇月〇〇日生

ニ對スル殺人未遂被告事件ニ付左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ...

甲様式鑑定書例

喪失ノ状態ニアリシモノナルヤ尙ホ被告ノ前記傷害行為ハ其精神障礙ニ起因シタルモノナルヤ否ヤ...

甲、遺傳關係

文助ノ父奉助ノ實母ノ姉なみノ娘〇〇ふじハ京都在住中今ヲ去ル十年前六十歳位ノ時財產ヲ失ヒタルヲ苦慮シ精神ニ異常ヲ來シ京都癲狂院ニ入院シ變死...

乙、生活歴

文助ハ明治〇〇年九月廿六日〇〇縣〇〇市ニ生ル八歳ニシテ同地ノ師範學校附屬小學校ニ入りシガ間モナク父ト共ニ〇〇國ニ轉ジ居ルコト五ヶ月程ニシテ...



ビタリ

大正〇年中學五年ノ夏期休暇ノ時一家ガ播州明石ニ移リシヲ以テ同地ニ歸省中一日海水浴ヲ取リシニ腹痛下痢ヲ來シ始メハ粘液血便等ヲ見病症劇烈ナリシガ次第ニ寛解セシモ全治ニ至ラズシテ爾來秘結下痢ノ交替スルヲ常トセリ然レドモ中學五年ノ二、三學期共ニ登校シ業ヲ終ヘシガ第〇高等學校入學後ハ病勢増進シ倦怠甚シク記憶判斷ノ減弱ヲ感ジ一ヶ月程モ就學セシコトアリテ暫時登校セシガ遂ニ堪ユル能ハズシテ休學ヲ決シ歸宅シ療養ニ力メタリ主治醫ハ此病症ノ結核症ナラザルヤヲ疑ヒ本年二月頃ビるけ氏及かるめつと氏試驗ヲ施セシニ輕度ノ反應ヲ呈セリト云フモ其後大阪赤十字病院ノ診斷スル所ニ依レバ結核症ニ非ラズト云フ而シテ自覺的ニ症狀依然タリシニ依リ猶休學ヲ續ケ居リシガ滿二年ニ互ルノ故ヲ以テ退學願ヲ提出スベキヲ命ゼラレ本年八月十八日其聽許ヲ得タリ(以上一件記録……參照)

文助ハ資性温良ニシテ一見寧ろ陰氣ト稱スベク而モ感激シ易キモ曾テ粗暴ノ舉ニ出デシコトナク物ニ執著スルコト強ク一旦感情ヲ害スルコトアレバ對手ヲ監視スルコト久シキニ互リ又事ヲ尋ヌルニ當リテモ之ヲ追求シテ止マザルノ傾向アリ萬事ニ細心ニシテ放埒ナラズ又感情強ク學科トシテ昆蟲採集ヲ命ゼラルルモ之ヲ爲スニ忍ビ又曾テ蛙ノ解剖ヲ見テ啼泣スルニ至レルコトアリト云フ

嗜好トシテハ好シメ機械ヲ弄シ小細工ヲナシ唱歌ニ向フテハ特ニ趣味ヲ有シ中學ノ學課中物理數學ハ其最モ好ム所ニシテ成績ハ一般ニ優良ナリシト云フ(以上……參照)

二、犯罪 顛末

文助ハ父ト奥六疊ニ文二及文三ハ母ト共ニ臺所ニ蚊帳ヲ同ジクシテ就床スルヲ常トセシガ大正〇年八月廿六日偶父泰助ハ業務ノ爲メ他行セシニ依リ同夜文助ハ文二ニ向ヒ奥六疊ニテ共ニ寢コトヲ勸メシニ文二ハ初メ之ヲ好マズトテ應ゼザリシガ母モ共ニ勸メシカバ文二ハ之ニ從ヒ九時半頃ニ文助ニ先シ

ジテ寢ニ就ケリ

文助ハ尙表座敷ニ在リテ涼ヲ取リ居リシモ後堂ニ審カナル往事ノ不滿意ヲ追憶シテ不快ヲ感ジ臺所ニ行キ又座敷ニ歸リナドシテ苦悶ヲ續ケシガ寢ニ入ラバ忘レモセンカト考ヘ十一時文二ノ傍ニ至リテ就寢セルモ尙思ヒ去ラズシテ眠ル能ハズ一時、二時ノ時計ハ之ヲ聞カザリシガ午前三時ヲ耳ニセシ後尿意ヲ催セシヲ以テ上圍シ歸途豫備ニ付ミ再ビ追想シ不快ノ念起リ偶機ノ机ノ上ニ在リシ小刀ヲ手ニシテ蚊帳ニ入り追憶シ苦シミ呻吟スルコト數次達ニ午前四時半トモ思ハシキ頃思ハズ立チ上リテ文二ニ近ヅキ手ニセル小刀ヲ以テ數回其頸部ニ切り付ケタリ母ハ其物音ニ驚キ駈ケ付ケ來リシニ文助ハ立チ居リ文二ハ臥位ヲ變ジ居リシヲ以テ其場ノ始末ヲ問フニ文助ハオ母サンシマフタコトヲシタト云フニ依リ母ハ之ヲ諭メテ同人ヲ問フニ押シヤリシ時文助ノ右手ニ小刀ヲ握リ居ルヲ見之ヲ取リ上ゲテ文三ニ渡シ文助ニ向ヒ醫師ヲ迎フ可キヲ命ジタリ文助ハ之ニ從ヒ衣服ヲ改メテ出テ小野寺醫師ノ下ニ行キ取次ノ看護婦ニ向ヒ怪我人出來シニ依リ早速往診ヲ望ム旨ヲ申出デタリ小野寺醫師ハ怪我ノ模様ヲ問ハシメシニ文助ハ頸部ノ二、三寸ノ負傷ナル旨ヲ答ヘテ立去リタリ、文助ハ途上始メテ一大事ヲ仕出來セルヲ氣付キテ午前五時廿分頃〇〇警察署ニ出頭自首セリ(一件記録……參照)

三、檢 診 記 録

第一回檢診(大正〇年九月廿五日)〇〇監獄 拘留監視問所ニテ)

同所ニ至リ入り來ルヤ鑑定人ニ向ヒ一禮シ鑑定人ノ「上へ昇リテ」ト云フヤ白ラ椅子ヲ持チ段ヲ昇リテ腰ヲカケ後解帶シ始メシガ鑑定人ノ命ニ依リ再ビ之ヲ結ブ茲ニ於テ問診ヲ初ム

〇〇サンデスネ

ハア

イクツカ

アレハ越中デス

ソコデ學校ニ行ツタノカ

ハアソコデ三年生カ四年生迄居テ(杉木新)ト云フ高岡カラ二里カ三里ノ所ニ變リマシタ

ドウカキマスカ

杉ノ木ノ杉ソレカラ木ソレカラ新ラシイト云フ字ダロウト思ヒマヌヨク知リマセン

ソレカラ

ソレカラ〇〇デ高等ノ三年ノ一學期迄ヤリマシタソレカラ〇〇ニ來テ高等ヲ卒業シマシタ

ドコデス

〇〇市立第二高等小學校デス

ソレハドコデス

〇〇市高辻通り〇〇(ヤ、迷ヒツ、)西南角デス

小學校卒業迄ソコニ居マシタカ

ハア

ソレカラドウシマシタ

ソレカラソコノ小學校ガスンデカラ〇〇第二中學校ニ試験ヲ受ケテ遣入りマシタ其時亦私ノ家ガ〇〇ニ變ツテ行キマシタカラ直ゲニ家ニ歸リテ〇〇中ノ學校ニ轉學シマシタ

〇〇ノ中學ヲ卒業シマシタカ

二年終リマデ

ソレカラ

ソレカラ又〇〇ニ來テ第二中學校ヲ卒業シマシタ

幾歳ノ時ニ卒業シマシタカ

大正〇年廿一歳ノ年デス

大正〇年廿一歳ノ年デス

廿三デス

明治何年生レデスカ

明治〇〇年九月

九月ノ

廿六日生レデス

ハア

ドコデ生レマシタカ

〇〇縣〇〇市

〇〇市ノドコ

何ト云フ町カ知リマセン

聞イテオランカ

ハア

幾ツ迄〇〇市ニ居リマシタカ

ハツ迄居マシタ——ハツ迄居マシタケレドモアツチコツチヘ行ツテ山科ニ居タコトモアリマスシ一ツ所ニ居タト違ヒマスカラ

學校ニ遣入ツタカ〇〇デ

ハツノ年ニ〇〇市ノ師範ノ附屬ニ遣入りマシタ

イクツマデ

遣入ツテカラ直ニ父ガ〇〇ノ方ニ行ツタノデ私モツイテ行キマシタ

能登ノ〇〇カ

ハア!

ソコデ學校ニ行キマシタカ

ソコデハ二ヶ月バカリシカ居ランモンデスカラ學校ニ行カズニ高岡ニ行ツテカラ

越後ノデスカ



ソレカラドウシマシタ  
ソレカラ○高二道入りマシタ九月カラ第一學期丈ケ居リマシタ私ノ五年ノ  
時内ガ明石ニ變リマシテ家ニ歸リテ二日程タツテ海ニ道入ツタラ腹痛ガ痛  
ダノデソレデ近所ニ居ル醫師ニ見テ貰フテ治ツタガマダ一寸イ一寸イ腹ガ  
痛ミダシタリ下痢シタリスル許リデシタ  
ソレハ中學校ノ時ダネ  
ソウデス五年ノ夏休デス  
ソレカラ

ソレカラ二學期三學期モ少シ痛タンダケレドモホツテオイテ醫師ニカ、ラ  
ンデモ治ルダロウト思ツテ居マシタソレカラ○高二入學スルコトニキマツ  
タノハ六月末デシタロウ其時一度醫師ニ見テ貰ツタコトガアリマシタソノ  
時迄ハ腹痛ガ痛ンデ一寸イ一寸イ下痢スル許リデシタガソレカラ體ガ辛度ク  
ナツデゴロ／＼シタクナツタリスルモンデスカラ一月バカリ休ンデ居マ  
シタ

何科ニ道入ツタノデスカ

工科……ソレカラ少シ暖カツタリ寒カツタリナンゾスルト身體ガ辛度クナ  
リテ工合ガ悪カツタンデス  
此頃モ工合ハヨクナイカネ

ドウモヨクアリマセン結シテ五日モ六日出マセン氣張ツテモ出マセンソレ  
ガ又ドウツト下ツタリシテ腹痛ガ痛ムノデス  
ソウカ

前カラ腹ハ……ゴク小サイ時ハ知りマセン前カラ結スル方デ二、三日モ  
出マセンソレカラアト下ル方デシタ海ニ道入ルノガ嫌イデガタ／＼振ヘマ  
スガ嫌ダツタノデスガ父ナンカ海ヘ道入ル方ガヨイト云フノ道入リマシ  
タ……ドウモ明石ノ水ハ冷イデス七尾ノ方デスト暑イ時ニ一寸イ／＼道入  
ツタコトモアリマスガ明石ノ方ハドウモ冷イ様デス

冷イ

ハア

二部ニ道入ツテ何ヲヤロウト思ヒマシタ  
始メニ二部ノ乙ニ道入ツテ物理デモヤロウト思ヒマシガ甲ニ道入ツテオレ  
バ乙ニ代レルト勤メテ呉レタ人ガアリマシタノデ甲ノ方デスト電氣力機械  
カラ……私ハ甲ノ方ニ道入リマシテモアトデ物理ノ方カ何カニ代リタイ  
思フテ居マシタ  
重ニ惡イノハ腸デスナア

私ノ惡イト思フハ腸デス——腸ガ惡クナツテカラ身體ガ辛度ウテ寝タイト  
思フコトガアリマスソレバカリデナク身體ガ辛度クテ讀ンダリ書イタリス  
ルコトガドウモ惡ウナツタ様ニ思ヒマス  
腸ガ惡ウナツテカラカ  
ドウモ腸ガ惡ウナツテカラノ様デス

中學校デハ何ガ面白カツタカ學科デハ  
一番面白ク思ツタノハ物理デスソレカラ數學ソレカラ唱歌ハ小サイ時カラ  
好キデシタ小サイ時カラ唱歌カ機械ノ様ナモノガ此二ツガ小サイ時カラ一  
番好キデシタ……此頃ハ覺エタリ考ヘタリスルコトガ出来ナクナリマシタ

ソレカラ中學ノ一、二年頃カラ聲ガ出惡ク、ナリマシタソレデ確ニ之ハ普  
通デナイト思ヒマス去年デシタカ一昨年デシタカ一昨年デシタ京都デ咽  
喉ヲ見テ貰ヒマシタラ別ニ何トモナイカラ仕樣ガナイト云ハレマシタ聲ガ  
コウアアアア……(聲ヲ出シ)トコウ出惡ク、ナリマシテ今氣張ツテ分  
ル様ニ話ソウトシテ居マスカラデスガ唱歌ナンカ連モ歌ヘマセン  
イツカラ鼓ニ居マスカ  
此監房デスカ  
此監獄ニ  
廿七日カラデス後月ノ

内カラ直ニ來マシタカ

廿七日朝ニ何シマシテ……(稍赤面シ)

朝ドウシマシタカ

朝此事故ヲ起シマシテソレカラ○警察ニ行キマシテ日ノ暮レ方鼓ニ來マ  
シタ

廿七日ノ朝デスネ

ハア

警察ニ自首シタノデスネ

ハアソウデス

ドウシタンデスソレハ

……(仰俯シ、暫時無言ノ後)ツイアンナコトヲシテシマツテ(赤面シ長火  
息シツ、稍小聲ニテ)

弟ノ工合ハドウデス

何モ聞キマセン……ケレドモソノ朝警察デ聞イタ時ハ傷ハ極淺イトノコト  
デシタ。

警察デ

警察デ巡查ノ方ニ聞イタ時ニ傷ハ極淺イト云ハレマシタ無論腹立給レニヤ  
ツタノデスケレドモソノナニヒドクヤル積リデハアリマセンデシタソレデ  
今頃ハ直ツテ居ルダロウト思フテ居マス

始終仲ガ惡イデスカ弟ト

ズーツト前カラ仲ガ惡カツタンデス(此時ヤ、キマリ惡ゲニ)……此間カラ

一月程監房ニ居テ文二トアノ弟ト

文二トハドウカカ

文二ト云フ字デ文二ト云ヒマス

君ハ文助ト云フノカ

ハア……ソレデ此方ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テモタマラント

甲様式鑑定書例

云フ様ナコトハアリマセン

ソウストコ、ニ來テカラハ樂デスネ

ソウデスコ、ニ來テカラハ極樂ニ來テ居ル様デス監房ニ五人モ居テウヂヤ  
／＼話サレルニハ協ヒマセンカツタガオ陰デ今朝室ヲ代ヘテ頂キマシタ  
ソレデ樂ダネ

ハアホンマニ極樂デス色々ノコトヲ考ヘマセンノデ

本デモ讀ンデ居マスカ

ハア(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ借シテ貰ヒマシタ

此處ノ本カ

ハアソレカラ中學ノ同意ノ友ガ(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ入レテクレマシ  
タノデ……(泣氣味トナリ)何カコウアンナコトヲシタ様ナ氣ガハツキリ判  
リマセン聞イテハ怒リ／＼シテ居ルヨリハナンボ樂ダカ分リマセン(尙泣  
ク)

外ノ兄弟トハ仲ガ宜シイデスネ

モウ一ツ下ノ

アノ外ノト

マア別ニ惡イコトモアリマセン

ヨイコトモナイノカ

ツマリ九年前カラ心ガコウオカシクナリマシテ私ト文二ノ時ハア、デアツ  
タノニ文二ト文三ノ時ハ

文三トハドウ書カ

數字ノ三デス……ナンセツノコトバカリ考ヘテ腹立ツノデスカ私ノ頭ガ  
何ガ何ダカ分ラナクナツテ居マスソレデ仲ガ善イト云フテヨイカ惡イト云  
フテヨイカ分リマセン……(泣キ)ダンダン後ニナツテ來ルニ從テ早ク思ヒ  
出シテ  
近頃ニナツテカラカ



ハア近頃ニナツテ早ク思ヒ出ス様ニナリマシタ……近所ノ遊ンデル子ヲ見  
 テモ腹ガ立ツテ困リマス  
 ナゼソウ云フ風ニナツタノカ  
 其腹ノ立ツ様ニナツタ原因ハ此間警察ト豫審トデ大體申上ゲマシタ  
 アレデ大體デスカ  
 ハア其實例ヲ云ヒマスト一、二年前マデハ實例モ深山知ツテ居マシテ思ヒ  
 出シマシタガ近頃ハ腹ガ立ツテノ、ヨク思ヒ出セマセン  
 イツ頃カラソノナニ腹ガ立ツ様ニナリマシタカ  
 前ニ文二ノ時ハコウデアツタガ文二ト文三トノ時ハコウデアルト思ツテ腹  
 ガ立ツ様ニナツタノハ大正〇〇年夏休デス  
 其時ニドウシテデシタ  
 又御話シテモ宜シウ御座イマスカ御話シスルト思ヒ出シマシテイヤニナリ  
 マスカ豫審デ御話シタノヲ御覽ニナツテ下サイ(泣キ長大息ヲナスモ  
 表情ニハ悲シイト稱スベキヨリ寧ろ残念ノ色ヲ呈ス)  
 宜シイソレデモ分ラン處ガアツタ時ニハ御氣ノ毒ダガ聞カンナラン  
 ハア  
 ソレハイツ頃カラデス  
 二年許リ前カラデス  
 阿呆ラシイト思ハンカ  
 ソレハ阿呆ラシイト思ヒマスケレドモツマリソレヲ思フテ來ルノデス……  
 (遂ニ稍苦悶ノ色表ハル)  
 ソノ日ハ喧嘩デモシタタメニ殊ニ癩癩ガ出タンデスカ  
 其日ハ大シタコトハナカッタデス其一日前カ二日前ニ腹ガ立ツコトガ二  
 ツ許リアリマシタ一ツハ何カ今ハハツキリ覺エテ居リマセンガ一ツハ豫審  
 テ御話シタコトデス  
 ソレハドウ云フコトデシタ  
 ソレハ其事ダゲダツタラツマラン事デスケレドモ前カラノ事デ連絡シテル

事デスカラソレデ今カラデモ話セト云フコトデシタラ御話シマスガ此間ハ  
 忘レル様ニナツタノデ又思ヒ出スカラドウゾ豫審デ話シタノヲ御覽ニナツ  
 テ戴キタイノデス  
 其日ハ寝タノカ寝ンノカ  
 自分デハ寝ナカツタ積リデスケレドモ外カラハ寝タトカ……  
 ソレデ前ノ晩カラ考ヘテ居タノカ  
 ハア思ヒ出シテ腹ガ立ツタノデシタ  
 ソレデ殺シテヤロウト思ツタノカ  
 ソレハ初メカラ殺シテヤロウト思ツテマセン只腹ガ立ツテ腹ガ立ツテ  
 ソレガナゼ腹ガ立ツタノカ  
 ソレデ三時頃ニ便所ヘ行ツテ出タ時ニ椽側ニ机ノ上ニ小刀ガアツタモンデ  
 スカラソレヲ持ツテ遣入リマシタ  
 其時ノコトヲ覺エテルカ  
 持ツテ行ツタハ知ツテ居マスケレドモドウスルト云フ覺ハアリマセン  
 便所ニ行ク時持ツタノカ歸リニ持ツタノカ  
 歸リニデスソレハ椽側ニシバラク立ツタノデス腹ガ立ツテノ、ソレカラ持  
 ツタノハ知ツテ居マスカガナゼシタカハ覺エマセン  
 ソレデハソノ話ハ止メニシテ今ハ何モ考ヘナイカ  
 ソレハ何モ考ヘテ居マセン只ドウシテアナンコトヲシタカ自分デモ人ヲ殺  
 ス様ナ男デハナイト思ツテマスノデトシタハシタナイコトヲシマシタ(泣  
 ク)  
 「コレデ宜シイ」ト云ヒタルニ立上リ一體シテ去ラントスルニ當リ熱ハナイカ  
 熱ハ分リマセンガ  
 入院シタコトアルカ  
 ハア〇〇ノ府立病院ニ  
 何ト云フ先生ニ診テ貰フタ

工藤サンデスアル時ハ卅八度位ニナルコトハアリマシタ  
 七度ノ下ニナルコトハナイカ  
 ワカリマセン……秘結スル時ハ行ツテ氣張ツテ見テモ出マセン出シタイト  
 モ思ヒマセン  
 體格強大ナラズ一見婦女子ノ如キ觀ヲ呈ス檢診中禮節ヨロシク靜齋ヲ守リ一  
 般ニハ容貌活潑ナラザルモ檢診ノ前日中己ノ經歷ヲ述ブルニ當リ追想ヲ要ス  
 ル際ニハ正當ナル表情起リ又後半ニ於テ犯罪及共動機ニ付物語ル際ニハ一般  
 充實表ハレ又時々悲哀苦惱ノ残念ノ色顯著ニ表ハル、ヲ見ル又著明ナル感情  
 ノ異動ナキモ考慮ノ際顔面少シク潮紅ス

第二回檢診 十月廿八日

前同所ニテ檢診ス  
 ドウデス  
 此間カラ段々トイ、ヤウニ思ヒマス腹ノ工合ガヨウナイヤウデ十日モ便ガ  
 出ナイノデ藥ヲ戴キマシテモ腹ガ痛カツタリジマス  
 氣分ハドウデス  
 此頃ハ大分アノ色々毎日ノ、腹ヲ立テンノデ氣ガノンビリナツテヨイヤウ  
 デス  
 家ニ居ル時分ハ腹ガ立ツタノカ  
 ソレハモウ毎日ノ、腹ガ立チマシテ(狼狽ノ笑ヲ洩シツ、)  
 休學シテカラハ始終家ニ居ルデシヨウ  
 マアソノナモノデス  
 何日頃カラソノナニ腹ガ立ツ様ニナツタネ  
 ソレハ今カラ九年前ニ私ガ十四デ文二ガ五ツデ魚津小學校カラ變ツテ母ト  
 私ト文三ガ二ツ位デ其時カラデス  
 其時カラ續ケテ毎日ノ様ニ腹ガ立ツノカネ  
 ソレハ一通リ豫審判事サンニ話シタア、云フ譯デ別ニ續ケテ毎日ト云フ譯

甲様式鑑定書例

デハアリマセン記録ヲ……  
 私ハ讀ンダ  
 ア、云フ譯デ私ガ日ノ黒イ内ハ何モ文二ト物云フコトイラント云フヤウナ  
 譯デ  
 ソレデ  
 私ガ〇〇ニ居ル間デモ母ニ叱ツテクレト云フテモ私ガ大キイサカイト云フ  
 テ叱ツテクレンノデソレガ卅日モ續イタノデ……大キイサカイト云ハレテ  
 ハ私ハ分ツテ居ルガ私ノ居ル前デ一度文二ヲ叱ツテ呉レト云フテモ一度モ  
 シカツテクレンノデ文二ハ段々私ヲ侮ルノデサウ云フコトガ卅日モ續キマ  
 シタガ其時ニ母ガ一度デモ叱ツテ呉レ、バヨイノニ、ソレガ忘レラレンノ  
 デソレガ忘レラレラヨイノダケレドモソレガ忘レラレンノデソレニツケ  
 テモ何モカモ腹ガ立ツテ仕方ガナイノデ其事ガ何度モ思ヒ出サレテ……私  
 ガ直接ニ文二ヲ指圖シテモヨロシイト云ハレタラヨイノデスケレドモソレ  
 モナラズ母モ叱ツテ呉レズソレデ私ハソレガ少シモ忘レラレズソレガカ  
 ンノデス私ガ〇〇ノ二中ノ入學試験ヲ受ケテ遣入ル二、三日前位ニ母ガ七  
 尾カラ……私ガ〇〇ニ來ル時ハ魚津ニ居マシタガ……七尾カラ來テ七尾ヘ  
 二中カラ轉學シタノデ歸ツテカラ母モ私モ文二モ同ジ家ニ居ルモノデス  
 カラ同ジコトニナツタノデス  
 サウ云フ昔カラノコトヲ皆覺エテオルカ  
 ソレハ何千アルカ何萬アルカ分ランケレドモ一々悉シイコトハ一々覺エマ  
 センガツマリ私ガ文二ニ直ニ云フタライカノ母ニ云フテモ叱ツテクレンノ  
 ガ一ツトソレハ大キクナツタナ辛抱シタラヨイノダケレドモトハ思フテハ  
 居タノデスケレドモソレガ文三ガ文二ノ三ツ下デ始メ〇〇ノ叔母サンノ所  
 ニ居タ時ハ文三ト文二ト丈ケハ喧嘩スルコトハナイガ段々大キクナツテ文  
 三ト文二トガ喧嘩デモシテモ其時ニハ文二ガ惡イコトシテ、モ文二ガ私ノ  
 日ノ黒イ内ハ何モ云フタライカノト云フ譯ナラ私ハ何トモナイデスガ文二



ノ時ハソソコトハ云ハレズニ私ノ時ハ大キイモノハ辛抱セニヤイカント  
 云フノ時ニハ文二ハ大キイカラ辛抱シタラヨイト云ハレルコトハナイ  
 デハナイガ多クハ文三ト文二ノ時ニハ文三ガ悪イト云ハレルノデ前ノ私ト  
 文二トノ關係ト文三ト文二トノ關係ヲ思ヒ較ベテ腹ガ立ツテ仕方ガナイカ  
 ヲタノデス何事デモソウ云フ風ニ思ヘテ一寸シタコトデモサウ云フ様ニ思  
 ヒマス……(暫時中絶ノ後)大變寒イデス  
 此時十一時文助ハ戰慄ヲ呈スルヲ以テ増衣ノ爲メ一時退場シ十一時十一分再  
 ビ入り來ル  
 宜シイカ  
 行ケサウカ  
 寒イカ

コレデ宜シウ御座リマス此間一ヶ月程前カラ何カ出來タノカ鼻ノ中ニ物ガ  
 出來テソレカラ顔ノ(右頬ヲ指シ)ガ、ビツクリスルコトガアル様デス……  
 二、三日前カラ氣分ガ悪イ様デス  
 熱ガアル様ニ思ハシカ  
 サア熱ガアル様ニモ思ヒマセン  
 時々家デハ氣ニ入ランコトガアルノデスナ  
 ツマリ私ガ大キイサカイト云ハレ自分デモ叱ルコトガ出來ズシテ腹ガ立ツ  
 ソソコトガ仰山アツタケレドモ一ツノ事柄ハ二、三年前マデハヨク  
 覺エテ居リマシタガ二、三年此方ハ腹ガ立ツ方先キニ立ツテ一ツノ  
 コトハ忘レテシマヒマシタ一ツハ判事サンニモオ話しマシタ七尾ニ居  
 ル間ニモ文二ガ悪口云フタリシタ時ニモ自分ニモ叱ラセズ私ガ前ヨリ思フ  
 テタ様ニ私ヲ侮ツテ悪口云フ様ニナリ文二ト私トノ間デドチラニシテモ  
 私ガ叱ルコトガ出來ズソレガ一段落デ腹ノ立ツノガ止ミカケテ居タノニ文

二ト文三ノ時ニハ私ノ日ノ黒イ内ニハト父ハ云ハズドウ云フ譯カ文三ノ方  
 ガヨケー叱ラレル様デ大キイモノハ辛抱セイト云フノモ意味ガナイ様ニナ  
 ヲタ譯デ文二ヲ叱ラナイ爲メノコトノ様ニ思ハレ腹ガ立ツシ私ガエラサウ  
 ナノウデスケレドモ文二ニ私ガ物デモ教ヘヤウトスルトソソコトヲセイ  
 デモヨイト云フ様ナ譯デ毎日ノ腹ノタタン日トテハアリマシタ私ガ  
 親切ナ心デ文二ニ云フト叱ラレルシ文二ガ文三ヲ叱ツテモ何トモ云ハレズ  
 立テモ居テモ居レン様ニナリマス  
 サウ云フ時ハドウシマス  
 文二ガ文三ヲ穢イ言葉デ叱ツテ居ルカラアンナコトナイ様ニ叱ツテ下サイ  
 ト何遍云フテモ言ツテ呉レズソレデ腹ガ立ツノデス  
 是迄ハ細ガ立ツト外ヘデモ出ルカ  
 タマラナクハナリマスガ外ヘ出テモ仕方ガナイカラジツトシテ居マス  
 (稍充奮シテ)  
 ソレナシトオ母サンガ例ノガ起ツテ居ルト御父サンニ云フタノハ  
 二人ノ人間ガ居ツテドツチカラト云フコトナシニ惡イコトヲシテ時ニ一  
 方ノ人ガ黙ツテ聞イテオル一方ガ話しテ居ル時ニ憤ル様ニ云ハレルト其時  
 ニ云ハレタモノ丈ケガ腹ガ立チマス  
 此答ヲ引續キ更ニ述ブル所アリシモ其意ヲ解スルニ難カリシヲ以テ圖ヲ以  
 テ説明セシメタルニ茲ニ甲乙二人アリ互ニ惡意ナク語ヲ交ハシ居ル際ニ第  
 三者アリ甲ノ發言中ノミ叱責スルコト反復ストセバ第三者ニ惡意ナシトスル  
 モ甲ハ遂ニ自己ノ叱責セラル、モノナラズヤトノ念ヲ起スモノニアラズヤト  
 ノ意ナルヲ明ニシ此甲ハ文助自身ニシテ乙ハ文二ニ當ルヲ附加セリ  
 コウ云フコトガ一日ニ何遍ト云フコトナシニ御飯ヲ食ベル時ニモアルサウ  
 スルト御飯ヲ食ベルコトハ日ニ三遍アル其間ニモアルソウスルトドレ程ア  
 ルカ分ラン様ニナル  
 サウ云フ時ニハ飯モ止メルカ

止メル様ナ元氣ハアリマセン(泣顔ヲ呈ス)殿ツタリ獄ラレタリ……ソレヤ  
 (稍鎮靜ス)今デモ……此頃ハサウハツキリシマセンガ二、三年前マデハ何  
 カ大キナ音デモスルカ御父サンノ聲デモ聞ヘルト此邊ニ(頭部ヲサシ)御父  
 サンノゲンコツガ來ル様ニ思ヘマス別ニ自分ガ惡イコトヲシテ居ラシテモ  
 ソソコトニ思ハレマス  
 サウ毎日ノアルカラ本モ讀メナクナルカ  
 ソレデ昔私ガ別ニオコルデナク當前ニ話シテモ私ガ怒ラレル文二ト文三ト  
 遊ンデ居ル時ニハ普通ノ子供デ別ニ大シタコトナシニ兩方ガスゴイコトヲ  
 スルンデスケレドモソレヲ文三ガ文二ガ餘計スゴイコトヲスルト云フテモ  
 父母ガソソコト位ヒトニ話シテ居ラレル様ナ工合デスノニ文二ガ文三ガ  
 スゴイコトヲスルト云フト文三ガスゴイコトヲスルト云フテ親ガ話ヲスル  
 シタトヘ文二ガスゴイコトヲシテモ親ハ別ニ何モ云ハナイ……ソレヲ家デ  
 本ヲ讀ンデ居ツテ文二ト文三トノ争トカ文二ガ文三ヲ叱ル聲ナドガ聞エル  
 ト私ト文二トノ昔ノ工合ノコトノ實例ガ思ヒ出サレテ來テ腹ガ立ツコトバ  
 カリニナツテ來テ其中ニ本ヲ讀ンデルコトモ切レテシマフテ後ハ腹ガ立ツ  
 コトバカリニナツテシマヒマス……マア餘所ノ子ガ遊ンデルノヲ見テモド  
 ウシテモソレヲ何心ナシニ見トツタラヨイト思ツテハ小サイ時  
 拵メテツイ思ヒ出シテ腹ガ立ツ様ニナリマスツマソウ云フ譯ハ小サイ時  
 カラノ關係デ文二バカリガ叱ラレンデソレガ始メノ内ハ腹ガ立ツノガ純粹  
 デアツタノデスケレドモ後ニハ文二ト私、文二ト文三トノ關係ガ腹ガ立ツ  
 コトニ交ザツテ來テソレデモ腹ガ立ツ腹ガ立ツト思フトルトソレガシマヒ  
 ニ文二丈ケガ得ヲシテト頭ノ中デ變化シタヤウニ思ヒマス理屈トシテハ  
 私ノ方ガ理屈ガ立タヌ様ニナリマスガツマソウ云フ譯ハ腹ガ立ツコトヲウニ  
 ナツテ來タノデス  
 ソレヲ見テ文二ガ馬鹿ニスル様ニ思フンダネ  
 ソレハ思フノデハナク實際デス中學ニ居ル時デモ惡口ヲ……

ソレハ誰デモアルコトデハナイカ  
 ソレハ誰デモアルケレドモソレ一ツデハナク昔カラノコト……私モソソコ  
 ニ監房ニ居テ腹ガ立ツコトカラ遠ザカツテ居ルト極樂ヤト云フテ居ルト一  
 處ニ居ル人ガ怒リマス  
 オコルトハ  
 自分等ハソソコトニ心配シテニ樂ヤナド云フテ不都合ヤト云フテ憤リマス  
 又外ニ居レバ子供デモ見モシ又腹ガ立チマス今モ云フ通り文二バカリガ得  
 ヲシテ居ル様ニ變ツテ來ルト十四位ノ子供ガ阪道ヲ上ル荷ガ重クテ荷ガ行  
 カン私ガソレヲ押しテヤルトスル脊腕ナレバ(自己ノ腕ヲ見テ)物ヲ擔フテ  
 行クニハ迷惑ニナルカモ知ランガ荷車ナラ迷惑ニナランカラ押しテヤル押  
 シテ貰フタ人ハ兎モ角途中デ行止マツタノガ私ガ押しタラ行ケタカラ別  
 段ニ腹ヲ立テンヤロウガ考ヘテ見ルトアノ押しテ上ゲタ人ハ喜ンデ居ルカ  
 知ランガアノ人ノ難ガ此世ノ中ニ居ルカ知ランアノ人ハ人ニ押しテ貰ツテ  
 得シタサウシタラ世ノ中ノ何處カデアレガ得シタト云フテアノ人ノ難ガ怒  
 ツテ居ルカモ知レンサウスルト喜ンダ人ヨリ憤ル方ガ分量ガ多イカ知ラン  
 五ツノ喜ト十ノ怒ヲシタト思フタ私ハ車ヲ押しテヤランヤウニナルト同ジ  
 様ナモノデセウ云フ風ニ腹ガ立チマス  
 ソレハ腹ノ立ツコト、關係ナイヤナイカ  
 サアソレガ文二ト私ノ時ト文二ト文三トノ關係ガ違フ様ナ工合デ腹ガ立チ  
 マス  
 車ノコト、關係アルノカ  
 私ト文二トノヤウナ關係ガアル人ガアルトスルト腹ヲ立テ、人ガアルカ  
 モ知レンサウ云フ風ニ道デ考ヘルト腹ガ立チ居ルソソコト考ヘル人ハ珍  
 ラシイト思ヒマス私見タイニイロノ考ヘル人ハナイデシヨウ  
 寒イカ  
 寒イト云フコトハアリマセンガ震ヘテ……



冷イナ

(手ヲ觸レ)

脈搏一分時百至以上ヲ算シ律稍ヤ不正ナリ

考ヘルト震ヘルコトガアルカ

私ノ考ヘト違フヤウナ時ハ震ヘル様ニ思ヒマス

今ハドウダ

幾分カ寒イノニモヨツテマス話ヲセントジツトシテ居ルト震ヘルノモ止ム様ニ思ヒマス思フノモ關係スルデシヨウドンナ時ニ思ハズ居ルカト云フニ私ノ好キナ機械ノコト私ノ好キナ唱歌ノコト此ニツツタラ紛レマス(喜色アリ)

今云フ様ナラ家ニ居ラズニ餘所ニ行ク道ヲ歩ク時ニハ右ヘ行クカ左ヘ行クカ分ラン様ニナルコトハナイカ

道デハ別ニ迷フヤウナコトハアリマセン、ソレハママアアツチヘ行カウカコツチヘ行カウカト思フコトモアリマス何ヲシテモ父ノコトダケデスケレドモ何シテモ父ノ爲メニシテモ私ニ惡意ガアル様ニ取ラレルコトモアリマスソナナコトガヨウアルモンデスサカイニイツデモコツチナラコツチト云ハレルナラ氣分ガ樂デスケレドモ五分カ十分前ニコウセイト云ハレテモ五分カ十分カタツト違フタコトヲ云ハレル様ニナツテ腹ガ立チマス又ドナイニシテモ自分ガ憤ラレル譯ガナイノニ怒ラレルト云フト自分ニ努力シヨウト云フコトガナクナリマス御父サンニ怒ラレル方ニ丁度オ父サンガアツチ云フタリコツチ云フタリシテ叱ラレルコトヲ公式ニシテアルヤウナデス、或人ガアツチ庭ヲ歩イテ居ル飛石ガアル飛石ノ上ニ密柑ノ皮ガ落ちテルソレヲ踏ンデ滑ツタライカント思フテ始メ皮ヲ蹴ツテ傍ヘノケルニ、三歩行ク面シテアンナ處ニ置ケバ誰カ滑ツテ倒レテ飛石デ頭ヲ打ツタライカント思フタ人ガアルソナ話ニヨク似テルナト思ヒマスソレハ自分ガシテ自分デシタノヤガ私ガシタトスレバ父ガ頭ヲ打ツト云ハレル私ガドウシテモ

セ體ガ辛度カッタシ工合ガ惡カッタカラ今カラ登校ヲ許スト云ハレテモ學校ヘハ行ケヨウトハ思ハノンデス

併シ少シハ落膽シタカ

ソレハドウモ少シハ……ドウシテモコツチダケノ元氣ガヨクモナカッタノデソレ程ヒドクハ思ヒマセナダ……私ガ始メテ御父サンデモア、アンナニ笑ハレルナト思ツタノハ四ツカ五ツノ時デス大津ノ病院デ菓子ヲ喰ベテ居ラレマシテ變ナコソナニ(菓子ヲ弄スル手眞似ヲナシ)シテ食ベラレマスノヤナアト聞キマシタリ何ゾト云フテ食ベル前ニカウシテ食ベルノヤナト云ハレテ笑ハレタノガ始メテドスト(云ヒテ嬉シ氣ナル笑ヲ洩ラス)

脈搏百〇四至瞳孔ノ對光反應神速、此検査ノ際眼瞼ヲ開カンガ爲メニ指ヲ觸ルレバ直ニ眼球ヲ上轉シ軀幹ヲ後方ニ引ク新ク懼ル、ニ足ラザルヲ論スモ此運動依然トシテ反復ス眼球ノ運動自在ナリ軟口蓋反射存在スルモ弱シ然レドモ同時ニ全身ノ攣縮ヲ伴フ膝蓋腱あひれ子腱反射兩側共活潑ニ現ハル足趾反射ヲ檢スルニ反應活潑ニシテ全脚ヲ引クヲ見ル腹皮反射兩側共ニ存ス胸筋ニ在リテハ右側第四肋骨部ニ痙痕アリ腹部ニ風腸ナク雷鳴ヲ觸レズ又緊張ナシ

今出タ後カ

此頃ニスレバ一番ヨイ時デス

イツ出タ

今朝ノ三時頃デス

海水ヘ入ル前カラ惡イナ

ソレハ人ヨリ結スルト云フ丈ケデス

腸カラ血ガ出ルト云フノカ

海水カラ出タ二、三日シテカラノ時デス

其外ニモ

甲様式鑑定書例

一ツヤニツデナシニズーツトヨウソソナコトガアル

密柑ノヤウナコトガ自分ニハナイカ

小サイ時カラ云ハレタシ物ハ色々ニ考ヘラレルモノヤナアト云フ工合ニ自分デモ憤ラレタセイカ何カ自分デモウカシテモト思ツテモ決斷ガ出来ナイデ違ニハ考ヘガ難ランヤウニナルコトガアリマス

始終デハナイナ

ヘイ始終デハナイ御父サンニハドツチニシテモ怒ラレルガ自分ニハ始終ト云フコトハナイ様デス……ママ茲ニ來テ居テ極樂ト云フハ文ニト文三トノコトハ怒ランガ父ト母トガ合ハノデ口デノ云合、ソレヨリ心デノ思合ト云フタ方ガヨイソレヲ見テモ何カ知ラン氣ガ嫌ニナル御母サンガ泣イタリ怒ツタリシテルノヲ見テモ私ハ氣持ガワルイ

昔カラカ氣持惡ク思フノハ

今デモソウデス昔ハソソナコトヲシテ腹ヲ立テ、ハナラント思フテモ御母サンノ顔ヲ見ルトイツモ泣イタ様ナ顔ヲシテ居ヤハルシ(ト云ヒテ泣ク)……

體ノ工合ガヨクナツタラドウスル積リデシタ

ドウシヨウト云フテ餘リ考ヘル間モアリマセン今度ノ二、三日前ニ退學聽

届ケルト云フテ來タノデス……別ニドウシヤウト思ツタコトガアリマセン體ガ苦ニナツタノハ

大正二年中頃ハ大正一年暑中休暇ニ〇〇ニ引越シテ來テ其夏カラ腹ガ立ツ

コトガアツテソレカラ工合ガ惡クテソレ迄ニハ晝寝スル氣ニナツタコトハ

ナカツタガ其頃カラ晝寝デモシタイト云フヤウニ思フ様ニ身體ガダルクツ

テソレガ苦シク思フ始メデス其前カラ腹ガ下ルト痛イトキハアツタノデス

ガ

學校ヲ止メルコトハ覺悟デヤツタノカ

イーエソソナコトハナカツタノデス二ケ年モ休ムコトハアルト先生ニハ云

ハレルシツマリ一年休學シアトノ一年ハ缺席デ行ケルト思フテ居タデス何

ヲ缺ケリ

以前ニモ出タコトハアリマス一寸

粘液ハ出タスカ

ソレハママ一月モ

前ノ方ガ工合ガヨイカ

ソレハ別ニ

心臟擴大ナク肺臟ニ在リテハ濁音ナク呼吸器ニ異常ナシ兩示指接觸試驗ニ於

テ失節症ヲ認メズ皮膚知覺ニ異常ナシ然レドモソノ刺戟部位ヲ示スニ極端ニ

正確ヲ期セントスルノ傾向アリ而シテ曰ク「觸ハラレルノハヨク觸ル様ニ思

ヒマス氣色ガ惡イ様ニ思ヒマス」ト

檢診ノ終結ヲ告ゲタルニ辭シ去ルニ當リ禮節頗ル宜シ本日ハ寒氣及充奮ノ爲

メカ殊ニ檢診ノ始ニ於テ音聲ニ震顫ヲ帶ビ談話中時々間ヘ前回ニ比シテ明晰

ヲ缺ケリ

四、現在 狀態

文助ニハ畸形不具ナク身體各部ノ發育ヨク權衡ヲ保ツモ體格纖弱ニシテ體質

強壯ナラズ一見婦女子ノ態アリ神經的徵候ニ於テ特ニ舉ゲベキノ障礙ヲ見ズ

時處ニ對スル指南ヲ保有シ領解佳良ニシテ記銘記憶ニ缺クル所ナク即チ睿智

作能ニ於テ缺陷ノ認ムベキモノチシ叙述ハ秩序ヲ保ツト雖當ニ極度ノ正確ヲ

期セント力ムルモノ、如ク簡明ナル能ハズシテ迂遠冗長ノ傾向ヲ呈シ好シク

假設的推理ヲ行ヒ循環シテ盡キズ論斷ニ於テ確定的終結ヲ得ル能ハズ

感情界ニ於テハ一般ニソノ表徵活潑ト稱スベカラザルモ一旦震憾セラレ、ア

レバ感動甚強ク過去ノ不快ヲ追想シテハ或ハ呻吟シ或ハ激昂シ愉快ノ經驗ニ

想到スレバ喜色面ニ滿チ恰モ眼前ニソノ光景ヲ有スルニ異ナラズ其他比較的

些細ノコトニモ顔面潮紅ヲ呈シ易シ

應對ノ際ニハ禮節頗ル宜シク曾テ異様ノ動作ヲ見ズ運動機ニアリテモ著明ノ

充奮ナク又抑止ナシ

生活歴ノ條下ニ述ベタル身體的病訴ハ今日モ之ヲ表示シ頑固ナル便秘ト下痢



トノ交替アリテ時々腹痛ヲ感ジ全身倦怠ヲ覺エ音聲啞嘶シ又記憶及判斷ノ減弱ヲ感ズト云フ然レドモ胸腹臟器ニ意義アル異常ヲ檢出セズ又音聲ニモ變化ナク記憶判斷ニ就イテハ已ニ述ベタル處ノ如シ

五、理由及説明

現在狀況ハ記述セル處ヲ綜合スルニ文二ニ於テハ限畫セラレタル特殊精神病ノ存在ナク唯印象感受性感傷性強ク穿鑿僻ヲ有スルヲ見ルノミ  
抑穿鑿僻トハ事物ノ考察ニ當リ得タル結果ニ對シテ常ニ反對的可能ヲ假說シ爲メニ判定ニ動搖ヲ來タシ不確ノ感交々起リ到底確定の決斷ニ到達スル能ハザルノ謂ニシテ精神無力症ノ基礎徴候ヲナスモノナリ文助ハ之ニ加フルニ強キ印象感受性ヲ有シ古キ經驗モ一旦深キ感觸ヲ以テ受納セラレタルモノハ今日ニ在リテモ極メテ活潑ナル情調ヲ以テ追想セラレ恰モ當面ノ事象ト異ナルナキ活動性ヲ保有ス又感傷性度ニ過ギテ強ク感情ノ發動アルニ當リテハ身體的表徵モ頗ル活動セリ

此等ハ皆所謂精神病者ニ於テ遭遇スル徴候ナリ

今文助ガ此犯行ノ由來スル所ヲ案ズルニ其最幼時ノ家庭ハ平安ナラズシテ父ハ稍溫和トナリシガ文助ニ對シテハ尚温情ナク文二稍長ジテ文助ト遊戲スル頃ニ至リ偶爾人間ニ論争ノ生ズル場合ニハ其曲何レニアルニモ關セズ父ハ常ニ文助ヲノミ叱責シ又文助ガ文二ニ物品ヲ破壊セラレテ之ヲ訴フルモ父ハ文助ニ對シ其年長ナルノ故ヲ以テ忍ブベキヲ命ジ進ンデハ文助ガ文二ニ事ヲ教ヘ又ハ命ズル際ニハ父ハ文助ニ向ヒ余ノ存命中ハ自身之ヲ教育スベキニ由リ汝ノ干渉ヲ許サズト嚴命シ文助ハ心中甚シク平カナラザルモノアリキ後文助ガ母及弟等ト共ニ父ニ別レテ〇〇ニ住居スルニ當リ文二ニ非行アリシ際際テ父ヨリ直接ニ叱責スルヲ禁ゼラレ居ルヲ以テ母ニ文二ノ戒飾ヲ請フモ母モ年長ナレバ忍ブベシトテ之ニ應ゼズ斯ノ如キコトヲ反復スルヲ以テ文二ハ漸次増長シテ兄ヲ凌グニ至リ文助ハ益々之ヲ快トセザルニ至レリ

次テ末弟文三ノ物心付ク頃ニ至リ文二ト爭フコトアレバ父ハ其曲ノ文二ニアルニ拘ラズ之ヲ叱責セズシテ多クハ文三ニ罪アリトナシ又文二ニ對シテ年長者ハ忍バザルベカラズト諭セシコトナク文助ハ之ヲ見テ自己ト文二トノ間ニ於ケル關係ニ對比シ均等ナラザルヲ怨ミ又年長者ハ忍バザルベカラズトノ言ハ其理由ヲ失フニ至レルヲ感ジ父ハ自己ヲ惡ミ文二ヲ偏愛スルモノトナシ進ンデハ文二ノミヲ將ニ利益ヲ受クルモノト思料スルニ至レリ

而シテ遂ニハ事ナキニモ思一タビ是等ノコトニ及ベバ常ニ憤怒ノ情襲ヒ來リ讀書等ノ際ニモ精神ノ集中ヲ妨ゲラレ家庭ニ在リテハ苦惱堪ユルコトナク又外出ノ時モ途上同輩ノモノ喧嘩スルヲ見ルモ想ハ忽チニシテ自己等家庭ニ於ケル狀況ニ及ビ憤慨ノ念ヲ起シ之ヲ忘レント欲スレバ却テ益此追想ニ苦メラレ會テ一度モ平安ニ日ヲ送ルコトナシト云フ(以上二件記録...参照)

斯クノ如クシテ文助ハ此往事ノ追懷シテ懊惱苦悶ノ内ニ大正〇年八月廿七日ノ兇行ヲ敢テスルニ至レリ

父ノ虐待ヨリ引イテ弟文二ニ對スル憤慨ノ情ハ假ニ彼ガ云フガ如ク事實の根據ヲ有スルモノトスルモ其顯現ノ文助ニ於テ斯ノ如キニ至リシハ其生來の印象感受性充進ニ基クモノニシテ遂ニハ家庭ニ於ケル刺戟ノミナラズ何等自己ト關係ナキ路傍ノ小兒ヲ見テモ之ニ想到スト云フガ如キハ其度已ニ正常ノ範圍ヲ逸脫スルモノト云フベク又文助第二回豫審問調書ニ見ル如ク「ソソナコトハツマラヌカラ氣ヲ轉ジヨウト思ヒマシテモ思ヘバ思フ程其事ヲ思ヒ出ス様ナ傾ニナツテ」ト云フハ此情ノ強迫的性狀ヲ窺ハシム可ク而シテ此憤怒發情其者ニヨル衷心ノ苦惱ノ如何ニ深甚ナルカハ「コツチ(監獄)ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テモタマラント云フ様ナコトハアリマセン茲ニ來テカラ極樂(參ツテオノ様デス)」(檢診第一回)ト云ヒテ寧ろ監獄生活ヲ喜ブモノアルガ加キヲ見ルモノ之ヲ察スルニ難カラズ此等ノ諸點ヨリ考フレバ此憤怒發情ノ正常の心理ニ基クモノニ非ラズシテ病的性質ノモノタルヲ知ルベク此種ノ病的發情ハ文助ノ如キ精神病質者特有ナル示現ナリ

念又ハ感情ノ活動力ハ達ニ此反對動機ノ抑制壓伏ヲ凌駕シテ茲ニ行爲トナリテ出現スルモノナリ斯クノ如クシテ現出スル行爲ヲ稱シテ衝動性行爲ト云フ而シテ衝動性行爲ニ在リテハ其成立ノ經過上記ノ如キヲ以テ之ニ客觀的ニ觀察スルモ又主觀的ニ内省スルモ之ニ目的の觀念ノ何者ヲ見出ス能ハザルモノナリ

今兇行前後ニ於ケル文助ノ狀況ヲ見ルニ文助ハ上記ノ發情ニ苦ミ睡眠爲メニ犯サレ心中激越シ殆ンド身ノ置ク所ヲ知ラズ或ハ立チ或ハ座シ用ナキニ他室ヲ徘徊シ焦慮苦惱ノ極達ニ爲ス所ヲ知ラザルニ至リ臥床ニ入ルモ尙眠ル能ハズ之ニ苦シムコト數時ナリシト云フ以テ如何ニ苦惱ノ激甚ナリシカヲ察知スベシ此間偶爾尿意ヲ催セシヲ以テ便行セシガ歸途尙苦惱去ラズ無心ニ小刀ヲ手ニシテ隣ニ近ヅキ呻吟嗟嘆之ヲ久ウシ遂ニ此苦惱ノ驅動スル處トナレリ而シテ先キニ引用セル告白ニ明カナルガ如ク此動作ニ目的ノ自覺ナク又犯行後一定時間ハ尙之ニ對スル悔恨ノ念ヲ發セズ自己ノ行爲ナルノ感ヲ缺キ恰モ他人ノ行爲ニ對スル傍觀者ノ位置ニ在リシハ茲ニ一種ノ意識分離ヲ來セルモノト云フベク加フルニ犯行ノ直後ニハ周圍ニ對スル領解ニモ多少ノ不完アリシモノ、如ク爾後之ニ對スル追想ノ不充分ナルモノアルハ當時多少ノ意識ノ潤濁ヲ來シ居レルヲ示シ即チ此犯行ハ病的強迫ニ依ル憤怒發情ニ基キ意識分離ヲ伴ヒタル衝動性行爲ナリ

抑精神病患者ノ特徵ハ叡智界ノ障礙ニ非ラズシテ其障礙ノ專ラ感情及意思生活ニ現ハルニアルモノニシテ日常生活ニ於テ一定範圍内ニ在リテハ正常者ト撰ヲ異ニスルコトナキモノナレバ之ニ對スル刑法的評價ハ自ら狹義精神病者ト其趣キヲ異ニス即チソノ行爲ニシテ病的現象ト交渉ナキ場合ニハ之ヲ健康者ト同一ニ論ズベク其行爲ノ病的現象ニ關係アル場合ニハ其干與ノ強度ニヨリ之ヲ刑法ノ分界ニ從テ二階段トナシ其強迫ノ絕對的ナルモノハ之ヲ心神喪失ノ驅動ノ比較的ナルモノハ之ヲ心神耗弱ヲ以テ論ズルヲ至當トスベシ今文助ノ場合ヲ見ルニ其犯行ハ已ニ述ベシガ如ク不可抗のナル強迫的感情ノ

而シテ今文助ヲ驅ツテ此兇行ニ出デシメシ心理過程ヲ最モ明晰ニ説明スルモノハ文助第二回豫審問調書ニ載スル當人ノ陳述ノ一節ナリ曰ハタ「其時ノ意思ヲ先日モ御尋ネニナリマシタカラ考ヘテ見マスルケレドモドウ過ツテ切リニ行ツタモノカ其心理ノ關係ガドウモハツキリ分ラヌノデアリマス別ニ斬リ殺シテヤロウト云フ程考ヘテ斬ツタ様ニモ思ヘマセンサレバトテ現ニ斬ツテ居ルノデアリマスカラ斬ル積ル積ル切ツタモノ、ヤウニモ思ハレマスガ其時ハ暫ラク蚊帳ノ内ニ座ツテ色々ナコトヲ思ヒ浮ベ腹ガ立テ耐エラレヌ様ニナツタ結果斬リニ行ツタコト丈ケ覺エテオノミデ目的のダト力結果ダトカ云フ様ナコトハ何モ思ハズニシタコトデアリマスソレヲ切ツテカラモ茫トシテ居タノデ母ガ何カ云フテ居タコトハ記憶シテ居マスゲレドモドウ云フタノデアツタカ其記憶ガアリマセンハツキリ覺エテオノコトハ醫者ヲ早ク迎ヘネバナラヌガ何處ヘ頼ミニ行ツタヲヨイカト云ハレタ以後ノコトデアリマスソレドモ私モイツモ見テ貰フ小野寺ガヨカロウト云フテ寢衣ヲ著換ヘ早速小野寺方ヘ行キ怪我人ガ出來タカラ直來テ貰ヒタイト云フテ頼ミ置キ其歸リニ〇〇警察署ニ自首シテ出タノデアリマス醫者ニ行ク際ニハ傷ハ見届ケマセナダケレド斬ツタト云フ信念ハアリマシタカラ醫者ヲ迎ヘネバナラヌト思フタガ平素ノ如クソウ痛切ニ惡イコトヲシタト云フ觀念ガナク云ハバ人ノ使ニデモ行ク様ナ觀念デ醫者ヘ行ツタノデアリマスガソレカラ漸次氣ガハツキリシテ惡事ヲ自覺シ自首ニ出タノデアリマス」凡ソ意識現象ニハ單ニ觀念若クハ感情ノ範圍ニ限局スルモノ、如キ觀ヲ呈スルモノアルモ必ズ一定度ノ運動の因子ヲ包含スルモノニシテ此運動の要素ノ示現ノ必ズシモ毎常ナラザルハ是レ茲ニ之ニ反對スル抑制即チ反對動機ノ發生スルモノアレバナリ然リ而シテ觀念若クハ感情ニシテ活力ノ旺盛ナルモノニアリテハ其運動の因子ノ勢力モ其度ヲ増スベキハ數ノ然ラシムル所ニシテ甚シク容易ニ行爲トシテ表現セラル、ノ傾向ヲ有ス此時之レガ制禦ニ與カル反對動機モ亦共ニ其強度ヲ増大スベキモノソノ程度ニ於テ限リアルモノナレバ病的ニ充進セル觀



乙様式鑑定書例

下ニ其自己ノ收配範圍ヲ逸脱シタル狀況中ニ起レルモノナレバ心神喪失者ノ行爲ヲ以テ論ズベキモノナリ

六、鑑定

- 一、被告文助ハ大正〇年八月廿七日午前四時〇自宅ニ於テテソノ實弟文二ヲ斬リタル當時精神ニ異狀アリタリ
二、當時心神喪失ノ狀況ニ在リタルモノニシテ被告ノ前記傷害ハ其精神障礙ニ基因スルモノナリ
三、被告文助ハ精神病質者ニシテ其刑法上ノ評價ハ行爲ト病の現象トノ間ニ於ケル交渉ノ程度ニヨリテ之ヲ定ム
右及鑑定候也
大正〇年十二月廿三日

宿 所 今村新吉 宿 所 今村新吉

乙様式鑑定書

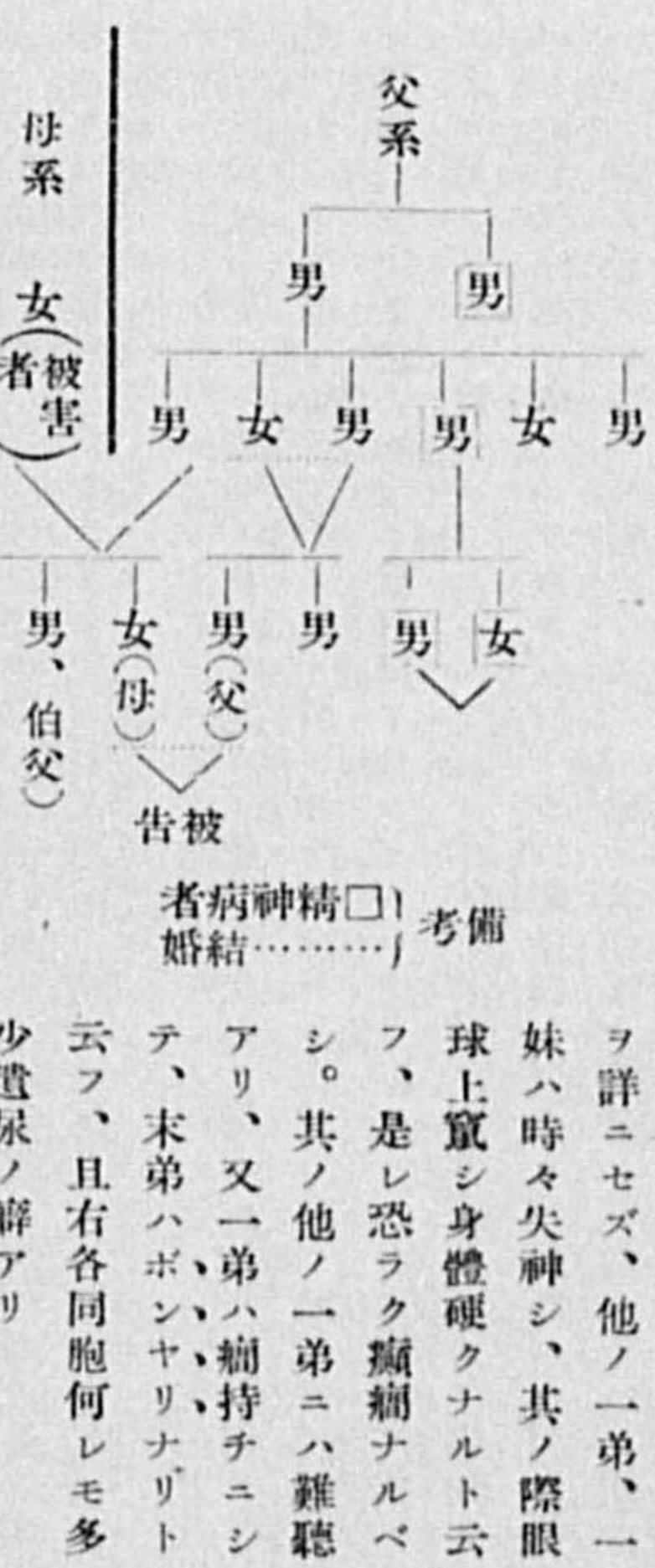
第五十六例 鑑定書

大正〇年〇月〇日、〇〇地方裁判所〇〇〇〇ハ北〇〇一殺人豫備及ビ殺人未遂被告事件ニ付
本件犯罪當時ニ於ケル被告ノ精神狀態
ヲ鑑定ス可キ旨ヲ、同所法廷ニ於テ予ニ命ゼリ、是ニ於テ予ハ鑑定資料トシテ交付セラレタル本件ノ訴訟記録抄本ヲ檢閲シ、且、大正〇年〇月〇日……及ビ〇月〇日ノ七回ニ於テ、被告〇一ノ精神狀態ヲ檢診シ、彼是ヲ綜合シテ此ノ鑑定書ヲ作成ス

本籍 某地居住 ミシン職工
刑事被告人 北〇〇一 二十一歳

第一、既往歴、附、遺傳歴及犯罪歴

一件記録ニヨリテ、被告ノ遺傳關係ヲ調査シテ左ノ系圖ヲ得タリ即チカナリ精神病者ト認ムベキモノ、彼ノ親屬中ニ多ク、又血族結婚モ少カラズ
〇被告ノ兩親モ亦血族結婚ヲナセリ(即チ從兄妹ナリ)、而シテ被告ノ子ニ語ル所ニヨレバ、父ハ、四十八歳ニシテ、尙生存スルモ短氣ニシテ、痛ヲ患ヒ、感冒ニ罹リ易シ、酒ハ一杯飲ンデモ、小便ヲタレ、流スコトアリ、又ノボセ(逆上)テ江州音頭、或ハ浪花節ヲ歌ツテ居ルコトアリ、母モ亦短氣、頭痛持ニシテ胸痛ミ、是ガ爲ニ往々就牀ス、酒客ニアラズ、〇被告ハ十四歳ノ時角力シ漆喰製ノ床ニ倒レ、前頭ヲ打チ、又十八(九)歳ノ頃ニハ、二階ヨリ落チ、右二度トモ暫時失神セリ、兩三年来嗜睡アリ、十六、七歳ノ頃、三度許リ將ニ溺死セントセルコトアリ、昨年十月五日、村祭ノ時、父ガダンジリニ挾マレ氣絶セルヲ目撃シ、非常ニ吃驚セリ、同年梅毒ニ感染ス十五、六歳頃迄、往々遺尿セリ、酒ハ毎日飲マザルモ、一升位モ飲ムコトアリ
〇被告ハ同胞九人中ノ長男ニシテ、二弟二妹ハ夭死セルモ、多クハ其ノ病名ヲ詳ニセズ、他ノ一弟、一妹ハ時々失神シ、其ノ際眼球上竄シ身體硬クナルト云フ、是レ恐ラク癲癩ナルベシ。其ノ他ノ一弟ニハ難聴アリ、又一弟ハ補持チニシテ、末弟ハボンヤリナリト云フ、且右各同胞何レモ多少遺尿ノ癖アリ



學業 〇一ハ尋常小學第三(四カ)學年ヲ終リタルノミニテ退學シ其後ハ家業(蒲鉾ノ受賣)ヲ傳フ傍ラ、神官某ニ就キ讀書ヲ學ビシモ、六ヶ敷キ故餘リ

二、終ニ中絶セリ

犯罪行爲 被告ハ十七歳頃ヨリ、女ニ手ヲ出シ初メ、ソレヨリ漸次深入リシテ、終ニ父ノ金ヲ持出シ、遊里ニ出入シ、時々數日間流連セルコトアリシト云フ、本年(大正〇年)一月一日、某地遊廓〇〇樓ニ登リ、同四日迄流連シ、遊興費不足セル爲、衣類ノ一部ヲ質入レシテ漸ク歸村シ得タルモ、斯ノ如キ有様ニテハ、父方ニ歸宅スルヲケ、ニモ參ラズ、止ムヲ得ズ、一時(六、七日迄)〇〇(常ニ遊ビニ行ク家)方ニ寢起キシ、ソレヨリ〇〇(叔母)方ニ世話ニナリ居ル内、同月九日伯父北〇〇郎ニ面接シ、右ノ趣(遊興費不足ニ付、衣類質入ノコト)ヲ話シタルニ伯父ハ種々戒諭ヲナセリサレド被告ハ「前記遊廓ノ所在地ニ於テハ信用上ニテ、數十圓貸シ呉レルモノアル様揚言シテ、自省セザルヲ以テ、ソレヲ汚キ遣ラセズ、モ少シ綺麗ニ遣ラベシ、若シ同地ニ於テ、オ前ニ信用アリテ貸シテ呉ル、モノアラバ、五十圓ハ六十圓位ナラ付ケ、馬デモ仕テ來レバ、自分ガ拂テヤル」ト冷笑セシニ、被告ハ淺慮ニモ左様スレバ勿論拂テ呉レル事ト思込ミ、即夜、再度同樓登樓シ、十一日迄流連シ、九圓餘ノ書出シヲ持チ、歸村ノ上、叔母〇〇方ニ至リシトキ、丁度伯父ニ出會シ右ノ書出シヲ伯父ニ示シ、其支拂ヲ乞ヒタルニ伯父ハ頑トシテ、之ニ應ゼザル爲、其欺騙言行ニ付キ立腹シ、父母等ニ對シテモキマリ惡ク、不得止、友人〇〇〇〇方世話ニテツテ居ル〇〇方ニ行キ、一晚泊メテ貰ヒシモ、如何ニモ氣ノ毒ニ付キ、越エテ十三日ヨリ自宅ニ歸リ居ル内考ヘレバ考ヘル程、伯父ノ仕打ガ憎ク思フ折柄、犯行當日(十七日)午後三時頃、前記友人〇〇ヨリ「糞ニ貸置キタル遊興費ヲ、早く送金致シ呉レ、然ラザレバ取りニ出向ク様」〇〇樓主ヨリ、督促アリシ旨ヲ聞キ、伯父ノ所爲ニ付益々憤怒シ、堪ヘラレヌ様ニナリテ、イツソノコト意趣返シニ、彼ヲ殺害セント思ヒ、〇〇方ニ至リ、無斷ニテ剃刀ヲ借り來リ、之ヲ懷中シ同日午後六時頃自宅近傍ノ餛飩屋ニ於テ、餛飩一椀ヲ食シ、一合入ノ正宗二燗ヲ傾ケ、相當ニ酔ヒ、ソレヨリ偽リテ伯父ヲ呼出シ傷ケン爲、同人宅ノ前ニ至リ、戶外ヨリ「父母ガ今、自

乙様式鑑定書例

分ノツボラノコトヨリ喧嘩シ、母ガ父ニ棒ヲ以テ打撲セラレ、腰ヲ抜カシ、醫師ノ所ニ連レ行カネバナラヌ故ニ、至急來援致シ呉ル、棒」申入レシニ、母ク〇ガ「叔父ハ今、入湯ニ赴キ居ル故、自分ガ行ツテ遣ル」ト返答シテ出テ來リシ故、同行シテ被告方ニ赴ク途中、被告ハ熱々思フ様、若シ祖母ヲ連レ歸レバ直ニ、虚構曝露シテ、益々窮地ニ陥ル可シ、故ニ寧ろ祖母ヲ殺害セシト(其際祖母ハ前行セリ)、即チ豫メ、携帶セル剃刀ヲ懷中ヨリ取出シテ突然祖母ヲ突倒シ、切付ケ祖母ガ、度々「堪忍シテ呉レ」ト疾呼セシニモ拘ラズ大小約三十個ノ重傷ヲ負ハシメ、其場ヲ遁走シ(予ニ對スル被告ノ自陳ニヨレバ)同夜ハ全ク覺エズニ、程遠カラマ濱邊ノ松樹下ニ野宿、睡眠シ、翌朝五時頃、醒メテ吃驚シ濱路ヲ迂回シテ、歸宅セルニ此時、宅ニハ既ニ巡查ガ來居リテ終ニ逮捕セラレタリ、但シ兇器ハ歸宅後竊ニ、自宅ノ裏手ナル納屋内ノ空桶中ニ匿シ置キタルヲ後ニ至リ、巡查〇〇〇〇之ヲ發見セリ
(註)、「書出シ」トハ請求書ノ方言ナリ。

第二、現在徴候

甲、精神的徴候

- (一)指南力 氏名、年齢、生年月日、出生地、原籍地、現在地(未決監)、日下及ビ犯時ノ月日、何ノ爲ニ、此處(監獄)ニ來リシカ周圍ニ居ル人(看守)ハ何ノ爲ニ居ルノカ等ハ、皆、正シク答ヘ能フガ故ニ意識明清ニシテ指南力ニ障礙無キコトハ明ナリ
(二)領解力 彼ハ種々ノ品物、繪畫等ヲ見、或ハ色々ノ話ヲ聞キ質問ヲ受ケテ之ヲ正シク解ス(從テ問ニ對スル相當ノ答詞、行動ヲナス)、即チ、彼ノ領解力ニモ著シキ缺陷無キコトヲ知ルニ足ラン
(三)注意力 ハ多少減弱セルガ如シ、例之、一文章中ニ在ル一定ノ文字ニ傍柱ヲ付セシムルニ、往々脱漏アリ、對話中竊ニ彼ノ足ヲ踏ミ、衣服ヲ引キ針ヲ以テ頸部ヲ試刺シ、或ハ机ヲ打チテ響ヲ發セシムルモ、問々之ヲ覺知セザルコトアリ



(四)記憶力 ハ先ヅ尋常ノ程度ニ存スト思ハル、何トナレバ、生年月日、両親並ニ同胞ノ名前及ビ年齢、就學ノ年限、其後取リタル職業(家業ノ手傳、蒲鉾ノ小賣、「ミシン」縫工)、犯行ノ月日並ニ其前後ニ於ケル行動、又近頃母ヨリ通信アリシコト、父ガ監獄ニ尋ネ來リシコト、並ニ其通信、物語リノ内容、等皆能ク記憶ス

(五)妄覺 妄想 ノ存在ヲ證スルコト能ハズ

(六)觀念 對話中、彼ノ語振リニヨリテ、之ヲ察スルニ、殊更、觀念聯合速度ノ促進、若クハ遲滯シテ多辯、若クハ寡言ナリト云フ程ノコトモ無ク、又冗長症、言語ノ常同症、同一觀念ノ固執症、支離滅裂症、當意即答症、強迫觀念、新語作製等ヲモ認メズ

(七)判斷力、計算力

問、池ト川トノ差異如何カ

答、池ハ溜リ、川ハ流レル

問、牛ト馬トノ差異如何カ

答、角ノ有無、足ノ爪(牛ノ爪ハ二ニ分レ、馬ノ爪ハ一ナリ)、脊ノ高底、頭ノ形、鬣ノ有無ニヨリテ之ヲ區別ス

此他、儉約、吝嗇、勇氣、臆病等ノ意味、山ト谷ノ別、窓ト戸ノ別、轉バヌ先ノ杖、急ガバ廻レ等ノ諺ノ意味等モ大體ニ於テ之ヲ理解ス、故ニ判斷力ニ著シキ減弱アリトモ思惟セラレズ、計算力ニ關スル問答左ノ如シ

問、蒲鉾ノ價ハ幾何カ

答、小板ハ一枚ノ仕入三錢五厘、賣價四錢、大板ハ仕入五錢、賣價六錢

問、一度ニドノ位仕入レルカ

答、〇〇、〇〇等迄賣リニ行ク時ハ(コレハ一年ニ二、三度ナリ)大小取混ゼ千五百枚位

問、一枚四錢ナラバ千五百枚ノ代價ハ何程ニナルカ

答、六十圓

問、一枚五錢ナラバ千五百枚ノ代金ハ幾何

答、七十五圓、(三十秒ニ要ス)

問、四錢仕入レ、之ヲ四錢五厘ニ賣リ、一千五百枚賣レタラバ儲ハ幾何

答、七圓五十錢

問、「ミシン」縫工トシテ、ハ一日ニ何程ノ給金ヲ貰フカ

答、一圓カラ、一圓二、三十錢

問、一日一圓二十錢デ三十日行ケバ何程ニナルカ

答、四十二圓、(三十六圓ト訂正ス)

問、五十圓ヨリ三十六圓ヲ帳ケバ殘金幾何

答、十四圓、(三秒ノ後)

問、三人ノ兄弟ニ、十二錢ト、八錢ト、六錢ヲ與フレバ合計幾何

答、二十六錢

問、四人ニ三十五錢宛遣ラバ合計幾何

答、一圓四十錢、(八秒ヲ要ス)

問、十一人ガ、十一錢宛持寄ラバ合計幾何

答、一圓三十三錢……一圓二十二錢……一圓三十二錢……一圓二十一錢

問、一圓二十錢ヲ三人ニ分與スレバ幾何

答、四十錢ヅ、トナル

右ノ問答ニヨレバ、計算力ハ、彼ノ教育程度、身分ニ對シテ決シテ拙劣ナリト云フコトヲ得ズ

(八)感情

問、此頃ハドウシタカ

答、裁判ガ永延イテ困リマス

問、宅ニ居ルノト、此處(監獄)ニ居ルノト何レガ好キカ

答、勿論宅ニ居ル方ガ好シ、此處デハ生命ガ縮マル許リデス、何トナレバ物ハ少ク、運動ハ出來ズ、娛樂ハ無シ

問、兩親ハ今回ノ事件ニ付、平氣ナリト思フヤ

答、否、心配シテ居ルト思フ、然ラザレバ差人物ヲシ、又辯護士ヲ付ケテ吳レル等ノコト無シ

問、出獄後、伯父〇郎ニ報仇スル積ナリヤ

答、否、ソシナコトヲスレバ罰ガ當ル

右記ノ問答、並ニ彼ノ言語、舉動、顔貌等ニヨリテ、之ヲ察スルニ、感情興奮性ノ著シキ減退ヲモ、亦亢進ヲモ、尙感情ノ病的ニ不快性ナルコトモ亦快樂性ナルコトモ證明スルコト能ハズ

(九)意志運動 意志發動力ノ増進(運動性興奮)セル徵候(饒舌、濫言、多業、放散、物品破損等) 並ニ其反對症(無氣力、茫然無爲ヲモ檢出セズ)

尙、意志被影響性ノ亢進(強梗性、模倣運動、反響言語、常同症、衝奇症等)、又減退ノ證據(拒絕症、緘默症)無ク、表情運動ニ論ス可キ程ノ異常ヲモ認メズ

(十)一般智能

問、米ノ收穫ハドノ位アルカ

答、三石(一段ニ付)有ル

問、田面ハ何程作ルヤ

答、四段

問、米ノ賣買ハ何程カ

答、一石二十四圓位ナリ

問、然ラバ三石賣ラバ何程ニナルカ

答、三十二圓(四十二圓ト訂正ス)

問、地主ニ年貢ハ何程拂フカ

答、普通一段ニ付一石五斗(故ニ、三石ナラ、半々トナリテ家ニ六石殘ル)

問、此ノ殘米ヲ一石ニ付十四圓ニ賣ラバ幾何

答、五十四圓(八十四圓ニ正誤ス)

問、米ヲ播クノハ何月乎

答、四、五月

問、刈入レハ何月カ

答、十月頃

問、蒲鉾ヲ製スル材料ハ何々カ

答、蟹、鱧、エビ、烏賊、牛ノ舌(鰯ノ様ナ魚ナリ)ヲ普通トス

問、孟蘭盆ハ何時カ

答、八月十三、四、五、六日

問、其時ノ行事ハ何カ

答、踊リ、戴入り、新佛ノ祭

問、何故、新佛ヲ祭ルノカ

答、先祖ヲ敬スルノ意ナリ

問、何ノ爲ニ稅ヲ納メルカ

答、上ノ雜用ニ遣フ

問、何故、徵兵ニ行カネバナラヌノカ

答、行カネバ戰爭ニ負ケル

尙、種々ノ繪本ヲ見テ、之ヲ解スルノ能力アリ、一年ハ十二月ニシテ、二、四、六、九、十一ハ小、其他ハ大ナルコト、一週ハ七日ナルコトヲ知り、又各曜日ノ名ヲ舉稱スルコトヲ得

乙、身體的徵候

體格榮養共ニ佳良ニシテ、燃エ立ツ様ナ元氣ヨキ顔貌ヲ有ス、頭形ニ記スベキノ異狀無ク、毛髮ノ發生尋常ニシテ、頭首ヲ輕打スルモ疼痛無ク、外後頭結節ノ上方約三橫指徑ノ所ニ、約三・〇厘米長ノ白色癩痕、左上方ヨリ右下方ニ斜走ス(幼時、角力ノ際漆喰ノ上ニ倒レテ負傷セル痕ナリト云フ)、顔面ハ左右均等ニシテ、顔面神經ノ諸枝ニ麻痺無シ、眼動ニ障害無ク、瞳孔左右共中等大、圓形ニシテ對光反應常ノ如シ、視力稍々弱シ、舌ヲ伸出セシムル



ニ、直ニシテ少シク若ク被リ、振頭無シ、齒列(殊ニ下列)稍々不整、齶齒無シ、硬口蓋ノ穹窿尋常ニシテ懸垂ハ中央ニ位シ、口蓋穹、能ク擧上ス、左右兩耳ノ耳垂ハ稍々上方ニ翻轉シ、且、右耳ニ於テハ其下縁ニ淺キ截痕一個アリ、右耳ノ鼓膜上ニハ、汚褐色濃厚ノ液狀物附着シ、懷中時計ノ首ヲ、僅カ一、二種ノ距離ニ於テノミ聽キ取ルコトヲ得、左耳ノ鼓膜面ニハ、右記ノ如キ附着物無ク、聽力モ亦右側ニ比シ良ナリ(即チ時計ノ音ヲ約十仙迷ノ距離ニ於テ、幽ニ聽キ取ルコトヲ得)

胸廓ハ良ク穹窿シ、左右兩側ノ呼吸運動、相均シク、肺ノ打診及ビ聽診上、亦異狀ヲ檢出セズ、心臟ノ心尖搏動ハ、左第五肋間ノ乳腺内ニ觸レ、濁音界擴大セズ、心音清朗ナリ、脈搏ハ大ニシテ力アリ一分七十二ヲ算ス

脊柱ハ異常ノ彎曲ヲ呈セズ、輕打スルニ痛點無シ

腹部ハ稍々膨滿シ(脂肪過多)、按壓スルモ硬結無ク、唯、左季肋部ヲ試壓スルニ、少シク疼痛ヲ訴フ

隨意筋ノ運動、筋ノ粗大ハ相當ニ存シ、壓力計ヲ以テ檢スルニ右手一七、左手二三基呂ヲ示ス、諸種ノ共働運動ハ先ヅ人並ナリ

知覺、觸覺、痛覺共ニ稍々鈍位置神尋常、ろんべるぐ氏徵候無シ

反射、鼻粘膜、咽頭粘膜、骨膜反射尋常、提舉筋反射著明、腹皮反射、膝蓋腱反射、足現象缺如ス

第三、說明

余ガ上述セル數回ノ檢診ニヨリテ、索知シ得タル所ヲ總覽スルニ、被告〇一ニハ、中樞神經系ニ粗大ナル器質的異常アリト思ハルル身體的徵候無ク、又變質的徵候群ト認ムベキ著明ナル畸形モ無シ精神的徵候ニ於テモ、時並ニ所ニ關スル指力ヲ始メ、領解力、記憶力、觀念聯合ノ方法並ニ其速度ニモ、記ス可キノ障礙無ク、安覺妄想存在セズ、判斷力ニモ概シテ間違無ク、計算力モ彼ノ教育程度ヨリ之ヲ批判スレバ、敢テ拙劣ナリト云フ可ラズ、唯、注意力ハ稍々散漫ナルガ如シト雖、コレトテ極メテ程度ニシテ、別段意義ヲ有ス

ルモノニアラズ、尙異様ノ表情及ビ意思運動ノ發現ヲ檢出セズ、要之、〇一ニハ現時彼ヲ精神病者ト認ム可キ徵候無シ從テ現時ノ狀況ヨリシテ、犯時、彼ノ精神狀態ニ異常アリシト推考ス可キ根據無シ彼ハ父系ノ尊屬中ニ數名ノ精神病者ヲ有シ、從テ神經系ノ疾患ニ對シテハ、頗ル濃キ遺傳ヲ有ス、又被告ノ父母、並ニ同胞ニモ其神經系ニ多少變態アリト思量ス可キ徵候ヲ有ス、者尠カラズト雖コレノミヲ以テ直ニ被告ヲ精神病者ト認ムル能ハザルコトハ論ズル迄モ無シ

斯ノ如クナルガ故ニ、犯時ニ於ケル被告ノ精神狀態ニ異常アリシヤ否ハ、一件記録(警察官、判檢事ノ問ニ對スル被告、證人、參考人等ノ應答)ヲ審按シテ之ヲ決スルノ他無シ、而シテコレニヨルモ、是迄精神官能ニ異常或ハ缺陷アリシト認ム可キ點無ク、且、犯行前後ニ於テ、被告ノ精神常態ニ異變ヲ來セシト認ム可キ根據無シ

犯行二、三時間前、二合ノ正宗ヲ飲ミタリト云フト雖、時ニハ一升餘モ傾ケルコトアリト云フ彼ノコトナレバ、コレ丈ノ量ニテ甚シク酩酊セリト思ハレズ、又右飲酒後伯父〇郎方ニ至リ彼ヲ呼出サント企テタルコト、並ニコレニ對シテ祖母ク〇方探リタル行動等十分ニ記憶スルコト、犯所ヨリ遁走ノ途中兇器ノ血痕ヲ自ラ路傍ノ小溝ニテ洗ヒタルコト等ニヨリテモ亦、其酩酊ノ程度左程甚シカラザリシヲ知ルニ足ラン、即チ犯行ハ飲酒ニ基發セルモノニアラザルベシ

彼ハ第一回豫審訊問中ニ

問、同夜被告ハ祖母ヲ戶外ニ連出シ、右刺刀ヲ以テ同人ヲ殺害セントシタノデハ無イカ

答、左様デアリマス、私ハ如何ニカシテ伯父ヲ外ニ呼出シ、同人ヲヤツ付ケル積リデ、同家ニ行タノデアリマスガ、其時既ニ叔父ノ家デハ表戸ヲ締メテ居リマシタカラ、私ハ戸ノ外カラ「今母ト父ト自分ノゾボラニ付テ喧嘩ヲシテ母ハ、父カラ毆ラレテ、息ガ止ツタカラ、直ニ伯父サン

キシニ、其事顛倒シタルヲ以テ〇郎ヲ殺害セント企テタルコトハ、一見滑稽ニ過グト雖、人若シ被告ガ當時遊女ニ熱中シ、且、當時遊興費ノ缺乏ヲ感ジ居リタルコト、〇郎ノ言ヲ信ゼシ爲ニ窮境ニ陥墜セルコト等ニ想到セバ、斯ノ如キ事ハ當人ニ於テモ、考ヘ得ベカラザルコトニ屬セズ

以上述べセル所ヲ總括スレバ、〇一ハ、刑法第三十九條ニ所謂、心神耗弱者(況ンヤ心神喪失者)トハ思ハレズ

第四、鑑定

終ニ臨ミ、鑑定ノ要旨ヲ簡言スレバ、左ノ如シ

被告〇一ハ刑法第三十九條ノ範圍内ニ屬スルモノニアラズト認ム

本鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手、同年〇月〇日終了セルモノナリ

大正〇年〇月〇日

今精神狀態鑑定書ノ一般模形式ヲ示セバ左ノ如シ。

第五十七例 鑑定書

冒頭(受命年月日、命令官、命令ノ場所、事件名及鑑定事項、檢査ノ場所回數等ヲ記載ス)

住 所 醫 岡 本 梁 松 郎

職 業

(被告、患者) 姓 名

現時年齡

天 檢診記録(甲様式ナラバ挿入、乙様式ナラバ之ヲ略ス)

地 總括

上 既 往 歴

甲 遺 傳 歴

次表ニ示ス如キ親族ノ各ニ就キ順次ニ左ノ各項ノ有無狀況等ヲ問ヒ、既

一般鑑定書型式

ニ來テ吳レト申シマス、祖母ガ「〇郎ハ不在デアルト云ヒ、自分ガ行テ見ル」ト云ツテ、外ニ出テ來マシタ、私ハ今更ソレガ嘘デアルトモ云ヘズ、ソレカト云フテ祖母ガ家ニ來レバ、嘘ノコトガバレテ了ヒ、又々私ガ如何様ナ難儀ナ目ニ會フカモ知レヌト思ヒ、一ツハ伯父ヘノ面當ニテ、一層祖母ヲ殺シテ了ヘト云フ様ナ亂暴ナ氣ニナリ、同家カラ、半町程離レタ、野道ニ差カ、ツタ處デ、コソソリト懷カラ刺刀ヲ取出シ、ソレヲ右手ニ持テ祖母ノ後カラ、不意ニ首ノ邊ヲ日ガケテ斬リカ、ツタ處、同人ハ驚テ、道傍ノ小溝ニ倒レタ様デシタガ、ソレカラ私ガ突タ爲カドウシタ機ミデアツタカ能ク覺エマセヌガ同人ハ其傍ノ田ノ中ニ落込ミマシタカラ、私ハ、尙、其田ノ中ニ行キ同人ノ顔ノ邊ヲ無茶苦茶ニ斬付ケテ置テ、其儘墓場ノ裏ヲ通ツテ、松原ト云フ所ノ松林ノ中ニ隠レテ居マシタガド、御上ノ手ニカ、ラネバナラヌコトナラ、一層自首シタ方方宜イト思ヒ、兩親ニ暇乞旁々、本日午前七時頃、歸宅シタ所ヲ巡査ニ取押ヘラレタノデアリマス

ト自陳シナガラ、第二回ノ訊問ニ際シ、或ハ公判廷ニ於テ、其幾分ヲ否認シ又ハ夢中デ能ク覺エヌト申立ツルト雖、ソガ記憶ノ缺損ニ基クモノニ非ズシテ虛構ノ陳述タル事ハ申ス迄モ無シ。被告ノ陳アル所ニ依レバ、犯罪ノ動機ハ叔父〇郎ガ、被告ノ遊興費ヲ負擔シヤルベシトノ言ヲ信ジ、其通り致シタルニ伯父ハ口約ニ反シ、ソノ仕拂ヲ拒ミタルニ因リ、圖ラズモ窮地ニ陥リタルヲ憤慨シ、意趣返シノ爲、彼ヲ誘出シテ殺害セント欲シ、飲酒ノ上同人方ニ赴キ、「今父ガ母ヲ毆打シ、至急醫療ヲ要スル故、急ギ來授フゾ」ト虚構ノ依頼ヲナシタルニ、事、豫期ニ反シ伯父ハ不在トノ事ニテ、祖母ガ伯父ニ代リ赴ク可シト出デ來リシヲ以テ、其儘祖母ト同行セバ、右記ノ虛構忽チ曝露シ、是ガ爲自分ハ益々窮境ニ沈淪ス可キガ故ニ、寧ロ祖母ヲ殺害セント欲シ、終ニ茲ニ至レルモノナリト在リ此ノ陳述ハ大體ニ於テ眞實ナルベシ、被告ガ〇郎ニ於テ、遊興費ヲ負擔致シ吳ル可キ様ニ思ヒ、再ビ遊興ニ赴







障礙、筋力減退、筋肉萎縮、筋肉ノ壓痛、筋肉ノ器械的刺戟ニ對スル興奮性亢進、筋肉關節ノ緊張狀態、強痙、其他顔面症狀等  
 十六 感覺異常。觸、痛、溫度、位置、筋肉感覺ノ鈍麻、脫失、過敏、其區域及程度、頭痛、卵果痛、電擊痛、神經痛脊推感覺過敏、壓痛點  
 十七 五官機能。視、聽、味、嗅感覺ノ検査  
 十八 大小便検査  
 十九 其他必要ニ應ジテ行ヘル脈波、血壓、呼吸、血液、腦脊髓液等ノ検査、殊ニ血清及腦脊髓液ノわつせるまん氏反應

乙 精神症狀

- 一 姿態、動作、談話。應對ノ模様、居間ノ飾付、表情ノ如何、問ハズ語リヲナスカ、問意ノ理解、話法ノ遲速、滯澀流暢、多辯、冗舌、寡言、迂遠、不明、詞語新作、衍奇症狀、語障等
- 二 指南力。姓名、職業、年齡、來處、時日、場所、周圍ノ人々等ニ就キ
- 三 妄覺。錯覺、幻覺、其種類、性質、内容、多少、恒同、又ハ變化、之ニ對スル判斷、人工的ニ起シ得ルカ等
- 四 注意力。散亂、持長性、喚起性
- 五 記憶力。別項検査法ニ依リ昨今ノ來訪者、外出、飲食品等ヲ問ヒ、又特殊検査法ヲ行ヒ、其減退ノ度ヲ測定ノ方法ト共ニ併記ス。
- 六 追想力。大、中、小學卒業ノ年月、奉職、開業、結婚、父母ノ死亡、子供ノ出生等ノ月日事情、又近時ノ事件等ニ就キ問ヒ、其間及答ヲ明起ス
- 七 健忘症。概括的、全般的、部分的、逆行性
- 八 抽象力。缺損、隨意性
- 九 智力ノ程度。いろは或ハ五十音、一二三乃至百、十二支一週ノ名稱君ガ代、教育勅語、日本ノ高山、大川、大都會ノ名、日清戰爭、日露

宿 所  
 鑑定人 醫師 氏 名 印

右

十二、伴狂ト匿狂

視力或ハ聽力障礙ヲ詐病スルモノ往々之レアルハ既ニ前述スル所ナルガ、一般ニ云ヘバ精神健全ナルモノガ伴狂ヲナスコトハ極メテ少ク、精神界ノ何レカニ缺陷アルモノガ、種々ノ目的ノ爲メニ伴狂ヲナスコトアリ、殊ニ精神病ハ一見詐病シ易ク見ユルモノナルヲ以テ罪ヲ免レンガ爲メ、或ハ民法上ノ能力ヲ制限セラル、ヲ恐れ、伴狂或ハ匿狂ヲナスモノ屢アリ、故ニ訴訟事件ニ關係アル人ノ精神狀態ヲ鑑定スル場合ニハ常ニ此點ニ留意セザルベカラズ。

伴狂ハ精神健全者ニテモ精神病者ニテモ見ルコトナルガ、後者ニ於テハ實際既ニ存在スル精神障礙ト伴狂トハ注意シテ鑑別セザルベカラズ、伴狂ハ精神病學ヲ知ラザルモノ或ハ精神病者ヲ見タルコトナキモノニハ、ソノ目的ヲ達スルコト甚ダ困難ニシテ殆ンド不可能ナリト云フベシ、例ヘバ躁狂ヲ詐病セント企ツルモ躁狂ナレバトテ無暗ニ騒ギ廻リ、遂ニソノ度ヲ越エテ伴狂ナルコト發見セラル、ガ如キ之レナリ。

伴狂者ハ先ヅ精神病ノ症候ヲ精密ニ模擬セザルベカラズ、而シテ

伴狂ト匿狂

- 戰争ノ年月及其將軍ノ名稱ヲ問フ(後項智力検査法ノ條下參照)
- 十 觀念聯合。滯澀、急速、錯亂、(意想奔逸、支離滅裂、夢幻性、譫妄性、昏迷性)感動性、迂遠、常同、粘著、冗長、強迫觀念、(強迫運動、強迫行爲、強迫言語)類音聯合等、
- 十一 判斷力。周圍ニ對スル判斷、自家批判力、精神薄弱ノ徵候等
- 妄想。其種類即誇大、追跡、被害、關係、心氣性、虛無、獸化、狐憑等ノ種類ト其性質並ニ系統ノ有無
- 十二 計算能力。其問題ト答並ニ之ニ要セシ時間トヲ記入ス
- 十三 病的情緒。悲觀的、心痛、憤怒狂、不機嫌、不満足、苦悶、疑懼、恐怖、臨場苦悶、閉鎖恐怖、病的潔癖、爽快多幸症、好機嫌、消塊大悅等
- 十四 情緒反應ノ強弱。過敏症、自我心、悻德、遲鈍、不關平氣、感情劇烈、感情轉變、感情鈍麻、完教心道德心
- 十五 意志行爲ノ障礙。興奮、不安、多辯、放歌、舞蹈、脫衣、譫妄、制止、昏迷、茫然、自失、突發暴舉、強硬症狀、反響症狀、應需運動、強迫行爲、性慾異常即チ食慾、色慾ノ異常、倒錯等。周圍ニ對シ妨害暴行等ノ傾向、不潔等
- 十六 筆蹟。大小、形狀、遲速、巧拙、亂雜、震顫、失節、文字新作、字劃脫漏、左文字、全紙ト文字ノ字配リトノ關係、同一文字ノ反復、内容ニ妄想、幻覺ヲ認ムルヤ否ヤ
- 立 診斷。精神病學の鑑定ヲ記載ス
- 黃 說明。ソノ疾病ト責任能力ノ關係ヲ説明ス
- 字 鑑定。簡明ナル結論ヲ下スベシ

此鑑定ハ大正 年 月 日 日著手  
 大正 年 月 日 日終了

此模擬症狀ハ眞ノ精神病症候ノ如ク、徹底的及聯關的ニ非ラズ、發作或ハ再發ニ關シ合理的ナラザルヲ以テ、遂ニ鑑定者ヲシテ疑ヲ抱カシムルモノナリ、更ニ伴狂者ノ既往歷發病ノ狀態、其動機等ヲ探究スレバ益々ソガ疑ヲ深カラシム、次デ検査ハ彼ガ詐病セルノ疑ヲ抱ケルコトヲ患者ニ悟ラシメズシテ、注意シテ且再三、或ハ不意ニ時トシテ夜半之ヲ檢診スベシ、此目的ニハ患者ヲ精神病院ニ入院セシムルヲ便利トス。

詐病者ガ常ニ誇大的ニ模擬スル精神病症狀ノ外ニ、他ノ客觀的身體的症狀ヲモ検査ハ注意シテ檢セザルベカラズ、コハ決シテ伴狂者ノ模擬スルコトハ能ハザル所ナレバナリ、此ノ如クスル時ハ伴狂ヲ觀破スルコト極メテ容易ナリ、例ヘバ躁狂詐病者ハ眞ノソレノ如ク晝夜ヲ通ジテノ運動促進ヲ模スルコト能ハズ、憂鬱狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク抑鬱性氣分ヲ生ズルコトヲ得ザルガ如キ之レナリ。

記憶缺損ヲ詐ルモノアレバ鑑定人ハ患者ガ實際之ヲ惹起スベキ疾病、即意識濁濁ニ陥リシコトアルヤ否ヤヲ研究スベシ。若シ患者ニ此ノ如キ疾病ノ既往歴ナキニ於テハ注意シテ記憶缺陷ノ範圍ヲ検査スベシ。然ル時ハ詐病者ニハ實際記憶缺損ノ存在シタルモノ、如ク決シテ正確ニ之ヲ返答スルコト能ハザルモノナリ。



匿狂ハ伴狂ヨリモ尙甚ダ屢來ルモノニシテ精神病院ヲ退院セントスルモノ、或ハ處分能力ヲ制限セラレントスルモノニ特ニ多シ、此際ニハ患者ノ既往歴、匿狂ノ原因、疾病ノ經過及狀態病識等ヲ注意シテ檢スベシ、治癒者ハ無遺作ニ疾病ノ狀態ヲ告白スルモノナレドモ匿狂ハ尙身體的障礙ヲ訴ヘ而モ之ヲ再三觀察スレバ、ソノ行爲及舉動ニ依リテ、ソガ匿狂ナルコトヲ觀破スルコトヲ得ルモノナリ。從來用キラレタル詐病看破法ニ次ノ四種アリ、

**第一、威嚇法、**患者ヲ種々ノ方法ニ依リ威嚇シ、詐病ナラバソヲ看破セントスルモノニシテ、コハ多クハ歴史の意味ヲ有スルモノナリ、何トナレバ、吾人醫師ハ患者ヲ診察スルコトヲ得ルモノ之ヲ拷問シ或ハ威嚇スルコトヲ得ザレバナリ。例ヘバ、出鱈目ヲ云フト食物ヲ與ヘヌトカ、馬鹿ナ眞似ヲナセバ暗室ヘ入レルゾ、餘リ騒グト裸體ニシテ放置スルゾ等ノ言ヲ以テ患者ヲ威嚇スルモノニシテ、モン患者ガ眞ノ精神病ナラバカ、ル威嚇ニヨリテ病勢ノ増進セルコトアレバ、此ノ如キ威嚇ハ慎ンデ避ケザルベカラズ。

**第二、麻醉法、**詐病ノ疑アルモノニ麻醉劑ヲ與ヘソノ意志ノ統御能力ヲ失ハシメ、以テ尙以前同様ニ病的行爲ヲナスヤ否ヤヲ檢査シ詐病ナルヤ否ヤヲ發見スル法ニシテ此方法ニハ一トテ、くろくぼ

るむ等應用セラレタリ、然レドモ是等ノ全身麻醉ハ患者ノ生命ニ危險ヲ及ボスコトアレバ、尙未ダ實用サル、ニ至ラズ。  
酒精含有ノ飲料ヲ患者ニ與ヘテ、意志ノ抑制作用ヲ降下セシメ詐病ヲ發見セント企テラレタルコトアリト雖、其成功セルモノ極メテ少シ。

**第三、頓才法、**コハ頓才ヲ以テ伴狂ヲ觀破スル方法ニシテ、ソノ手段乃至方法ハ時ト場合ニヨリ頓才的ニ案出セザルベカラズ。

**第四、心理學的方法、**此方法ハ精神病者ノ精神界ニモ一定ノ心理學的規則存在シ、彼ノ精神動搖ハ此規則ニ從フテ起ルモノナリト云フ原理ニ基クモノニシテ、即チ精神病者ニハ一定ノ病型ニ從テ一定ノ精神界ノ變動ヲ見レドモ、詐病者ニハ必ズシモ之ニ一致セザル變動アルニヨリ看破セントスルモノナリ、即チ患者ノ身體的症狀、表情、歩行狀態、姿勢、身振、手眞似、話振、字體、食慾、睡眠狀態、氣分等ニ注意シ思考ノ方途、精神的作業等ヲ詳細ニ觀察スレバ、ソガ詐病ナルヤ否ヤヲ多クハ發見スルコトヲ得ルモノナリ。

**第五、臨牀的方法、**コハ前者ト截然區別スルコト能ハザル方法ニシテ、患者ノ疾病ノ症候及經過ガ今日ノ學問ノ程度ニ於テ得タル經驗、即チ精神病學上ノ一病型ト相一致スルヤ否ヤヲ探究シ、吾人ノ

經驗ト何等撞着アラザルニ於テハ、詐病者ニ非ラズトスルノ方法ナリ。昔時ハ詐病者ト鑑定サレタルモノ往々アリト雖、精神病學ノ發達スルニ從ツテ、詐病ナル鑑定例ハ次第ニ減少シ來レリ。即チ前述ノ如ク全然精神健全ナルモノガ詐病ナスコトハ甚ダ稀ナルモノナレバ、精神病學發達ノ惠澤ハ實ニ是等似非病者ニ及ビタルモノト云フベシ。

### 乙、各論

各論ニ於テハ精神病ノ各病型ト法律的關係トノ相互連關スル所ヲ述ベントス、故ニ種々ノ病型乃至各病症ノ臨牀的症狀ニ就テハ敢テ詳説セズ、又法醫學的精神病學トシテ餘リ必要ナラザル疾病ハ多ク之ヲ省略セリ。即チコハ精神病學書記載ノ範圍ニ屬スレバナリ。

くろくぼ氏ハ精神能力ノ高下ニヨリテ人類ヲ左ノ如ク分類セリ。勿論茲ニ掲記スル數字ハ同氏ニヨリタルモノナレバ、我邦ニ於ケル統計數ニアラザルモ、亦以テソノ概數ヲ知ル參考トモナラン。  
一、凡人、コハ文明國ニ於ケル人口ノ約五分ノ四ヲ占メ、凡人ノ理想的ナルモノガ即チ所謂平均人ニシテ、社會ヲ組織スル重要ナル大群ナレドモ、社會的ニ云フ時ハ多ク普通ノ職業ニ従事シ、全然保守主義ニシテ殆ンド獨創性ナク、ソノ行動ハ從來ノ年中行事以

上ニ出ヅルコト能ハズ、急速ノ進歩乃至發達等ヲ望ミ難キ階級ナリ。然レドモ理想的ノ平均人ハ即チ大凡人ニシテ、智情意ノ發達平均位ニアリ吾人ガ通常「人」ト呼ブモノ之ナリ。  
二、敏才、コハ凡人ニ對シソノ才能ヲ發揮シ多少ノ獨創ヲモ有シ、若干ノ技巧乃至洞察アリ少シク人ノ上ニ立チテ指導スルコトヲ得、多クノ官吏、教師或ハ團體ノ首領等之ニ屬シテ、全人口ノ約十分ノ一ニ達一スル數アリト云フ。

三、奇才、コハ卓見妙想ニ富ミ、人類ニ取リテソノ出現ヲ德トスベキ階級ニシテ、科學者或ハ技術家トシテハ優秀ノ部ニ屬シ、往々見ルベキノ業績ヲ擧グ。然レドモ多ク理性ヨリハ感情ノ發育業ニ秀ヅル爲メ、批評眼銳ク世ヲ俗視シ、性倨傲ニシテ神經質ナリ、全人口ノ五百分ノ一ニ當ル出現アリト云フ。

四、天才、ソノ精神能力ハ凡俗ヲ抜キ、眼光ハ數代ヲ貫ク、故ニソノ事業及思想ハ人類ノ盛衰ト大ナル關係アリ、行動ハ當代ノ人ニハ解スベカラズ、極メテ少數ニシテ一時代ニ二、三人ニ過ぎザルコト多ク、又ソノ性能ヲ有スル人モコレヲ發揮スルコト能ハズシテ終ルアリ、精神能力餘リニ微妙ナル爲メ容易ニ破滅ニ近ヅキ、天才ト狂人トハ往々同一人ナルコトアリ。



五、變質者、コハ智情意ノ發育不均整ニシテ性僻ミ、行爲ハ衝動的ナルコト多ク身體ニモ變質徵候アリ、所謂奇人、奸物反逆者乃至生來性犯罪者等トナリ、ソノ良性ナルモノハ天才的業績ヲナスコトアルモ、コハ極メテ少ク、多クハ社會ノ負擔ヲ増加スルモノニシテ、全人口ノ五百分ノ一アリト云フ。

六、病的性格者、コハ智情意特ニソノ性格全ク平均線以下ニ沈ミ、常ニ社會ヲ毒スルモノニシテ生來性犯罪者、遊民、娼婦等トナルコト多ク、ソノ數ハ全人口ノ約十一分ノ一アリト云フ。

七、治癒スベキ精神病者、コハ精神病者ナレドモ、ソノ間歇時ハ殆ンド、常人ノ如ク社會ノ爲メニ働キ、或ハ普通ニ業務ヲ取り得ルモ、常ニ精神病再發ノ危険ニ曝露サル、モノニシテ、之ニ屬スルモノハ五百人ニ付約一人ノ割合ナリト云フ。

八、不治ノ精神病者、先天性ニ精神病ノ素質ヲ有スルモノガ、遂ニ發病シ末期ニハ痴呆ニ陥ルモノニシテ、發病スレバ治癒ノ見込ナケレドモ、適當ノ方法ヲ講ズレバ、或ハ發病セズシテ止ムモノナリコレモ亦五百人中約一人ノ割合ナリト云フ。

九、教化可能性精神薄弱者、精神能力ハ先天性ニ平均人以下ニ沈ミ保護者ナクシテハ社會ニ獨立スルコト能ハザルモノニシテ、法律

道德等ノ制裁ノ效之ナケレドモ、之ヲ教化スレバ極メテ簡易ナル作業ヲナスコトヲ得、全人口ニ對シ約三百五十分ノ一アリト云フ。十、教化不能性精神薄弱者、前者ニ比スレバソノ精神能力ガ先天性ニ更ニ低ク、如何ニ教化セントスルモ能ハザルモノニシテ、白痴ハ多ク之ニ屬シ、社會ノ負擔トナルモノナルガ、コハ全人口ニ對シ千百分ノ一アリト云フ。

一、生來性精神發育抑止

少年法(抜抄)(大正十一年四月十七日法律第四十二號)

第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タザル者ヲ謂フ

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ル、行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ル、行爲ヲ爲ス虞ル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一、訓誡ヲ加フルコト
  - 二、學校長ニ訓誡ヲ委スコト
  - 三、書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト
  - 四、條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト
  - 五、寺院教會保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
  - 六、少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
  - 七、感化院ニ送致スルコト
  - 八、矯正院ニ送致スルコト
  - 九、病院ニ送致又ハ委託スルコト
- 前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ前項ノ規定ヲ適用セス

參照 刑法

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五章 少年審判所ノ手續

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、意見ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト

二、寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三、病院ニ委託スルコト

四、少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院、又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者學校長受託者又ハ感化院、矯正院、若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十



七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得  
第三十八條 及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

矯正院法(抜抄)(大正十一年四月十七日法律第四十三號)

第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ廿三歳ヲ超ユル事ヲ得ス

第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク

第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ收容ス

第九條 在院者ニハ其性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

生來性精神發育抑止者ハ吾人ノ想像スルヨリモ意外ニ多ク社會ニ散布シ居リ、ソノ道德的概念ノ構成不十分ナル上ニ判斷力又圓熟セズ、且感動ニ驅ラレ易ク衝動性動作ニ陥ルコト多ク、假令、他ヨリソガ惡事ナルコトヲ教ヘラル、モ之ヲ抑制スルノ意志弱ク、加之、意志ノ被影響性大ニシテ教唆暗示ニ依リ犯罪ニ傾キ易シ、即些少ノ動機ニ由リ彼ハ猛然トシテ暴行脅迫等ヲナシ、且一度犯行ニ慣レ常習トナルニ至レバソノ批判力ノ乏シキト、意志薄弱ナル爲メ、遷善

改悟スルコト困難ニシテ、遂ニ社會ノ罪惡者トシテ其安寧ト秩序トヲ蝕シテ已マザルモノナリ。

夫レ生來性精神發育抑止者ノ智力ヲ検査シテ、ソガ凡ソ何歳位ノ兒童ノ智力發育程度ニ達セシカヲ知ルハ、法醫學上甚ダ大切ナルコトニシテ、之ニ依リテソノ人ノ責任能力者ナルヤ、將タ輕減責任能力乃至責任無能力者ナルヤ否ヤヲ決定セラルベキ參考トナリ、精神狀態鑑定上極メテ大切ナル事項ナリ、然ルニ智力検査法ニハ甚ダ多種アリト雖、心理學或ハ醫學ノ智識少ナキモノニ、ソノ智力程度ヲ直截簡明ニ表示スルモノ少シ。

びねー、じもん氏ハ精神發育不良者ノ智力ヲ次表ニ示スガ如クニシテ検査シ、ソノ實際年齢ト精神發育ノ程度トヲ比較シ、兩者相一致セザレバソノ程度ニヨリ白痴、痴愚者或ハ魯鈍者等ニ區別スベシトナセリ。

第三百三十九表 ひねー、じもん(Binet-Simon) 兩氏ノ智力検査標準表

Table with 2 columns: Age (年齢) and Description of mental tasks (検査項目). Rows include ages 3, 4, 5, 6, and 7 with corresponding tasks like counting, drawing, and simple arithmetic.

Table with 2 columns: Age (年齢) and Description of mental tasks (検査項目). Rows include ages 7, 8, 9, 10, 11, and 12 with corresponding tasks like drawing, writing, and more complex arithmetic.

第四百四表 わががんと(Weyland)氏検査法標準

Table with 2 columns: Age (年齢) and Description of mental tasks (検査項目). Rows include ages 6, 7, and 8 with tasks like drawing, counting, and simple word problems.

表一十四百第 小兒運動機能精神機能及達發能生齒ノ要概

Table with 2 columns: Age (年齢) and Description of developmental milestones (要概). Rows include ages from 11 months to 12 years with milestones like walking, talking, and reading.

次ニ千九百十四年来ノヤーキス、ぶりつじ氏ハ所謂數式智力検査法ナルモノヲ案出シ、之ヲ數多ノ兒童ニ試ミテソノ用ユルニ足ルヲ示シタリ。本法ハびねーじもん氏智力検査法ニ一定ノ考案ヲ加ヘ



(表乙) 六百四第  
表配分段分年學 (併合女男) (男)表配分段分年學

學年 得點	學年						學年							
	尋3	尋4	尋5	尋6	高1	高2	尋3	尋4	尋5	尋6	高1	高2		
180-189														
170-179														
160-169														
150-159					2	1							1	1
140-149						6								4
130-139					2	5	4				2	4	3	
120-129					7	8	30				5	4	22	
110-119				2	5	20	34				2	3	14	24
100-109				2	12	47	60				2	6	24	35
90-99		1	7	18	45	50					1	5	9	25
80-89		6	20	45	70	41					5	11	30	20
70-79		2	12	22	45	48	27				1	9	15	20
60-65		3	17	39	54	45	40				3	11	17	26
50-59		3	40	25	47	36	35				1	22	40	24
40-49		16	33	56	36	24	13				13	18	21	18
30-39		36	56	60	38	25	9				20	32	41	17
20-29		87	85	56	19	11	11				42	43	49	10
10-19		100	65	41	14	8	5				38	25	46	4
0-9		121	43	19	15	5	3				55	19	10	5
人數合計	368	358	359	357	401	369	173				185	179	179	215
4分3	27	46	61	80	97	107	49				51	64	84	98
中數	16	28	14	62	80	90	18				32	42	65	81
4分1	8	17	25	39	57	65	8				20	43	45	56
4分差	9.5	15.5	18.20	5	20	21	10.5				14.5	40.5	19.5	21

智力検査表

(女)表點得照對齡年年學

年 齡	尋 3		尋 4		尋 5		合 計
	人數	平均	人數	平均	人數	平均	
8	130	160	—	—	—	—	—
9	64	133	139	27.1	—	—	—
10	—	350	34	25.0	134	43.3	—
11	—	—	—	—	45	42.0	138
12	—	—	—	—	—	—	39
13	—	—	—	—	—	132.0	1
14	—	—	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—	—	—
合計	195	16.8	173	28.7	180	42.9	178

年 齡	尋 6		高 1		高 2		合 計
	平均	人數	平均	人數	平均	人數	
8	—	—	—	—	—	130	16.0
9	—	—	—	—	—	203	24.4
10	—	—	—	—	—	168	41.8
11	57.9	—	—	—	—	183	53.5
12	55.3	146	70.6	—	—	185	72.8
13	43.0	40	76.4	104	38.0	146	80.5
14	—	—	—	45	94.3	45	84.2
15	—	—	—	—	132.0	1	62.0
16	—	—	—	—	—	—	—
合計	57.2	186	77.3	150	43.2	1062	—

第百四十七表

(著者ノ改良セル左記點數式智力検査表ニヨリテ得タル成績)

番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
教 育 程 度	不 就 學	一 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學	二 就 學
職 業 種 別	古 物 商	工 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工	農 業 工
年 齡	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五	四 五
番 號	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
教 育 程 度	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
職 業 種 別	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋	屋 屋
年 齡	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三	四 三

七二三

表二十四百第  
表數點得均平較一

年 齡	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	大 人
檢査數	5	39	71	33	61	74	76	79	60	60	52	25	76
平均得點數	14	22	29	34	39	52	59	64	74	74	78	77	91

表三十四百第  
表數點得均平別女男

年 齡	4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
得點數	15	20	25	32	41	52	62	64	71	73	80	78	9	24	30	33	36	54	58	63	75	76	77	76

表四十四百第  
表數點得均平別級階

年 齡	4	5	6	7	8
得點數	15	27	42	49	56
下流	12	72	23	95	41

智力検査表

(併合女男)表點得照對齡年年學 表五十四百第

年 齡	尋 3		尋 4		尋 5		尋 6		高 1		高 2		合 計	
	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均
8	265	18.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	355	18.4
9	102	19.3	273	31.6	—	—	—	—	—	—	—	—	375	28.2
10	1	35.0	83	35.4	260	43.0	—	—	—	—	—	—	344	41.3
11	—	—	—	—	98	52.3	276	60.9	—	—	—	—	374	57.7
12	—	—	—	5.0	—	—	77	60.1	308	78.1	—	—	386	74.3
13	—	—	—	42.0	1	32.0	3	65.0	92	72.2	278	81.1	375	82.2
14	—	—	—	—	—	—	1	90.0	—	—	90	87.5	91	87.6
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	62.0	1	62.0
16	—	—	—	—	—	—	—	—	1	34.0	—	—	1	34.0
合計	368	18.4	358	32.4	359	44.1	357	61.4	401	76.5	369	86.3	2212	—

(男)表點得照對齡年年學

年 齡	尋 3		尋 4		尋 5		尋 6		高 1		高 2		合 計	
	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均	人數	平均
8	135	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	135	20.0
9	38	21.1	134	36.1	—	—	—	—	—	—	—	—	172	32.2
10	—	—	49	35.7	126	42.8	—	—	—	—	—	—	175	40.8
11	—	—	—	—	53	61.0	138	65.6	—	—	—	—	191	61.2
12	—	—	1	5.0	—	—	83	65.1	162	78.6	—	—	201	70.2
13	—	—	1	42.0	—	—	2	75.6	52	68.9	174	80.0	229	83.3
14	—	—	—	—	—	—	1	90.0	—	—	45	90.9	46	90.0
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—	—	—	—	1	39.0	—	—	1	34.0
合計	173	20.2	185	25.8	179	45.4	179	65.2	215	76.8	219	88.5	1150	—

七二二

テ、種々ノ質問乃至検査ヲ爲シ各應答ヲ點數ニテ示シ、日數多ノ試験ニヨリテ各年齢ノ兒童ノ大約平均點數ヲ確定シタルモノナリ。故ニ同氏法ヲ用キテ總得點ヲ計算シ、前表ニ適用スレバ被檢者ガ略何歳位ノ兒童ノ智力ニ相當スル智力ヲ有スルカヲ想定スベキ參考トナスニ足ラン。勿論此方法ニテ其ノ一般智力ヲ直ニ斷定スルコト能ハザルベシト雖、ソヲ決定スル大約目安トナス事ヲ得ルモノナリ。

予ハ後記ノ如キ記入用紙ヲ豫メ印刷シ置キ、一方びねーじもん氏ノ智力検査函(三田谷氏ノ翻案セルモノ)ヲ以テ發問シツ、直ニソノ



Table with columns for student ID (51-76), school/grade, and scores. Includes a section for '智力検査表' with scores ranging from 77 to 102.

應答ノ記入シ置キ、後ニ至リテソノ下部ニ各應答ニ對スル得點ヲ記

載シ、之ヲ總計シテ總得點ヲ得、之ヲ鑑定書ニ添付スル事アリ、之レ司法官ヲシテ被検査ノ智力程度ヲ察知セシムルニ、極メテ了解シ易カラシメ從テ責任能力ノ程度決定スル有力ナル材料トナレバナリ。

點數式智力検査法(ヤークス、ぶりつぢ氏改良)

- 一、注意力試験、(次ノ表中指定セル文字ニ符號ヲ附ケシメ誤脱ナキ時ハ四點誤脱一字ハ三點、二字ハ二點三字ハ一點四字以上アルトキハ零點トス)
二、コレヲ比較シテ御覽(三度各一點)
三、私ガ今數ヲ呼ビマスカラソノ通り續イテ言フノデス(各一點)
四、アナタハ二十カラ一マデノ數ヲ一カラ言ハズニ逆ニ數ヘテ御覽丁度ヨウイウ様ニ廿五、廿四、廿三、廿二、廿一、ト云フ様ニ(全部正シキ時ハ四點、十五カラハ三點、十カラハ二點、五カラハ一點トス)
五、計算力ノ検査(各二項ニ付一點トス)

(注意)

(時間)

(答)

(問題)

- I 2+8= 2=
5+14= 8=
23+44= 14=
II 3= 1=
8= 3=
13= 5=
85= 25=
III 1x3= 3=
4x6= 6=
6x8= 8=
12x13= 12=
VI 2+1= 1=
18+3= 3=
32+4= 4=
110+10= 10=

六、私ハ次ノ文章ヲ讀ミマスカラアナタハソノ通り繰リ返シテサアヨロシイカ

(イ) 雨がふる。腹がへつた。(一點)

(ロ) あの人の名は太郎です。大變い、御天氣です。(一點)

(ハ) 太陽は大變に大きくて赤い。私共の列車は二時間以上おくれた。(二點)

(ニ) 可愛い小鳥をいぢめてはいけない。夜になると世界中が眠つてやすす。(三點)

七、此ノ繪ハ何ウ云フ繪デアリマスカ(次ノ三枚ノ繪ヲ見セシム)(繪中ノ物及人ヲ列舉セル者ハ各一點、叙述各二點解釋各三點)

(イ) (盲目鬼ゴッコヲシテ人ヲ間違ヘテ桌子掛ノ布ヲ引キ上ニアリシ茶道具ヲ落シタ繪)

(ロ) (丁稚ガ雪礮ヲ硝子窓ニ當テ硝子ヲ破リタル所主人出デ來レル故ニ物陰ニ隠レキタルニ折柄小學生ノ通リカ、レルアリ主人硝子ヲ破リシハコノ小學生ナリト思ヒテコレヲ叱レル繪)

(ハ) (若キ紳士若キ婦人ノ窓ニアルニ挨拶セントテ急ギテ窓下ニ近ヅカントセルニ折柄中年ノ女ニ連レラレタル幼童其途上ニアリ幼童ハ先ニ歩メルヲコレニ紳士ツキ當リテ轉倒セシメ驚ケル繪)

八、コレハ大サハ同ジデスカ各重サガ違キマス重サノ順ニ並ベテ御覽(十二點)

九、比較試験相異ナル點ノ叙述(一ツナル時ハ一點二ツ以上二點)

(イ) 林檎トバナナノ違ヒヲ言ツテ御覽

(ロ) 木ト硝子トノ違ツタ點ハ

(ハ) 紙ト布トノ違ツタ點ヲ言ウテ御覽

十、用途ニヨリテ定義セヨ(各一點)用途以上ノトキ(各二點)

(イ) 匙ハ何ニ用ヒマスカ

(ロ) 椅子ハ

(ハ) 馬ハ

(ニ) 赤ン坊ハ

十一、暗示抵抗試験(三回ノ抵抗ニ各一點)

(初メ四種ト五種トノ距離一兩幅一耗ノ兩線ニツキテハソノ長短ヲ言ハシメ次ニ五種ト六種次ニ六種、七種、次ニ同長同大ノ七種ノ平行線ヲ引ケル圖三枚ニツキテ抵抗試験ヲナス)

十二、コノ紙ニ正方形ト菱形トヲ畫イテ下サイ(形正シキ時ハ各二點)

十三、三分間ニ可及的言葉ヲ多ク言ツテ下サイ、假令ハバ月花雪雨雲霧ノ如ク云フノデス(三〇―四四(一點)四五―五九(二點)六〇―七四(三點)七五―(四點)

十四、今コ、ニ東京、おかれ、川ノ三語ガアリマスコレヲ使ツテ一ツノ經マツタ文章ニシテ御覽(三語ヲ二文ニ收メタルモノ(二點)一文ニ收メタルモノ(四點))

十五、私ハ次ノヤウナ問ヲ出シマスソレニヨク考ヘテ答ヘテ下サイ(正シキ時ハ二點)

(イ) 旅行ニ出カケテ汽車ニ乗り遅レタ時ハドウシマスカ

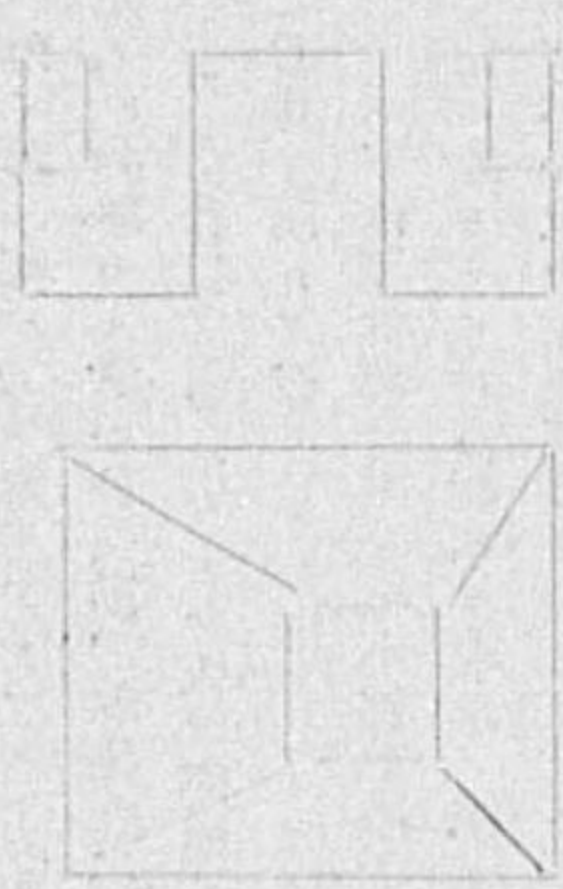
(ロ) 誰カガアナタニ不親切ナコトヲシテアヤマツタ時ハ何ウシマスカ

(ハ) 人ハ言フコトヨリ爲ルコトニヨツテ判断セヨトハ何ウ云フ譯デスカ



(ニ) 平氣デシタ不親切ヨリ怒ツテシタ不親切ノ方ヲ容易ク許スノハ何ウ云フ譯デスカ

十六、二ツノ圖形ヲ十五秒間見セテ記憶ニヨリテ畫カシム



十七、理窟ノ合ハヌ言ヒ方ノ批評(各一點)

次ノ文章ノ内ニ可笑ナ點ガアリマスソレヲ言ツテ下サ

(イ) 立派ナ着物ヲ著タ紳士ニ會ヒマシタ、兩手ヲポケットニ入レテ杖ヲフ

リナガラ町ヲ歩イテキマシタ

(ロ) 自轉車ニ乗ツタ人ガ不幸ニモ頭ヲ打ツテ死ニマシタスグ病院ニツレテ行キマシタガヨクナルマイト思ヒマス

(ハ) 小サイ男ノ兒ガ「私ハ三人兄弟ヲ持つテキマス太郎ト次郎ト私ト」イヒマシタ

(ニ) 四ツ角ノ立テ札ニ「京都マデハ三里半コレガ讀メナケレバ銀治屋ノ店テ御尋ネナサイ」

(ホ) 事故ヲ調べテ見ルト列車ノ最後ノ車ガ大抵ハ破壊サレテキル故ニ最後ノ車ハ除イテシマツタ方ガヨカラウ

十八、次ノヤウナ三組ノ言葉ガアリマスコレヲ讀ベカヘテ文ヲ作ルノデスコロシイカ分ツタデセウ丁度カウ云フヤウニスルノデス

「朝、起キマシタ、私ハ、早ク」ト云フ一組ノ言葉ガアリマスコレヲ讀ベカヘテ「私ハ朝早く起キマシタ」ト云フヤウニスルノデス(各二點)

(イ) 私ハ、休暇、旅行ヲ、田舎、中ニ、致シマシタ、へ、

(ロ) 私ハ、私ノ、頼ミマシタ、ト、作文、私ノ、ヲ、先生、直シテ下サイ

(ハ) 守ル、ナ、ソノ犬、主人、ハ、利口、ヲ、勇マシク

十九、次ニ私ハアル言葉ヲ言ヒマス、アナタハソノ意味ヲ可成、分リ易イ言葉ニ直シテ下サイ(各二點)

(イ) 慈善

(ロ) 服従

(ハ) 正義

二十、類比試験(材料トシテ左ノ六ツノ類比ヲ用ユ、前半ヨリ推シテ括弧内ノ語ヲ言ハシメルヲ目的トス)(各一點)

(イ) 牡蠣ニ對シテ介殼ハばな、ニ對シテ(皮)デアリマス

(ロ) 腕ニ對シテ肘ハ脚ニ對シテ(膝)デアリマス

(ハ) 頭ニ對シテ帽子ハ手ニ對シテ(手袋)デアリマス

(ニ) 眞ニ對シテ偽ハ直線ニ對シテ(曲線)デアリマス

(ホ) 知ツテ居ルコトニ對シテ知らヌコトハ今ニ對シテ(未來)デアリマス

(イ) 嵐ニ對シテ好天氣ハ戰爭ニ對シテ(平和)デアリマス

尙一般智能ヲ評價センニハ、單ニ此智力検査法ニヨル得點ノミニ依ル能ハズ、ソノ個人全般ノ精神能力ヲ考慮ノ内ニ入レ、然ル後ニ決定スベキモノナルコトハ言フ俟タズ。

茲ニ生來性精神發育抑止者、即チ白痴、痴愚及魯鈍者ニ付、ソノ大要ヲ記載セバ左ノ如シ。

白痴ハ已ニ身體的ニモ多ク發育不全ノ特徵著ク、成年ニ達スルモ其智能ハ精神發育健常兒四、五歳程度ニ止マルモノヲ云ヒ、言語ノ

レリ。

病 歴 東京市麻布區筈町百五拾八番地(平民) 清水 清 丸 明治六年十一月生

(一) 遺 傳 實父○○○○ハ今年五十六歳、平生胃疾アルノミ他病ナシ、酒客ニアラズ

實母○○○○ハ今年四十七歳、臆性ニシテ時々眼疾( )アリト云フ

祖父ハ酒客ニシテ死セル時、六十一歳祖母ハ四十歳ノ時難産ノ爲ニ死シ、外

祖父ハ胃病ニ死シ外祖母ハ今猶ホ健在ス

兄弟ハ七人アリ、第一ハ女子ニシテ三歳ノ時拘氣症ニテ死シ、第二ハ即チ被

告第三ノ女子ハ今年十八歳、第四男ハ實扶の里ニ死シ、第五第六ハ女子、第

七ハ今年一月ニ至レシ男子ナリ、七人中今健在セルハ被告ヲ除クノ他、皆身

體精神ノ發育ニ異常ナシ

其他ノ血族中、精神病、神經病、其ノ他遺傳ヲ殘スベキ疾病ナシ、但シ實母

ノ弟即チ被告ノ他叔父ハ窃盜ノ罪ヲ以テ獄ニ入りシ事アリ

(二) 既 往 症 胎生時出産時ニ於テハ異常ナシ

小兒時ニ於テ歩行、言語等ノ發生ハ尋常ナリシガ、生齒ハ少ク常見ニ後レタ

リ、最幼時拘氣症アリ、夜中驚厥鬼アリ。夜覺遊歩アリ。其ノ後ハ麻疹ヲ經

過セシ他舉稱スベキ程ノ疾病ニカカリシコトナシ。年十二ノ時、水車ニ觸レ

テ外傷性體白關節脫臼ヲ致セシガ、月餘ニシテ治セリ。

其精神發育ノ程度如何ヲ問フニ、被告ハ生來ノ癡漢ニシテ、幼ヨリ放恣自増甚

ク、常ニ父母ノ言ニ從ハズシテ激厲暴怒シ易ク、少ク意ニ滿タザレバ乃チ忿悶

シ、其度毎ニ尋ゲニ號泣ヲ以テス。父母モ其愚愚ナルヲ憐ミテ、教誨ニ心ヲ

盡セ共、寸效ナク、九歳ヨリ十五歳迄小學校ニ居リシモ、初級ニ入ルベキノ

發育モ不全ニシテ時トシテ僅ニ飲食ニ關係アル一、二ノ片言ヲ發ス

ルニ過ギズ、構音亦不明、感覺及痛覺ノ鈍麻著シク運動モ不完全ニ

シテ、目的アル運動ヲ十分ニナスコト能ハズ。或ハ口開キタル儘ニ

シテ舌ヲ出シ常ニ拍手歪面等ヲナスモノアリ、顔面ノ表情ハ茫乎ト

シ了解記憶等ノ作用殆ンドナク、ソノ智力障礙餘リニ甚シキヲ以テ、

刑法上ノ犯罪ヲナスコト少ナケレドモ、時トシテ弄火乃至放火等ヲ

ナスコトアリ、多クハ監視ニ附セラレ、或ハ一定ノ場所ニ收容セラレ

、ヲ以テ、法醫學的ニハ民法上廢嫡、禁治産等ノ問題トナルコトアリ、

白痴ハ勿論責任無能力ニシテ且禁治産者ナルコトハ云フマデモ

ナキコトナリ。

第五十八例 鑑 定 書 明治二十六年四月二十七日余等ハ東京地方裁判所判事、名越勝治ヨリ放火犯

人、清水清丸ノ精神状態ニ關スル鑑定命令書ヲ受領セリ

一、清水清丸ハ生來知覺精神上ノ疾病ニ罹リ居ルモノニテハナキヤ

一、若シ生來ニアラズンバ不時ニ發來スルモノニテハナキヤ

一、殊ニ同人ガ犯罪當時、即チ明治二十五年七月以降ニ於ケル觀察如何ヲ

要スルニ刑法第七十八條ニ、所謂罪ヲ犯ス時、知覺精神ノ喪失ニ因テ是

非ヲ辨別セザリヤ否ヤ問フ

是ニ由テ余等ハ同裁判所ニ至リ、被告ノ身體及精神ノ状態ヲ診察シ其父母及

兄ヲ招致シ、既往ノ事ヲ尋問シ、豫審取調書類、宮地警部ノ被告事件取調書、

補原調査ノ探偵復命書、警視廳監獄醫ノ容態書等ヲ參考シ左ノ鑑定書ヲ作



知識ヲモ得ザリキ、此ノ如クニシテ精神ハ終ニ發生セズ。年破爪ヲ過グルモ思慮極メテ淺ク、才器甚ダ薄ク舉動モ粗糲ニシテ自ら己ガ事ヲ處治スル能ハズ。言語ハ意ヲ表スルニ充分ナラズ。行爲ハ常兒ノ如ク整然タラズ。錢價ヲ知ラザルヲ以テ二枚ノ二錢銅貨ト、二枚ノ五厘銅貨トヲ同視シ、或ハ物ヲ購フニ常ニ手中ノ錢ヲ盡シ、器具等ニ就テハ彼我ノ別精粗ノ差ヲ辨ヘザルヲ以テ常ニ屢々之ヲ遺失シ、又ハ放棄シテ顧慮スル事ナク、或ハ己ノ精良ナルヲ措テ他ノ粗惡ナルヲ取リテ顧リミザル事アリ、糞便ノ汚穢ナルヲ知ラザルニヤ尖シテ拭ハズ。或ハ厠ニ上ルニ間アラズシテ衣ヲ汚ス事度々ナリ。要スルニ其重要ノ生活ハ主トシテ食慾ニアリ、他人之ヲ制セザレバ飽食ニ至ル迄ハ止メズト云フ、三、四年前ヨリ農業ニテモ習ヒ得サセントテ之ヲ六、七里隔テタル親族ニ托シタレ共、其業ニモ任ヘズ、故ナキニ時々出奔シテ家ニ歸リ父母モ其化育ニ困ミ纒ニ隨使シテ草取掃除ノ用ヲナサシムルノミ、然レ共人傍ニ在ラザレバ則チ遊戯ヲ志ニスト云フ。

被告ハ以上ノ状態ノ他ニ別ニ一惡癖アリテ、家人隣人ノ煩累ヲナスコト多シ。ソハ即チ其家人ニ火ヲ放チタル事ナリ。被告ノ放火ノ處行ハ前後五回ニシテ、第一次ハ去年五月頃己ガ家ヲ距ル四、五十間許ノ貸長屋ニ於テシ(中途)、第二次ハ今年一月六日畑ヲ隔テ九丁許リナル岡田某ノ家ニ於テシ(牛焼)、二月四日近傍ノ某練兵場ノ芝生ニ於テシ、同八日一丁程隔タリタル某寺ノ物置ニ於テシ(牛焼)又月日ハ詳ナラザルモ某林ノ傍ナル推葉ニ於テシタルモノ即是ナリ。而シテ被告ハ遂ニ之ガ爲ニ捕ハレテ警視廳監獄ニ入レリ。其放火ノ方法タルヤ或ハ燐寸ヲ取ツテ直ニ庇ニ點ジ、或ハ竹ニ綿ヲ挿ミ、之ニ石油ヲ澁キタルヲ用ヒ、或ハ一把ノ藁ヲ取リテ土臺下ニ挿入シ、之ニ石油ヲ點ジタルノ類ニシテ、注意ノ綿密ナラズ、思慮ノ周到ナラザルノ徵ハ充分ナリ。又放火セシ理由ヲ自ら説明スルノ語ニ曰ク「火事ガあれば御馳走を食ふことが出来るから」騒ぐのが面白いから付けたのです」ト、而シテ喧嘩、騷擾人々相吊スルモ相憐後悔ノ狀ナク、警察官ニ對シテ「近所ノ者ガ大勢集

リ龍吐水にて水を灌ぎ消止めることが出来ず、誠に面白く見物致しました」ノ答アル位ナリ。且ツ其擧ノ當時ニ在リテモ自ラ省ミテ憚ルノ念ナキニヤ。我長屋ニ放火セシ時ノ如キハ其家人ノ不在ニ乗ジテ火ヲ置キタルニ適家人ノ外ヨリ歸ルヲ見ルヤ乃チ呼ビ懸テ「今に此の長屋よりは火が燃え出す」ト云ヘリト云フ。入監以來ノ證候明治二十六年二月十九日放火犯被告事件ヲ以テ入監セリ。爾來日夜興奮ノ狀アリ。言行悖戾シ飲食ヲモ廢シテ悲號己マズ。夜中モ不眠ナリ。同房ノ妨害トナルヲ以テ、二十一日ニ至テ病監別室ニ移サル。不眠不食、叫號シテ家ニ歸ラン事ヲ求ムル事累日或ハ父來レリト誤想シテ「此處に居るよ」ト連呼シ、或ハ「氏子總代さん此處に居るよ」ト呼ビテ晝夜ノ分タズ同月末ニハ監内ニ於テ自縊ヲ謀リシ事アリ。其後ハ次第ニ靜穩トナリタルモ衣服ヲ撕裂シ、陰具ヲ弄ビ、又幻視幻聽アルガ如ク、父親、又ハ氏子ノモノヲ呼ブ事屢々ナリ。近頃ハ速ニ食慾増進シ、絶エズ(夜中スラモ)食ヲ望ミ、食前ニハ大聲之ヲ呼ビ、飯至レバ菜ヲ待タズシテ先ヅ之ヲ盡スト云フ。

(三) 現在症

身體尠少ニシテ羸瘦シ頭ハ狀形常ノ如ク所謂長頭ニ屬シ、創痕ノ痕ナシ。瞳孔ハ或時ハ反應ヲ呈シ或時ハ然ラズ。白齒ハ左右共犬齒ノ後ニアリ。(重顴)左胸ハ薄ク縮マリ、其肺下界ハ左ヨリ少シク高シ(肋膜炎後遺)背上數多ノ灸灼痕アリ。腋毛及陰毛ナシ。膝蓋腱反射ハ亢激シ血行不整ニシテ、上衝四肢厥冷手中鬱血ナドアリ體温脈搏ハ尋常ナリ。精神症候、顔貌舉措共ニ放恣ノ狀ヲ呈シ、箕踞シテ陰ヲ蔽ハズ。常ニ之ヲ弄シ、記憶薄ク、思慮淺ク觀念ハ形而下目前ノ事ニ限り、言語ハ寡少不明ニシテ、宛トシテ頑兒ノ如ク精神ノ反應一體ニ鈍ク之ニ應對スル意ニ滿タザレバ再三ニ至ルモ應ゼズ。答フルモ不完全ナル數語ニ過ギズ。單一ナル働作(衣ヲ解クガ如キ)ハ命令ニ從ヒ之ヲナスコトヲ解スレドモ、亦整然タルコト能ハズ。其最モ恐ル、所ハ獄中死ヲ免レザル事ニシテ其余等ニ對シテ常ニ望ム

所ハ放チテ家ニ歸スニアリ。而シテ卒然之ヲ父母ノ前ニ致スモ喜悅ノ色ナク應接ノ狀ナク、別ニ望ム所モナクシテ我意ヲ志ニセントスルノミ。其考察ハ極單一ナルモノニテモ自家一定ノ主張ナリ、計算ノ能ハ殆ンドナク、試ミニ放火ノ惡キ所以ヲ問フモ更ニ其要領ヲ得ズ。今左ニ其問答中ノ一節ヲ抄シ出サン

- 問、阿父と阿母と孰れがよきや
- 答、阿父の方がいい
- 問、何故
- 答、何か呉れるから、御膳や何か呉れるからいいんです。
- 問、阿母だつて御飯位くれるだらふ
- 答、阿母も何か呉れる
- 問、それでは阿母の方がよからう
- 答、えー
- 問、二と五で若干
- 答、三です
- 問、二と三とは
- 答、四つです
- 問、五錢で鹽煎餅を一錢買えば残は若干
- 答、七錢です
- 問、一錢の銅貨五つでいくら
- 答、五十錢です
- 又指ヲ以テ數フルコトモ確ナラズ。四指ヲ以テ問フニ十ナリト答ヘ、六指ヲ示スニ其ノ幾何ナルヲ知ラザルガ如シ。
- 問、火を放けて面白かつたかい
- 答、ちつた面白かつた
- 問、何度許放けたい

- 答、三度許り放けた
- 問、何故火を放けたんだい
- 答、御飯を呉れるから
- 問、家でも呉れるだらう
- 答、家でも呉れるが腹一ぱいいけないです
- 問、此處へどうして來たのだえ
- 答、悪い事すると此處へ來るんです
- 問、火を放つは何故悪いえ
- 答、火を放けると火災リになるからいけないです
- 問、他に悪い譯があるだらう
- 答、悪いことは他には何もないんです
- 而シテ患者ハ常ニ「神主さんが來た」上に大勢いるだらう、「氏子」のものが大勢居るだらう」ナド云フヲ以テ誰ガ來リ呼ブニヤト問フニ「呼んで居ます」ト答ヘ他因ノ來住スルヲ説明シテハ「私が殺されはしまいかとて皆此處へ來ているんです」ト云フヲ見、且、監獄醫員ノ言ヲ參考スルニ被告ハ近來妄覺、殊ニ幻聽幻視症ヲ患ヒ居ルモノノ如シ

說明

被告ノ遺傳史ニ於テハ唯實母ノ臟躁症アルノミナレド被告ガ幼時ニ於テ拘氣夜中驚醒等アリシヲ見ルニ被告ハ遺傳素因ニヨリテ生來ノ腦疾患ノ傾アリシヨリ、最幼時ニ腦質若シクハ其被膜ノ嫩薄少ナクモ發育ヲ止ムベキ腦髓ノ榮養障礙ヲ來シタリ。其後精神ノ發育中止シタルモノハ即チ此腦病ノ證狀ナルベシ。而シテ其ノ身體ノ短小ナル齒列ノ不整ナル陰毛ノ發生セザル色慾ノ未ダ萌起セザルガ如キハ此精神障礙ニ伴ヒタル身體ノ發育不全ナリ。此ノ如キ症ハ之ヲ性來モ甚シキモノニ在リテハ精神作用極メテ淺劣ニシテ唯目前具形ノモノニ限り理義等ノ考ハナク、自家目前ノ利損ニ就テハ思慮淺キ行爲ヲ以テ抵抗ヲナスモ他人、又社會ニ對シテハ付度ノ心相憐ノ情ナシ。從テ美術、



道徳法律上ノ理解判断ヲ缺キ法律ニ違犯スル非行ヲナスモノ後悔ナク、警官  
罪等ハ却テ彼ニ取ツテ無用有害ノモノナリ。而シテ此ノ如キモノノ犯罪ト  
其智慧思慮ノ缺乏アルニヨリ繁雜ニシテ熟慮ヲ要スルモノハ少ク、放火ハ爲  
シ易キ非行ノ一トシテ割合ニ白痴者ニ多キモ、之トテモ報警惡意等ノ爲ニス  
ルヨリモ、輕卒ノ兇刺暗火ノ快樂ヨリ出ヅルモノ多シ。今被告ノ精神状態ヲ  
察スルニ、其精神作用ハ頗ル淺劣ニシテ、其發育ノ程度ハ恐ラクハ凡ソ七、  
八歳前後ニ在ルモノナランカ、何トナレバ今日此年齡ノ兒童ハ簡單ナル應對  
自家ノ處治一位數ノ計算位ハナス事ヲ得ベキモノナレバナリ。而シテ被告ガ  
犯罪ノ所爲タル全ク此精神薄弱ニ基クモノナルハ、其放火ノ用意ノ周到精密  
ナラズ、又之ヲ陰蔽スルノ心ナキヲ見ルモ明ニシテ、罪ヲ罪タル所以ヲ知ラ  
ズ。又之ヲ悔フルナキヲ見レバ其道徳法律上ノ判断極メテ不完全ナルヲ知ル  
ニ足レリ。即チ被告ハ犯罪ノ大小輕重ヲ詳ニセザルモノニシテ、其行爲ハ全  
ク遊戯ト愉快トニ制セラレテ發シタルモノナリト信ズ。被告ガ入監以來ノ舉  
動ニ付キ睡寤幻覺等ノ證候アルヲ察スルニ、被告ハ現時精神發揚症ニ罹リ居  
ルモノニシテ此症ハ屢々白痴ニ發呈スベキモノナリ。

鑑定

以上ノ證狀及説明ニヨリテ鑑定ヲ下セバ左ノ如シ  
一、清水清丸ハ現今生來ノ白痴症ヲ患ヒ居ルモノニシテ、精神發育ノ制止  
ニヨリテ是非ヲ辨別スル能ナキモノナリ。  
一、白痴患者ハ時々精神發揚シテ暴行ヲナスコトアルガ故ニ、清水清丸モ  
亦不時ニ此證狀ヲ發シ得ルモノナリト看做サルルヲ得ズ。  
一、清水清丸ガ明治二十五年七月以降ノ放火犯罪ハ總テ是非ノ辨別ナクシ  
テ爲シタルモノト推測ス。

右之通鑑定候也

明治二十六年四月二十八日

鑑定人醫學博士 神 秀 三 俣  
同 醫學士 吳 秀 三 俣

口、痴患者

痴患者ハ感覺、運動及言語ニ於テ常人ニ比シ多少ノ缺損アルノミ  
ナルモ、智能ニ於テハ稍著明ナル缺陷アリ、凡ソ五六、歳乃至十二、  
三歳ノ尋常兒ノ智識程度ニテソノ發育ヲ停止セルモノナリ、即チ注  
意缺乏、觀念貧弱、記憶不良、判断不完全、意志薄弱ニシテ、概念  
ノ構成不十分、數及因果關係ノ觀念ヲ缺キ、怒り易ク復讐ノ念ニ富  
ミ利己心盛ニシテ他ノ利害ヲ省ミルコトナシ。

通常痴患者ヲ興奮性ノモノト及遲鈍性ノモノトニ分ツ、遲鈍性ノ  
モノハ無爲怠惰ニシテ非社會的ナレドモ、反社會的行爲ヲナスコト  
少キガ、興奮性ノモノニ至リテハ舉止不安ニシテ争ヲ好ミ、判断不  
良ノ爲メ犯罪ニ陥ルコト少ナカラズ、又衝動性ニ放火、窃盜、殺人  
等ヲナシ、又他ニ使役セラレテ犯罪ニ陥ルモノ少ナカラズ、痴患者  
ハソノ程度ト状態トニヨリ多少差異アランモ多クハ刑法上ノ心神耗  
弱者ニシテ、民法上ニテモ亦心神耗弱ノ常況ニアルモノトスベキモ  
ノナルモ、之トテモ一概ニ論ズベカラズ。瘖啞者ハ通常聾ナル爲メ  
外界ヨリ智識ヲ收納スルコト困難、又瘖者ハソノ意思發表不十分ナ  
ルニヨリ、何レモ智能ノ發育完全ナラザルモノ多シ。故ニ我刑法ニ  
於テモ瘖啞者ノ罪ハ一般ニ輕減スルコト、ナリ居レリ。

ハ、魯鈍者

魯鈍者ハ常人ヨリ只少シク智力劣レルモノニシテ、判断及概念構  
成等ニ於ケル少許ノ缺陷アリ、道徳心不十分、行爲放肆、怠慢輕躁  
浮薄ニシテ附和雷同シ易ク、流浪漂泊シテ所謂不良少年等ノ群ニ入  
ルモノ多シ。

法醫學的ニハ痴患者ト略同ジケレドモ、智力少シク勝レタルヲ以  
テ稍系統アル犯罪行爲ヲナスコトヲ得、刑法上ニハ時トシテ輕減責  
任能力者、即チ心神耗弱ナルベケレドモ、時トシテハ責任能力者トシ  
テ取扱フコトモアルベシ、精神状態鑑定ノ際精神健全者ニモアラズ、  
サリトテ精神病者ニモアラズ、所謂中間者トシテ取扱ハル、モノニ  
ハ多クノ魯鈍者ヲ含ム、民法上ニ於テハ魯鈍者ハソノ職業ニヨリテ  
處分能力ノ存スルコトアリ、或ハ處分無能力ノコトモアルベシ。

從來悖徳狂ト稱シ智力ニ何等ノ缺陷ナク、只道徳ノ方面ノミニ缺  
陥アリト見做サレタルモノアリシガ、今日ノ精神病學ニテハ此ノ如  
キモノ、存在ヲ認メズ。コハ多クノ不良少年ト呼バル、モノト共ニ  
痴愚、魯鈍者乃至神經質者ナルヲ常トス、ソノ他嘗テ單一狂ト名ヅ  
ケラレタル窃盜狂、放火狂、罵詈雑言及殺人狂等ハ、多ク痴愚或ハ  
魯鈍ヲ基礎トシ顯出スル犯罪ニシテ、決シテカ、ル特殊ノ疾病ノ存

統計

スルモノニハアラザルナリ。今不良若クハ犯罪少年ト稱スルモノ、  
成因ニ關スル實例表ヲ示セバ第四百四十八表ノ如シ。

第四百四十八表

保護統計

〔大阪少年審判所〕  
〔昭和六年十月分〕

Table with columns for age groups (e.g., 昭和六年男, 昭和六年女), protection status (e.g., 不開始, 學校保護, 警察保護), and counts. Includes a summary row at the bottom.



		(家庭缺陷内譯)				(環境)			
		父生	母生	不和	父母素行不良	實父	實母	其他	計
昭和六年	男	二二	一四	一一	二二	二五	一	四	二五
十月分	女	一一	二	一一	二二	二五	一	四	二五
自昭和六年	男	一一三	一五七	一三八	二〇七	二八〇	一四六	五八三	一五八
至十月分	女	一一	一三	三九	二五	二八	六一	一〇	二七二
		家庭内ニ在リシ者				家庭外ニ在リシ者			
		實父	實母	其他	計	奉行	中浮	親族	自活
昭和六年	男	三三	一一	八	一〇	一六	九二	四二	一三
十月分	女	三	一	一〇	一	一六	四二	一三	二
自昭和六年	男	二九三	六三	五五	七八	二九五	一八六	三三四	七七
至十月分	女	二二	七	二	七	四三	一〇	九	三
		家庭内ニ在リシ者				家庭外ニ在リシ者			
		實父	實母	其他	計	奉行	中浮	親族	自活
昭和六年	男	三三	一一	八	一〇	一六	九二	四二	一三
十月分	女	三	一	一〇	一	一六	四二	一三	二
自昭和六年	男	二九三	六三	五五	七八	二九五	一八六	三三四	七七
至十月分	女	二二	七	二	七	四三	一〇	九	三

		(環境)				(家庭)			
		父生	母生	不和	父母素行不良	實父	實母	其他	計
昭和六年	男	二二	一四	一一	二二	二五	一	四	二五
十月分	女	一一	二	一一	二二	二五	一	四	二五
自昭和六年	男	一一三	一五七	一三八	二〇七	二八〇	一四六	五八三	一五八
至十月分	女	一一	一三	三九	二五	二八	六一	一〇	二七二
		家庭内ニ在リシ者				家庭外ニ在リシ者			
		實父	實母	其他	計	奉行	中浮	親族	自活
昭和六年	男	三三	一一	八	一〇	一六	九二	四二	一三
十月分	女	三	一	一〇	一	一六	四二	一三	二
自昭和六年	男	二九三	六三	五五	七八	二九五	一八六	三三四	七七
至十月分	女	二二	七	二	七	四三	一〇	九	三

二、變質性精神病ニ變質者

本症ハ退行性精神病又ハ病的的精神状態トモ云ヒ、身體及智力ノ發育ニ著シキ異常ナキモ、性格ノ或方面ニ於テ幼時ヨリ著明ナル偏倚ヲ來シ、社會或ハ仲間ヨリ變人、畸人トシテ除外セラレ、ヲ常トス。變質者ハ狹義ノ精神病者ト健康者トノ中間ニ位スルモノニシテ、或ハ之ヲ中間者又ハ低格者ト名ヅク、中間者ノ大部分ハ精神低格ノ遺傳關係ヲ有スルモノニシテ、多クハ所謂變質徵候ヲ有ス、通常變質者ヲ分チテ神經質者、色慾異常者、體質性精神衰弱者、強迫觀念症

		大阪府				兵庫縣				京都府			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和六年	男	九	一一	二〇	九	一一	二〇	九	一一	二〇	九	一一	二〇
十月分	女	五	六	一一	五	六	一一	五	六	一一	五	六	一一
自昭和六年	男	五二	六八	一二〇	五二	六八	一二〇	五二	六八	一二〇	五二	六八	一二〇
至十月分	女	四〇	六一	一〇一	四〇	六一	一〇一	四〇	六一	一〇一	四〇	六一	一〇一

者、體質性沈鬱者、同興奮者及病的の性格者ニ區分ス。而シテ斯ル變質者ノ刑法上ノ責任能力ニ關シテハ種々ノ説アリ、ひゆぶねる氏ハ變質者ニシテ之ニ固有ナル重篤症狀アル場合ハ、精神作用ノ病的障礙アルモノト解スベシト云ヒ、大場氏ハ偏狂者ニシテ或特定ナルコトヲ除外、通常人ト異ナル所ナキ意識ヲ有スル時ハ、直ニ之ヲ心神喪失者トナス能ハズト雖、心神耗弱者ト爲サザルヲ得ズト云ヘリ、然ルニ泉二氏ハ所謂悖德狂ノ如ク智能ニ關セザル精神異常ハ責任能力ヲ阻却スルモノニアラズト論ジ、あしやふんぶる氏モ亦智能常態ナルモ道德感情ノ發達不良ナルノミナルモノハ無責任者トナス能ハズト云ヘリ。

更ニこつほ氏ハ變質者若シクハ中間者ト稱セラルル者ニシテ、ノ中間状態ノ輕症ナル者ハ何等責任能力ニ影響ヲ來タスコトナク、其中間状態ノ最モ重篤ナル狹義ノ變質者ニ於テ、僅カニソノ輕減スベキモノナリト云ヘリ、三宅氏モ略之ト同説ナルガ如ク、予モ亦常ニ此説ニ贊シツツアリ。

次ニもる氏ハ色情倒錯ノアル場合ハ常ニ輕減責任能力者トシテ取扱フベキモノナリトノ見解ヲ有スルモ、ぶむけ、くらめる、ほつふえ、じよりの、くらふとえーびんぐ、れつけ氏等ハ此説ニ贊セズ、

(イ)神經質者

モシカカル場合ニ他ノ精神症狀カナル時始メテ之ヲ減刑スルモノナリトセリ、予モ亦此後説ヲ維持シツツアリ。一般ニ變質者或ハ中間者ニシテソノ障礙明ナラズ、且ツ他ノ精神病ノ合併ナク意識清明ナル時ハ、假令多少常識ヲ缺クガ如ク見ユル點アリトモ、其責任能力ニ影響ヲ及ボスモノニアラズトノ説ニ一致スルガ如シ。

又ハ偏倚者トモ云ヒ智力發育ノ不均等ナルモノニシテ、例ヘバ詩歌或ハ文學等ニハ巧ミナルモ數學的の知識少ナキモノ、或ハ或技術ニ秀デ居ルモ、品行素行ノ少シモ修ラザルガ如キモノ等、所謂天才肌ノ人ニ神經質者多ク、想像豊富、虚構ニ巧ニ、感情ハ平靜ナラズシテ烈シキ變換性ヲ示シ、意志強固ナラズシテ倦怠シ易ク、從テ行狀放肆散漫ニシテ恒常性生活ヲ營ミ難ク、常ニ感覺過敏、頭痛、食慾不振、睡眠障礙、色慾異常ヲ訴ヘ變質症狀ヲ有スルモノ多シ。

本病者ノ犯罪的行為ハ輕キモノニテハ責任能力アリト云フベク、甚シキ變質者ニテハ心神耗弱者ト見ルヲ至當トス。民法上ニハ患者ノ職業ト疾病ノ程度ニヨリ、處分能力アルトキアリ或ハ準禁治產トベスキ時アルモノナリ。



(口) 色慾異常者

變質者ノ外ニ白痴、痴愚、或ハあるこほる中毒者乃至早發癡狂者ニモ色慾異常ヲ來スコトアリ。自然ノ交接ヲ嫌ヒテ手淫ニ耽ルモノ、色慾甚シク昂進セルカ或ハ全ク之ナキモノ、猥リニ陰部ヲ異性ノ前ニ暴露シテ喜ブモノ、同性愛ヲ好ミ鷄姦ヲ快トスルモノ、苦痛ヲ加ヘ或ハ加ヘラレテ色慾的快感ヲ感ズルモノ、殺人淫樂症者、異性ノ糞尿ヲ食ヒテ快トスルモノ、獸姦ヲナスモノ、或ハ屍體ヲ姦シテ色慾ヲ満足スモノ等ガ變質者ニ多キ事ハ已ニ前述セルガ如シ。

法醫學的ニハソノ行爲ノ動機ト犯者ノ精神状態トヲ探究シテ或ハ責任能力者トシ或ハ心神耗弱者トシ、又處分能力等ニ就テモノノ有無ヲ一概ニ論ズベカラズ。各個ノ場合ニ就テヨク探究スベシ。

(ハ) 體質性神經衰弱者

本病ハ精神過勞ニ依テ生ズル神經衰弱症ト、殆ド同様ナル症狀ヲ生來性素質トセルモノナリ、而シテソノ精神能力ハ甚ダ高等ニ達スルモノスラアリ、常ニ疲勞シ易ク、頭重、眩暈、睡眠障礙、生殖或ハ消化機能ノ障礙ヲ訴ヘ、時トシテ妄覺ヲ來シ、多クハ感情冷酷ニシテ自我心強シ、即チ本病ハ輕度ノ痴愚、破瓜病、躁鬱病或ハ麻痺病ノ初期ト相類似セル點アリ、本病患者ノ大部分ハ法律的ニハ責任能力ヲ受クルニ至リテ止ム。

癡ヲ受クルニ至リテ止ム。

放火、其動機ニ就テハ患者ハ明白ナル陳述ヲナス事能ハズ、衝動的ニ放火スルヲ以テ連續シテ無意味ナル放火ヲ爲ス例トス。殊ニ春機發動期ノ女子ニ於テ觀察セラルル事最多シ。

窃盜、無意義無目的ノ窃盜行爲ヲ爲スモノニシテ、殊ニ月經時妊娠時ノ女子ニ多シトス、窃取スル物品ハ盜者ニ取リテハ何等ノ價値ナキモノ多シ、例ヘバ用途モナキ衣服ヲ數多萬引シ死藏スルガ如キ之レナリ、ソノ他病的濫買症ナルモノアリテ、無價値無意義ナル物品ヲ濫買シ、或ハ迷信ニ驅ラレテ無暗ニ物品ヲ蒐集貯藏スルモノナリ。

殺傷衝動ハ法醫學上甚ダ注意スベキモノニシテ、故ナク、目的ナク、無意義ニ而モ突然ニ殺人行爲ヲナスモノナリ。例ヘバ子守女ガ自己ニ委託セラレタル小兒ヲ愛撫シツツモ、不明ノ理由ノ下ニ突然殺傷スルガ如キ多クハ此例ニ漏レズ。

法醫學的ニハ極メテ慎重ニ各個ノ場合ヲ鑑定スベシ。即チソノ行爲ノ原因、行爲間或ハソノ後ニ於ケル精神状態ヲ注意シテ診定シ、責任能力ノ有無ヲ決定スベシ、ソノ重症ナルモノニハ勿論責任能力ヲ問フ能ハズ、次ニ民法上ニ於テハ處分能力者ナルカ或ハ準禁治產

力及處分能力ヲ有スルモノナリトス。

(ニ) 強迫觀念症者

本病ハ多クハ生來性神經衰弱ト相伴ヒテ來リ、或事ニ遭遇スル時ハ堪ヘ難キ苦悶ニ襲ハレ、而モ此苦悶ガ不合理ニシテ笑フベキモノナルコトヲスラ、自身ニ十分承知シ居リテ尙之ヨリ離脱スルコト能ハザルモノナリ。即ハ臨場苦悶、閉鎖恐怖、暗黒恐怖、水淫、異性恐怖、疾病恐怖、鐵道恐怖及ビ恐怖苦悶等ノ如キヲ見、又是等ノ恐怖ニ附隨シテ一種ノ強迫行爲アルコトアリ、例ヘバ疑惑症、記名症、計算症、穿鑿症等ノ如キ之レナリ。此強迫行爲ノ著シキモノヲ名ヅケテ衝動性精神病ト云フ、コハ自己ノ犯行ヲ自制スルノ能ナク、強迫性放火、殺人、姦淫乃至罵言等ヲナスモノニシテ、此強迫性衝動ノ起ルトキハ、如何ニシテ之ヲ制禦スルコト能ハズシテ敢行シ、ソノ目的ヲ達スルヤ若干ノ慰藉安堵ヲ感ズルモノナリ、變質者ニ非ラズシテ強迫觀念或ハ強迫行爲ヲ起スモノハ早發癡狂、癲癩及ヒテ等ナリ。

今茲ニ強迫性衝動行爲ノ一、二例ヲ舉グレバ左ノ如シ。

放浪衝動、漫遊ノ念勃然トシテ起リ旅費ヲ所持シテ家ヲ出デ、屢々數ヶ月ニ互リテ所々ヲ放浪シ旅費盡クルカ若クハ浮浪の生活ガ障

トナル場合多シ。

(ホ) 體質性沈鬱者

コハ生來性神經衰弱者ノ一變型ニシテ患者ハ萬事ヲ悲觀的消極的ニ解釋シ、自ラ求メテ苦悶憂慮シ或ハ厭世觀ヲ起シ、或ハ自暴自棄トナリテ暴行ヲ働キ鬱ヲ遣ラント試ム、一般ニ刺戟性ニシテ睡眠障礙アルコト多シ、憂鬱病、躁鬱病ノ抑鬱期等ト區別スルヲ要ス。法律的ニハ多クハ責任能力者ナレドモ、時トシテ中間者トシテ取扱ハレ心神耗弱者ナルコトアリ。

(ヘ) 體質性興奮症

コハ生來性素質ニ基キ精神發育ノ偏頗ナルモノ多ク亦能力缺損アリ、感情輕移シ、意想奔逸シ、動作ハ浮薄陋劣ニシテ節度規律ナク放逸、遊蕩、怠惰、自恣ナリ。故ニ輕躁症等ト區別スルベク法律的ニハ各個ノ場合ヲ注意シテ診定スベキモ、多クハ中間者トシテ取扱フ。

(ト) 病的性格者

之ニ屬スルモノハ亦生來性素質ニ基ク性格異常者者ニシテ、一見精神及身體ニ異常ヲ認メザルモ、多少常規ヲ逸スル性格ヲ有シ、思想及行爲ハ一方ニ偏倚シ、所謂中間者ニシテ寧ロ精神的健者ニ近シト云フベシ。



病的性格者中ニハ、生來性犯罪者、意志薄弱者、病的虛言者、狂醉感溺者乃至偽好詐病者等アリ。

生來性犯罪者ハ私生兒乃至酒客ノ子ニ多ク發見セラレ、腦皮質ニ於ケル慢性疾患ナリト云フ、一般ニ領解佳良ニシテ記憶障礙ナク、理解ハ一見著變ナキガ如シト雖、熟慮ヲ缺キ目前ノ利益ニ眩惑セラレ、倫理的感情ハ著變ヲ呈シ朋友ヲ苦メ動物ヲ虐待シ、同情ノ念少キヲ特徵トスルヲ以テ一名悖德狂トモ云フ、即チ自我性ハ次第ニ増長シ名譽心ナク、兩親同胞ヲ愛慕セザルヲ以テ教育ハ何等ノ效果ヲ奏セズ、殺人強盜盜等ノ反社會的行爲ヲ常業トシ犯罪ヲ好ム、身體的ニハ往々變質徵候ヲ有ス。

意志薄弱者ハ又不安定者トモ云ヒ意志軟弱ヲ以テ主徵トス、往々聰明ニシテ精細ナル觀察力ヲ有スレドモ、持續的勞作ヲ爲ス能ハズ其知ル所表面的ニシテ缺陷ニ富ミ、記憶甚ダ容易ナル代リニ之ヲ忘却スル事モ亦甚ダ容易ナリ、判斷ハ未熟ニシテ一方ニ偏シ、興味ハ野卑ニシテ感情ハ激動シ易ク、自己ノ利害以外ニ眼中亦他人ノ休戚ナク、且ツ虛榮心ニ富ミ外觀ヲ飾リ消費ニ陥リ易シ、習慣性犯罪者ノ多クハ之ニシテ娼妓、乞食、浮浪者等トナル事多シ。放逸症者、唯其時々ノ慾望ニ從ヒ敢テ前後ヲ省ミザルガ如キ人ニ

シテ、之ヲ衝動人トモ云フコトアリ。

病的虛言者ハ想像力ニ富ミ思想ノ缺陷ヲ主徵トス、領解ハ著シク迅速ニシテ一見聰明ナルガ如シト雖、精細ニ觀察スル時ハ智識淺表ニシテ誤謬多ク、思考ノ方途ハ拙ニシテ判斷亦正確ナラズ、自己ノ經驗スル事ハ種々潤色セラレテ其内容著シク變化シ來リ、遂ニハ追想ノ實質ヲ失フニ至ル、而モ患者ハ虛構ノ快味ヲ感ズルヲ以テ特徵トス、即チ患者ハ明ニソガ虛構ナル事ヲ知リツツ、興味ニ驅ラレテ談話ハ事實ヲ離ルル事遠ク、巧言人ヲ欺キ遂ニ犯罪行爲ニ陥ルモノナリ、氣分ハ樂天的ニシテ何等ノ苦痛ナク、諸謔娛樂ニ耽リ病識ナク却テソノ天賦及教育ヲ人ニ誇リ、學勤ハ巧ニシテ好奇心ニ富ミ生活ハ裕澤ニシテ金錢ヲ浪費ス、即チ詐偽取財等ヲ犯スニ適當ナリ。

奇行症者、智力ニハ異常ナキモソノ行爲ハ甚シク奇異不調和ヲ感ズルモノニシテ、常識アル此人ニ何故ニ此ノ如キ奇行アルヤヲ感ズル底ノモノナリ、例ヘバ財産ヲ多ク有シナガラ、尙盜ヲ平氣ニテ行フガ如キ之レナリ。

疑似訴訟病者、眞正訴訟病者ニ類似スレドモ妄想發來セザルヲ以テ之ト鑑別スル事ヲ得、本病者ノ理解ハ中等ナルヲ常トスレドモ、時トシテ甚ダ良好ナルモノアリ、記憶ハ概シテ正確ナレドモ感情ノ

興奮甚シキ爲メ、時トシテ道徳信實ナラザル事アリ、判斷モ亦一方ニ偏シ誇張ニ流ル、患者ハ情熱ニ富ミ些少ナル權利侵害ニ對シテモニ劇烈興奮シ、復讐ノ念強ク、各種ノ機會ヲ利用シテ敵手ヲ苦シメント、性狡猾ニ他人ノ弱點ヲ發見スルニ巧ナリ、又自己感情昂進シ、利己心從ツテ大ニシテ、自己ノ不利ナル事アレバ飽クマデ權利ヲ主張シテ訴訟ヲ提起シ、飽クマデ自己ノ權利ヲ主張セズンバ止マズ、常ニ他人ノ非ヲ鳴ラシ自己ノ正ヲ吹聴ス。

狂醉感溺者ハ非常識ヲ以テ宗教ニ狂醉シ、他人ヨリ見レバ恰モ狂者ノ如ク見エ、ソノ爲メ被影響性高度トナリ判斷不良トナル爲メ、自己ノ財産全部ヲ本山ニ提テ妻子ヲ離散セシメテ敢テ悔イズ。

貪慾性變質者ハ貪慾飽ク事ヲ知ラザル變質者ニシテ、如何ナル手段ヲ用ユルモ金錢ヲ貯蓄殖殖セント欲シ、強慾暴利ヲ營ムモノニシテ些少ノ貸金ヲ取立ツルニモ自己ノ身心ヲ勞シ、或ハ負債者ノ悲惨ナル狀況ヲ見ルモ冷然トシテ之ヲ省ミズ只々金金ト呼ブ。

病的性格者ハ多クノ場合心神耗弱ヲ以テ論ゼラルレドモ、各個ノ場合ヲ充分ニ探究シテ鑑定ヲ下スコト必要ナリ、ソノ疾病度ノ重キモノニ於テハ責任能力ヲ問フコトヲ得ザルモノアリ。

三、ひすてり

ひすてり

ひすてりハ官能性精神異常ノ一種ニシテ感激シ易ク暗示性ニ富ミソノ爲メ容易ニ心内ノ病的症狀ヲ惹起スル精神病ニシテ、ソノ發現ハ諸種ノ身體的症狀ノミナラズ、其性格ノ表ハルル所必ズ其病徵ヲ共伴シ、其行動ニ特异性ヲ帶バシムルモノナリ。病因トシテハ遺傳ニ因ルモノ多ク、且外傷、生殖器病、精神的感動、境遇ノ激變等ニヨリ誘起サルルヲ常トス、女子ハ一般ニ男子ヨリモ本病ニ犯サレ易ク、東洋人ハ歐米人ニ比シ之ニ罹病スルコト多キガ如シ。

重症ひすてり患者ノ身體障礙トシテハ、不眠、麻痺、歩行或ハ起立不能、卵巢痛、食思缺乏、嘔吐、失語、半身性乃至島狀感覺脫失、視野縮小、ひすてり球、痙攣等アリ、精神的ニハ重ニ感情界ノ異常ヲ視、氣分轉換シ易ク、自己感情亢進シ、虛飾ニ耽リ、珍奇ヲ遂ヒ、人ノ注意ヲ引カントシ、心氣性トナリ、疾病ヲ誇張ス、意思ハ薄弱ニシテ暗示ヲ被リ易ク、他人ノ迷惑等ヲ敢テ意トセズ。要之、ひすてり患者ハ多種多樣ノ症狀ヲ呈スルヲ以テ特徵トス。

ひすてり性痙攣發作アルヤ癲癇ノ如ク急激ニ來ラズ、通常癲癇様痙攣發作期、ひすてり性狂亂期、感動的動作期及譫妄期相亞イテ來リ、遂ニひすてり性精神異常狀態ニ移行スルコトアリ、ひすてり性精神異常發作ノ際ニハ意識錯亂シ、苦悶、不安、叫喚、啼泣、亂暴、幻視、



夢現、譫妄等ヲ來シ、時トシテ昏迷状態ニ陥ル。發作後ニハ發作前中、或ハ後ノコトヲ追想シ得ザルガ通常ナレドモ、往々ソノ當時半夢中ニ經驗セシコトヲ眞ノ事實ナリト信ジ、之ニ基キテ妄想ヲ發シ犯罪行爲ヲナシテ自ら不正ナルコト知ラザルモノアリ、又發作中ニ他人ニ強姦セラレタリナド誣告スルモノアリ。

ひすてり性朦朧状態ハ痙攣發作ノ前後ニ或ハ全ク獨立的ニ來リ、比較的烈シキ意識濁ヲ伴ヒ、了解不良、指南力喪失、聯想障礙ヲ呈スルコトアリ、予ハひすてり性朦朧状態中ニ夫ノ姿ヲ傷害シ覺醒後全ク之ヲ知ラザリシ一例ヲ見タリ、ソノ他ひすてり性性格異常者ニハ一時性ニ發揚状態、抑鬱状態、睡眠發作、夢中遊行、人格變換、二重人格、病的虚言、自殺企圖伴狂等ヲ見ル。

ひすてりト鑑別スベキハ躁鬱病、早發癲狂及麻痺狂ノ初期トス。然レドモひすてり患者ニハ所謂ひすてり性特徵アルヲ以テ容易ニ之ヲ鑑別スルコト得ルモノナリ。次ニひすてり患者ト中間者トノ鑑別甚ダ困難ニシテ、癲癇性朦朧状態トひすてり性ノソレトハ稍相類似スト雖、前者ハ怒り易クシテ行爲ハ斷片的ナルニ、後者ハ暗示性ニシテ行爲ニ多クハ系統アルニ因リ鑑別スルコトヲ得。法醫學的ニ見ルトキハ、伴狂者ハひすてり性精神異常者ニ多ク、

伴狂ヲナシ、又ハ共濟金ヲ多ク得ントシテ誇張ノ談話ヲナスニ依リ、注意シテソノ眞偽ヲ鑑別スベキナリ。故ニ昭和六年十一月日本産業衛生協議會ハ次ノ如キ決議ヲナセリ。予ハ一學友ニ毆打セラレテ本病ニ罹レリト稱シ、損害賠償ノ訴訟ヲ提起セル患者ヲ見テ、ソノ症状ノ誇張セラレ居ルヲ觀破シ、訴訟ヲナスノ不利益ヲ論シ和解セシメタル事アリ。

外傷性神經ニ關スル決議(鐵道醫協會)

一、災害ニ端ヲ發シ、種々ナル神經症狀ヲ呈スルモノヲ、從來、汎ク「外傷性神經症」ト稱セシガ、此中ニハ成因ヲ異ニセル諸種ノ病型含マルコトハ周知ノ事實ニシテ、就中、補償其他ノ慾求觀念ニ由來スル所謂「願望神經症」ニ屬スル症例、甚ダ多キコトハ多數研究者ノ一致セル見解ナリ。

二、所謂「願望神經症」ハ直接災害ニヨリ惹起セル疾病ニ非ザルヲ以テ、補償ハ本症以外ノ外傷性神經症ニ限局スルヲ合理的ナリト認ム。

三、外傷性神經症ニ對スル扶助ニ關シテハ、勞働者災害扶助法施行令第十一條ノ規定ヲ準用シ、或ハ工場法規コレニ準據シテ改正スルコトハ、本症ノ醫務的處置ヲシテ一層該切ナラシムルモノト

外傷性ひすてり

又事實無根ノ誣告ヲナシ或ハ朦朧状態ニ乘ジテ窃盜放火或ハ殺人ヲナスモノアリ、一般ニ云ヘバ、ひすてり患者ノ朦朧状態、譫妄状態、大發作時昏迷或ハ睡眠状態ノ間ニ於ケル犯行ハ責任無能力ト見做スベキモノナレドモ、場合ニヨリテハ輕減責任能力ノミニ過ギザルコトアリ、又民法上ニハ多クハ處分能力ヲ有スルモノナレドモ、鑑定者ハ須ラク各個ノ場合ニヨリテヨク探究シ、情狀ヲ考ヘ合セテ鑑定ヲ下スベシ。

四、外傷性ひすてり

本病ハ又恐怖性神經症、或ハ外傷性神經症ト稱ス、コハ強制ナル外傷性感動、例ヘバ列車或ハ電車ノ衝突、墜落、汽船ノ顛覆、沈没等ニ起因シテ傷害ヲ伴ヒ、或ハ之ヲ伴ハズシテひすてり性症狀ヲ惹起スルモノニシテ、勿論其際受ケタル衝動ニヨリ腦脊髓振盪ヲ起シ之ニ依テ精神錯亂、興奮、麻痺狂樣或ハ癲癇樣症狀ヲ發シ、或ハ神經衰弱樣若シクハひすてり様トナリ、抑鬱、苦悶、作業力減退、疲勞充進、強迫觀念、心氣症、睡眠障礙、食慾缺乏、感覺異常、視野縮少、心悸充進、運動障礙等アリ。コレ多クハ變質者方偶々外傷等ノ恐怖ニヨリ、本病ヲ精神的ニ作成スルモノニシテ、自己ニハ實際罹病セリト信ズルモノナレドモ、時トシテ患者ハ外傷後、自己ノ利益ノ爲メ

認ム。

四、外傷性神經症ノ診定ハ、醫師ニヨリテ多少其見解ヲ異ニスル場合アルガ爲ニ、監督官廳、事業主等ガ其取扱上ニ困難ヲ感ズルコトアルハ勿論、延イテハ從業者ノ治病上ノ不利ヲ來スコトアルヲ以テ、コレガ對策トシテ權威アル鑑定機關ヲ完備スルヲ緊要ナリト認ム。

五、マタ以上述べルガ如キ見解ノ相違ハ、本症ノ本體、特ニ其成立機轉ニ於テ尙多少不明ノ點アル爲メ、及ビ一般醫師ノ本症ニ關スル災害醫學的知識ガ未ダ不充分ナル爲メ等ニ基因セルコト多シ、依テ一面尙本症ニ關シ研究ノ要アルト共ニ、他面一般災害醫學ニ關スル醫育ヲ更ニ普及徹底セシムルノ必要アリト認ム。

本病者ガ稀ニ殺人放火等ヲナシ、刑法上ノ問題ニ上リ來ルモノナルガ、多クハ心神耗弱者トシテ取扱ハル。却テ民法或ハ工場法上ノ問題トナリ、損害賠償或ハ慰勞金ヲ出來ル丈ケ多ク取得セントシテ詐病ヲナスモノ多シ、此詐病ヲ觀破スルニハ一定ノ病院ニ入院セシメテ絶エズ觀察スルヲ宜シトス。

五、癲癇

本病モ亦多ク精神的遺傳關係ヲ有スル家系及ビ飲酒者ノ子孫等ニ



出現シ、既ニ幼時ニ於テ發現スルモノ大部分ヲ占メ、誘因トシテハ外傷、傳染病、精神的感動、酒精濫用等ヲ數フコトヲ得ベク、身體的ニモ種々ノ變質徵候ヲ有シ、所謂癲癇性顔貌ヲ呈スルモノ少ナカラズ。

本病ノ特有ナルハ所謂癲癇ナル失神癲癇發作ヲ來スニ在リ、然レドモ本病者ハ此發作ニ關聯シ、又發作ニ何等ノ關係ナクシテ、一種ノ精神異常ヲ呈スルモノ多シ、固有ナル癲癇發作ノ際ニハ先ヅ一定ノ前驅症狀ヲ來シ、之ニ次デ俄然意識ヲ亡失シテ昏倒シ、全身ノ強直性或ハ間代性痙攣ヲ起シ、鬪牙、唾液分泌、咬傷等ヲ來スモノ多シ、此際瞳孔ハ開大シ、概ネソノ對光及調節反應ヲ失フ、發作後ハ暫時昏睡ニ陥ルモノナリ、時トシテハ單ニ身體ノ一部ニ於ケル痙攣發作、眩暈及一時性ノ虛心等ヲ來スニ止マリ、上記ノ如キ定型性ノ發作ヲ來サザルコトアリ、或ハ全ク身體的ニ何等癲癇ナク、精神的意識朦朧常態ノミヲ來スコトアリ、之ヲ精神性癲癇ト云フ、然レドモ此模型の癲癇發作ト精神性癲癇トノ間ニハ數多ノ移行狀態アルモノナリ。

精神性癲癇發作或ハ朦朧乃至夢幻昏迷狀態間ニハ指南力犯サレ、妄想妄覺ヲ生ジ、記憶記録ノ障礙アリ、行爲ハ全ク夢中ナルヲ常トセラルルモノトス。

一般ニ癲癇病者ニ在テハ發作ナキ時ニ於テモ、所謂癲癇性精神薄弱ヲ示シ、談話ハ語路一律、迂遠冗長ニシテ、宗教心ニ富ミ、神佛ヲ尊信スルコト熱烈、感情ハ機嫌ヲ損ジ易ク、平素ヨリ爭論ヲ好ミ此細ノコトニ憤怒シテ暴行ヲ働クコトアリ、一面ニハ剛情ナレドモ他面ニハ敬虔ニシテ綿密細心ナルモノアリ自我心強キヲ常トス。

癲癇者ニハ飲酒不堪ナルモノ多ク、少量ノ酒ヲ用ユレバ忽チ重キ意識濁濁、憤怒性興奮即チ所謂病的酩酊ニ陥リ、或ハ酒類ノ強迫的濫用ヲナシ、財産ヲ傾倒シテ飽クコトヲ知ラズ、ソノ結果朦朧狀態ニ陥リ騷擾、暴行乃至徘徊等ヲナスコトアリ、之ヲ暴飲症ト云フ、予ハ暴飲症ノ爲メ數ヶ月健忘ニ陥レル患者ヲ見タリ。

癲癇患者ニハソノ變質徵候ノ外ニ頻回ナル癲癇發作ノ遺跡トシテ癩痕、齒ノ缺損、火傷、舌傷、溢血、瞳孔ノ不同等ヲ見ルコト多シ。本症ト鑑別ヲ要スルハ必ずテ發作トス、然レドモ意識濁濁ノ深度、痙攣ノ特質、瞳孔ノ反射、舌ノ咬傷ノ有無等ニ依リテ、比較的容易ニ之ヲ鑑別スルコトヲ得ベシ。

本病患者ノ法律的關係ハ頗ル重大ナリ、即チ癲癇性意識薄弱或ハソノ興奮性憤怒性ナルニ起因シ、窃盜、詐欺、暴行、猥褻、放火、傷害、

スレドモ、時トシテ系統的ノ運動ヲナシ、一見有意的ニ見ユルコトアレドモ、之レ全ク妄覺ニ起因スルモノナリ。即チ純精神的ノ發作ニ於テハ平素ノ制止作用ヲ失ヒ猥褻、放火、窃盜、殺人等ヲ犯スモノアリ、又ハソノ感情發揚シ、叫喚暴行スルトアリ、尙癲癇病者ハ次ノ如キ奇行ヲ有ス。

(イ) 夢中遊行、患者ハ夜半突然起キ上リ、無意識的ニ點火、開扉、屋上徘徊等ヲナシ、此間ニ時トシテ秩序アル犯罪ヲ行ヒ、而モ醒覺後ハ夢中遊行中ノ行爲ヲ毫モ追想スルコト能ハザルモノナリ。  
(ロ) 癲癇性昏迷、意識濁濁數日間持續シ茫然トシテ拒絕症狀、強硬狀態アリ、無識ノ間ニ衝動性ニ種々ノ行爲ヲナスモノアリ。

(ハ) 苦悶性譫妄狀態、突然ニ發病シ指南力ヲ失ヒ、妄覺妄想ヲ來シ苦悶狀ニ陥リ甚シキ暴行ヲ伴フ、時トシテ妄覺妄想ニ驅ラレテ殺人等ヲ敢テスルコトアリ。

(ニ) 悟性譫妄、意識濁濁甚シカラズ一見常人ノ如シト雖、了解乃至記憶等ノ作用ニ障礙アリ、妄覺妄想ヲ有シ爲メニ猥褻、窃盜、放火等ノ犯罪ヲナスコトアリ。

著明ナル意識濁濁ヲ伴ハザル發作ニ於テハ發作性不機嫌、内性苦悶、消魂大悅、宗教性誇大妄想等ヲ來シ、發作間ニハ多少理性侵犯

逃走等ヲナシ、殊ニ朦朧狀態ニ在テハ無意味ノ徘徊、動機ナキ暴行ヲナシ、慘絶ナル殺人行爲等ヲナスコトアリ、特ニ注意スベキハ輕度ノ發作、即チ虛心、病的發作、不機嫌等ニ基ケル犯行ナリトス。コハ無意識狀態ニ於テ尙且整然タル算數、書字、音樂等ヲナシ而モ自ラ記憶セザルコト多ク、從テ此間ニナセル犯行モ自覺セザルコト多キガ故ニ、司法官ノ注意ヲ喚起スルコト能ハズ、専門醫ト雖ドモ一、二回ノ診察ニテハ此方判定ニ苦ムコトアリ。

癲癇發作、朦朧狀態乃至精神的發作等ノ間ニ於ケル行爲ハ責任無能力ニシテ、發作時以外ニ於テモソガ爲メ精神薄弱、癲癇性異常性格ニ基ケル行爲ハ心神耗弱ヲ以テ論ズベキモノトス。民法上ニ於テモ癲癇者ニシテ妄想或ハ健忘症ヲ有スルモノ、發作頻回ナルモノ及暴飲者等ハ處分能力ナキモノトスルヲ穩當トス。

第五十九例 鑑 定 書

明治三十三年四月二十五日東京地方裁判所豫審判事坂本三郎ハ糟谷龍雄謀殺被告事件ニ關シ左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨余等ニ命ゼラレタリ  
一 被告ガ明治三十三年四月五日午前二時過ヨリ同五時三十分迄ノ間ニ於テ其父糟谷立作及叔父糟谷半三郎ヲ殺シ且糟谷友次郎ニ負傷セシメタル所爲ハ精神上異常ニ基キタル行爲ナルヲ否ヤ  
依テ東京銀治橋監獄署ニ於テ本人龍雄ノ心身狀態ヲ檢診シ且ツ右ニ關スル刑事訴訟記録ヲ參照シ左ノ鑑定書ヲ作ル



東京府下荏原郡玉川村大字野良田  
五百七十六番地平十精谷立作長男

小學校教員 禮 谷 龍 雄  
明治十一年八月生

事 歴

遺傳症、父ハ平素養生家ニシテ飲酒スルモ其量少ナク癩癩強クシテ大ニ不正  
直ナル事ヲ嫌忌セリ、母ハ龍雄ノ妹ヲ分曉セル後子宮炎ニテ死セリ、父ニ二  
人ノ妹アリ今尙健全、母ニ一人ノ弟アリ被害者半三郎是レナリ龍雄ニ一人ノ  
妹アリ十三歳ノ時勞症ニテ斃レタリト云フ其他ノ遺傳症ハ不明ナリ  
既往症、龍雄ハ幼ニシテ蟲ヲ患ヘ時々癩癩ヲ起シ稍々長ジテ常ニ頭首ヲ震頭  
セリト然レドモ重患ニ罹リ又損傷セシコトナシト云フ主治醫ノ陳述ニ據レバ  
明治十五、六年ノ頃腦膜炎ヲ病ミ醫療ヲ受ケ百日餘ヲ經テ治療シ翌年秋始メ  
テ癩癩症ヲ發シ爾來十餘年ノ久シキ今日ニ至ル迄一日數回毎日又ハ三十日乃  
至六十日ニ一回發作シ殊ニ春秋ニ於テ其發作頻數劇烈ナリキト云フ養育ハ本  
人三歳ノ頃母死セシヲ以テ父ノ膝下ニ於テセラレ教育ハ六歳ノ頃就學十七  
歳ニ至リ廢學シ小學全科高等小學補習科ヲ修了シ成績良ナリシト性情ハ十四  
歳ノ頃發動シ盛ニ手淫ヲ行ヒ日ニ兩三回ニ至リ十六歳ノ頃ヨリ婦人ト接シ之  
レヨリ手淫ノ惡習全ク止ミタリト氣質ハ温順ナレドモ所謂癩癩性ニシテ神經  
過敏ナリシト云フ職業ハ一時小間物商ヲ營ミシモ之ヲ嫌忌シ明治三十一年五  
月ヨリ小學教員トナリ爾後今日ニ至ル迄連續セリ學事ヲ好ミシモ醫師ノ忠言  
ニ由リ癩癩症ヲ増惡セシムモノトシ勉勵セズ品行ハ小學教員在職以前ハ青樓  
ニ登リ酒ヲ飲ミ賭博ヲ行ヒシモ教員トナリシ以來ハ父ノ意見ト醫師ノ忠告ト  
ニ由リ品行改リタリト、配偶ナク家庭ハ父ト共ニ只二人ニシテ親子間ハ概シ  
テ親密ナリキ親戚等トノ交際モ圓満ニシテ生計モ困難ニハ非ザリシト云フ嘗  
テ犯罪セシコトナク兵役ハ眼球震盪症ノ爲メニ不合格トナリ宗教ハ平素深ク  
御玉様(神道)ト稱スルヲ信ジ併セテ茶隆自在大善神(法華宗)ナルモノヲ守リ  
本尊トシテ信仰セリトイフ

枕ニ立タセラレテ決シテ世界ガ潰レル様ナコトハナイ今ニ善イ世ノ中ニシテ  
吳レト云フテ吳レダノ富士ノ卷狩ニ就テモ陛下ガ氣ガ付カレタノデ大善  
神ニ於テハ善イ時ニ氣ガ付カレタト云フ夢枕ニ立ツタ事ガアルハケ間敷事ヲ  
書ンテモ善イ玉川(歸レバ直キニ判ル)ノデアルカラトイヒ又「何ニシロ僕ノ  
身體ガ今茶隆自在大善神トナリ居ルンダ」トイヒ「其方ガ泥棒ヲ切タ仕込杖ハ  
誰ノ物カ」トイフ問ニ對シ「守護神カラ渡サレタモノダ云々」ト答ヘ又何時守  
護神カラ渡サレタカ」ト問フニ「僕ノ祖父ガ河上ニ居ル時ニ洪水ガアツテ其時  
流サレタ刀デアルト云フコトダ」ト答ヘ又「其方ハ倅側ノ板ヲ踏ダカ」ト問フ  
ニ「ソノダ賊ガ來タダカ」ト答ヘ「追掛ケテ力ヲ極メテ踏割タノデ神ノ力  
ダモノ陛下ノ勅語ハ博愛衆ニ及ボシト云フテアル陛下ハ間違テ居ル會テ意見  
ヲ云ヒタイ」ト答ヘ四月二十一日ノ訊問ノ際ニ於テハ依然守リ本尊タル茶隆  
自在大善神ノ告ニヨリ父ヲ狹擊スルモノアリトシ賊ヲ追撃シ麥島ノ傍ニ於テ  
斬殺セシハ知ルモ父ヲ斬リシ等ハ覺ヘズト主張シ應答ハ前ニ比シ稍々整然タ  
リキトイフ

現 況

身體狀態體格中等、榮養佳良、皮膚一般ニ蒼白ニシテ皮下脂肪量中等筋肉ヨ  
ク發育セリ、體温ハ正常脈搏ハ一分時中八十至其性質ニシテ力アリ頭顱ニ異  
常ノ認ムベキナクツノ周圍五三・五種耳前頭圍三〇、五種耳後圍二一・〇種、  
耳顱頂圍三六・〇種耳下頭圍二九・〇種鼻根後頭圍三〇・〇種前後一八・一種  
左右徑一四・八種耳孔徑一三・五種前頭骨突起徑二二・一種耳孔鼻棘徑一二・  
〇種高徑一四・二種橫徑示數八一・七七ニシテ短顱ニ屬ス頭皮ニ壓痛癩癩等ノ  
異常ナク顔面及ビ頸部稍々長ク頭首部ハ震顱ス顔面ノ感覺常ノ如シ疼痛癩癩  
等ナシ眼結膜淡紅色瞳孔左右同大ニシテ大サ正常縮眼反射アリ對光及調視反  
應アリ視能ハ左右トモ中等度ノ近視ヲ呈シ眼球ハ毎ニ著シク動搖ス  
耳鼓ノ大サ及形ノ異常ナク聽能ハ左右共正常ナリ口唇ノ色及厚サ尋常、舌ニ

明治三十二年三月頃龍雄ハ些タル事柄ヨリ父ト爭ヒ自殺セント云ヒ飛出サン  
トセシコトアリ同年十月頃ハ鬱憂症狀ヲ呈シ、本年二月頃ハ「勉強シタイケ  
レドモ資本ハナシ身體モ惡ルイカラ寧ろ死ンダ方ガ増シダ」ト云ヒシコトア  
リキ、癩癩ハ時々發作シ其頻數ナル時ハ日ニ兩三四回發作セシコトアリ間歇  
日數長キ時ハ其後ニ強キ發作來ルコト多シ、發作ハ標準性ノ發作ニシテ前驅  
症狀ノ著シキモノナク發作後モ其發作ノ強弱ニヨリ或ハ多少ノ不快感ヲ殘留  
スルコトアリ或ハ直チニ清明ノ狀態ニ移行スルコトアリキト夜中暴行セシコ  
ト等ハナキモ只夜中發病突然飛起テ身邊ヲ搜リ花活ヲ倒シ等セシトテ父立作  
ノ介抱ヲ受ケシコトアリトイフ本年ハ一月以來發病セザリシモ四月五日午前  
二時過ヨリ同五時三十分迄ノ間ニ於テ無慘ニモ父立作ニ三十五創ヲ叔父半三  
郎ニ六創ヲ負ハセテ之ヲ死ニ致ラシメ隣人友次郎ニモ亦一創ヲ加ヘタリ事急  
辛ニシテ人ソノ真相ヲ知ルニ苦シメリ兇行ノ前後ニ於ケル彼ノ心身狀況ニ就  
キ龍雄ノ自カラ陳述スル所ニ據レバ兇行ノ前夜己ノ日常信仰スル茶隆自在大  
善神ナル者夢枕ニ立チ告グルニ父立作ヲ狹擊スルモノアリトイヘリ當夜之ヲ  
父ニ告ゲシニ父ハ之ヲ打消シ安心就眠セヨト云ヒタリト翌夜即チ兇行夜父ト  
共ニ牀ヲ併ベ就寢セシニ夜中又茶隆自在大善神ノ御告ゲアリ狹擊注意セヨ  
下ノ蜘蛛ノ巣ガナイゾトイヒ佛壇ハ電光ノ如クピカピカ光リ且何者カ戸ヲガ  
タノスル者アリ

又影ガ移リアリテ二人ノ賊ガ頭ヲ集メ狹擊ノ相談ヲ爲シ居リシヲ認メタリト  
而シテ其賊ハ父ノ壯時ニ於ケル情緒ヨリ遣ハシタル者ナリトシ秘藏ノ仕込杖  
ヲ取り戸ヲ破リ追撃シテ賊ヲ麥島ノ處ニ於テ斬殺セリ賊ヲ切り歸リ來リテ後  
チ仕込杖ニテ切腹セントセシニ父立作之レヲ止メシニヨリ臺所ノ處迄追ヒ行  
キシモ其後ハ何事モ覺知セズト云ヘリ、尙ホ兇行後坂本豫審判事臨檢中癩癩  
ヲ發シテ卒倒シ又大聲ニテ絶エズ雜言ヲ吐キ狂ヒ居リテ訊問スル能ハザリキ  
ト之ヨリ後四月六日東京地方裁判所ニ於テ訊問ノ際モ僕等職員中デ世界ガ潰  
レテ仕舞フトイフ話ヲスルノダガ僕ノ信仰スル茶隆自在大善神ガ度々僕ノ夢

白苔ナク微ニ震顱アリ癩癩ハ不明ナリ口蓋弓發聲時均昇シ齒牙上下列ニ於テ  
三板ノ缺損アリ音聲ハ低清ニシテ話樣稍「甘タルキ」方ナリ談話ハ概シテ通常  
ナレドモ時ニ不明ナリ、胸腹部ノ形尋常ニシテ肺ニ打及聽診上ノ異常ヲ認メ  
ズ心ノ濁音部常大心音ハ第一及第二音トモ清且高シ雜音ナク第一乃至第三胸  
椎ハ之ヲ壓スルニ著シク疼痛ヲ感ズ食慾ハ異常ナク腹部ノ緊張中等ニシテ肝  
濁音部常大ナリ胃腸ニ壓痛ナク大小便尋常ナリ外陰部尋常ニシテ陰莖ハ  
輕度ノ包莖ヲ呈ス上肢ニ於テハ手指開張時少シク震顱ス左側第二及第三指ノ  
尖端ハ癩癩狀ヲ呈シ爪牙ノ大部分缺損ス下肢ニ於テハ膝蓋腱反射ノ有無ヲ檢  
スルニ反射強ク且ツ著シク全身ヲ震動ス膝反射著シク再ビ之ヲ試ミントセシ  
ニ顔面著シク蒼白トナリ口角少シク泡沫ヲ吹キ握拳シ將ニ轉倒セントセリ依  
テ之レヲ臥牀セシメシニ全ク人事不省ニ陥リ稍々十數分時ヲ經テ顔面少シク  
紅ヲ潮ス然レドモ意識全ク朦朧狀態ヲ呈セリコレ癩癩發作ナリ

精神狀態姿態稍々前ニ屈シ對話中多クハ頭ヲ垂レ顔貌ハ沈鬱話調ハ緩ニシテ  
低ク「甘タルキ方」ナリ單語ノ意味ノ概シテ明瞭ナレドモ言語往々連續ヲ缺キ  
答辯ニ苦シミタル場合ニハ滯滯シテ又不明トナルコトアリ舉動ハ安靜ナリ試  
ニ兇行當夜ノ狀況ニ付テ尋問スルニ「内ニ賊ガ入ラントシテ勝手ダガタノ  
シ牀下ニモ何か物ヲ下ヲ掘ル如キ物ヲ守リ本尊ガ狹擊々々ト云ヒ椽ノ下ノ  
蜘蛛ノ巣ガナイゾト云ヒタリ故ニ仕込杖ヲ以テ椽ヲ破リ外ニ飛ヒ出タリ然ル  
ニ逃ゲダスモノアリソノ者ハ生垣ヲ越ヘ畑ノ方ヘ行ケリ故ニ追ヒ行キソレヲ  
斬レリ後ニテ聞ケバ叔父ナリシト顔ハ分ラズ頭ヲ包ミシ人ノ逃ゲ行クヲ追ヒ  
掛ケ行キテ斬レリ其後ノ事ハ覺ヘナシ」トイヒ又兇行ニ供セン仕込杖ハ如何  
ナル心算ニテ持出シ隠シ置キシヤ問ヒシニ「鑄ビテハ居ラヌカ氣ニ掛リテ  
イケン故ニ取出シタガ鑄テハ居ラザリシ其前夜己ニ賊ノ來ルコト神ノ御告ア  
リ故ニ賊來ラバソノ刀ニテ斬ラント心掛ケ夜具戸欄ニ隠シ置ケリ其前ハ長持  
ノ蒲團ノ中ニ入レリタルヲソノ前日ニ出セリ」ト答ヘ其ノ他父立作ヲ斬殺  
セシコト、自宅ハ裁判官警官等ノ臨檢セシコト、如何ナル道ヲ經如何ナル物



ノ中ニ乗ゼラレテ監獄ヘ來リシカ等ヲ問フモ毫モ覺ヘズト云ヒ叔父半三郎ヲ殺害セシコトニ付テハ數日前、金ヲ借用セント半三郎ノ來リシニ貸與セザリシヲ以テソノ遺恨ニヨリ加害セン爲メ自宅ニ來リシニ非ズヤト答ヘ神ノ御告付ニテハ夢枕ニ立チシハ二度アリ一ハ鬼子母神ニテ三月ノ月初メニ鬼子母神ノ夢枕アリ其前ニハ一月ノ末ニ自分ノ守リ本尊ノ御告アリソハ榮隆自在大善神ナリ鬼子母神ト共ニ常ニ供物ヲナセリソノ時ノ御告ハ自分ノ親ヲ大事ニセヨ間食スルヲ謹ンデ日本ノ齊家ノ美風……校長モイヘリ……(此處話意不明仁義禮智信ノ八行ヲ守レバ出世方出來ル自分ノ辨ガ取レタカラ自分ハ酒吞ムト勝負事ガ好キダカラト云フテ四、五日前ニ裁判所ニテ書付(此書付トハ父ニ對シ勝負事ヲセムトノ誓書ニテ血判シアルモノヲ云フ)ヲ見セラレタガ父ガマヘガソソナコトスルナラ一人シカナイ子供ダカラ頼リガナイカラトテ腹ヲ切ル眞似セリ自分モ驚キ以後セメカラト血判ヲ捺シタ覺ヘアリト又鬼子母神ノ御告ハ女ニカラカヒ青樓ニ登ルナ「ザルソバ」ニ行クナ三味線太鼓ノ音ハ樂ミデナイカラ樂ミニスルナラバ湯上リ夕食ノ後ニ尺八ヲセヨトイヘリト尙入監後「神ノ御告」ハ此處ニ來テカラハナク又席ニアラザル人ノ話聲ノ聞ヘルコト、不思議ナルコト、物ノ變形シ見ユルコト等ハナシト云ヘリ、話中前後ヲ轉倒シ有無ヲ混合スルコト少カラザルハコレ觀念ノ保存ノ乏弱ナルニ依ルモノ、如シ例之五月四日兩診ノ時ニハ既ニ診察ノコトヲ忘レソノ際癲癇ノ發作アリシコトヲ話セシニ不思議ノ顔貌ヲナシ唯然タルノミナリキ前記ノ事歴ト現況トヲ對照按スルニ龍雄ノ遺傳歴ハ不明ナリ然レドモ幼ニシテ腦膜炎ヲ患ヘ繼テ癲癇症ヲ發シ其後十餘年ノ久シキ時發作シ以テ今日ニ至レリ坂本豫審判事臨檢ノ際ノ如キ又余等檢診ノ際ノ如キ目前ニ其發作ヲ認メ得タリ而シテ斯ノ如キ癲癇病者ニ在リテハ發作ノ前後又ハ其代理症トシテ精神障礙ノ狀態ヲ呈シ犯罪ノ行爲ヲナスコトアリ今前記ノ事歴及ビ現況ニ徴シテ龍雄ガ兇行前後ノ精神狀態ヲ按ズルニ彼ハ曾テ榮隆自在大善神ト云ヘルヲ信仰スルノ餘リ兇行ノ前後及當夜共ニ此神ヨリ父ニ遺恨アルモノ父ヲ突撃

ストノ御告ヲ聽キ佛檀ヨリハ電光ノ如キ光輝ヲ放チ且二人ノ賊影ヲ認メタリトイヒ臺所又ハ牀下等ニガタノ、スル音ノ聞ヘタリトイヘルガ如キ幻視幻聽アリテ父ヲ害セントシテ賊來レリトノ被害妄想ヲ起シヤニハニ之ヲ防護セントシテ神識朦朧ノ際遂ニ彼ノ如キ慘劇ヲ演ズルニ至リタルモノニシテ安覺及ビ妄想ノ性質ト兇行ノ實況ト其後ノ健忘狀態トハ又ヨク其病の行爲タルヲ證明スルニ足ル身證トシテハ頭首ノ振顫、眼球震盪症、第一乃至第三胸椎ノ壞痛上肢ノ振顫、膝蓋腱反射及ビ足趾反射ノ亢進等ノ神經症狀アリ此等ノ事實ヲ總括推考スル時ハ龍雄ハ幼時ヨリ癲癇ヲ患ヒ居ル者ニシテ本年四月五日父立作及叔父半三郎ヲ斬殺シ且ツ隣人友次郎ニ一創ヲ加ヘタル行爲ハ全ク癲癇ニ原因セル急性幻覺性妄想又一癲癇性朦朧狀態ノ結果ナリ

鑑 定

前記說明ノ理由ニ據リ之ヲ鑑定スルコト左ノ如シ  
一、糟谷龍雄ガ明治三十三年四月五日ノ殺傷行爲ハ癲癇性朦朧狀態ト稱スル精神病ニ基因セルモノトス  
此鑑定ハ明治三十三年四月二十五日著手同年五月十八日終了シ此鑑定日數二十四日間トス  
明治三十三年五月十八日

鑑定人 片山 國 嘉  
          高山 正 雄

六、躁 鬱 病

躁鬱病トハ感情ノ爽快、觀念聯合ノ速進及運動性興奮ヲ主徵トスル躁病狀態ト、不快感情、觀念聯合ノ遲延及運動抑止ヲ主徵トスル抑鬱狀態乃至前二者ノ混合狀態トガ、交互ニ或ハ發作的ニ顯出スル精神病ナリ。

甲、躁病狀態ニテハ一般ニ感情爽快、聯想促進、多動、興奮ヲ來シソノ程度ニ應ジ之ヲ輕躁病、躁暴病、及譫妄性躁揚病ノ三種ニ分類ス。

(イ) 輕躁病ニ於テハ意識濁濁ナク理解記憶亦佳良ナリト雖、觀念進行ノ統一亂レ、注意轉移シ、意想奔逸ス、妄想アルコトハ稀ナレドモ自己誇張甚シク、誇大的言動ヲナシ、多業、多辯、放蕩、淫逸、亂酒、荒亡ニ流レ易ク、色慾亢進ス。

(ロ) 躁暴病ハ多少ノ意識濁濁アリ、意想散亂シ、妄覺妄想顯著ニテソノ内容ハ誇大的或ハ被害的ナリ。即チ跳舞、絶叫破衣、拍手、物品破壊乃至狂暴行爲ヲナス。

(ハ) 譫妄性躁揚病ニテハ意識濁濁甚シク指南力喪失シ、妄覺妄想豐富ニシテ、舉止一般ニ錯亂シ、身體的ニ亦不眠、食思亢進、癩癩發作、心悸亢進等アリ。

乙、抑鬱狀態ニ於テハ一般ニ不快感情、聯想意志ノ制止及舉動遲鈍ヲ主徵トシ、抑鬱程度ニ應ジ之ヲ輕度、昏迷性乃至妄想性抑鬱狀態ニ分類ス。

(イ) 輕度抑鬱狀態ニテハタダ精神活動ノ制止ヲ示スニ止マリ、妄覺妄想ヲ見ズ、意識ノ障礙ナリ、氣分ハ不快沈鬱ニシテ萬事ニ興

味ヲ失ヒ、快マトシテ樂マズ不快ノ裡ニ消光ス。

(ロ) 昏迷性抑鬱狀態ニテハ指南力ヲ失ヒ、感情發動セズ、全ク昏迷トナリ、タダ茫然褥中ニ横臥ス。

(ハ) 妄想性抑鬱狀態ハ最モ重症ナルモノニシテ、上記諸症ノ外ニ追跡、罪業、心氣性ノ妄想ヲ加ヘ、幻視幻聽ヲ有スルコト多ク、感情ハ失望ニ陥リ、痛嘆ノ極自殺ヲ企ツルモノアリ。

時トシテ躁病狀態ト抑鬱狀態ト相混合シテ來ルコトアリ、即チ無爲性躁揚病、躁揚病性昏迷等之レナリ。上記ノ相反セル躁病、抑鬱ノ二狀態ハ各自獨立ノ病型ヲ作ルモノニ非ラズシテ互ニ相連關シ、循環性ニ反復發現スルコトアリ、或ハ躁揚狀態ノミ長クシテ抑鬱狀態ノ短キコトアリ、或ハ一方ノミ來リテ他方ノ顯レザルコトアリ。本病ノ輕度ナルモノハ往々變質者、ひすてり患者或ハ神經衰弱者ト誤ラルルコトアリ、抑鬱ノ甚シキモノハ痴呆者ト思ハレ又發揚ノ狀態ニ在ルモノハ、緊張病、癲癇性興奮或ハ酒客譫妄ト誤ラルルコトアリ注意スベシ。

本病者ハ興奮ノ初期ニ於テハ輕率ナル濫買、契約、物品贈與、企業等ヲナシ、躁揚狀態ニテハ漂泊流浪シ、喧騒、暴行等ヲ行フ、又色慾亢進ノ爲メ猥褻行爲、強姦、淫賣等ヲ働キ、或ハ無謀ノ舉ニ出



デ、大暴行ヲナスモノアリ、抑鬱期ニテハ自殺、殺兒或ハ放火等ヲ行ヒテ苦悶ヲ洩ラサントス、即チ法律的ニハ重症者ハ心神喪失ヲ以テ論ズベキモ、發作以外ノ時ハ平常ナレバ責任能力者ナリ、民法上ニテハ輕度ナルモノハ禁治産ノ必要ナシ、但疾病數年ニ互リ精神弛廢シ恢復ノ望ミナキモノニ在リテハ處分能力ヲ奪フモ良シト雖、發病後數年ニシテ尙通常ノ精神状態ニ復シタルモノモアレバ注意スベシ。

七、ばらのいあ一偏執狂

本病ガ獨立シタル病型トシテ存在スルモノナルヤ否ヤハ、尙學者間ノ争點トナリ未ダ決定スルニ至ラズ、寧ロ妄想性痴呆者ノ智識ガ比較的犯サレザルモノナリトノ説ヲナスモノ多シ。然レドモ從來ノ慣習ニ從ヒ茲ニ之ヲ他ノ疾病ヨリ分離シテ述ベント欲ス。

本病者ハ最初智識ヲ犯サルル事少ク、一般ニ執拗ニシテ系統アル妄想ヲ有スルヲ以テ主徵トナス、患者ハ意識清明ニシテ思慮整頓シ記憶亦佳良ニシテ痴呆ニ陥ルコト晩シ、發病後永ク理性明確、學識亦相應ナル發達ヲ遂グレドモ、執拗ナル妄想城府ハ牢固トシテ抜ク能ハズ、爲メニ常軌ヲ逸セル行動、衝動性動作ヲモ敢テシ、一度他人ガ此妄想ヲ破壊セントスレバ、大ニ憤怒シテ之ガ防衛ノ策ヲ取ル。

ソノ系統的妄想ノ種類ハ被害的或ハ誇大的ナリ、時トシテ嫉妬妄想ヲ起シテ自己ノ配偶ヲ虐待シ、些細ノ原因ニ因テ傷害行爲ヲナスコトアリ、病識ナク一見狂者ノ如ク見エザルヲ常トス。

本病者ニテソノ妄想ハ被害性ニシテ、絶エズ自己ノ權限ヲ侵略セラルルガ如ク考ヘ訴訟ヲ起シ、訴訟ニ破ルレバ他人ガ自己ヲ陥レ或ハ自己ノ辯護士ガ敵ニ好意ヲ表シ相通ズルモノナリト邪推シ、一意專心ソノ訴訟ノ爲メニ財ヲ投ジ、勞ヲ吝マズ、遂ニ自己ノ財産ヲ消耗シ盡シテ怨ミズ、ソノ病疾ノ永キ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノアリ。之ヲ好訴訟病者ト云フ。

本病ハ妄想性痴呆トハ同病ナリト見做サルル位ヒナレバ、ソノ鑑別時トシテ殆ンド不可能ナリ、麻痺性痴呆ノ初期トハ身體的症候ニテ區別シ、中酒性或ハ癲癩性妄想トハソノ病狀ニヨリテ自ラ差アリ、偽好訴訟病者トノ鑑別ハ既ニ記述セルガ如シ。

本病者ノ重キモノハ全ク妄想ニ支配サレテ行動スレドモ、一見狂者ノ如ク見エザルコトアリ、妄想ヲ動機トセル犯罪ハ心神喪失ヲ以テ論ズベク、輕症ナルモノニシテ妄想ニ關係ナキ行爲ハ心神耗弱ノ間ニ行ハレタルモノトナスベキナリ、民法上ニテハ多クハ心神耗弱ノ常況ニアルモノト見做スヲ適當トス、蓋シ本病者ハ妄想以外ノ

事ニハ全ク常人ト異ナラザルコト多ケレバナリ、本病者ハ往々ソノ妄想ニ驅ラレテ反抗、詐欺、放火、殺人等ヲナスモノナリ。

八、早發痴呆

本病ハ又精神分裂症、精神分裂症乃至精神乖離症トモ云ヒ、多ク青年期ニ發病シ、感情ノ鈍麻、意志ノ減退及精神内界ノ失調ヲ主徵トシ、比較的急速ノ經過ヲ以テ痴呆ニ移行スルモノニシテ、ソノ原因ハ遺傳ニ關スルコト多ク、本病ニ罹ルモノハソノ初メヨリ強情、變屈或ハ不行跡ナルモノ多シ、本病ハ精神病者中最モ多キモノニシテ多クノ精神病院ニ於ケル入院患者ノ約三分ノ一ヲ占ムト云フ。

早發痴呆患者ハ初メ理解力ノ犯サルルコト少ク、注意ハ相當存スルモノヲ他ニ轉ズルコト難ク、指南力比較的良、幻覺錯覺ニ當ミ、就中幻聽多ク、考慮紊亂シ、支離滅裂症ヲ呈シ諸種ノ妄想ヲ來シ、ソノ内容ハ心氣性、追跡性、被害性乃至罪業性ニシテ、條理甚ダ奇異不合理ナルモ患者ハ之ヲ信ジテ疑ハズ、一般ニ記憶障礙ハ少シ。而シテ本病者ニ於テ最モ注目スベキハ、感情ノ甚シキ鈍麻減退ナリ、患者ハ萬事ニ興味ヲ失ヒ、家族ニ對スル愛情モ冷却シ、花咲クモ鳥啼クモ亦ソノ心緒ヲ動カスニ足ラズ、遂ニハ甚シキ不管性ニ陥ルモノナリ、從テソノ行爲モ亦意志ヲ表示ヲ失ヒ、茫然無爲ニソノ日ヲ

送ルコト多ク、最初ハ神經衰弱ト誤認セララルヲ常トス。

時トシテ何等意志發動ニ關係ナク衝動性ニ種々ノ行爲ヲナシ暴行ヲ敢テスルコトアリ。ソノ他拒絶症、緘默症、常同症、衝動症、強梗症狀及反響症狀等ハ本病者ニ屢々發來スルモノナリ。本病者ノ精神的作用能力ハ常ニ著シキ病的障礙ヲ被リ、ソノ行爲意匠凡テ散亂奇警ヲ極メ、技巧ノ精緻等ハ再ビ之ヲ望ムベカラザルニ至ル、身體的ニ著明ナル特徴ナシト雖、時トシテ痙攣發作、卒中樣發作、ひすてり樣發作アリ、ソノ他腱反射亢進、瞳孔散大、皮膚紋畫症、拒食或ハ暴食等ヲ見ルコトアリ。

本病ヲ通常三區分シテ破瓜狂、緊張狂及妄想性痴呆トスト雖、各病型ノ間ニ明ニ限界アルニアラズ相互移行ス、更ニ類破瓜狂ヲ區別スルモノアレドモ、予ハ成ルベク簡明ナランコトヲ欲シ前區分ニ從フ。今各病型ニ就テ略述セン。

(イ) 破瓜狂、最モ慢性ニ發病シ安覺妄想稀ニ、興奮、昏迷等ノ著シキ症狀少ク、不知不識ノ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノヲ云フト雖、時トシテ幻覺並ニ心氣性、追跡乃至被害性妄想ヲ惹起シ、幻聽、幻視、幻觸之ニ次ギ、發聲考慮、現形考慮亦稀ナラズ、從テ患者ハ苦悶性トナリ恐怖、不機嫌、憤怒、爽快、色情、興奮相亞イデ至レ



ドモ遂ニ不理性トナル。動作ハ一般ニ因循不整ナレドモ衝動的行動アリ、荒淫、破壊、亂酒、徘徊、浮浪、自殺、暴行乃至放火等ノ犯罪ヲ行フ。即チ浮浪者、怠惰者、浪費者乃至變人ニハ本病者ナルモノニ多シ。

(口) 緊張狂、本病ノ初期ニ於テハ殆ソノ症狀全ク破瓜狂ト同一ナレドモ、病初ハ多少沈鬱ニシテソノ前驅期長ク、多數ノ妄想ノ發現アルヲ常トス、而シテ奇行多ク無爲茫乎トシテソノ日ヲ送り、突然徘徊、無意味ノ訪問等ヲナシ、毆打傷害、自殺企圖、放火等ノ犯罪ヲ敢テス、本病ノ特徴トスベキハ所謂緊張性昏迷及興奮ニ陥ルニ在リ、此際ニハ緘黙、拒食、常同、衝動等ノ諸症狀ト共ニ、表情茫乎トシテ自發運動ヲナスコト少ク強硬症狀及反響症狀アリ、唾液及兩便ノ始末悉ク不潔汚穢トナリ、而シテ突然衝動的動作ヲ行フ此動作ハ無思慮、衝動的ニシテ、外界ノ事情ヲ顧慮セズシテ盲動ス、言語モ亦衝動的錯亂性ニシテ詞語新作、常同、反復等ヲナシ、不潔、不眠、食思不整乃至色慾亢進等アリ、意識ハ少シク濁濁シ感情ハ漸次鈍麻ス、一般ニ本病ハ妄想ノ多キ刺戟期、興奮昏迷期ヲ經過シ、ソノ大部分ハ痴呆ニ陥ルヲ常トス。而シテ往々妄想ニ驅ラレテ犯罪ニ陥リ、或ハ衝動性ニ無

目的ノ行爲ヲナス事アリ。

(ハ) 妄想性痴狂、本病ハ前二病型ニ比シ初メ意識乃至指南力ノ犯サルコトナキヲ以テ、一見精神病者ノ如ク見エザルモ次第ニ奇行顯出シ、妄想妄覺ノ持續長期ニシテ且顯著ナル痴呆トナル迄ノ經過比較的長キモノナリ、本病ヲ又次ノ三型ニ區分ス。

(一) 幻覺性妄想性痴呆、初メ著シキ幻覺アリテ之レヨリ妄想ヲ惹起スルモノナリ、即チ電氣或ハ光線等ニ依リテ身體ヲ迫害セラルルナドノ所謂理學的被害妄想ヲ呈スルモノ多ク、又關係妄想ヲ有スルモノ少カラズ、行爲ハ凡テ衝動性ニシテ何等ノ動機ナクシテ俄然暴行ヲナスコトアリ。

(二) 妄想性痴呆、多クノ連續ナキ追跡妄想乃至誇大妄想ヲ有シ、幻覺ヲ伴フ、情緒ハ刺戟性トナリ、暴行ニ陥ル、輕度ノ衝動性行爲、拒絕症狀及色情興奮アリ。

(三) 空想性妄想性痴呆、コハ主トシテ秩序アル妄想ヲ有シ、ソノ妄想ハ幻覺ノ影響ヲ受クルコト少シ、而シテソノハ想像的架空的ニシテ全ク根據ナキコト多ク、些細ノ事實ニ重大ナル空想的意味ヲ附會シ、已レト關係アルガ如ク妄想シ或ハ尊大ニ構フルヲ常トス、行爲ハ妄想ニ依テ支配セラレ時トシテ放火殺人等ヲナスコトアリ。

異常アリヤ否ヤ、若シ精神ニ異常アラバ其程度如何。仍テ余ハ被告ヲ神戸刑務所橋通支所ニ於テ診査シ傍ラ一件記録ヲ参照シ本鑑定書ヲ製セリ。

第一、犯罪事實

檢事植田驥二豫審請求書ニヨレバ、被告ハ大正十一年八月頃郷里栃木縣ヲ出發シ乞食生活ヲ營ミナガラ諸所ヲ放浪シ來リタルガ不遇ノ結果衆庶均シク自己ヲ侮蔑スルモノナリト做シ社會ヲ咒ヒ茲ニ放火シテ自ら慰ムル所アラント決意シ同年十二月二十四日午前四時頃神戸市西須磨西町長谷川種次郎方居宅附近ニ到リ構寸ヲ以テ有合セタル炭依ニ點火シ以テ同家ニ接續セル木造二階建裏座敷ニ燃エ移ラシメテ放火シタルガ其火勢熾ナラザルヲ見ルヤ更ニ引續キ同所岡田仁吉方居宅入口ニ吊シアル葦藁竝ニ附近ノ空依ニ構寸ニテ點火シ同家屋ニ燃エ移ラシメ放火シタルモノナリ。

第二、檢査記録

栃木縣那須郡西那須野村大字野村字赤田三七  
被告 ○ ○ 開 三 郎  
明治二十九年十月一日生

甲、精神の證據

被告ハ姓名、住所、年齢生年月日ヲ明確ニ答ヘ父母ノ名年齢ヲ問フニ父兼吉ハ六十三四歳實母タケハ自分七歳ノ時死シ繼母ツルハ五十二歳ニシテ生存スト答フ被告ニ其ノ經歷ヲ訊問スルニ逐一答フル所左ノ如シ

「自分ハ明治四十四年三月二十五日十六歳ニシテ郷里ノ小學校ヲ卒業シ一年程家業農業ヲ手傳ヒ明治四十五年即チ大正元年八、九月頃ヨリ半許リ足利町薪炭商ニ奉公シ大正二年一月中旬足尾町田島町實兼材木商ニ勤ムル事三ヶ月位ノ後大正二年三月東京麻布谷町島田貞夫方ノ紹介ニ依リ東京電燈會社ノ人夫トナリ又東京日々新聞ノ配達夫トナリ苦學シタリシガ其間初メハ人々自分ニ對シ親切ナリシガ今ヨリ考フレバ五ヶ年モ前ヨリ私ヲ特殊ニ取扱フ

上述ノ如ク早發痴呆ニハ種々ノ病型アレドモ、之ヲ一々鑑別シテ診斷ヲ附スルハ困難ナルコト多キヲ以テ、非常ニ定型の病徴ヲ呈セザル限りハ早發痴呆ナル病名ノ下ニ一括シテ診定スルコトトナリ居レリ。本病ノ初期ニ於テハ屢々ひすてり或ハ神經衰弱ト誤診セララルト雖、感情ノ方面ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナルベク、癲癩或ハ躁鬱狂トノ鑑別モ往々困難ナルコトアリ、麻痺性痴呆トハ身體の症狀ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナリ。破瓜狂病者及輕度ノ痴呆者ニ在リテハ、特ニ犯罪ノ傾向多ク浮浪者ノ中ニ本病者ヲ見出スコト屢々ナリ。本病者ハ比較的理解力、指南力智力等健全ナルニ係ハラズ、俄然衝動的或ハ衝動性行爲ヲナスヲ以テ伴狂者ト誤マルコト多シ、刑法上ヨリ見レバ本病者ノ行爲ハ多クハ心神喪失ノ裡ニ行ヒタルモノニシテ、民法上ニモ處分能力アルモノハ少ナク、多クハ心神耗弱者若クハ心神喪失ノ常況ニ在ルモノトシテ處分サルルヲ常トス。

第六十例 鑑定書

被告 ○ ○ 開 三 郎

二十八歳

右放火被告事件ニ付大正十二年二月十七日、神戸地方裁判所豫審判事瀧波良藏氏ハ同裁判所豫審廷ニ於テ、余ニ命ズルニ左記ノ事項ヲ鑑定スベキヲ以テセリ。

鑑定事項、被告開三郎ハ大正十一年十二月二十四日犯罪當時及現時其精神ニ



様ニ考ヘ又私ヲ排斥スル様ニ思ヒタル故苦學ヲ止メ大正十一年二月郷里ニ歸リタリ

問、五年前カラ人ガ君ヲ排斥セリト考ヘタル事實ヲ云ヘヨ、

答、方々轉々シテ居マシタ故ヨク分ラヌガ萬朝報ノ配達ヲシテ居ツタ時同僚ガ話ノ仲間ニ入レテ又私ノ寢テ居ル際故意ニ足ヲ踏ミ安眠ヲ妨害スルナドノコトアリタリ。

問、東京ヨリ歸郷後如何致セシヤ。

答、歸郷後百姓ヲナンタリ初メ一ヶ月ハ勤勉ナリシガ親兄ノ虐待ニ堪ヘズ故ニ同年四月再ビ上京某周旋業ノ手ヲ經テ山形縣ノ鐵道土方ニ雇ハレタルモ慘酷ニ使役セララル故五十日ニシテ國ヘ歸リタリ此時初メテ社會ノ人ガ自分ヲ排斥スルニ氣付キタリ、

問、氣付モタル理由如何、

答、自分ニ特殊ノ取扱ヲナシ排斥スル度ガ急ニ露骨ニナリマシタ、取扱ハ慘酷ヲ帯ビ自由ヲ束縛シ強制的ニナリ冷酷ニナリマシタ、

問、ソレハ單ニ君ノ空想ニ過ギナイダロウ

答、然ラズ山形縣ヨリ歸郷後モ家人ハ家人ラシク自分ヲ取扱ハズ人ヲ廢物ノ如ク思ヒ農業ニ酷使シ疲レテ休憩スレバ近所ノ人ト共ニ自分ヲ打ち又ハ蹴リ、精神的ニモ肉體的ニモ大ニ苦痛ヲ受ケタリ斯ノ如キハ畢竟自分ヲ村ヨリ排斥スルモノナリト思料シ十五、六日ノ後復テ東京ヘ行ク氣ニナリ旅費金四圓ヲ貰ヒ出發シタリシガ途中早稲田警察署ニ二十五日間拘留セラレ七月中旬放免後直ニ神田職業紹介所ヨリ京橋ノ米屋ニ一週間次ニ其主家ナル日本橋畔大金屋米商ニ三日間奉公セシモ向フヨリ斷ハレ下谷御徒町辰尾自轉車附屬品商二十五日間奉公中田舎ヘテモ歸レト云ハレ小石川大塚ノ牛乳屋強國舎ニ五日間勤メシモ衰弱ノ爲メ勞ニ堪ヘズ暇ヲ乞ヒ更ニ小石川ノ某米商ニ奉公セシガ僅カ一日ニシテ出テ費ヒタシト暇ヲ出サレタリ、茲ニ於テコレハ郷里ニ於テノミナラズ東京ニ於テモ人皆結束シテ私ヲ相手ニセ

何カヲ應用シテ自分ノ自由ヲ束縛シ行動ヲ妨害スルモノニシテ斯クテハ前途ノ不安計ル可ラザルモノアリ残念ナガラ引還シ歸國セント欲シ逆行セシガ苦痛依然トシテ去ラズ愈々道中ニ倒レ死スルモノト思料シタリ又道ニ落チアル新聞紙ヲ拾ヒテ之ヲ讀ムニ心臟病ナドニテ急死セシ人ノ記事アリ人ノ死スルモノ多クナリタル様感ゾレニ對シ新藥ノ廣告ガ新聞紙上ノミナラズ途中方々ニ貼リ付ケアリ世ノ中ノ形勢ガ物々シクナリ自分モ今回ハ到底助カルコト能ハズ終ニ殺サル、モノト覺悟シタリ。

斯クテ道ヲ東ニ取リ大正十一年十二月二十三日播州曾根ニ至リタルニ世間ハ自分ヲ馬鹿ニシヤガルト思ヒコレ政府ト國民ト擧ツテ自分ヲ排斥スルモノニシテ之レニ對シ復讐セザレバ男子トシテ意氣地ナシト考ヘツツ曾根迄歩行シ十二月廿四日午前二時頃同驛停車中ノ貨物列車間ノ鎖ノ上ニ腰掛ケ同驛ヲ出發シ驛屋驛ニ至リ徐行中地上ニ飛降り海岸ヲ東ニ歩ミ須磨ニ來リ復讐ノ目的ヲ達セントシタリ而シテ如何ナル方法ヲ取ランカト考ヘタルニ身體弱リテ喧嘩モ出來ザル故放火スルニ如カズト決心シタリ。

問、何故須磨ニ放火シタルヤ

答、社會ト政府ハ擧リテ自分ヲ排斥スル故何處ヘ放火スルモ同ジコトナリ、東京ナラバ猶宜シキモ衰ヘタル身體ニテハトモ上京出來ズ、故ニ須磨ニ於テ手當リ次第放火セント考ヘタリ

問、放火ノ事實ヲ申立テヨ

答、大正十一年十二月二十四日午前四時頃ト覺ユ須磨停車場西方人家ノ間ニ於テ鐵道線路ヲ北ヘ横切リ路次ニ入り街道ヘ出テ更ニ横町ニ入りタルニ右側ニ二階建板張り左側ニ物置小屋ノ如キモノアリ此處ハ燃ヘ易キ様ニ見エ附近ニハ空ノ炭依アリタリ之レヲ持チ來リ逆ニ立テ掛ケ携行セルまつちニテ點火シタルニ一本目ハ消ヘ二本目ニテ點火シ燃上リタル時海岸ノ方ニ立ノキ様子ヲ見居リタルニ音ヲ立テ、燃ヘ居リ五分間位スルモノノ乘ル氣配モナキニ火勢次第ニ衰フルニヨリ引返シタルニ板ガ二、三尺位燃ヘタルノ

ズ、自分ヲ排斥スルモノト思ヒ保證人田島ニ相談シ其勸告ニ從ヒ大正十一年八月中旬歸郷シ農業ヲ手傳ヒ居リタルニ未ダ十日ニ及バザルニ家族及隣人ハ皆自分ヲ排斥シ虐待スル故世間ガ恐シク暫ク身ヲ隠スニ如カズト考ヘタリ仍テ幼時行キテ見タルコトアル日光中禪寺ノ乞食ノ群ニ變裝シテ身ヲ投セント思ヒ同處ニ至リタルニ乞食ヲ見ズ熟々考フルニ同ジ乞食ヲナスナラバ東國ハ寒キ故暖カキ臺灣方面又ハ更ニ進ミテ南洋ニ逃レント思ヒ道ヲ東海道ニ取り乞食生活ヲナシツツ西行シタリ、

問、乞食ニナリテ道中安全ナリシカ

答、初メ自分ハ乞食ニナレバ世間ノ人ガ批難排斥スル事ナシト考ヘタルニ實際ハ然ラズシテ益々攻撃ヲ強ムルモノ、如シ即チ其證據ニハ愛知縣下ニ於テ自分ハアル藁小屋ノ中ニ臥シタルニ呼吸苦シク夜間安眠ヲ得ズ起キテ表ヘ出テ見タルニ街道ヲ自轉車乘リ二人ガ話シナガラ過ギ行クヲ見、其人ガ自分ヲ苦シムル術ヲ用キタルナラント思ヒタリ。

又岐阜縣ノアル山麓ノ藁小屋ニ眠レル時呼吸苦シクナリ氣味惡ク逃シタルニ二、三町ニシテ氣分良クナリタリ、自分が眠リタル後間モナク電氣ノ光ヲ見又自分ノ氣付ク様附近ニテ大聲デ喋ルトカ又ハ自分ガ寝テ居ルノヲ認メテ行ク人ナドアリ是等ハ初メハ何トモ云ハザリシモ話シ振リ何トナク普通ニアラズ自分ニ對シ當テコスリヲ云フ様ニ思ハル、ノミナラズ實際其場合ニハ電氣ニ感ズタル如ク呼吸苦シク、身體ニしびレノ感生ジ運動困難ヲ感ジ又睡眠中ハ惡夢ヲ見テ醒覺シタル後、電氣ヲ感ズ苦痛ニ堪ヘズ逃ゲ出スヲ常トシタリ

問、何處迄西下セシヤ

答、自分ハ幾多ノ困難妨害ニ打勝チテ遂ニ昨午十二月中旬關山縣三石驛附近ノガト近クニ至リ物置小屋ニ寢タルニ當時自分ニ對スル世人ノ態度ハ益々險惡トナリ恐ロシキ空氣ガ漂ツテ呼吸ヲ壓迫スルコト甚シク身體疲勞其極ニ達セルガ如ク強イテ前進スレバ斃死スルノ恐レアリ是レ政府ガ電氣力

ミニテ下ハ土壁故延燒セザルヲ知リタリ因テ初メノ路次ニ後戻リシ途中中奥マリタル處ヘ入りタルニ右側ノ家ノ軒下ニ藁糞ヲ吊リアリ其下ニ藁繩ヲ藁屑アリ故ニ先ヅ糞ニ次ニ下ニアル藁屑ニ放火シ海岸ニ引返シ様子ヲ見居タルニ多分其家ノ女ノ聲ニテ悲鳴ヲ聞キタリ次デ近所ノ人々集マリ火事ヲ消セル模様ナリシ故糞ニ船中ニ置キタル衣服ノ包ヲ取り山手ノ方ニ逃ゲタリ其途中二、三人ニ出遭ヒタルガ其都度糞ニ隠レタリ斯クテ山ヲ北ニ上リタルニ人家見ヘ人聲聞ヘタリ茲ニ田ノ傍ニ積ミアリシ藁ヲ取リ峯ニ上リ四所ニ腰ヲ下シ休憩中草履ヲ作リタル時ニ向ヒノ小山ノ上ニ男女ノ小兒五、六人ノ話聲聞ヘタリ其内容明カニ聞ヘザルモ自分ガ此處ニ居ルコトヲ知リテ隠レテ居ツテモ知ツテ居ルゾト云ハマ計リニ話シテ居ルト思ヒ且ツ時已ニ午ル近ク空腹ナル故下ノ沼迄下リ所持セル米四合許リヲ煮テ食シタル後裏道ヲ神戶ニ出ント思ヒタルモ土地不案内ノ爲メ却ツテ反對ニ驛屋ノ方ニ進ミ居ルニ氣付キ更ニ東方ニ歩ミ須磨近クニ至リタルモ時間猶早キ故引キ返シ驛屋ニ赴ク途中刑事ニ捕縛セラレタルナリ

問、刑務所ニ入所後ノ感想如何

答、此頃ノ考ヘ一定シテ居リマセン、或時ハ私ヲ微役ニ處セズシテ未決監デ私ノ缺點ヲ補ヒテ善人ニシテ遣ロウトシテ居ルノカト思ヒ、又或時ハ刑ニ落スヨリ猶一層惡クシヨウトスルノデハナイカトモ思フ即チ自分ヲ處刑セズシテ苦シメ獄死セシメントスルカ又ハ監房内ニテ私ヲシテ他人ヲ傷ケシメ刑ヲ重クセントスルニアラザルヤト思フ要スルニ刑ニ落スヨリハ善導スルカ又ハ致命ニ至ル迄惡クスルカノ二ツニアラント思フ、

問、此頃ニテモ迫害、排斥等ノ模様アリヤ如何、

答、迫害ハ絶ヘズ加ハリアリ例ヘバ私ノ身體自由ガ出來ヌ様ニ思フ、頭ガ痛ム、人ト話ス時何トナク苦シク思フ、始終電氣ガ身體ニ掛ル、其時ニハ何ントナク厭ナ氣ガ漂ヒ身體ガ壓セラレ、様ニナリ頭ガ錯亂スル、電氣ハ何處カラ掛カル分ラヌガ多分裁判所カラ掛ケルノダロウ、電氣ガ掛カル時ハ



同居者ノ凡テノ言語、行動ガ私ニ強ク當ル、私ヲ睨マヘ、私ニ注意シ氣ヲ弛メズ、爲メニ私ハ寸分ノ隙モアリマセン若シ平氣ニ居レバ自分ハ病人ニナルダロウト思ヒマス、

問、汝ニ對シ惡口シ又批評スルガ如キ聲ハ聞コヘヌカ、

答、聲ハ聞コヘヌガ夜一人ノ人ガ蚤ヲ取ル時其人ノ靈ガ私ノ靈ニ移ル様ニ思ヒ胸ガ痛ム、又夜反對ノ側ニ向ヒ眠テ居ルト呼吸ガ塞ル様ニ感ジ皆ニ何カ惡戯ヲサレル様デ痛イ、向キ直レバ眼ガ痛ク、呼吸ハ塞ル、私ガ何カ考ヘル度毎ニ他ノ人ガ腕ヲ動かカストカスル私ノ考ガ皆ノモノニ分ツテ居ル様ニ思フ、又他ノ人ガ壁ヲツツク時私ハ苦シミヲ感ジ胸ヲ刺サレル様ニ思フ、

問、聲ガ耳ニ聞エルコトハナキヤ

答、聲トシテ聞コヘルコトハナシ

問、其他何カ不思議ニ感ズルコトハナキヤ

答、食事ノ時常ニ食セヌ前ヨリ不味ノ様ニ思ハルルモ食スレバ實際ハ美味ナリコレ電氣力、忍術力催眠術ニヨリ不味ノ豫感ヲ與フルニアラズヤト思フ畢竟精神的ニ私ヲ苦境ニ陥ルルモノト思フ又食器ヲ洗フ時ナド變ニ苦シクナルコトアリ以前夜便所ヘ行ク時ヨロケルコトアリタリ何ンカサレ居リタルモノナルベシ

問、今日ハ何月何日カ

答、常ニ正答ス

問、東西南北ヲ指示セシム

答、正答ス

問、一年ハ何日カ

答、三百六十五日

問、閏年ハ

答、三百六十六日

問、大ノ月ハ

答、一、三、五、七、八、十、十二

問、一圓ヨリ遞次十三錢ヲ減ゼヨ

答、八十七錢、七十四錢、六十一錢、四十八錢、三十五錢、二十二錢、九錢

(正當ニ且ツ速カニ答フ)

問、三十七ニ七ヲ乗ゼヨ

答、二百五十九(速カニ正答ス)

問、五十七錢ト三十六錢ヲ加ヘヨ

答、九十三錢(速ニ正答ス)

問、鐵一貫目ト棉一貫目ト何レガ重キヤ

答、鐵ノ方ガ重イ、鐵ノ方ガ物質ガ緻密ダカラ、然シ一貫目ナラバ日方ニハ變リハナイ

問、汽車ト電車トノ差違如何、

答、汽車ハ蒸氣力ニテ電車ハ電力ニテ運轉セラル

問、牛馬ノ差如何

答、牛ニハ二本ノ角アリ馬ニハ角ナシ、牛ハ人ニ乳ヲ供給ス牛ハ身體ガ大キク活動ガ緩イ、馬ハスラリトシテ運動ガ活潑ナリ、牛ハ胃袋ガ二ツアリ馬ハ一ツ、蹄ハ牛ハ二ツニ割レ馬ハ一ツナリ、牛ノ尾ハ細キ馬ノ尾ハ毛ガ多イ、牛ハ鼻ニ孔ガアリ棒ヲ通シタリ馬ニハコレナシ

問、人形ト小供トノ差別如何、

答、人形ハ生物ニアラズ小供ハ人間デアリマス

問、一反ハ幾許アリヤ

答、一反ハ三十三畝、六十畝カ、ヨク知りマセン、

問、一畝ハ

答、三十歩、

問、一里ハ何町カ、

答、三十六町、

問、一町ハ何町カ、

答、一町ハ六十間、

問、一間ハ何尺、

答、六尺、

問、曲尺ノ一尺ハ、鯨尺ノ何寸カ、

答、八寸デス、

問、魚ノ名ヲ知レル丈ケ擧ゲヨ、

答、鯨、シヤチ、フカ、イルカ、鰻、鮪、鮭、鯖、ニシン、鯛、スルメ、比良目、章魚、カジカ、鰻魚、鮎、

問、鯨ハ魚カ、

答、哺乳動物デス、

問、鰻ハ魚カ、

答、魚デアリマス

問、スルメ、章魚ハ、

答、魚デアリマス、

問、魚トハ如何、

答、水ノ中ニ生活ヲ營ンデ居ルモノ哺乳動物ニアラザルモノヲ云フ

問、然ラバ蛸ハ魚ナリヤ

答、魚ノ一種……蟲デスカ、

問、ボトフラハ、

答、魚ノ一種デスカ……アレハ蟲デス、

問、日本ノ大都會ハ、

答、東京次ハ大阪、京都、

問、日本ノ最高山ハ、

答、日本アルプス、

問、栃木縣廳ハ何處ニアルカ、

答、宇都宮市ニ、

問、日本ノ大川ハ

答、信濃川、次ハ天龍川、

問、天龍川ハ何處ヲ流ル、ヤ、

答、栃木縣足利ニアリ、

問、檢約ト吝嗇トノ差別如何

答、檢約トハ實ヲ濫費セズ、貯蓄スルヲ云ヒ吝嗇トハ其度ヲ過ギ使フベキニモ使ハズシテ蓄メルノミナルヲ云フ、

乙、身體的證候

被告ハ體格榮養共ニ中等ニシテ瞳孔ハ光線ニ對シ能ク反應シ言語障害ナク胸腹部理學的診査上異常ヲ認メズ凡テノ腱反射ハ活潑ニ存在ス、肛圍ニ瘻孔アリ排膿シ痔瘻ヲ有セリ、

第三、記録ニ表ハレタル要點

一、被告ノ豫審調書中ニ於テ彼レガ經歷及犯罪ニ關スル事實ニ付陳述セル所ハ前記余ガ訊問ニ對シ答ヘタル所ト全ク同一ナルヲ認ム

二、父兼吉ノ陳述ニヨレバ被告ハ生來温順沈鬱ナルモ何時モ強情ニシテ學校成績優良屢々優等ナリシ、昨大正十一年一月頃様子ガ變テ笑ツタリ大聲獨語ヲシ居リタリ八月歸宅セル時突然外出鳥ヶ森附近ニ至リ棒ヲ以テ桐ノ木ヲ叩キシコトアリ、

三、被告ノ兄吉郎ノ聽取書ニヨレバ被告ハ大正十年暮頃農ヲ嫌ヒ寢轉ガリ其頃雨下駄ヲ穿チタル儘燼ニ足ヲ入ル如キ少シク腦ニ異狀アル事ヲ認メタリ、又大正十一年八月中歸郷ノ際讀書中獨リテ笑ツタリ仕事ハ命ズレバナスモ然ラザレバ何事モセズ、八ヶ間敷云ヘバ直チニ怒リ多クハ食シテ寢テ居タリ、

四、證人住○松○聽取書ニヨレバ被告ハ(大正十年十一月頃)日常ノ行動常人ト異リテ居リタルモノノ如ク氣ガ向ケバ一日掃除シテ居レドモ氣ガ向カザ



レバ少シモ掃除セズ又寒イノニ湯屋ニ行カズ湯ヲ沸カシテ行水許リ使ヒ人ニ叱ラレタリ、又同人ハ非常ニ朝寝ニテ去年大正十一年ノ正月三日間食事以外ハ常ニ寝テ居ツテ起キ來ラズ人ト應對スルニ嫌ニ笑フテ許リ居リ、話シテモ言葉ハ行キ詰リ勝ナリキ、解雇セラレタル後店ニ遊ビ來リ余ニ對シ君等ハ支配人ト計リテ自分ヲ出シタノダロウ自分ヲ出セバ生活ニ困ルト思フカモ知レヌガ自分ハ生活ニ困ラヌト云ヒ居タリ、

第四、被告が自カラ感想ヲ記シ提出シタル書面ニ表ハレタル主要事項ノ抜萃

余ハ診査當時被告ニ對シ自己ノ感想ヲ記シ置クベキ意ナキヤラ告ゲタルニ被告ハ之レヲ承諾シ次デ裁判所ニ提出シタル書面中注意スベキ左ノ記事アルヲ認ム

大正十二年八月二十九日

昨日日記ヲ書キ終ツテカラ苦シキ爲メ横臥スルト身體ガビリ／＼ト自分デ動かストモナク動イタ、初メノハ電氣カ雷ノ如クビリ／＼トシタガ二度目ニハ身體カラ足ガブル／＼ト動イタ、夜中ニ一人ノ者ガ異様ナ大キナ聲ヲ出シタノデ(中略)其人ガ疊ガ管スル程動ク度ニ僕ハ胸ヲ突カレタ様ナ苦痛ヲ感ジタ(中略)、最早八ヶ月餘リニナルガ一體何日ニナツタラ罰ガ決ルダロウ斯ク永ク日數ヲ要スルノガ不審ニ堪ヘナイ、斯苦シム理由ハ刑ニ下ラズニ此處デ處分スルカラデアロウカ一體未決監ト云フモノハ苦シイ所デナイ管デアアルガ

大正十二年八月三十一日

此日記載セルモノニハ被告ガ山形縣ヨリ歸郷セル後家族及社會ノ虐待及電氣ヲ掛ケルコト並ニ其後上京シテ後モ自己、及周圍ノ人ガ電氣ヲ掛ケラレ又市民舉ツテ自己ヲ排斥スルトノ考ヲ精細ニ記載シタリ。

大正十二年九月三日

左ノ記事アリ

幻觸ヨリモ猶一層重要ナル症狀ハ被告ニ於ケル判斷力ノ障礙ニシテ彼レハ職務所ニ在リテ考フラク、或時ハ私ヲ所刑セズシテ獄死セシメントスルカ又ハ監房内ニテ他人ヲ傷ケシメ刑ヲ重クセントスルカ、又余ノ今猶迫害排斥等ノ模様アリヤトノ問ニ對シ「迫害ハ絶ヘズ加ハリアリテ身體ノ自由出來ズ頭痛ミ何トナク苦シク恐ラクハ裁判所ヨリ電氣ヲ掛ケラレタメニ同房者ノ言語行動ガ自分ニ強ク當リ睨マレ注意セラレ寸分ノ隙モアラズ食事ニ當リテハ電氣カ、忍術カ催眠術ニヨリ不味ナリトノ豫感ヲ與ヘル等凡テ精神的ニモ自分ヲ苦境ニ陥ルルモノト思フト答フ、

斯クノ如キハ皆被害妄想ニ屬スルモノナリ、精神病學上妄想ハ凡テ病的の精神ノ產物ニシテ決シテ精神健康者ニ見ルコトナシ此事已ニ被告ガ明カニ精神病ニ罹レルモノタルコトヲ斷言スルヲ得ベシ、

被告ハ自カラ感想ヲ記シタル文面中屢々此被害妄想ニ關スル記事アルヲ見ル余ハ之ヲ前記第四項ノ中ニ摘記シ置キタリ、

被告ハ斯クノ如ク被害妄想ヲ主症狀トシ傍ラ幻觸ヲ有スル精神病者ニシテ其病型妄想性ノ癡病ニ屬スルモノト診斷スルヲ至當トス

被告ガ此精神病ヲ初發シタル時期ニ付考察スルニ彼レハ五年前ヨリ他人ガ自分ヲ特殊ニ取扱フ様考ヘ其證トシテ萬朝報ノ配達夫ヲナシ苦學セル際同僚ガ話ノ仲間ニ入レテ哭レズ又臥寢中故意ニ足ヲ踏ミ安眠ヲ妨害セリト云フモ是レ或ハ週リテ妄想的曲解ヲナセルモノナルヤノ疑ナキニアラザルヲ以テ確カニ癡病ノ第一歩ナルヤ否ヤハ確言スルコト能ハズ、被告ノ兄〇〇吉郎ノ證言ニヨレバ被告ハ大正十年暮頃其行動異常ノ二點アリ又證人住吉松治ノ供述スル處ニヨレバ被告ハ大正十年十一月頃異常ノ言語行動ヲ表ハシ又父兼吉ノ陳述ニヨレバ大正十一年一月頃精神變調ヲ疑フベキ點アルコト前記セルガ如ク其頃ヨリ漸次明カニ精神病初發ノ徵候ヲ示セルモノト認ムベシ爾後大正十一年四月山形縣鐵道土方ニ雇ハレ慘酷ニ使役セラレ五十日ノ後歸國後家人及附近ノ者ガ自己ヲ酷使シ村ヨリ排斥スルモノト思料シ上京シタルモ京橋、日本

今日ハ朝カラ四邊騷擾トシテ且感電シ心身ノ受ケル打撃甚ダシク苦痛ナリ恰モ狂瀾怒濤ノ中ニアルガ如シ、

大正十二年九月一日

人間ニ睨マレル程恐ロシイモノハナイ、多クノ人ニ絶ヘズ睨マレスカル迫害ノ中ニ生活ヲシタラレバ其人ハ精神的ニモ肉體的ニモ自由ヲ束縛セラレ遂ニハ病死スルニ至ラン

大正十二年九月十三日

惡政策ヲ企圖シタル政府ハ此際其趣旨ニ基イテ成ル丈ケ一人デモ多ク廢除シタル方ガ好都合ナルベシ故ニ私ヲ斯ク電氣ヲ以テ腦ヲ鈍感ニ至ラシメ手ヲ換ヘ品ヲ換ヘ非常識ナ慘酷ナ事ヲ敢ヘテシテ排斥ノ出來得ル様其缺點ヲ作ルベク努力シテ居ルコトハ明々白々ナ事デアアル云々

大正十二年九月十五日

(前略)僕ノ犯罪シタル動機ハ自分本心カラシタノデハナクアレハ政府ガセシメタノデアアル政府ガ電氣機械ヲ使用シテ私ヲ苦シメ國民ト一致協力シテ次第ニ困難ナラシメ私ヲシテ自然ト社會カラ遠ザカラシメタノデアアル謂ハバ排斥シタノデアアル而シテ其上批難攻撃ヲ加ヘ東國カラ西國ヘ追ヒ拂ツテ來タノデアアル其ニハ世ニハ斯クノ如キ愚カモノガアルト廣ク國民ニ見セシメニスル爲メニ且ツ一方ニハ國民ヲシテ勤勉ナラシメル様獎勵スル爲メニシタノデアアリモ直サズ私ハヨイ標本ニサレタ譯デアアル而シテ最後ニハ冷酷ヲ以テ迎ヘ電氣ヲ以テ私ノ知覺ヲ錯亂セシメ遂ニ斯ル犯罪ヲセシメタノデアアル云々

說明

被告ハ現時身體のニハ只痔瘻ヲ患フル外何等特殊ノ病變ヲ有セズ、精神的ニハ記憶力、計算力、指南力及智力ニ著大ノ缺損ヲ認メズト雖モ何等刺戟ナキニ胸痛呼吸閉塞感、背痛、眼ノ痛等ヲ感ズト云ヒ所謂幻觸ヲ有セリ被告ハ之レヲ以テ電氣ガ身體ニ掛リ他人ノ靈ガ自己ノ靈ニ移リ又人ガ何方惡戯ヲナスモノト解シ居レリ、

橋、下谷、小石川等ニ於テ僅カニ一日乃至十五日間奉公シタルノミニテ常ニ轉々シ東京ニ於テモ人皆結束シテ自分ヲ相手ニセズ排斥スルモノト思ヒ常ニ此考慮ハ腦裡ヲ去ラズ遂ニ大正十一年八月下旬世間ガ恐ロシク身ヲ隱スニ如カズト考ヘ乞食トナリテ西下スルニ至リタルニヨリテ見レバ即チ大正十年終リ頃ヨリ本病ノ發生シ居リタルコトハ明カニ推定スルヲ得ベシ、被告ハ其後臺灣又ハ南洋ニ逃レント志シ西下ノ途中モ迫害常ニ加ハルト思惟セシモ幾多ノ困難障害ニ打勝チ昨大正十二年十二月中旬岡山縣三石驛附近ニ至リタル時世人自己ニ對スル態度益々險惡トナリ不安ノ空氣漂ヨイテ呼吸壓迫ノ感アリ身體疲勞其極ニ達シ政府ガ電氣又ハ其他ノ方法ヲ應用シテ自己ノ自由ヲ束縛シ行動ヲ妨害スルガ故ニ前途危險ナリト認メ殘念ナガラ歸國セント欲シ逆ニ東上ノ途ニ就キシガ途中益々不安ニシテ終ニ殺サルモノト覺悟スルニ至リ是ニ政府ト國民ト擧リテ自分ヲ排斥スルモノニシテ之レニ對シ復讐セザレバ男子トシテノ意氣地ナシト復讐ノ方法ニ付テ考慮シタル上手當リ次第放火スルノ決心ヲナシ大正十一年十二月二十四日午前四時頃須磨ニ於テ人家二ヶ所ニ放火シタルモノニシテ此犯罪ノ動機ハ被告ガ有スル精神病ノ症狀タル被害妄想ニ對スル復讐心ニ出ヅル事疑ナク從ヒテ該犯罪ハ精神病の行爲ニ屬スルモノナリ、

鑑定

而シテ被告ノ精神內容ハ常ニ病的の妄想ノ支配スル所トナリ其判斷力ハ皆被害妄想ノ爲メ障礙セラレ居ルガ故ニ彼レハ毫モ正常ナル精神の行爲ヲ營ムコト能ハズ從ヒテ彼レハ假令犯罪の行爲ヲ營ムヲ其責任ヲ負フベキ能力ヲ有セザルモノニシテ所謂心神ヲ喪失スルモノト認ム

一、被告關三郎ハ犯行當時(大正十一年十二月二十四日)及現時妄想性癡病ト稱スル精神病ニ罹リ居レリ、

二、被告ハ右精神病ノ爲メ判斷力障礙セラレ心神喪失セルモノナリ

右之通鑑定候也



大正十二年十一月 日

大阪市北區南森町百七十五番屋敷

鑑定人 和田 豐 種

第六十一例 河○壽○精神狀態鑑定書

昭和○年○月○日××地方裁判所豫審判事○××ハ同所豫審延ニ於テ放火被告人

河 ○ 壽 ○ 當二十二年

ノ精神狀態ニ關シ左ノ事項ノ鑑定ヲ予ニ囑託セラレタリ

鑑定事項

一、昭和○年二月十六日犯行當時ニ於ケル精神狀態如何

以上

仍テ予ハ當日ヨリ鑑定ニ著手シ被告人ノ身柄ヲ昭和○年○月二十日ヨリ同年○月十日ニ至ル期間九州帝國大學醫學部附屬醫院精神病室ニ留置シテ觀察シ一件記録ヲ參照シテ鑑定ヲ行ヒタル結果左ノ主文ノ如キ結論ヲ得タリ。

鑑定主文

被告人ハ昭和○年二月十七日犯行當時醫學上早發性癡呆症ト稱スル精神病ニ罹リ居リタルモノニシテソノ犯行ハ早發性癡呆症ノ特徵タル高等感情ノ鈍麻ニ基キテ行ハレタリ  
然レドモ當時被告人ノ有セシ精神障礙ノ程度ハ思辨ノ能力ヲ全然喪失セルガ如キ高度ナルモノニアラズ

鑑定ノ理由

甲、身體ノ狀況  
身長一六・二四、體重六六斤、頭圍五七・五、頭形ニ異常ナク四肢軀幹ノ比例モ亦尋常ナリ、榮養普通、貧血ナク毛髮發育尋常ナリ運動機能、感覺

機能ニ異常ナシ皮膚反射及腱反射ハ一般ニ允進セリ皮膚紋畫症存ス胸腹內臟器ニ異常ナシ尿尿ニ異常ナシ、血液及腦脊髓液ニ微毒反應ソノ他異常ナシ、要之被告人ノ身體上ニハ反射機能允進、皮膚紋畫症等神經過敏ノ症候ヲ見ルノミニシテ重大ナル異常ナシ

乙、精神ノ狀況

一、叡智界ノ狀況

(イ)被告人ハ問ニ對シテ自己ノ姓名、年齢、住所、職業、現在地、周圍ノ人物、現在ノ年月日等ヲ正シク答ヘ、自己ハ放火罪ニテ精神鑑定ノ爲メ此處ニ來レリト答フ、即チ被告人ノ認識力(指南力)ハ正常ナリ

(ロ)被告人ハ此處ニ來レル月日、時刻、同伴者、昨日ノ天候、今朝食、今晝食ノ副食物ヲ正シク答ヘ、連絡ナキ六個ノ名詞、俚語等ヲ復誦セシムルニ何レモ誤リナク答フルコトヲ得、即チ被告人ノ記憶力ハ正常ナリ、  
(ハ)被告人ハ問ニ應ジテ父母兄弟ノ名及年齢、家具、家畜、農具等ノ名稱等卑近ナル事項ヨリ自己ノ生活等ヲ詳細ニ答ヘ、君ケ代、教育勸語、七曜、曆日ヲ正シク答ヘ、ソノ他地理、歴史、通貨、度量ノ問題、國家、社會、宗教法律、道德等ニ關スル各種ノ質問ニ對シ被告人ノ教育及經驗ニ相當スル程度ノ答ヲナスコトヲ得、即チ被告人ノ記憶及智識ニ異常ナシ

(ニ)被告人ハ事物ノ長短、大小、輕重等簡單ナル具體的判別ハ勿論積々複雑且ツ抽象的ナル事項ノ比較、差別、類同、關係、因果、定義等ノ問題ニ對シ被告人ノ教育程度ニ相當スル答ヲ與フ判斷ノ複雜ナル作用ヲ要スル算數ノ問題ニ對シテモ暗算ニテ答フルコトヲ得即チ被告人ノ判斷辯識ノ能力ニ異常ナシ

(ホ)被告人ニハ幻覺、錯覺、妄想ノ如キ精神病の症候ナシ  
二、情意界ノ狀況  
被告人ガ鑑定人ト對坐スル時、感動、爽快、悲哀、興奮、拒絶、奇奇、昏

迷等ノ顯著ナル情意ノ異常ヲ見ズ、然レドモ被告人ノ情意界ハ全然正常ト認ムベカラズ其顔貌ニハ表情之ナク殊ニ被告人ノ如キ境地ニ在ル者ニ當然現ハルベキ悔恨、恐怖、不安、羞耻、敬虔等ノ表情ハ全然之ヲ認ムル能ハズ、問診ノ内容ガ自己ノ犯行、將來ノ運命、家族ノ狀況等ニ及ブ表情依然トシテ變化ナク不然トシテ單調ニ應答スルノミ、ソノ恣態モ亦不行儀ニシテ對坐中或ハ拱手シ或ハ頰杖ヲツキ、着裝亂レ居ルモ不然タリ行動ハ強梗ニシテ圓滑ナラズソノ他被告人ハ常ニ眉間ニ皺ヲ作り居ルヲ見ル、(顰眉)病室ニ於ケル二十日間ノ被告人ノ生活ヲ見ルモ同ジク極メテ單調無目的ニシテ終日茫乎無爲、無趣味ニ坐臥シ看護員ニ種々病院ノ狀況等ヲ質問スルコトナク他患者ト談話スルコトナク他患者ノ如ク看護員ノ手傳ヒヲナスコトモナシ時ニ理由不明ニ獨リ笑ヒ居ルコトアルノミ被告人ノ如キ境地ニアルモノニ當然見ルベキ不安悲哀ノ表情ナク運動ヲ許可スルモ庭ニ出ヅルコトナク退屈ヲ感ジテ遺散ノ途ヲ求ムルコトモナク睡眠甚ダ佳良、食慾モ亦旺盛ナリ

丙、診斷

以上ヲ要約スレバ被告人ノ現在ノ身體上ニハ特殊ノ異常ナク、精神上ニハ叡智界ニ異常ナキモ情意界ニ於テ後悔、羞耻等ノ道義的感情ヲ缺キ業務慾ナク趣味ナク無爲茫乎タリ其他癡及ビ癡癡アリ斯カル症狀ヲ具備スルモノヲ醫學上ニ早發性癡呆症ト名付ク即チ被告人ハ現在早發性癡呆症ニ罹リ居ルモノナリ

第二、犯行當時ノ精神狀態

前述ノ如ク被告人ハ現在早發性癡呆症ト稱スル精神病ニ罹リ居ルモノニシテ而シテ早發性癡呆症ハ破瓜期又ハ青年期ニ發症シ一旦發病スルヤ其症狀ニ一弛一張アルモ結局完全ニ治癒スルコトナク終生持續スル不快ナル慢性精神病ナリ今被告人現在ノ早發性癡呆症ノ發病時期ヲ記録ニヨリテ調査スルニ證人河○官○郎ノ陳述(豫審調書)ニヨレバ、

早發癡呆

「子供ノ時カラ丈夫デ雲城村小學校ノ高等科ヲ終ヘル迄ハ別ニ變ツタコトモ御坐リマセンデシタガ其後青年訓練所へ通フ様ニナツタカラ訓練所ノ往復モ一人デシタリ休ミ日ニモ外出ズ友人達ト遊ブト云フ様ナコトモ無クナリ少シ他ノ人ト遊フ様ニ思ハレマシタガ...所ガ昨年七月頃徴兵検査ニ甲種ニ合格シタ頃カラ急ニ舉動ガ變ツテ夜眠レナイト云フテ夜甚ノ別ナク外へ出タリ一日坐ツテ居タリ一日立ツテ居タリスル様ナコトガ屢々アリマシタノデ...併シ昨年末頃ニハ大分ヨクナリ私方ノ仕事ヲモ手傳フ様ニナリマシタガ本年一月廿日...即日神經衰弱ト云フノデ歸郷ヲ命ゼラレ...一人前ノ仕事ハ出來ズ...」

第三、說明

醫學上早發性癡呆症ト名付クル精神病ハ其經過中ニ多種多樣ナル症候ヲ現ハス複雑ナル精神病ナレドモ大凡コレヲ三群ノ病型ニ分ツコトヲ得即チ

(一)妄想型早發性癡呆、此病型ニ屬スル者ハ誇大妄想、被害妄想等ノ妄想ヲ主徵候トシ其妄想ニ基キテ種々ノ病的行為反社會的行為ニ出ヅ

(二)緊張型早發性癡呆ノ特徵ハ緊張性興奮ト稱スル激烈ナル錯亂性興奮狀態又ハ反對ニ緊張性昏迷ト稱スル一定期間持續スル無言不動ノ狀態ヲ反復スルヲ特徵トシ其興奮ハ盲目的突發的暴行ヲ伴ヒ甚ダ危險ナリ

(三)破瓜型早發性癡呆ハ上記二型ニ見ル如キ顯著ナル症候ヲ顯ハスコトナク單ニ高等感情ノ鈍麻ヲ特徵トシ無爲無趣味不活潑トナリ社會ト交渉スルコトナク向上心ナク作業慾ナク他ヨリ促ガサルレバ不完全ニ作業スルモ放置スレバ終日無爲茫乎トシテ而モ退屈ヲ感ゼズ屢々眉間ニ皺ヲ寄セ(顰眉)或ハ口ヲ尖ラセ(作嘔)或ハ獨語獨笑等アリ時々幻覺ヲ發シ或ハ多少興奮シテ

七五七



不眠徘徊シ或ハ憤怒スルコト等アルモコレハ一過性ノ現象ニシテ根本症候ハ遲鈍ノ二字ニ盡ク斯ク本病型ハ一般ニ社會的ニハ無害ナルモ些事ニ立腹スル時ハ高等感情鈍麻ノ爲メニ猶豫ナク重大ナル行爲ニ出デテ平然タルコトアリ

以上三病型ガ各其態様ヲ大ニ異ニスルニ拘ハラズコレヲ合シテ早發癡呆症ナル一病名ニ包括セラルル所以ノモノハ何レノ病型モ破瓜期又ハ青年期ニ發病スルコト(早發性)經過慢性不治ナルコト、數年十數年ノ後ニハ三型共ニ同様ナル所謂癡呆期ニ入り思想ハ散亂支離減裂トナリテ正常ナル思辨力ヲ失ヒ感情ノ鈍麻ハ高度トナリテ無爲空漠タル生活ヲ送ル點ニ於テ共通セルモノアルガ爲メナリ

今此醫學上ノ經驗的事實ヲ被告人ノ場合ニ照合スル時ハ被告人ガ破瓜期早發性癡呆ニ屬スルコトハ特ニ説明ヲ要セザルベシ而シテ被告人ニハ上記ノ如ク現在ニ於テモ尙其智能ニ異常ヲ認メザルガ故ニ未ダ早發性癡呆症ノ癡呆期ニ入レルモノニハアラズ從テテ犯行當時ニ於テモ其智能ニ重大ナル障礙ナカリシコトハ勿論ナリ然ラバ其他ニ犯行當時被告人ノ思辨ニ重大ナル支障ヲ來スベキ條件例之意識潤濁、突發的感動等ノ存在セシヤ否ヤ案ズルニ被告人ハ犯行當時ノ狀況ヲ秩序正シク詳細ニ想起シ得ルガ故ニ(豫審調査ニ於ケル被陳述參照)被告人ノ當時ノ意識ハ清明ナリシモノナリ何トナレバ意識潤濁時ノ行爲ハ後ニ之ヲ追想スルコト全然不能ナルカ或ハ唯斷片的ニ想起シ得ルニ過ギザルガ故ナリ然ラバ被告人ノ犯行ハ突然的感動ニ基ク衝動行爲ニアラザルヤヲ見ルニ突發的感動ハ其名ノ示ス如ク激烈ナル感情ガ突如トシテ發シ而シテ行爲ニ移行スルヤ直チニ消散スルヲ特徴トスルモノナルガ故ニ被告人ノ場合ノ如ク長時ニ互リテ前後四回同一行爲ヲ反復スルガ如キハ(被告陳述豫審調査)衝動行爲ニ相當セズ

斯ク檢討シ來ル時ハ被告人ノ犯行當時ニ於テハ癡呆(智能低劣)意識潤濁、突發的感動等思辨ノ能力ヲ大ニ障礙スル如キ要約ノ存在ヲ認ムルコト能ハズ、

九、ばらふれに

コハ從來早發癡呆或ハばらふれにのいあノ一部ニ編入サレシモノニシテ、妄想性癡呆ニテ顯著ナラザリシ理解作用ノ固有ナル變化、即チ

福岡市大字春吉一五九  
鑑定人 醫師 下田光造

或妄想ノ持續的ナルヲ特徴トシ、意志障礙及感情鈍麻ノ全然缺如スルカ、若クハ痕跡的ナルモノヲ云フ。即チ妄想性癡呆トシテ知ラレタル病型中、智的障礙殆ンドナク妄想固定シ、行爲及感情ニハ固有ナル障礙ヲ有セザルモノヲばらふれにト見做シテ可ナリ、而シテ本病ハ極メテ慢性的ニ來リ、患者ハ漸次疑惑的刺戟的性格ヲ發露シ、遂ニ錯覺ヲ伴フ被害妄想等現出スルモノヲ系統性ばらふれにト云ヒ、誇大乃至被害妄想ヲ主徴トシ、中等度ノ興奮來リ幻視ヲ伴ヒ、從來慢性躁狂ト稱シタルモノヲ誇大性ばらふれにト云フ、ソノ他潤色性乃至想像性ばらふれにト區別スルモノアリ。

法醫學的ニハソノ輕症ナルモノハ心神耗弱者トスベク、中等症以上ノモノハ心神喪失者ト見做スベキモノナリ。

十、微毒性精神障礙

(一)微毒性神經衰弱、本病ハ腦性微毒ノ最モ初期ニ現ハレ、初メ輕度ノ神經衰弱ノ症狀ヲ呈シ、次デ昏濛、出話困難、一時性麻痺、感覺障礙、嘔吐、體溫ノ上昇等ヲ來シ、精神的ニハ輕度ノ精神作用力減退、思考困難、注意散漫、記憶減弱等ヲ見、氣分ハ刺戟性不滿ニシテ怯懦或ハ興奮シテ不從順トナリ、特ニ注意スベキハ夜間ニ於テ増悪スル頭痛ナリ。

微毒性精神障礙

(二)ゴム腫、腦内ニゴム腫發生スル時ハ頭腔内壓ノ増加ニヨリ意識ハ屢々犯サレ、昏濛、無頓着乃至痴鈍トナリ、身體的ニハ多種多樣ナル竈症狀、麻痺、搐搦、痙攣、感覺障礙等ヲ見ル。

(三)微毒性疑似癲癇性癡呆、其症狀ハ後述スル眞性癲癇狂ト全ク同様ナレドモ、本症ハ後者ノ如ク死ノ轉歸ヲ取ル事少ク、眞性ノモノハソノ精神の症候深甚ニシテ一般的ナルニ反シ、本病ハ精神ノ部分的障礙ガ不平均ニ發露スルヲ見ル、而シテ身體的ニハ假性ノモノハ竈症狀ヲ呈スルヲ常トスレドモ、眞性ノモノハ言語、書字及瞳孔ニ於ケル障礙ヲ來スヲ見ル。尙假性ノモノハ腦脊髄液ノわつさーまん反應陰性ナルモ、眞性ノモノニハ陽性ナリ。

(四)卒中性腦微毒、先ヅ頭痛、記憶減弱、刺戟性感情、精神作用力減弱ヲ來シ、次イデ卒中發作ヲ起シ、ソノ結果半身麻痺、足現象、ばばんすきー現象ヲ見、多少ノ時日ノ後第二ノ發作ヲ來シ、斯ル間ニ痴鈍次第ニ加ハリ、領解困難判斷不能トナリ、一時性ノ興奮ヲ見ル事アリ、わつさーまん反應ハ血液内ニハ陽性ナルモ腦脊髄液ニテハ多クハ陰性ナリ、豫後ハ概シテ不良ナルヲ常トス。ソノ他微毒性癲癇、譫妄性錯亂狀態、微毒性癡呆、同似而非癲癇狂、遺傳微毒、變形微毒等ニアル精神異常乃至妄想性癡呆型微毒



等アリト雖、眞性ノソレトノ鑑別ハ血清學的診斷ニ依ルノ外ナケレバ茲ニ之ヲ省略ス。尙遺傳微毒トシテ白痴乃至痴愚ノ型式ヲ取レルモノ多キコトハ、敢テ贅言ヲ費サザルベシ。

法醫學的ニハ微毒性精神障礙ノ初期、即チ輕度ノ神經衰弱ノ症候ヲ呈スル頃ハ、勿論責任能力者乃至處分能力者ナルモ、疾病次第ニ進ミ來ルニ從ヒ、漸次心神耗弱者乃至喪失者トナルベシ。予ハ典型性微毒性疑似麻痺狂ニシテ一種ノ蒐集慾ニ驅ラレ、男子ナルニモ拘ハラズ京阪ノ有名ナル吳服店ニ於テ諸種ノ吳服類ヲ幾多ヲ萬引シ、而モ何等之ヲ使用スルニ非ラズ、窃取スルニ從ヒ家族ニモ之ヲ隠蔽シツツ、我家ノ押入中ニ藏品ヲ死藏シ居ルヲ官憲ノ手ニ發見セラレ、拘引セラレタルモノノ精神狀態ヲ診査シ、ソノ疾病ノ程度ニヨリ心神耗弱者ト鑑定シ、後同犯人方刑ノ執行猶豫トナリシヲ聞ケリ。

十一、麻痺性痴呆

或ハ麻痺狂トモ云ヒ本病者ハ統計上甚多數アルモノニシテ、多クハ遺傳關係ヲ有スルモノナレドモ、此素質ノ上ニ壯年時ニ得タル微毒ニ促サレテ發病スルモノ多キヲ以テ、大多數ハ中年以後本病ニ罹ルモノナリ。男子ノ罹病數ハ女子ノソレニ數倍ス。本病ハ精神病中身

性及抑鬱性麻痺狂ノ四トス。

(イ) 典型性麻痺狂、感情爽快ニシテ誇大妄想ヲ有シ、ソノ態度ハ尊大不遜ニシテ非禮ヲ行ヒ酒色ニ耽ルモノアリ、意識ハ多少濁濁シ、感想奔逸シ行爲不安、多業トナル。

(ロ) 興奮性麻痺性痴呆、猛烈ナル興奮ヲ呈シ歌唱、跳躍、誇大的妄想等アリ、又時ニ苦悶ヲ示シ、自殺、自傷、狂暴、不潔ノ舉動ニ及ブコトアリ、時トシテ經過極メテ急速ニシテ劇烈ナル錯亂及興奮ヲ示ス、之ヲ飛奔性麻痺性痴狂ト云フ。

(ハ) 痴鈍性麻痺性痴呆、ハ麻痺狂中最モ多キモノニシテ初期ヨリ已ニ痴鈍性ヲ示シ、一般ニ精神能力減退シ意識濁濁、記憶不良、決斷薄弱、作業能力減退等ヲ呈シ、一時性ノ妄覺或ハ興奮ヲ伴フコトアリ。

(ニ) 抑鬱性麻痺性痴呆、抑鬱性乃至苦悶性ノ感情異常、罪業及追跡妄想ヲ有シ、追想不良、意識濁濁ニ陥リ次デ漸次痴呆ニ陥ルモノナリ。法律的關係トシテハ精神薄弱ニ起因スル窃盜、偽證、放火等ヲ爲シ、興奮ニ因ル酒精耽溺、風俗壞亂、強姦及傷害等ヲナス。刑法上本病者ハ多クハ心神喪失者ニシテ、民法上ニハ家財ノ濫費、無謀ナル投機等ヲナスコトアレバ禁治產處分ヲナスベキモノトス。

體的徵候最モ顯著ナルモノニシテ、視神經萎縮、視力減弱、瞳孔左右不同、對光反應消失、或ハ減退、瞳孔ノ形狀不正、眼球振盪、四肢ニ於ケルリよまち様疼痛、痛覺鈍麻等アリ、顔面神經ハ左右不同ニシテ表情ハ茫乎トシテ痴鈍性ナリ、手指ニハ震顫ヲ見、筆蹟ハ震顫シテ字句ニ脫誤ヲ來シ、ソノ他ろんべるぐ氏症候、膝蓋腱反射消失、共濟運動障礙及歩行失調アリ、言語障礙亦著シク、錯語、言語蹉躓、分節言語、油滑言語及發音不明症等アリ、榮養障礙トシテ發疹、耳血腫、褥瘡等ヲ見、血清及骨髓體液中ニハハワつさーまん反應性ニシテ、且後者ニハ蛋白質含量及白血球數増加シ居ルヲ認ム。

本病經過中ニ麻痺性痴呆發作アリ、即チ癲癇様痙攣發作、或ハ卒中様失神發作ニ襲ハレ爲ニ死ニ至ルモノアリ。精神的症候トシテハ先ヅ理解力犯サレ、注意散漫トナリ、疲勞性充進シ、記憶力、記銘力減退シ、判斷不良トナル、精神的能力ハ一般ニ鈍麻シ、氣分ハ概シテ冷淡不管性トナリ、初期ニ於テハ一時的ニ刺激性ニシテ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ニ陥ルコト少ナカラズ、妄想ハ判斷不良ノ爲ニ起リ、ソノ種類ハ誇大、心氣、追跡、被害乃至憑依性ニシテ、内容ハ荒誕無稽、非理矛盾ニ富ミ、行爲ハ一般ニ無思慮ナルヲ常トス、臨牀的ニ本病ニ分テテ典型性、興奮性、痴鈍

第六十二例 鑑定書

大正十五年二月六日京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院ニ於テ、京都區裁判所石井判事ヨリ禁治產宣告申立事件ニ關シ、被申立人〇八太郎ハ(一)現時精神ニ異常アリヤ(二)異常アリトセバ其程度發病ノ時期如何ノ鑑定ヲ命ゼラレタリ。依テ同日ヨリ同年二月十八日迄、同院ニ入院中ノ被申立人ヲ觀察シ、特ニ數回檢診シ且同院備付ノ〇八太郎病牀誌ヲ參照シ、以テ此鑑定書ヲ作成スルコト左ノ如シ。

京都市上京區猪熊通中立賣上ル〇〇町〇〇番地

〇八太郎

明治十四年三月二十三日生

既往 歴

- 一、遺傳關係父母夙ニ死亡ス、弟一人アリシモ既ニ死去シ、妹一人健在スルノミ、此等血族ニ遺傳性疾患アルヲ證明セズ。
- 二、生活史本人ハ建築業者ニシテ、戸主ナリ、妻アリ孿子アリテ家庭圓滿、毫モ生活苦無シ、天性正直温厚ニシテ、唯時ニ二合位ノ飲酒ヲナスコトアルノミナリ。
- 三、現在病ノ發起及其後ノ經過、大正十三年十一月頃ヨリ、凡一週間程精神ニ異常ヲ發シ、其當時ハ躁狀ニシテ戶外徘徊症アリシモ沈靜セリ、大正十四年六月頃ヨリ再び同様ノ躁狂狀態ヲ發作シ、記憶力衰へ能ク健忘ス、同年十一月頃ヨリ著シク痴鈍トナリ頻リニ遺逸徘徊シ、頑固不從順トナル、夜眠リ難ク時ニ失神シ全身ニ痙攣様ノ振顫ヲ來スコトアリ。
- 大正十五年一月七日岩倉病院ニ入院ス、入院以來精神全ク痴呆狀態ニシテ身體的ニ麻痺性ノ諸障礙アリ、病勢次第ニ増進シ、同年一月二十七日朝突然全身ニ癲癇様發作アリ、翌二十八日ニ至リ恢復セリ。

現在 症

精神症狀、被申立人ハ、岩倉病院第二精神病舎内ノ一室ニ在リ、終日茫然ト



無爲ニ徒消シ、周圍ノ狀況ニ全く無頓著ニシテ唯食膳ヲ供スレバ自ラ攝取シ、兩便ヲ催セバ自ラ上圖シ、起床就寢ノ如キニ看護者ノ指示ニヨリテ行ヒ、漸ク自ラ爲スモ、其所作ハ運鈍粗雑拙劣ナリ。

指南力ハ著明ニ不良トナリ、現ニ岩倉病院ニアルコトヲ知ラズ、「今度出来タ警察デスナ」トイヒ、其日ノ年月日ヲ全く知ラズ、周圍ノ人例之同室者看護人主任院長長等ノ誰レナルヤ若クハ自分ニ接スル人ノ何者ナルヤヲ完全ニ理解セズ、誰レニテモ單ニ「警察ノオ方ナリ」ト言ヒ、本件ニ關シ最初判事等來院本人ニ面談スル處アリシモ何等ノ感興ヲ惹起セズ、ソガ何人ナルヤ何用ナルヤヲ領解セズ、判事彼ニ向ツテ何故ニ此處ニ在リヤト問フモ、「奉公ニ來テイマス」トイヘルガ如ク、何事ヲ尋ヌルモ漠然トシテ突飛ナル答ヲナスナリ。

記銘力即近時ノ記憶ハ、全然障礙セラレテ來院ノ日ヲ問フモ、常ニ「三日前、昨日ノ朝」等ト云ヘルガ如シ。

本人ノ經歷ニ關スル事柄ヲ尋問シテ、一般記憶力如何ヲ檢スルニ全く其順序配列ヲ失念シ、事實ヲ忘却シ、代ユルニ出鱈目ノ虛談ヲナスナリ。觀念内容ハ著シク貧弱トナリ、他愛モナキ事ヲ口走り、事物ノ名稱ヲ正シク思出シ難ク

君ノ名ハ

○八太郎デス

アノ人ハ(傍ニアル妻)

久江トイフオ方私ノ母デス

トイフガ如シ。

計算能力推理能力ハ、特ニ甚シク侵サレ簡單ナル、計算スラ之ヲ誤マレリ。

大工ノ手間ハイクラカ

コトツト……今ハ……三圓六十錢デス

ソレデハ十日間働クトイクラカ

三圓……一日方三十六錢……十日……二日デハイクラカ

……十七圓五十錢

一般智力モ甚シク低下シ、僅ニ彼ノ業務上ニ就テノ簡單ナル事項ヲ尋常ニ答ヘ得ルノミナリ。

感情ト情緒ノ發動ハ、殆ド消失シ、妻子ニ對スル親愛ノ情冷淡トナリ、家事ヲ顧ミズ、病院ニ在リテモ極メテ平氣ナリ。

自己癡病ノ感覺ハ無ク、「私ハ健康デス」ト常ニ云ヘリ。

身體症狀、體格良ナルモ、營養不良ニシテ一見肥滿スルガ如キモ、皮膚若

白筋肉薄弱ナリ、體溫呼吸脈搏共ニ正常ナルモ顔貌弛緩シ痴呆狀ヲ呈ス、

瞳子ノ大サ左右不同ニシテ光感反應全ク消失ス、構音ニ障礙アリテ言語蹇

跌滯シ、口唇、舌ニ震顫アリ、心臓不純ナリ、上肢ニ震顫及運動失調アリ

膝蓋髓反射左右共ニ異常ニ亢進シ、歩態不安蹣跚タリ、血液ヲ檢スルニ

微毒素質ノ潛在ヲ證明スル處ノわつせるまん氏反應陽性ナリ。

說明

以上ノ要點ヲ列擧スレバ、被申立人ニハ遺傳素因ヲ證明セズ、生活史ニ特記スベキ事項無キモ、大正十三年十一月頃ヨリ精神異常ヲ發シ、初發時躁狂狀ナリシモ再來其病勢ニ消長アリ、昭和〇年十一月頃ヨリ頓ニ痴鈍トナリ、時ニ癲癇發作アリ、本年一月七日岩倉病院ニ入院以來、其精神狀態ハ、全く痴呆狀ニシテ、同一月二十七日人事不省癲癇發作アリ、現在症ニ於テモ、著明ノ痴呆狀態ヲ呈シ、身體的ニハ特異ノ麻痺性諸症ナリ加フルニわつせるまん氏反應アリ、彼は綜合シテ考フルトキハ、被申立人ハ目下麻痺性痴呆ト稱スル重篤ナル精神病ニ罹リ居ルモノニシテ、確ニ正當ノ熟慮判斷ヲ缺キ、治産ノ能力ヲ失ナヘルモノト診斷セザル可ラズ、本病ハ治癒シ難キモノナリ。依テ鑑定スルコト左ノ如シ

鑑定

一、被申立人○八太郎ハ現時麻痺性痴呆症ニ罹リ居ルモノナリ

二、如斯キ精神病ニ罹リ居レル○八太郎ハ目下心神喪失ノ狀況ニ在ルモノナリ

三、本病ハ大正十三年十一月頃ヨリ發病セルモノナラント思惟ス

右之通り鑑定候也

大正十五年二月十八日

京都市上京區中筋通石藥師上ル大猪熊町

鑑定人 醫師 上 屋 榮 吉

十二、鬱病(めらんこり)

多ク五、六十歳ノ老年退行期ニ發スル苦痛性憂鬱病ニシテ、ソノ誘因トナルハ恐怖、愛子ノ死、いんふるえんざ及胃腸病等ナリトス、精神的ニハ苦痛憂鬱性トナリ、罪障、追跡乃至ひぼこんどりー性妄想ヲ發シ、ソノ發來ハ頗ル緩徐ニシテ、初メ神經衰弱樣症候ヲ呈シ患者ハ意氣消沈シ、苦悶涕泣シ、心痛、苦悶、疑惑等ノ陰鬱ナル念慮ヲ抱キ病覺強ク存ス、時トシテ二、三ノ妄覺現ハレ、惡魔、天使、巡查等來リ、己ヲ運ビ去ラント幻視ス、或ハ身體内部ニ聲アリテ患者ニ自殺ヲ勸告シ、彼ヲ非難ス、然レドモ意識ハ一般ニ濁濁セズ、所在識ハ良好ニシテ思考ノ方途ハ尋常ナリ。

比較的高齡者ニ發スル鬱病ハソノ症候次第ニ重クナリ、遂ニハ頗ル悖理ニシテ奇異ナル妄想ヲ發シ、時トシテ虛無妄想ヲ見、最後ニめらんこり、初老期被害妄想

誇大妄想發現シ妄覺モ亦多ク、意識ハ濁濁シ、考慮ハ錯亂ス、苦痛甚シキ時ハ患者ハ落付カズ暴行シ、往々甚シキ犯行ヲナス事アリ、之ヲ鬱病性暴動ト云フ、行爲ハ衝動的ニシテ屢自殺ヲ企ツ、予ハ鬱病性暴動ノ爲メ街上ニ於テ、何等自己ト關係ナキ小學生十數人ヲ殺傷スル患者ヲ實見シタル事アリ。

法律的ニハ本病ノ輕キモノハ心神耗弱者ニシテ、重キモノハ心神喪失者ヲ以テ擬スベキモノナリ。

十三、初老期被害妄想

初老期ニ於テ判斷衰弱シテ種々ナル追跡乃至被害妄想ヲ起シ、且感情ノ興奮セルヲ以テ主徵候トス、患者ハ明覺ニシテ所在識完全ナレドモ、先ヅひぼこんどり性觀念ヲ抱キ漸次追跡乃至被害妄想發來ス、時トシテ妻ノ不誠實ヲ妄想シ、稀ニ妄覺アリ、判斷ハ衰弱スレドモ記憶ハ佳良ナリ、氣分ハ多ク抑鬱的ニシテ苦悶アリ自己感覺亢進ス。

本病ノ經過ハ緩徐ニシテ豫後ハ概シテ不良、ソノ判斷衰弱ニ起因シテ殺傷、放火等ヲナス。

十四、老聾性痴呆

本病ハ高齡者ニ於テ領解及記憶ノ減退ヲ主トシ、漸次特有ノ痴呆



状態ニ陥ルモノニシテ、其症狀ハ理解遲鈍、判斷不良、考慮スルノ力ナク茫乎トシテ不關性トナルヲ常トス、殊ニ甚シキ記憶障礙、記録不能ヲ來シ、幼時ノ記憶等ハ比較的明瞭ナルモ、現時ノコトハ一分前ノコトヲモ忘却シ去ルコト多シ、而シテソノ談話ニ際シテハ、此等記憶ノ缺陷ヲ自製ノ空想ヲ以テ補填シ、且之ヲ眞ノ追想ナリト信ズルモノ多シ、ソノ他心氣性乃至被害性妄想ヲ有シ、感情ハ利己的トナリ、頑固、剛情、自恣ニシテ、行爲ニ不安ヲ來シ色慾ノ亢進スルコトアリ、甚シキニ至リテハ老老性譫妄ニ陥リ、意識濁濁乃至錯亂、苦悶、不安乃至幻覺等ヲ來ス。身體的ニハ不眠、振顫、構音障礙、動脈硬化症等アリ。時トシテ談話等ニ大過ナクシテこるさこぶ症狀ヲ呈スルコトアリ、之ヲふれすびをふれにト云フ。

法律的關係ヲ述ブレバ初期ニ於テハ輕度ノ興奮ノ爲メ風俗壞亂、少女強姦、窃盜等ヲナシ、又智力衰弱ニ起因スル詐偽或ハ偽證等ヲナスコトアリ、即チ刑法上ニハ心神喪失乃至耗弱ヲ以テ論ジ、民法上ニハ禁治産トスベキモノナリ。

### 十五、傳染性病性精神病

種々ノ急性傳染病ノ爲メニ誘發セラルル普通ノ精神病ニ就テハ茲ニ贅セズ、唯、腸瘻扶助、天然痘、丹毒、まらりあ、流行性感冒、不良トナリ、遂ニ睡眠乃至昏睡ニ陥ルノミナルガ、生來性變質者、ひすてり或ハ癲癩ノ素因アルモノニテハ僅少ノ酒精飲用ニ依リ、あるこぼるニ對スル異常反應顯出シ所謂飲酒不堪症ヲ來シ、意外ノ精神の障礙ヲ來スモノニシテ、彼ノ病的酩酊状態トハ異常酩酊ノ爲メニ意識濁濁シ、無意識ナル興奮若クハ衝動的行爲ヲナシ、覺醒後之ヲ想起スルコト能ハザルモノヲ云ヒ、暴飲症トハ時々不快遺ル瀾ナキ發作ニ驅ラレ、酒盃ヲ手ニシテアラユル資産ヲ酒ニ代ヘ數日間飲飲シテ止マズ、泥酔ノ極昏倒スルモ發作止マバ寧ろ酒ヲ厭ヒテ眞面目ニ仕事ニ従事スルガ如キモノヲ云フ、此等ノ種々ノ狀況ノ下ニ衝動的暴行、色情興奮ニ起因スル猥褻行爲、放火、傷害窃盜、強盜、詐欺等ヲ構フルモノ少ナカラズ。予ハ飲酒不堪症或ハ病的酩酊ノ爲メ全ク不知ノ間ニ殺人乃至放火等ヲ敢行セル十數例及定期性暴飲症ノ爲メニ數回民家ニ放火セル數例ヲ鑑定セル事アリ。

次デ飲酒ヲ常癖トスルモノハ所謂慢性酒精中毒ニ陥ルコト多シ、慢性酒精中毒ニテハ作業能力減退、疲勞性亢進、判斷不良、記憶減弱ヲ來シ、其程度進ムニ從ヒ被害性竝ニ誇大性ノ妄想ヲ生ムコト少ナカラズ、酒ニ對シテハ非常ニ意地汚クナリ、酒ノ爲メニハ道義ヲ失シ恥辱ヲ買フモ意ニ介セズ、家族ニ對スル温情ヲ失ヒ自己感情充

恐水病、舞蹈病等ニ在テハ、其體温ノ急激ナル昂騰或ハ毒素ノ作用ニ基キ種々ノ精神異常ヲ來シ、就中發熱中所謂熱性譫妄ヲ發シ、意識濁濁、妄想乃至興奮等ヲ見、時トシテ昏睡状態ニ陥ルモノアリ。ソノ他傳染病後ノ衰憊状態ニテモ、智力衰弱、感情減退、意識濁濁、妄想興奮等ノ症狀ヲ遺スモノナリ、而シテ此等ノ場合ニ於テソノ智力ノ低下或ハ感情ノ興奮シ易キニ起因シ往々犯罪行爲ヲナスコトアリ、又婦人ニ於テハ產褥ノ衰憊ニ因リテ急性錯亂性精神病(あめんちあ)ヲ來シ、ソノ間ニ嬰兒殺ヲ行フコトアリ、此等ノ錯亂期間ハ刑法上所謂心神喪失ノ狀況ニアルモノナリ。又嗜眠性腦炎後ニ來ル所謂ばーきんそにすむすニ於テハ、性格ニ變化ヲ來シ往々放火等ノ犯行ヲナスコトアリ。

### 十六、中毒性精神病

醫療上ノ藥劑或ハ食品中ノ毒物乃至嗜好品ノ中毒ニ依リテ種々ノ精神病ヲ來スコトアリ、今ソノ中、吾人ノ最モ多ク遭遇スルモノ二、三ヲ略述セム。

#### (イ)酒精中毒

酒精飲料ノ飲用ニ依リテ來ル普通ノ酩酊状態ハ即チ一種ノ急性酒精中毒ニシテ、此際常人ニテハ爽快、多辯、多動、注意散漫、領解進シ、他人ノ利害ヲ顧ルコト少シ、酒ニ酔ヘル時ハ爽快ニシテ諧謔ヲ弄シ樂メドモ、一度醒ムレバ不平、不滿、灼熱性苦楚アリテ暫クモ靜座スルコト能ハザルガ如シ。

慢性酒精中毒者ニハ心臟ノ脂肪變性、肝臟硬化、腎臟萎縮等ヲ起シ、且ツ手及舌ニ於ケル震顫、上下肢ノ萎弱、知覺異常、陰萎等ヲ伴フ、ソノ他子孫ノ身體ニ恐ルベキ遺傳的素因ヲ與ヘ、其後繼者ニ精神病者、白痴等ヲ出スコト多シ、次ニ酒精中毒ニ基因スル精神異常ニ特殊ノ型樣ヲ供フルモノアリ。今之ニ就テ略述セン。

- 一、酒客譫妄、本病ノ發生ハ四十歳前後ニ多ク、初メハ小ナル動物或ハ昆蟲類ガ蠢々トシテ眼前ニ躍動スル有様ヲ幻視スルモノ多ク、暗示ニ依リテ此幻視益々甚シクナリ、ソノ他幻聽ノ來ルコトアリト雖、患者ハ一般ニ此等幻視ニ對シ平然タリ。
- 尙記銘及指南力ニ障礙アリ、身體的ニハ振顫、睡眠不良、癲癩樣發作等ヲ見、行爲ハ不安ニシテ多辯饒舌トナル、時トシテ苦悶ノ爲メ周圍ノモノニ反抗シ、暴行ヲ試ミ自殺企圖ヲナスコトアリ。
- 此譫妄状態ハ、凡ソ二、三日ニシテ經過消失スルモノナルガ、ソノ經過後譫妄時ノコトヲ追想シ得ザルヲ常トス。

二、こるさこぶ氏精神病、本病ノ主徵ハ著シキ記憶障礙、指南力喪



失及追想誤謬トナス、往々一分間前ノ事スラ忘却シ、又錯誤セル追想ヲ以テ此缺陷ヲ充填ス從テ虚談ニ陥ルモノ甚ダ多シ、身體的症狀トシテハ酒精性多發性神經炎著シ。

三、酒客幻覺性妄想病、本病ニテハ意識犯サレズ妄覺妄想ヲ主トスルモノニシテ、被害乃至追跡妄想ヲ有ス、發病ノ期ハ多ク夜間ニシテ自己ヲ脅迫、罵詈スルガ如キ聲ヲ幻聽シ、或ハ恐ロシキ追跡者ヲ幻視シテ苦悶ス、指南力及病識アリ、患者ハ此幻覺ノタメニ假想ノ追跡者ニ加害シ若クハ自殺或ハ逃走ヲナスコトアリ。

四、酒客嫉妬妄想、酒精中毒ニ基ク夫婦間ノ不和又ハ生殖器官ノ減弱ニ基ク色情的嫉妬妄想ヨリ、潔白ナル妻ニ不倫ノ行爲アリト妄想シ、妻ヲ虐待シ、暴行ヲ加ヘ、争鬭傷害スルコトスラアリ、本患者ハ此妄想以外ニハ、全ク病的症狀ヲ認メザルモノニシテ、飲酒ヲ廢スレバソノ妄想モ漸次消退ス。

五、中酒性麻痺狂、コハ中酒性ノ精神病ニシテ、麻痺狂ニ酷似スルモノヲ云フ、即主トシテ幻覺、記憶障礙、震顫、腱反射消失、運動失節、瞳孔強直等殆ソド眞ノ麻痺性痴狂ト同様ノ性狀ヲ呈スルモノナレドモ、眞ノ麻痺狂ニ必要ナル言語蹇蹇、多幸症等ノ症狀ヲ缺キ、又血清及腦脊髓液ハ異常ナキヲ常トス。酒精性飲料ト犯

第一 既往歴

遺傳歴、主トシテ被告ノ口述ニ依リ調査太〇貞〇助ノ復命書(明治四十年十一月十六日付)實父彌〇郎ノ訊問調書(同年十一月十七日付)ヲ参照ス故ニ文體亦コレニ順ズ  
彌〇郎五十六歳ニシテ尙存命スルモ吃リ癖性ニシテ機嫌變リ易ク顔面ノ(左?)半側痲痺シ唾ヲ垂ルノ常癖アリ酒量ハ毎晩一合乃至五合元ハ一升位モ存ミタリ同人ヨリ「聞及ベルニハ微毒ニ罹リシコトアリト  
母「みき」生來健全ナリシガ被告(長子)分娩後虛弱トナリ常ニ頭痛胃痛等ヲ訴フ  
父ノ同胞ハ二兄姉一妹ニシテ一兄ハ廿二歳ノ頃肺患腦症ニテ死亡、一人ハ胃弱、便秘頭痛等ノ持病アリ叔母二人モ亦頭痛持ニテ内一人ハ現時葬者ナリ他ノ一人ハ熱病ニテ死亡セリ被告ノ從兄弟ニ尙健病者葬者各一人ヲ出セリ母ニ二兄一弟三妹アリ何レモ痲性ニシテ一弟ハ胃弱ヲ患エ時々亂神シテ多辯トナリ不要ノ品物ヲ購入スルコトアリ他ハ偏屈ニシテ頭痛持ナリ妹ノ一名ハ始終灸治ヲナシ一名ハ虛弱ニシテ或時熱性病ニ罹リシガ爾來喫驚スレバ身體ノ運動自由ナラザルコトアリ(驚愕痲痺?)他ノ一名ハ頭痛持ニシテ高度鬼唇ナリ  
母ノ從兄二、三人ノ精神病者ト一人ノ尙健病者アリ父側ノ祖父(彌平)ハ胃弱ヲ患ヘ卒中ニ罹リ口角ハ一方ニ牽引セラレ性頑固ナリシソノ血族中ニモ卒中ニ罹リシモノ一名アリ(尙存命)又痲性ニテ絶エズ手ヲ運動セシムル癖アル者(既ニ死亡)アリタリ  
父側ノ祖母ハ頭痛持ニテ往々物ヲ吐ク癖アリタリ(ソノ姪「之め」ハ狂症ニ罹リ明治二十一年八月廿九日死亡セリ、尙ソノ血族中ニ半身不隨者二名アリ(生存)本人ノ遠縁者ニ一名ノ精神異常ヲ呈セルモノアリ祖母ノ姪ノ兒ハ腦膜炎ニテ死亡セリ  
母側ノ祖父ハ偏屈ナリシガ十四、五年前劇性ノ頭痛起リ益々増勢シ四日人事

罪トノ關係ハ極メテ密接ナルモノニシテ、飲用者自己ガ犯罪者トナルノミナラズ、ソノ子孫ニモ反社會的乃至非社會的ノモノヲ多ク出シ、甚ダ寒心スベキモノナリ。

急性酩酊ノ際ニハ、侮辱、暴行、破壊、猥褻行爲及窃盜等ヲナシ慢性中毒者モ亦同様ノ犯罪ヲナス外、浮浪ノ徒ヲ出シ、又妄覺妄想ニ驅ラレテ殺人ヲナスコトアリ、刑法上ノ責任能力ニ對シテハ甚ダ種々ノ程度アリテ、一概ニハ論ジ難シト雖、高度ノ意識濁濁ニ基クモノハ、勿論心神喪失者トナシ、中等度ノ酩酊、或ハ妄想ニ驅ラレザル慢性中毒者ノ行爲ハ、心神耗弱ヲ以テ論ズベキモノトス、民法上ニ於テモ高度ナル中毒者ハソノ處分能力ヲ奪ヒ、輕キモノハ心神耗弱者、モシクハ處分能力ヲ有スルモノトシ取扱フベシ。

第六十三例 鑑定書

明治四十年十一月十七日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇〇〇〇ハ木〇利〇郎放火被告事件ニ付同豫審延ニ於テ  
一、明治四十年八月四日以降ニ於ケル被告ノ精神狀態ヲ鑑定ス可キコトヲ予ニ命ゼリ依テ先づ本件ノ一件記録ノ審閱シ且明治四十年...八回〇〇監獄ニ於テ同人ノ身神狀態ヲ檢診シ彼是ヲ綜合シテコノ鑑定書作ル  
本籍〇〇縣〇〇郡〇〇村千五百四十三番地  
當時〇〇監獄在監中  
木〇利三郎  
(明治拾六年四月生)

不省ノ狀態ニナリテ終ニ死亡セリ(太〇巡查ノ復命書ニハ腦充眼トアリ)コノ他ソノ血族中ニハ一名ノ卒中者ト一名ノ狂者ヲ出セリ母側ノ祖母ハ産後一時頭痛アリシモ現時ハ健全ナルガ如シ  
被告ハ九人ノ同胞(被告ト共ニ)アリシモ内五人死亡シ(其病症ハ何レモ不明ナリ)今ヤ二弟一妹アルノミ長弟ハ一旦兵役ニ就キシモ慢性氣管枝カタルノ爲現役免除トナリ末弟ハ頭痛ト鼻閉ノ持病アリ妹ニハ虛弱ノ質アルノ他記ス可キコトナシ  
血族ニ於ケル精神病ノ系統ニ關スル實父彌〇郎ノ陳述ハ被告ノソレト相一致セズ何レガ眞ナルヤ予ハ之ヲ知ラズ因テ次ニコレヲ摘記ス(明治四十三年十一月十七日彌〇郎豫審訊問調書參照)  
參考人(彌〇郎)方ニハ精神病ノ系統ハナキヤ  
答、私ノ母ノ實妹即チ母ノ兄ノ子ガ發狂シテ十五年程前死亡シ又私ノ妻ノ母ノ姪及妻ノ弟ノ子ガ各一人發狂シテ三年程前死亡シマシタガ凡ソ十四、五年氣逆テ居リマシテ三十歳カデ死シタノデアリマス尙私ノ母ノ父ノ姪ハ痲性デ又父ノ姉ノ子ガ今五十歳程ニ成リマスガ二十歳位ノ年ニ氣逆ニ成テ其儘存命テ居リマス此ノ外ニ私ノ親類デ氣逆ニ成テ者ハアリマセズ  
被告ノ生活史、被告ノ予ニ言フ所ニ依レバ被告ハ鬼唇アリシ爲實子ナルニモ係ハラズ被告ノ他家(母ノ里)ヨリ貰ヒ受ケタルモノナリト云ヒ叔父ガ之ヲ否認スレバ自分(被告)ニハ益々疑ヲ生ジ平常ノ舉動モ亦左様ニ思ハレ要スルニ他ノ同胞ニ比シ何トナク繼子扱ニサル、ガ如ク感じ不愉快ノコト多ク現時ニ於テモソノ心念尙未ダ全ク去ラズ小學校ニ於テモ鬼唇ノ爲學友ヨリ輕蔑セラレタリ是レガ爲ニ多少身ヲ持崩シ酒色ニ耽ケリシコトアリ且從來物事ニ感ジ易キ方ニシテ芝居ヲ觀、小説ヲ讀ミテ往々落涙スルコトアリ學業ハ尋常小學校ヲ卒ヘソレヨリ一兩年間補習科ニ入り尙別ニ多少ノ漢籍ヲ修メタリ在學中讀書習字歴史等ヲ好ミ理科算術等ハ嫌ニシテ不得意ナリシ又體操ニハ眩暈頭痛等ノ爲往々席缺セリ、ソノ後ハ父ノ商業(金物及質商)ヲ手傳シモ質物庫ニ



入レバ異様ノ臭氣アリ又人ニ金錢ノ談判ヲ手酷シクスルコト可可愛想ナリシ故實業ノ方ニハ全ク關係セザリシ前陣ノ如ク他ノ同胞ニ比シ自分ハ繼子扱ニサル、ヲ以テ何トナク面白カラズト思ヒ居リシガ十五、六歳ノ頃頭痛(左側偏頭痛)嘔吐、心悸動進、痲性等ノ爲醫藥ヲ受ケシコトアリソノ後ニ至リ不滿放蕩ノ結果十七、八歳ノ頃無斷家出シテ京都ニ赴キ或金物屋ニ奉公セシモ間モナク罹病ノ爲京都府立療病院ニ入院受療セリ即チ一方ニハ免唇及包莖ノ手術ヲ受ケ(其際全身麻酔ノ爲非常ニ恐懼ノ念ヲ懷ク是ガ爲爾來腦ガ悪クナリ物忘れスル様ニナレリ)一方ニハ第二期梅毒ト診斷セラレ脊髄ニ故障アリトテ電氣療法ヲ受ケ且石膏繃帶ヲ用ヒシコトアリ又ソノ頃他ノ病院ニ於テ胃痛ノ爲「もるひね」ノ皮下注射ヲ受ケ後ニハ自分デ注射スル様ニナリ日々三四回注射セザレバ身體ニ倦怠ヲ覺ヘタリ(コノ「もるひね」注射ハ半年許繼續セリ)退院後歸村シ二十歳頃迄父母ノ許ニ在リシモ既述ノ如ク何トナク繼子扱ニセラル、様ニ思ハレ腹ガ立チ目ヲ眩ム様ニ覺ヘタル故不滿ニ堪ヘズ臺灣臺北ニ同郷者吳服店ヲ開キ居ルヲ幸ニ親戚ノ止メルヲモ開入レズ無理ニ渡臺シ該商店ニ奉公シ又自ラ進物品ヲ行商セリ右臺灣滯在中劇性ノまらりやニ罹レリ二年許滯在ノ後家族ノ勸告ニ因リ再ビ歸村シ間モナク結婚セルモ妻ハ半年許ニテ死亡セリ而シテソノ死亡ノ後ニモ自分ノ意ニ落チザルコトアリタリ即チ同人(妻)ノ石碑ヲ自家ノ墓地ニ立テズ實家ノ墓地ニ建テシヲ以テ不思議ニ思ヒ居リシモ父母ハ勿論親族ノ者迄満足シ居レリ尙被告ハソノ當時ニ於ケル不思議ノ模様ヲ詳記シテ曰ク

よね(妻)死去ノ節父ヨリ進メラレ水浴シ冷水滴タ、ル衣服ヲ着タル儘歸宅セリ即チコノ年十月十九日夜隣村ニ芝居興行アリ(よね)ノ實父及ビ親友五、六名相携ヘテ見物歸途〇〇村山月樓(料理屋)ニテ飲酒ノ上(尙芝居ノ中ニテモ飲酒セリ)二十日午前二時頃歸宅就寢シ午前八時頃起床セルニ  
前夜過飲セシヨリ頭痛甚敷未ダ酒氣モ去ラズ手前所有ノ山林迄葦類既ニ發生シアルヤ否ヲ見ル爲メニ宅ヲ出デ、行キ事ハ少シ記憶セリ山ニ行ク道中モ

マシタ

犯罪行爲

一件記録ニ依レバ被告ハ明治四十三年八月四日居村喜〇彌〇廿二日植〇仙〇十月廿日谷〇五郎、同三十一日谷〇作〇門、十一月八日上〇佐〇郎同十二日川〇信〇方ニ何レモ飲酒ノ上放火セルモノナリ

犯罪行爲ニ對スル被告ノ自陳

何分餘程時ガ経タノト後デ如何ナル必要ガ起ルナドノコトハ當時毫モ意ニ介セザリシヲ以テ喜〇彌〇他五人ノ家宅ニ火事アリタル當夜何處デ酒ヲ吞ミソレヨリドノ道ヲ經テ其際如何ナル人ニ出遭ヒ又何時頃ニ歸宅セルヤ等ハ今ヤ多ク之ヲ記憶セズ尙ソノ頃苦悶恐懼妄覺妄想強迫觀念等ヲ有セル覺ナク只川〇信〇方ニ火事アリシ當夜山月樓ニテ飲酒シテ谷〇作〇門方ニテ煙草ヲ買ヒタルコトノミハ未ダ之ヲ記憶スト又、被告ハ喜〇彌〇他五人ニ對シ放火ス可キ怨恨ナク火事ニ紛レ何カ窃取セントセルニモアラズ消防ニ手傳ヒ飲食物ノ振舞ヲ受クルヲ喜ブニモ非ズ人ノ驚愕狼狽スルヲ見テ面白半分ニ放火セルニモアラズ、簡言スレバ喜〇ノ等ノ家ニ放火ス可キ由因ヲ有セズ又放火セル記憶ナシト云フ但被告ハ殊ニ飲酒ノ上或ル行動ヲナシ後ニ至リ全ク記憶セザルコトアレバ記憶ニ存セザルヲ以テ自分ガ放火セルモノニアラズト斷言スルコト能ハズト例之或時被告ハ北〇某方ニ至リ縊死セント云ヒタルヲ以テ北〇ヨリ急ヲ被告ノ兩親ニ通報セル由ナルモ被告ハ毫モ之ヲ記憶セザリシ又或ル時ハ某家(但自分ヨリ眼下ノ内ナリ)ニ至リソノ家ニ向ヒ「予ハ當家ノ娘ト結婚スル爲當人ト親シク熟談致シ度ニ付早ク屋外ニ避ケヌタシ」ト云ヒタル由ナルモコレ亦記憶セズ且同女ヲ戀愛スル等ノ心ハ更ニコレナカリシ故ニ於テ予ハ被告ガ水〇警察署及豫審廷ニ於テ自白セル點ヲ擧ゲ今予ニ彼方言フ所ト相一致セザルヲ聞訊セバ彼ハ曰ク警察署員ハ予ニ向テ總テノ方面ニ最早手ヲ廻リ居リ被告ニ尾行シテ一々行動ヲ監視シ居リタレバ上掲ノ放火ガ被告ノ所爲タルコトハ判明シ居ル故有體ニ自白スル方被告ノ爲ニ利益ナリト説諭訓戒セ

初メノ程ハ多少記憶シ居リシガ何時ノ程ニカ何處トモ分ラズ父ヨリ頻ニ入浴ヲ進メラレテ入浴シタル所冷氣ヲ感ジ上浴シ暫時睡眠セシモ日酷メテ甫メテ山ニテ眠リ居リタル事ヲ覺ヘ不審ノ儘歸宅セリ

コノ後父母他行ヲ肯ゼシリシモ大阪ニ赴キテ一年許或ハ石版業店ニ奉公シ或ハ砲兵工廠ノ書記ニ雇ハレタルコトアリシガ其頃弟ガ朝鮮ニ赴キシヲ以テ自分モ非常ニ同地ニ行キ度ナリ國元ヨリ金ヲ取寄セ終ニ親族ニ相談ノ上後ヨリ渡航シ九州ノ人國友某ト合資シ料理店ヲ開キシモ同人ニ欺カレテ失敗シソレヨリ賣藥ヲ行商シ一年程滯在セシガ明治四十二年十二月弟ガ徵兵入營ノ爲歸國セルニ依リ被告モ共ニ歸來シ爾來引續キ在郷セリ右朝鮮滯在中氣ガ鬱スルト「もるひね」ヲ用ヒタルニ氣分爽快トナリ之ヲ用ヒザレバ「フラ」ノ「ス」様ニ感ジ半年許モソノ服用ヲ持續セリト

酒量、被告ハ元好シデ飲酒スル程ニハアラザリシモ僅ノコトニテ立腹シ飲酒シテ益々立腹スル様ニナリ殆ンド每晚飲酒セリ其量一度ニ二、三合乃至七、八合ナリシ

上記セル被告ノ生活史ハ被告自ラノ口述ニ係ルモノナリコレニ付被告ノ父彌〇郎ハ四十四年十一月十七日豫審廷ニ於テ左ノ如ク陳述セリ

問、今日マデ利〇郎ハ大患ニ罹リシ様ノ事ハナカリシカ  
答、十五年春頃ニ家事ヲ手傳ハシテモ大儀ガツテゴロノト仕事ヲ少シスルト寝轉ンダリシテ居ルノデ醫師ニ診テ貰ツタラ神經病ト云フ人モアリ肺病ト云フ人モアリマシテ療養サセ其年ノ七、八月頃ニ良ク成リマシタ十七年ノ六月ニ京都金物商ニ奉公ニ出シマシタラ半年モ經タヌ内ニ脊髄病ニ罹リ二ヶ月程入院シテ直ニ亦速レテ歸リ家事ヲ手傳ハシテ置キ二十ニ成テ臺灣ニ二年程行ヲ居ツテ亦歸リ夫レヨリ今日マデ別ニ病ナドト云フ事ハアリマセヌ

問、尙利〇郎ハ酒ヲ嗜ムヤ  
答、酒ハ好ナ方デ一遍ニ五合位ハ飲ミマス宅デモ大概每晚一合カ一合半位飲

ラレタルヲ以テ不得止一時ソノ儘ニナシ置キタリ又豫審廷ニ於ケル訊問ハ簡短ニシテ充分辯明スルノ遺ナカリシト

第二、現在徴候

身體的徴候

體格營養共ニ中等ノ一男子皮色稍ヤ蒼白姿勢尋常時々不眠便秘ヲ訴フ頭首ノ大サ周圍五・五種、縱徑一八・〇種、横徑一五・〇種即チ短頸ニ屬ス頭皮ニ皺痕無ク輕打スルニ顫頂左前部稍ヤ過敏ナリ顔面左右兩半同形ニシテ顔面ニ麻痺痲痺ナク眼窩ノ下緣ヲ試壓スルニ微痛アリ(殊ニ左側)眼動及視力ニ障礙ナク瞳孔中等大ニシテ對光反應アリ上唇ノ左側不正線狀ノ痲痕アリ(鬼唇手術ノ痕跡ナリ)舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ振顫ナシ齒列稍ヤ不整數個ノ齶齒アリ口蓋弓ニ痲痺ナク咽喉反射缺如ス構音ニ障礙ヲ認メズ耳形、聽力共ニ尋常肺臟ニハ理學的診斷上記ス可キノ異常ナク心尖搏動、左第五肋間ニシテ乳嚙線ヨリ内方約一・五種ノ所ニアリ心臓ノ濁音異常大、三尖瓣ノ第一音昂進腹腔ノ臟器ニハ特記ス可キノ著變ナシ脊柱ニハ異常ノ彎曲ナク輕打スルニ胸椎ノ下部腰椎ノ中部ニ微痛アリ知覺(觸覺、位置覺)運動ニ變微ナク腹反射缺如シ骨膜及膝蓋反射常態提舉筋反射亢進ス

精神病的徴候

被告ガ檢者ノ前ニ著座シ診察室ヲ去ルヤ相當ノ挨拶ヲナシ又診察中モ敢テ體ヲ亂ス等ノコトナシ

一、指南力ノ如何ヲ檢スル爲被告ノ氏名職業年齡住所目下ノ年月ト入監ト月日父母同胞ノ存在知己ノ姓名等ヲ尋ルニ其應答何レモ正確ナリ

二、領解力及注意力、被告ハ檢者ノ發問ヲ正シク解シテコレニ相當ナル應答ヲ舉動ヲナシ又閉目ノ上諸種ノ物品ヲ試觸セシムルニソノ品質、形狀、物品ヲ確答スルコトヲ得、一二ノ誤字アル文章ヲ示セバ直ニソノ誤字ヲ發見シテ之ヲ訂正シ或ハ談話中急ニ話柄ヲ他方ニ轉ズレバ彼亦コレニ適合ス

三、記憶力、往時ノコトニ就テモ近時ノコトニ就テモ記憶力ハ先づ尋常ナリ



例之彼ノ年齡學歴彼ガ往年京都ニ奉公セシコト其際罹病入院セルコト其後臺灣朝鮮等ニ渡航セルコト其滞在期並ニ滞在中ニ於ケル出來事ノ概略又近時ノ來狀及其内容或ハ來訪者前同ノ檢診時ニ於テ命ゼラレタル事柄等皆彼ノ記憶ニ存ス只今同ノ犯罪行為ニ就テハ後ニ至リ如何ナルコトガ必要トナルヤ當時勿論之ヲ思量セザリシト日數ノ既ニ餘程經過セル爲其當時果シテ何處ニ在リ何ヲナシテ居リシヤハ一々確言スルコト能ハズト雖放火セル覺ハ更ニナシト云フ

- 四、妄覺妄想現時ニ於テモ犯時ニ於テモソノ存在ヲ認ム可キ虞ナシ
- 五、觀念、觀念聯合及ビソノ速度モ亦尋常ニシテ迂遠冗長症、支離滅裂症、常同症又聯想ノ滯滯或ハ促進強迫觀念ノ存在ヲ認メズ又或ル事歴ヲ順序ヲ追テ口述セシムルニ敢テ常人ト異ナル所ナシ
- 六、計算力、加減乘除及ビ分數丈ケヲ修得セリト云フ被告ノ計算力ヲ檢スルニ普通ノ四則位ハ別ニ誤算ナシ故ニ先ヅ教育程度ニ相當ナリト思ハル
- 七、感情、顔貌様子、談話ノ調子等ニ依レバ被告ノ感情ハ別段、沈鬱悲哀性或ハ爽快樂觀性ナルコトナク感情興奮性ニモ亦著變ナシト雖彼ノ感情、愛、轉換シ易キ方ニシテ認ム可キノ原因ナクシテ談話中間々流涕シ或ハ笑聲ヲ漏スコトアリ
- 八、行為ニハ不靜、多業、走躍衣類裂脫又ソノ反射候ヲ見ズ尙強硬症狀反響症狀同症狀拒絶症狀等意思被影響性ガ増進或ハ減退セルノ微標ナシ

第三、說明

一、上來記述セル現在徵候ニ依レバ現時被告ノ精神狀態ニ彼ヲ精神病者ナリト認ム可キ據ナシ然共彼ガ極メテ濃厚ナル遺傳ヲ有スルコトハ彼ノ血族ニ數多ノ精神病者乃至神經系ノ患者(癩性頭痛、卒中痙縮癱瘓者等)ヲ出セルコトニ依リ明ナリ又彼自身ノ神經系モ強健ナラザリシコトハ屢々醫藥ヲ要シ殊ニ脊髓病頭痛、不眠症等ニ罹リシコト氣分ノ轉換シ易カリシト僻根性ノ絶エザリシコト諸所ヲ流浪セルコト等ノ既往歴ニ徴シ充分之ヲ推知ス

ルコトヲ得而シテ被告自ラ及父彌〇郎ノ陳述ニ依レバ飲酒ノ量モ決シテ僅少ナラズ加フルニ一度ハ微毒ニ罹レルガ如シ

二、犯罪當時ニ於ケル被告人精神狀態ニ異常ナカリシヤ否ヤ追究スルニ之ヲ一件記録ニ徵スルモ將亦被告ガ檢者ノ問診ニ對シ答フル所ニ依ルモ被告犯罪時持續性ノ精神病ニ罹リ居レルコトノ根據ハ之レナシト雖頗ル疑シキハ急性酒精中毒ノ一種タル病的酩酊ナリトス病的酩酊トハ酒精飲用ニ對スル反應(即チ酩酊)ガ常人ト異ナリ頗ル劇烈ニシテ妄覺妄想(殊ニ被害性妄想)衝動性行為(多クハ暴行)色情興奮、原因不明ナル恐懼、憤怒、指南力ノ障礙殊ニ甚シキ意識濁濁等ノ諸徵候ヲ呈シ是レガ爲ニ不可制性ノ犯行種々ナル暴行自殺企圖放火等ノ危險行為或ハ色情興奮、陰部暴露症等風教紊亂ノ行為ヲ爲スモノヲ謂フ而シテ是等ノ症狀ハ酒精ソノモノ、作用殊ニ其量ニ直接關係アルモノニアラズシテ、寧ロ常人ノ體質如何ニ因ルモノナリ今一件記録ニ依テ之ヲ按ズルニ上掲ノ諸症狀ガ具備セルコトハ之ヲ證明スルコト能ハズ然レ共一面利〇郎ハ前項ニ説述ノ如キ遺傳及體質即チ本症ニ罹リ易キ素因ヲ有シソノ犯行ハ何レモ飲酒後ニ爲セシコト被告ガ明治四十三年十一月十三日水〇警察署ニ於テ陳述セル所ニ依ルモ犯行當時多少意識ノ濁濁セルコトハ之ヲ想像スルヲ得(四十二年十一月十二日付被告陳述取書參照)殊ニ被告ガ檢者ニ語ル所ニ依レバ上掲ノ如ク犯罪行為ニ關スル記憶ハ全クコレ無キコト一面ニハ病的酩酊ノ徵候ハ毎回必ラズ上述ノ如ク顯著ナルモノニアラズ加之往々極メテ速ニ(數分間)過行シ從テ傍人ノ之ヲ觀察スルノ違ナキコト等ヨリ考フレバ若シ被告ガ本件ノ真正ナル被告人ナリトセバ記憶缺損ノ他ニ確徵ヲ證明スルコト能ハザルノミヲ以テ被告ガ犯時病的酩酊者ナリシコトヲ否認スルコトヲ得ズ況ヤ記録〇〇丁第十六ノ記事ニ「從來私ハ酒ガ少シ過ギマス他人ノ家テ寢テ仕舞フコトモアリマスカラ今回ノハ都合能ク六回共宅へ來テ寢テ居リマシタ其歸リ掛ケニハ普通料理屋ヨリ直ニ宅へ歸ル様ナ氣持ノ能イコトハアリマナシトアリ又彼ハ先年妻ノ

死亡ノ當日前後多量ニ飲酒セシ末茸狩ノ爲山ニ登リ知ラス間ニ水中ニ陥リ衣服ヲ浸濕シテ初メテ醒覺セル等ノ事實アルニ於テオヤ要之被告ガ犯時病的酩酊ノ狀態ニアラザリシコトハ之ヲ斷定スルコトヲ得ズ

第四、鑑定

上記ノ如キ理由ナルヲ以テ左ノ如ク鑑定ス

一、現時被告ノ精神狀態ニ異常ヲ檢出セズ

二、犯時被告ハ或ハ病的酩酊ノ狀態ニアリシナラント推測ス少クトモ彼ハコノ狀態ニ陥リ易キ素因ヲ有セシモノニシテ今日ト雖尙之ヲ有スルモノナリ此ノ鑑定ハ明治四十〇年十一月十七日著手

同 四十〇年三月九日結了

同 四十〇年三月十日

醫 岡 本 梁 松 園

(ロ)、もるひね中毒

甚シキ神經痛、齒痛、りようまちす、喘息乃至胃潰瘍等ヲ有スルモノガ、ソノ刺痛ヲ醫センガ爲メもるひね注射ヲ頻回繰リ返ヘスコトニヨリ、遂ニ本中毒ヲ來セルモノ多ク、時トシテハ一日二、三瓦以上ヲ用ユルモノサヘアリ。殊ニ本中毒ハもるひねノ手ニ入り易キ醫師又ハ藥商ニ於テ最モ屢見ル所ナリ。

本中毒者ハもるひねノ效アル間ハ爽快ヲ覺ユレドモ、之ヨリ醒ムルヤ茫乎トシテ苦悶不安ヲ感ジ不快、快愼、遺ル方ナク、遂ニ萬難ヲ犯シテ再度ノもるひね注射ヲ繰リ返ヘスモノニシテ、精神ノ作業能力一般ニ減弱シ殊ニ記憶力ノ犯サルルコト最モ甚シク、睡眠ハ多

もるひね中毒、こかいん中毒

ク阻害セラレ時々幻視ヲ來シ、之ニ加フル運動失節、振顫、言語障礙、複視等アリ、榮養一般ニ不良トナリ、甚シキニ至リテハ特有ナル精神異常ヲ來シ、道德的乃至法律的觀念最モ強ク犯サルルヲ常トス。

本中毒者ハ不正ノ告白及不注意、或ハ怠慢ノ爲メ事故ヲ起シ、或ハもるひねヲ得ントシテ處方箋等ノ偽造、竊盜、詐欺ヲ行フニ至ルモノアリ。本患者ノ甚シキ幻覺、或ハ強キ興奮ニ基ケル行為ハ心神喪失ナルベキモ、ソノ他ノ場合ハ事宜ニ從ヒ或ハ輕減責任能力者トナシ又ハ責任能力者トナスベシ。

(ハ)、こかいん中毒

コハもるひねノ代用品トシテこかいんヲ用ヒタル時ニ起ルモノニシテ、ソノ急性中毒ハ酩酊様ノ好氣分誘導スルモ、其後宿醉頗ル不快ナルヲ以テ、重ねテこかいんヲ用ヒテ之ヲ免レントシ、遂ニ慢性中毒ニ陥ルモノナリ。

慢性こかいん中毒ノ症狀ハ、神經過敏、意想奔逸、精神作業能力失墜、記憶不良、意志減弱、刺戟性トナリ、榮養不良ニ陥ル、時トシテ俄ニ幻覺ヲ生ジ或ハ蠅乃至昆蟲等ノ小蟲ガ群集シテ襲來スル様ヲ見、或ハ電氣ヲカケラレ針ニ刺サルルガ如ク感ズルモノアリ、背理的嫉妬妄想亦稀ナラズ之ヲこかいん妄覺病ト云フ。